

現代日本語におけるカタカナ使用の実態とその背景

増地ひとみ

目次

第1章 序論.....	1
1-1. 研究の背景.....	1
1-2. 問題の所在.....	3
1-3. 本論文の目的.....	5
1-4. 本論文の構成.....	6
1-5. 凡例.....	8
第2章 先行研究と理論的背景、本論文の立場.....	9
2-1. はじめに.....	9
2-2. 先行研究.....	9
2-2-1. 非外来語のカタカナ表記に関する先行研究.....	9
2-2-1-1. 調査対象.....	13
2-2-1-2. 調査の規模と方法.....	15
2-2-1-3. 使用されている術語.....	17
2-2-2. 文字種全般、文字種の選択に関連する先行研究.....	19
2-2-3. その他 — 関連分野、周辺分野における先行研究.....	20
2-2-4. 身近な文字資料に着目することの意義.....	21
2-3. 理論的背景、用語と概念の定義.....	24
2-3-1. 理論的背景.....	24
2-3-2. 用語と概念の定義.....	25
2-3-2-1. 「文字言語」.....	26
2-3-2-2. 「文字種」.....	26
2-3-2-3. 「カタカナ語」「カタカナ表記語」「外来語」.....	26
2-3-2-4. 「コンテキスト」と「文脈」.....	27
2-3-2-5. 「要因」.....	28
2-3-2-6. 「非標準的な表記」.....	28
2-4. 本論文の立場.....	29
第3章 テレビ番組の文字情報における非外来語のカタカナ表記.....	31

3-1. はじめに	31
3-2. テロップに関して	31
3-3. 調査の対象および方法	31
3-3-1. 調査対象.....	32
3-3-2. 分析・考察の方法.....	33
3-3-3. 依拠する概念と考察の観点	33
3-4. 調査結果	34
3-4-1. 字種比率から見たテレビ番組のテロップの特徴	34
3-4-2. テレビ番組のテロップにおける非外来語のカタカナ表記.....	35
3-4-2-1. 番組のジャンルと非外来語のカタカナ表記.....	35
3-4-2-2. 非外来語のカタカナ表記 — 実例と、先行研究に見る選択要因 ..	36
3-4-2-3. 非外来語のカタカナ表記 — 語用論的要素との関連から	39
3-5. 本章のまとめ	43
第4章 テレビCMの文字情報における非外来語のカタカナ表記.....	47
4-1. はじめに	47
4-2. CMとその文字情報に関して.....	47
4-3. 調査の対象および方法	48
4-3-1. 調査対象.....	48
4-3-2. 調査と分析・考察の方法.....	49
4-3-3. 依拠する概念と考察の観点	49
4-4. 調査結果	50
4-4-1. CMのジャンルと文字種	50
4-4-2. コンテキストの違いと語の表記	51
4-4-2-1. 同じ語の表記の違い（ジャンル別）	51
4-4-2-2. 同じ語の表記の違い / ケイタイ / を例に	58
4-5. 本章のまとめ	61
第5章 Eメールにおける非外来語のカタカナ表記.....	64
5-1. はじめに	64
5-2. 関連する先行研究	64
5-3. 理論的枠組み	66

5-3-1. ポライトネス理論.....	66
5-3-1-1. ポライトネス	66
5-3-1-2. フェイス (face)	66
5-3-1-3. フェイス侵害行為 (Face-threatening act-FTA)	67
5-3-1-4. ネガティブ・フェイスとポジティブ・フェイス	67
5-3-2. ディスコース・ポライトネス理論	69
5-4. 調査の対象および方法	70
5-4-1. 調査対象.....	70
5-4-2. 調査方法.....	70
5-5. 調査結果	71
5-5-1. 同一人物が使用する文字種の傾向に関して	71
5-5-2. ビジネス・シーンにおけるコミュニケーションとメールに関して	71
5-5-3. /ヨロシク/ と / スミマセン/ の表記における使い分けの状況 ..	72
5-5-4. /ヨロシク/ と /スミマセン/ の表記における使い分けの要因 ..	75
5-5-5. 受信者・送信者の名字における表記の選択	81
5-6. 本章のまとめ	85
第6章 日用品のパッケージと交通広告における非外来語のカタカナ表記.....	86
6-1. はじめに	86
6-2. 「流通」の過程に着目する意義.....	86
6-3. パッケージにおける非外来語のカタカナ表記	87
6-3-1. 文字資料としてのパッケージ.....	87
6-3-2. 調査の対象および方法 (パッケージ)	89
6-3-2-1. 調査対象	89
6-3-2-2. 用例の収集と記録方法.....	89
6-3-3. 調査結果 (パッケージ)	90
6-3-3-1. パッケージに出現する非外来語のカタカナ表記語の属性	90
6-3-3-2. パッケージに出現する非外来語のカタカナ表記の実例.....	92
6-3-4. パッケージの非外来語のカタカナ表記の特徴.....	96
6-4. 交通広告における非外来語のカタカナ表記.....	98
6-4-1. 文字資料としての交通広告	98

6-4-2. 調査の対象および方法（交通広告）	99
6-4-3. 調査結果（交通広告）	100
6-4-3-1. 交通広告における非外来語のカタカナ表記語の属性	100
6-4-3-2. 交通広告における非外来語のカタカナ表記の実例と特徴	101
6-5. 受け手の表記意識への影響.....	105
6-6. 本章のまとめ	108
第7章 学術雑誌における非外来語のカタカナ表記	112
7-1. はじめに	112
7-2. カタカナの役割.....	112
7-3. コンテキストと文字種	116
7-4. 調査の対象と方法	118
7-4-1. 予備調査の概要	118
7-4-2. 本調査の対象と方法	119
7-5. 調査結果（本調査）	119
7-5-1. 『国文学研究』におけるカタカナ表記語	119
7-5-2. 『国文学研究』におけるカタカナの役割	120
7-6. 学術雑誌に出現した役割外のカタカナ表記.....	121
7-7. 多義語の表記	124
7-8. コンテキストがカタカナ表記の出現に影響しない語	126
7-9. 本章のまとめ	128
第8章 文字列環境と非外来語のカタカナ表記.....	130
8-1. はじめに	130
8-2. 本論文における本章の位置づけ.....	130
8-3. 関連する先行研究	131
8-4. 調査の概要と検証の観点	133
8-5. 調査の対象および方法	134
8-5-1. 調査対象.....	134
8-5-2. 調査方法.....	135
8-6. 調査結果	136
8-6-1. 非外来語のカタカナ表記が出現する文字列環境	136

8-6-2. 非埋没形と認められる非外来語のカタカナ表記	136
8-6-3. 埋没回避が主な目的と解釈可能な非外来語のカタカナ表記	138
8-6-4. 非外来語のカタカナ表記語の属性	141
8-6-5. 非外来語のカタカナ表記が出現する背景 一文字列への埋没回避の観点から	145
8-7. 本章のまとめ	147
第9章 非外来語のカタカナ表記出現要因の関わり—CMの文字情報を例に....	150
9-1. はじめに	150
9-2. 資料と用例の分類に関して.....	152
9-3. 分類結果	153
9-4. 非外来語のカタカナ表記 出現要因の関わり	156
9-4-1. 漢B（漢字だと埋没するグループ）における 要因間での力関係の変化.....	156
9-4-2. 漢Bにおいて非外来語のカタカナ表記が出現する要因構造	160
9-4-3. 漢Cにおいて非外来語のカタカナ表記が出現する要因構造	164
9-5. 要因の3つの切り口	165
9-6. 本章のまとめ	167
第10章 非外来語のカタカナ表記が出現する背景	168
10-1. はじめに	168
10-2. 非外来語のカタカナ表記出現要因.....	168
10-3. 非外来語のカタカナ表記出現の背景—固定的要因による分類を基に ...	176
10-3-1. 名詞（一般）	177
10-3-1-1. 漢字表記のない語群	177
10-3-1-2. 漢字があるが表外字である語群	180
10-3-1-3. 常用漢字で書ける語群.....	183
10-3-2. 名詞（一般）以外の品詞.....	192
10-3-3. 表記主体の意志	197
10-4. 本章のまとめ	198
第11章 結論	199
11-1. 本論文のまとめ	199

11-2. 今後の課題.....	206
既発表論文との関係.....	209
参考文献.....	210
<資料>非外来語のカタカナ表記 用例一覧.....	219
■品詞別語彙表.....	223
■五十音順語彙表.....	248

第1章 序論

1-1. 研究の背景

近年、日本語における文字言語はその存在感と重要性を高めている。インターネットやメール、データ放送の普及などにより、人々が「読む」「書く」、そしてパソコンや携帯電話、スマートフォン等で「打つ」といった、文字言語による言語行為を行う比重が増加したためである。さらに、単に「読む」「書く」等にとどまらず、誰でも自身が書いた文章を発信したり、発信されたものに対して他者が文字言語を使って反応したりといった行為が公の場で可能となり、日常的に行われるようになった。文字言語は、一方通行の情報伝達的手段としてのみならず、双方向コミュニケーションの手段としての存在価値をも高め、その重要性を急激に増している。

文字言語の重要性が高まる一方で、日本語においては、表記行動を行う上でのさまざまな問題が存在する。その中の重要なものの一つが、いわゆる「表記のゆれ」である。これは、例えば「漢字の字体」「同音・同訓異字」「文字種」「送り仮名」「外来語のカタカナ表記」などの各々において複数の選択肢があるために起こる(表1)。これらの使い分けに関わる公的な一応の基準は存在するが、それは大まかなものであるうえ、あくまでも目安であ

って強制力はない。そのため、書き手(以下「表記主体」)が何かを書き表そうとする時、何通りかの異なる表記が可能となる。

表1に挙げた項目のうち、本

【表1】日本語表記における複数の選択肢例(表記のゆれ)

	例
漢字の字体	「歳」と「才」、「龍」と「竜」
同音・同訓異字	「稼動」と「稼働」、「見栄え」と「見映え」
文字種	「目途」と「めど」と「メド」
送り仮名	「行う」と「行なう」、「申込」と「申し込み」
外来語のカタカナ	「ビジョン」と「ヴァイジョン」

論文は「文字種」、特にカタカナの使用実態に焦点を当てる。現代日本語においては、主に4種類の文字種を使用する。漢字・ひらがな・カタカナ・Alphabetである。これに「α」などのギリシャ文字を加えるならば5種類となり、「自国語の表記に、5種類もの文字体系を取り混ぜている表記システムは、世界的に見てきわめて珍しい」とされる¹。無論、これらの文字種の使い分けに関しても、先述した大まかな目安、標準的と見なされる使い分けの基準は存在し、社会的に共有されている。

¹ 笹原宏之(2006)、p.3。

では、文字種の使い分けに関わる大まかな基準は、どのようにして社会的に共有されるに至るのであろうか。その背景としては、まず「常用漢字表」「現代仮名遣い」に代表される、国が定める公的な基準の存在があり、一般の社会生活における国語表記の目安・よりどころとされている（文化庁ホームページ「国語施策情報」「国語表記の基準」「内閣告示・内閣訓令」）。これを前提として、公共性の高い新聞社等のマスメディアや、学校教育において使用する教科書の出版社などはそれぞれが独自の「表記の手引き」類を用意し、一定の基準に沿って語を表記している。そして、それらの手引きの中で漢字・ひらがな・カタカナ・Alphabet の使い方も定められているのである。例えば、カタカナの最も代表的な使用法とされるのは、外来語や外国語を表記することである。

現代を生きる日本語使用者はまず、学校教育において上述の基準に基づいた各文字種の使用法を教授され、知ることになる。教科書や副読本などを通して、文字種の使い分けのありようを習得していく。さらに日常生活においては、新聞その他のマスメディアで使用され、流通している表記を目にする。公の場で使用されている表記にくり返し接触することで、暗黙の了解とも言える共通認識が、現代を生きる日本語使用者の間で形成されていく。このようにして、文字種の使い分けに関わる大まかな基準が社会的に共有されるに至るのである。

しかしながら、社会の中で実際に流通している文字言語においては、文字種の使い分けに関わる大まかな基準を外れた表記が多々観察されるのが実状である。たとえ公共性が高いマスメディアの表記の手引き類であっても、文字種選択の基準を明示せず、表記主体に判断を委ねている項目が部分的に存在する。次節でも述べるとおり、「適宜片仮名を使ってよい」等と示されており、表記主体の判断による選択の幅が許容されているのである。また、新聞やテレビ等の媒体であっても、寄稿文や広告などの文字情報については、手引き類による統制はない²。さらに、インターネットが普及した現在においては、ホームページやソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）をはじめとする誰でもアクセス可能な場において、個人の著作物

² 例えば、テレビ CM の表現に関してはガイドラインが存在し、「わかりやすい適正な言葉と文字を用い」「特に取引や使用上の重要な事項の説明には、文字の大きさや表示時間など、視認性に配慮すべきである」とされている（日本民間放送連盟 2014、p.69）。しかし、使用するべき文字種に関する基準は示されていない。

や文章が多く流通している。そのような場の文字言語における表記の選択は、全面的に表記主体による。以上のような、表記主体の判断による選択の幅を反映した文字情報が流通していることが、大まかな基準を外れた表記が観察される一因なのであろう。

文字種の使い分けに関わる大まかな基準を外れた表記の例は、その用例がどの文字種で出現しているかという観点から4通りに分類できる。すなわち、漢字表記で出現する外来語の例（「倶楽部」など）、ひらがな表記で出現する外来語や漢語の例（「たおる」「きけん」など）、カタカナ表記で出現する和語や漢語の例（「ズレ」「ギモン」など）、Alphabet 表記で出現する和語の例（「おうち de カフェ」など）である。いずれの例も現代日本語において流通しており、実際に観察されるが、中でも多く見られるのは、和語や漢語すなわち非外来語がカタカナで表記された例である。本論文は、この非外来語のカタカナ表記、すなわち文字種の使い分けに関わる大まかな基準を外れたカタカナ表記に焦点を当てる。

1-2. 問題の所在

先に述べたとおり、公共性の高いマスメディアの表記の手引き類においてさえもカタカナ使用に関する明確な基準がない項目が存在し、選択の幅が許容されている。そして、基準による統制が一切及ばない文字情報も、世の中には多く存在する。それにより、同じ語を漢字・ひらがなのみならずカタカナで表記した用例が出現し、実際に流通している。冒頭に述べた、文字種による表記のゆれの発生である。そのため、表記主体がある語を表記しようとする時、外来語以外にカタカナを採用して表記してよいものかどうか、判断に迷う場合が出てくる。それは、表記の手引き類で基準が明示されておらず、表記主体に判断が委ねられている項目において顕著である。筆者自身、音声言語を文字言語に変換する職業に長く従事してきたのであるが、その作業の際に、広く流通していると思われるものであっても、そのカタカナ表記を採用してよいものかどうか迷う場面が多々あった。

例えば、朝日新聞社が定めている「平仮名文中での埋没を避けるために適宜片仮名を使ってよい」（『朝日新聞の用語の手引』2010.12 朝日新聞社用語幹事編）との方針に従えば、例1のような処理が可能になる。

(例1) 開けるときのこつがわかれば → 開けるときのコツがわかれば

このように、前後をひらがなに挟まれた語を表記するにあたり、「コツ」は外来語ではないがカタカナ表記が広く流通しており、使って差し支えないであろう」との判断が表記主体に働いた場合は、カタカナ表記が採られるであろう。それを見た受け手も、「コツ」のカタカナ表記に違和感を持たないと考えられる。

しかし例えば、次の例2はどうであろうか。本論文の文章の一部である。

(例2) ここで定義を明確にしておく。→ × ココで定義を明確にしておく。

「ココ」は、テレビ番組の文字情報や雑誌等で使用され、流通している表記である。しかし、本論文を含め、学術論文やその他の改まった文章において「ココ」は使用しない。この判断の妥当性に対しては、大多数の日本語使用者の同意を得られるであろう。

今挙げた例1・例2はいずれも、カタカナ表記を採用するか否かの判断が比較的容易な例である。しかし実際には、事はそれほど単純ではない。実際に流通しているカタカナ表記を、表記の手引き類が言うところの「適宜片仮名を使ってよい」の「適宜」に当たるものとして使用してよいかどうかの判断は、困難な場合も多いのである。カタカナで表記した例が流通していない語であれば、その語はカタカナで表記しなければよい。しかし、現実には例1と例2の間に多種多様なカタカナ表記の例が存在し、実際に流通しており、それを採用するか否かの判断が困難になるということである。

ほかにも、文字種の使い分けに関わる大まかな基準を外れた表記、特に非外来語のカタカナ表記が流通することで派生する問題がある。2点に絞って以下に述べる。

1点目は、国語教育における問題である。現在の国語教科書では、外来語以外のカタカナ表記について積極的に扱ってはいない。例えば小学校用教科書の出版社は、すでに述べたとおり独自の表記の手引き類を有し、教科書内の表記はそれに従っている。しかし児童たちは、教室の外ではそれらの基準を外れた表記を目にすることになる。学習内容と現実とに、隔たりがあるのである。そのため、教育現場でどのようにカタカナ表記と向き合い、指導していくのが課題であるとの指摘がある(中

本美穂 2008、p.475)。

2点目は、外国人に対する日本語教育における問題である。国語教育の場合と同様、日本語教育用の教科書には、外来語以外のカタカナ表記に関する明示的な説明がほとんどない。先行研究においても、「ニーズは高いが教育は不十分」であるとの指摘がある(村中淑子・黎婉珊 2013、p.131)。日本語教育を専門とする研究者によれば、留学生から「外来語をカタカナで表記すると習ったのに、日本に来たら外来語以外にもカタカナがたくさん使われている」と言われた経験があるとのことであった(筆者との個人的なやり取りによる情報)。ここでも、問題となるのは学習内容と現実との隔たりである。その結果、例えば「モノ」がカタカナで書かれることがあるという知識がなかったために、複数の日本語学習者が文章全体を誤読してしまったという事例も報告されている(ポクロフスカ、オーリガ 2016)。

1-3. 本論文の目的

ここまで本論文における研究の背景と問題の所在を述べてきたが、非外来語のカタカナ表記が流通していること自体は言語に関わる現象の一つであり、必ずしも、それ自体が問題なのではない。研究という立場から見て、非外来語のカタカナ表記も含め、文字種の使い分けに関わる条件を現状では明確に説明できないことが問題なのである。最終的な表記の選択は表記主体に委ねられているわけであるが、4種類の文字種のいずれを用いることも可能であるのに1種類が選択される時、背後には何らかの要因が働いているはずである。1種類が選択される際の要因(以下「文字種選択要因」)にはどのようなものがあり、それらはどのように関わり合っているのか、個々の用例が出現する背景にある仕組みを明らかにする必要があるのである。

そこで本論文では、4種類の文字種の中でもカタカナに焦点を当て、大まかな基準を外れた用法の分析と考察を行う。現代日本語におけるカタカナは、他の文字種にはない多種多様な働きを担っている。先の例1・例2で一例を示したとおり、その役割は、表記の手引き類に基準として示される、外来語や擬音語・擬声語、動植物名を表記すること等にはとどまらない。「適宜」という表現に代表される許容される選択の幅の中に、表記主体という人間の判断が入り込んでくるからである。したがって、カタカナが選択される背景を明らかにすることによって、そこに反映している表記主体による文字種選択の背景、ひいては現代の日本語使用者の表記行動

の実態の一端を捉えることが可能になるであろう。それが、本論文が非外来語のカタカナ表記に焦点を当てる理由である。

例えば、例1と例2の間に存在する実例としては、以下の例3～例5のようなものが挙げられる。これらは実際にテレビの画面や食料品のパッケージなどで観察された用例であり、人々が普段の日常生活において目にする可能性が高いものである。

(例3) キレイになるかも (出典：テレビ番組「世界一受けたい授業」)

(例4) ムダをおさえて暖める (出典：テレビCM「HITACHI エアコン」)

(例5) 袋にキズがつきますと (出典：パッケージ「庄内ファーム 丸餅」)

非外来語である「キレイ」「ムダ」「キズ」がカタカナで表記される理由として、さまざまな要因が先行研究によって指摘されてきた。実際に観察される用例に即して、個々の例が出現する要因を明らかにする試みである。次に必要なのは、本節冒頭で述べたとおり、個別的な要因のみならず、そうした表記が出現する背景を明らかにすることである。しかしながら先行研究においては、その背景にある仕組みと原理を明らかにするには至っていない。実際に観察される例の多様さと出現要因の複雑さが障壁となり、外来語以外にカタカナが使用される理由を、現状では総括的に説明できていない。

以上を踏まえ、本論文では4種類の文字種のうちカタカナを扱い、特に非外来語がカタカナで表記される事象に焦点を当てる。本論文の目的は、現代日本語におけるカタカナ使用の実態を明らかにし、非外来語がカタカナで表記される背景を探究することである。

1-4. 本論文の構成

本論文の構成は、次のとおりである。

以下、第2章では先行研究を概観する。また、第3章以降でカタカナの使用実態を提示し分析を行うにあたっての導入として、理論的背景と本論文で使用する用語の定義を並行して示す。それらを踏まえて本論文の立場を明確にし、本論文で扱う調査対象も明示する。

第3章では、テレビ番組の文字情報における非外来語のカタカナ表記を調査対象

とする。「コミュニケーションが成立する場」(コンテキスト) および「表記主体の意識」という観点から、非外来語のカタカナ表記がなされる要因を探る。

第4章では、テレビCMの文字情報における非外来語のカタカナ表記を調査対象とする。テレビCMの文字情報におけるカタカナの使用実態を概観し、第3章での考察結果を検証する。

第5章では、Eメールに現れた非外来語のカタカナ表記を調査対象とする。特に表記主体個人の意識に焦点を絞り、他の文字種で出現した例と比較しながら、カタカナ表記が出現する背景を探る。

第6章では日用品のパッケージと交通広告を調査対象とする。第3章から5章では、コンテキストと表記主体の意識という観点から非外来語のカタカナ表記の実態を探った。つまり「生産」「流通」「受容」の各過程のうち、「生産」の過程に注目した。第6章では身近な文字資料としての日用品のパッケージと交通広告を資料に、非外来語のカタカナ表記の実態を表記の「流通」という観点から示すとともに、それらが受け手の表記意識に与える影響について考察する。

第7章では学術雑誌を調査対象とする。これまで非外来語のカタカナ表記という観点からは調査のなされていない資料である学術雑誌を対象として、その実態の把握をさらに目指す。そして、コンテキストに関わりなくカタカナ表記される語、つまりコンテキストがカタカナ表記の出現に影響しない語(語群)を特定する。これにより、どのような場合にどのような語がカタカナで表記されるのかという条件の一端を示す。

第8章では形式の面に着目し、文字列環境と非外来語のカタカナ表記出現傾向の関係を探る。非外来語のカタカナ表記がなされる要因として先行研究で指摘されてきた「文字列への埋没回避」が、妥当かどうかを検証する。これは表記の「生産」の過程に関わる要因の検証である。

第9章では、非外来語のカタカナ表記が出現する要因相互の関わり合いについて見る。複数の要因が関わり合う仕組みと原理をCMの用例を用いながら考察し、条件や語の異なりによって要因間の力関係が変化する様相の一端を示す。また、条件によって変化する要因の構造を用例ごとに図式化して個別的に把握することができる式(モデル)を提示する。

第10章では、現代日本語において非外来語のカタカナ表記が出現する背景を総

括的に考察する。先行研究で指摘されてきた要因を抽出し、本論文独自の観点で分類して示す。本論文で調査した全ての資料（媒体）における非外来語のカタカナ表記をまとめた語彙表と、第9章で提示した式（モデル）とを用いて、それらの表記が出現する背景を検討する。

第11章では本論文全体の総括を行い、今後の課題を述べる。

巻末に、付表として2種類の語彙表を提示する。本論文が調査対象とした全ての資料（媒体）から抽出された非外来語のカタカナ表記を、品詞別および五十音順にまとめたものである。

1-5. 凡例

本論文における記号の使い方その他は、以下のとおりである。

1. 【 】内は、その文字種を使用して表記されていることを示す。
2. 「片仮名」「平仮名」「アルファベット」の表記として、視覚効果を意図して「カタカナ」「ひらがな」「Alphabet」を用いる。ただし、引用部分の表記は原文どおりとする。
3. 語形を表す時はカタカナで表記し、／／でくくる。
4. 用例文字列中の一重下線は、該当する語例の使用箇所を示す。
5. 用例の番号は、各章ごとの通し番号である。
6. 表の番号は、各章ごとの通し番号である。
7. 注は脚注とし、番号は全章を通しての通し番号である。
8. 本論文で提示する表では、見やすさを考慮し、合計欄以外の数値0は原則として表示しない。ただし、文字列環境ごとの出現状況を示す表においては0の値も表示する。

第2章 先行研究と理論的背景、本論文の立場

2-1. はじめに

本章では先行研究を概観する。また、第3章以降でカタカナの使用実態に関する調査結果を提示し、分析を行うための導入として、理論的背景と本論文で使用する用語の定義を合わせて示していく。それらを踏まえて本論文の立場を明確にし、本論文で扱う調査対象についても示す。なお、調査対象とする資料（媒体）に関する先行研究については、各章で述べる。本章で扱うのは、本論文のテーマ全体に関わる先行研究である。

2-2. 先行研究

2-2-1. 非外来語のカタカナ表記に関する先行研究

外来語以外のカタカナ表記、すなわち和語や漢語のカタカナ表記を表す術語は、後で述べるとおり先行研究によってさまざまである。本論文ではこれらを「非外来語のカタカナ表記」と呼ぶこととする。また、カタカナで表記された非外来語を指す時には「カタカナ表記された非外来語」などと表現する。

先行研究においては、非外来語がカタカナで表記される理由や要因が数多く指摘されてきた。本項ではまず、非外来語のカタカナ表記に関する先行研究を概観する。

「カタカナの研究」と言われる時、その「カタカナ」は外来語を意味する「カタカナ語」や、「カタカナ文字」を指す場合もある。それらに関する先行研究も蓄積されているが、本項では「カタカナ語やカタカナ文字に焦点を当てた研究」は対象としない。本論文が対象とするのは、「カタカナ語以外（非外来語）」が「カタカナ文字で書かれて現れた表記」に関する研究である。つまり、「外来語を表記する」という大まかな基準を外れたカタカナ文字の用法を扱う研究である。非外来語がカタカナで表記される要因や仕組みの解明、つまり背景の探究を明示的に目指す、あるいは視野に入れている研究を含む。これらの先行研究が共通して目指す大きな目標は、非外来語がカタカナで表記される要因を明らかにし、要因同士の関わり合う仕組みと原理を解明することであると言えるであろう。

以下に、現代におけるカタカナ表記を中心に扱い、特に非外来語のカタカナ表記に言及している主な先行研究を発表年順に列挙して示す。カタカナに焦点を当てた

ものではなくても、漢語がひらがな・カタカナで表記される現象を扱った論考などは、本論文の目的にかなうため含めた。基本的な書誌情報に加えて、調査対象を各項目の最後に丸かっこに入れて記し、各文献の冒頭には後の検討に用いるための通し番号を付す。

本論文の最後（第 10 章）において、これらの先行研究で言及された要因を抽出し、本論文の結果と統合して非外来語のカタカナ表記がなされる背景をあらためて考察する。一つの非外来語のカタカナ表記が出現するのに複数の要因が関わり合っているという捉え方は、当分野ですでに共有されている共通認識であると言ってよいであろう。しかしながら、「どのような語が、どのような場合に、どのような要因によってカタカナで出現するのか」という仕組みと原理は十分に明らかになっていない。また、一定の語についてはカタカナ表記が慣習となっている可能性が複数の先行研究で指摘されており、例えば下記先行研究一覧 No.17 の堀尾香代子・則松智子(2005)はカタカナ表記の慣用化について論じている。しかし、堀尾・則松(2005)の調査対象は若者雑誌である上、指摘された語の慣用化が分野内外で認知され浸透したとは言えない状況である。これは分野全体の課題であるが、実際にどのような語に慣用化が認められるのかは明確になっておらず、共通認識として共有されるには至っていない。

・非外来語のカタカナ表記に言及している主な先行研究一覧

(以下、「先行研究一覧」と呼ぶ)

※通し番号、著者、(発表年)、「論文・文献名」、『掲載誌』、書籍の場合は出版社、巻号、掲載ページ、(調査対象)の順に記す。

※No.29、31、32 は特定の調査に基づくものではないため、調査対象の記載はない。

1. 斎賀秀夫(1955)「総合雑誌の片かな語」『言語生活』46、37-45、(総合雑誌)
2. 矢島英美子(1968)「女性向け広告文におけるカタカナ表記のことば」『立教大学日本文学』20、85-94、(女性向け月刊誌、週刊誌掲載の女性向け広告文)
3. 土屋信一(1977)「現代新聞の片仮名表記」『電子計算機による国語研究Ⅷ 国立国語研究所報告 59』、140-159、(新聞)
4. 佐竹秀雄(1980)「若者雑誌のことば一新・言文一致体(若者の言語空間〈特集〉)」

- 『言語生活』343、46-52、(若者雑誌—情報誌・パロディ誌)
5. 野村雅昭 (1981)「週刊誌のカタカナ表記語」『馬淵和夫博士退官記念国語学論集』大修館書店、847-865、(週刊誌)
 6. 吉村弓子 (1982)「現代日本語における漢字の表意性」『言語学論叢』1、2-16、(新聞・雑誌)
 7. 佐竹秀雄 (1989)「若者の文章とカタカナ効果」『日本語学』8 (1)、60-67、(若者雑誌・手書きの文章)
 8. 柴田由紀子 (1993)「文体形成から見たカタカナの役割」『花園大学国文学論究』21、22-34、(小説)
 9. 柴田真美 (1998)「現代のカタカナ表記について」『学習院大学国語国文学会誌』41、12-20 (60-52)、(主に新聞、雑誌。商業広告も含む)
 10. 中山恵利子 (1998)「非外来語の片仮名表記」『日本語教育』96、61-72、(新聞)
 11. 金城ふみ子 (1998)「「大学広告」におけるカタカナ表記語及びアルファベット表記語の使用状況—調査報告」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』10、97-118、(大学広告)
 12. 金城ふみ子 (1998)「TIU 新入生配布資料におけるカタカナ表記語使用の実態分析」『東京国際大学論叢 経済学部編』19、95-117、(大学の新生向け配付資料)
 13. 魏聖銓 (1999)「現代日本語のカタカナ使用の一側面—中吊り広告ポスターに用いるカタカナ語を中心に」『外国語学会誌』28、103-121、(電車内の中吊り広告ポスター、若者雑誌、新聞)
 14. 佐竹秀雄 (2001)「新聞投書欄の片仮名表記—1999年の新聞3紙を資料として」『武庫川女子大学言語文化研究所年報』13、5-17、(新聞の投書欄)
 15. 堀江紫野 (2001)「カタカナ表記の研究—非外来語系を中心に」『国文目白』40、16-24、(90年代の小説・少女マンガ・青年誌・社説・コラム)
 16. 成田徹男・榊原浩之 (2004)「現代日本語の表記体系と表記戦略—カタカナの使い方の変化」『人間文化研究』2、41-55、(一般紙4社が主催するWebサイト)
 17. 堀尾香代子・則松智子 (2005)「若者雑誌におけるカタカナ表記とその慣用化をめぐる」『北九州市立大学文学部紀要』69、35-44、(若者雑誌)
 18. 片田康明 (2005)「広告で見るカタカナ語について—食品販売店4社の食品広告

- を例として」『天理大学学報』56 卷 2 (208)、151-159、(新聞の折り込み広告)
19. 則松智子・堀尾香代子 (2006) 「若者雑誌における常用漢字のカタカナ表記化—意味分析の観点から」『北九州市立大学文学部紀要』72、19-32、(若者雑誌)
 20. 松田梨江 (2007) 「外来語の変遷—新聞記事における外来語とカタカナ表記語」『東京女子大学言語文化研究』16、115-132、(新聞)
 21. 喜古容子 (2007) 「片仮名の表現効果」『早稲田日本語研究』16、61-72、(戦後の小説)
 22. 臼木智子 (2008) 「雑誌の片仮名表記—基準から外れる表記について」『国学院大学大学院紀要, 文学研究科』40、265-280、(雑誌)
 23. 中本美穂 (2008) 「小学生向け媒体におけるカタカナ表記の規範と実態—国語教科書と学年誌を例に」『教育学研究紀要』54 (2)、471-476、(小学校国語教科書 (光村図書) と学年誌 (小学館))
 24. 生熊愛 (2009) 「表記による意味の独立—語幹がカタカナ表記される動詞の傾向」『国文目白』48、左 45-左 31、(雑誌、漫画)
 25. 奥垣内健 (2010) 「カタカナ表記語の意味についての一考察—身体性とイメージの観点から」『言語科学論集』16、79-92、(Web、小説)
 26. 李曉娜 (2010) 「「切れる」と「キレル」に関するマインドマップ調査について」『山口国文』33、84-69、(マインドマップと自由記述によるアンケートへの回答)
 27. 花田康紀 (2011) 「和語・漢語がカタカナがきされるばあい」『東京国際大学論叢, 人間社会学部編』17、57-67、(小説)
 28. 五十嵐優子 (2012) 「日本の社会とカタカナ表記」『Mukogawa literary review』49、15-25、(雑誌、新聞、テレビ CM)
 29. 茂木俊伸 (2012) 「第 5 課「チョー恥ずかしかったヨ！」なカタカナの不思議」『私たちの日本語』朝倉書店、47-57
 30. 柏野和佳子・奥村学 (2012) 「和語や漢語のカタカナ表記—『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における使用実態」『計量国語学』28(4)、153-161、(BCCWJ)
 31. 笹原宏之 (2013) 「漢語表記のゆれ」『現代日本漢語の探究』野村雅昭編、東京堂出版、261-287
 32. 矢田勉 (2013) 「日本語の攻防【文字・表記】カタカナとひらがな」『日本語学』

32 (12)、82-91

33. 柏野和佳子・中村壮範 (2013) 「現代日本語書き言葉における非外来語のカタカナ表記事情」『第4回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』285-290、(BCCWJ)
34. 村中淑子・黎婉珊 (2013) 「中上級日本語教科書における非外来語のカタカナ表記の実態」『国際文化論集』48、113-134、(中上級日本語教育用教科書)
35. 吉田充良 (2014) 「カタカナ表記による機能差異の表示—「適当／テキトー」を例にして」『日本文学論叢』43、115-103、(BCCWJ)
36. 金野美帆 (2014) 「ファッション誌におけるカタカナの役割と表現効果について」『玉藻』48、86-117、(ファッション誌)
37. 柏野和佳子 (2014) 「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』によるカタカナ表記語の研究」『日本語学』33 (10)、98-103、(BCCWJ)
38. 渡辺さゆり (2014) 「J-POP 歌詞の中のカタカナ—AKB48」『比較文化論叢、札幌大学文化学部紀要』30、70(49)-66(53)、(J-POP の歌詞)
39. 柏野和佳子 (2014) 「「コーパス」でさぐる和語や漢語のカタカナ表記の実態」『日本語文字・表記の難しさとおもしろさ』彩流社、86-105、(BCCWJ)
40. 間淵洋子 (2017) 「漢語の仮名表記—実態と背景」『言語資源活用ワークショップ 2016 発表論文集』201-213、(BCCWJ)

以上の先行研究を、《調査対象》《調査の規模と方法》《使用されている術語》の観点から整理し、課題と合わせて以下に述べる。本論文の記述に対応する先行研究を、先行研究一覧の各文献の冒頭に付した通し番号を用いて (No.2) のように示す。

2-2-1-1. 調査対象

これまで非外来語のカタカナ表記の調査対象とされてきた媒体には、未だ偏りがある。現代日本語における書き言葉を調査・分析するにあたって調査対象となりうる文字資料は多岐に渡っており、多種多様である。先行研究一覧で示したように、非外来語のカタカナ表記に関する調査研究が始められた当初は、雑誌や新聞を中心に調査と分析がなされた (No.1~7)。その後、1990年代以降は、小説や各種広告、漫画を対象とした論考も発表されるようになる (No.8、9、11、15 など)。そして

インターネットの普及とともに、2000年代に入ると Web 上のテキストデータも調査対象とされるようになった (No.16)。そして最近では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ) が整備され公開されたことに伴い、BCCWJ を利用した調査研究も行われている (No.30、33、35 など)。BCCWJ は新聞、雑誌、書籍を広く対象とし、Web 上のテキストも一部含んでいる。

しかしながら BCCWJ は、人々の身近にあって個人の日常生活に密着した文字資料まではカバーしていない。現代日本語における表記の実態を把握し、表記主体が文字種を選択する背景にある仕組みと原理を考察するためには、日常生活において表記主体が目にする文字を広く対象とした調査も必要である³。先行研究においては、新聞の折り込み広告 (No.18) や J-POP の歌詞 (No.38) を対象とした論考も見られるが、現代日本語における非外来語のカタカナ表記の実態と、表記の選択に関わる仕組みの全体像を把握するには未だ不十分である。本論文ではそうした問題意識から、BCCWJ に含まれておらず、しかし人々の表記意識に影響を及ぼしていると考えられる文字資料に焦点を当てる。テレビ番組やテレビ CM、Eメール、日用品のパッケージ、交通広告である。

伝統的に調査対象とされ、現在では BCCWJ にも含まれる新聞、雑誌、書籍、そして一部の Web 上のテキスト以外にも、カバーすべき資料は多く存在する。例えばビジネス文書等の資料や、手書きの文字資料⁴はその一例である。Web 上の文字資料も膨大にあるものの、例えば SNS を調査対象とした論考はまだ見当たらない。スマートフォンの普及により人々の文字生活も大きく変化していると考えられ、スマートフォン用のアプリで使用される文字情報なども見逃せない。しかしながら、当分野の研究は今述べたような資料の種類と量とに追いついていないのが現状である。さらには、多くの人が目にするものではないにしても、学術雑誌などに代表される専門書への目配りも必要であろう。それらも現代の書き言葉の一部であり、公刊されて流通している以上、何らかの形で現代を生きる日本語使用者の表記意識に

³ 身近な文字資料に着目することの意義については後述する。

⁴ No.7 では手書きのカタカナ表記にも言及されている。また、カタカナに限定せず、文字・表記全般を対象として手書きの資料を扱った研究は存在する。笹原宏之「手紙と日記における文字・表記の特徴」(『表現と文体』明治書院、2005)、佐藤栄作「ケータイと手書きの表記差—ケータイの文と一週間後に手書きした文との比較」(『愛媛国文と教育』42、pp.31-55、2010) など。

影響を及ぼし、その影響が表記にも反映すると考えられるためである。しかし、学術雑誌等の専門性の高い文字資料を対象とした調査はなされていない。この現状を踏まえ、本論文では調査の対象に学術雑誌を加える。

2-2-1-2. 調査の規模と方法

先行研究における調査対象の規模に関しては、大規模なものと同規模なものが混在している。BCCWJ を利用した調査⁵や、Web サイトを対象としてカタカナ表記語が含まれる 181,356 行を抽出した No.16 は、大規模な調査であると見なせるであろう。また、BCCWJ が公開される以前にも国立国語研究所が大がかりな調査を行っている。例えば新聞を調査対象とした No.3 はその一部である。ほかにも、「総合雑誌およびそれと近い内容を持つ雑誌 13 種」の本文から 24 万語を抽出した No.1 は大規模なものである。週刊誌 27 種類から抜き出した 2,700 文を調査対象とした No.5 や、新聞 3 紙の投書欄から 1 年間にわたって合計 5,295 文を抽出した No.14 も比較的規模が大きいものと言える。

しかし、それらと BCCWJ を対象としたものを除けば、先に先行研究一覧で掲げた先行研究は概して調査範囲が狭く、比較的小規模である。例えば No.8 と No.21 の調査対象は、各々小説 2 作品と 25 作品である。No.18 は新聞の折り込み広告計 107 枚を対象とする。ほかにも日本語教育用の教科書 7 冊 (No.34)、電車の中吊り広告 630 枚 (No.13)、ファッション誌 3 誌 (No.36) など、幅はあるものの一個人が一定期間に扱える範囲に留まっている。

無論、規模の大小にかかわらず、これらはいずれも現代日本語の一面を切り取って実態を記述しているという点で、全てが貴重な調査ばかりである。そもそもこれらの先行研究は、それぞれの著者が自身の問題意識に基づいて行ったものであり、こうして調査の範囲のみを総体的・相対的に見て批判される筋合いのものではないだろう。したがって、ここではあくまで「非外来語のカタカナ表記がなされる要因」と、要因同士の関わり、すなわち「表記選択の仕組みと原理」とを明らかにするという目的を軸に据えた場合に限定して総括的に述べるものであるが、本項で挙げた先行研究全てを合わせても、現代日本語における非外来語のカタカナ表記の実態を

⁵ BCCWJ を利用したものでも、No.35 のように特定の語を対象とした論もある。こうした例は、小規模な調査と言えるであろう。

把握するには未だ不十分である。大規模な調査と小規模な調査の各々に利点と欠点があるが、現状では両者が相互補完しているを見るには穴が多すぎる。文字情報の流通量が増加している現在、代表性を有するデータをどのように収集するのか、反対に、収集したデータにいかに関代表性を持たせるのかは、当分野における今後の課題となるであろう。

筆者が本論文で行った調査もまた、一個人が一定期間に行った小規模なものではある。調査対象のうち、Eメール 14,583 通は筆者のパソコンに保存されていたものであり、またテレビ番組 60 本など、世の中に流通している文字情報から見ると極めて狭い範囲の小規模な調査である。しかし、本論文が扱う文字情報には、記録しておかなければ後世に残されていくことがないものも含まれる。従来の先行研究から漏れ落ちていた部分を補い、現代日本語の一側面を切り取っているという点で、本論文における調査は価値のあるものと考えられる。

先行研究における調査方法に関しては、本論文も含め、実際に出現している用例を収集して分析するという方法が主である。ほとんどの先行研究が、各々の調査目的に応じた資料（媒体）を選定し、そこに見られる実例を抽出・収集して分析するという方法を取る。

そのような中、アンケートによる意識調査を行ったのが No.2、26、36 である。しかしながら、No.2 は 1968 年に発表された論文であり、No.26 は特定の語（「切れる」と「キレる」）に焦点がある。No.36 はファッション誌における表記を対象としており、これらの意識調査はいずれも現在までに指摘されてきた要因とその裏づけを網羅するものとは言い難い。

先行研究において、収集した実例から帰納的に導き出されてきた要因の数々には、未だ推測の域を出ないものや、印象論にとどまっており実証されていないものが多々ある。それらを裏づけるための意識調査や、実証的な手法による検証が不足しているのが現状である。

さらには、本論文第 3～5 章で論じるような、コミュニケーションが成立する「場」と表記主体の「意識」とを視野に入れた調査と分析が必要である。文字言語もコミュニケーションの手段である以上、場面に応じた表記主体の意識が介入し、文字種を選択するにあたっての大きな要因になると考えられるためである。つまり、語用

論的な要素も非外来語のカタカナ表記が出現する要因として考慮する必要があるのである。そこで本論文では、語用論的な要素を分析の枠組みとして取り入れる。また、カタカナが選択される要因として指摘されながら印象論にとどまってきた「文字列への埋没回避」に関し、実証的な手法により検証を行う。

2-2-1-3. 使用されている術語

第2章の冒頭で述べたとおり、本論文で用いている「非外来語のカタカナ表記」という術語と同様の概念を表すのに、先行研究ではさまざまな術語や表現が使用されてきた。さらに、その指し示す範囲も異なっている場合がある。先行研究一覧の各先行研究が使用する術語あるいは表現は2種類に大別でき、まとめると以下のとおりである。出典として、先行研究一覧の通し番号を丸かっこに入れて示す。

①語種を基準とした術語・表現

- 「和語の片かな書き、漢語の片かな書き」(No.1)
- 「外来語以外の部分にもカタカナが用いられ」(No.4)
- 「漢語のカタカナ表記、和語のカタカナ表記」(No.5)
- 「非外来語の片仮名／カタカナ表記」(No.10、33、34)
- 「従来、外来語を表記するために用いたカタカナの役割とは違った、カタカナ語の新しい表記」(No.13)
- 「外来語以外の片仮名表記語」(No.14)
- 「非外来語系のカタカナ表記」(No.15)
- 「外来語でないのにカタカナ表記されている例／和語や漢語のカタカナ表記例」(No.16)
- 「通例片仮名によって表される語(片仮名語)」以外の「カタカナ表記語」(No.17)
- 「和語・漢語のカタカナ表記／和語・漢語のカタカナがき」(No.27)
- 「外来語」と「その他のカタカナ語」(No.28)
- 「外来語以外のカタカナ表記語」(No.29)
- 「和語や漢語(すなわち、非外来語)のカタカナ表記」(No.30)
- 「和語や漢語の非外来語のカタカナ表記」(No.37)
- 「和語や漢語のカタカナ表記」(No.39)

「外来語以外で片仮名表記される事象」(No.40)

②カタカナの役割・機能を基準とした術語・表現

「漢字を代行する片かな表記」(No.6)

「非標準的表記」(No.7、38)

「特殊なカタカナ表記」(No.8)

「いわゆる正書法から外れた表記」(No.9)

「通常カタカナ以外の文字で表記される日本語のカタカナ表記」(No.12)

「本来漢字やひらがなで表記される語をあえてカタカナで表記する非標準的表記としてのカタカナ表記／非標準的カタカナ表記」(No.19)

「非慣用的表記」(No.21)

「基準から外れる表記／基準外となる外来語以外の片仮名表記」(No.22)

「漢字や平仮名で書き表すことができるにもかかわらず、あえてカタカナを使用するもの」(No.23)

「あえて行われるカタカナ表記」(No.24)

「カタカナの新用法（漢字表記が相応しくない、あるいは漢字表記との差別化を狙った自立語の表記）／新しいカタカナ表記語／カタカナの現代的用法」(No.32)

「非標準的な表記であるカタカナ表記」(No.35)

「非標準的なカタカナ表記」(No.32、33、36)

このほか、「もともとひらがなや漢字で書く言葉なのに、カタカナで書くことがある」ものを指して「破格カタカナ表記」という術語を使用している日本語教育分野の文献もある（陣内正敬「日本語学習者のカタカナ語意識とカタカナ語教育」『言語と文化＝語言与文化』11、p.53、2008）。

外来語以外がカタカナ表記された例を研究対象とする点においては全ての先行研究が一致しているが、外来語に加えて動植物名やオノマトペなどを「カタカナ表記される語」として認めるか否か、認めるならばどの範囲までかという点で先行研究による差異が存在し、術語には②に挙げたようなバリエーションが生じている。

②に見られる「非標準的な表記」やそれに類する術語を使用する場合は、何を「非

標準」と見なすかが問題となる。例えば、No.32は「カタカナの新用法」「カタカナの現代的用法」などの表現を用いつつ、その説明として「外来語・動植物名・オノマトペ以外でカタカナ表記が多用される自立語」を提示している。ここに「標準／非標準」の物差しを適用するならば、No.32においては動植物名とオノマトペがカタカナで表記されるのは「標準」と見なされていることになる。この「動植物名」「オノマトペ」を標準と見なすかどうか、また、擬音語・擬態語等の区別なくオノマトペ全体を対象とするかどうか、何を「標準／非標準」と見なすかの議論の分かれ目となるであろう。

また、②の中に限らず、例えば①に挙げた先行研究のうち No.28 は、「外来語」と「その他」に二分しているものの、「その他のカタカナ語とは、漢語・和語・擬態語／擬声語がカタカナで表記されたもの」と限定しており、実際はカタカナ表記された語を単純に外来語とその他に二分しているわけではない。

以上のように、肝心の研究対象自体の捉え方や、対象を言い表す術語が先行研究によって異なるため、比較がしにくいなどの問題が生じる。こうして、過去の成果を活用しにくい状況のまま今日に至っている。

2-2-2. 文字種全般、文字種の選択に関連する先行研究

文字種全般、また文字種の選択に関する論考の中において、非外来語のカタカナ表記に言及される場合も多い。本項では、それらのうちから一部を提示する。

第1章で述べた、漢字・ひらがな・カタカナ間での「ゆれ」を扱った論考や調査は多い。少し時を遡るが、ゆれの実態調査としては『現代表記のゆれ』（国立国語研究所報告 75、1983）が代表的である。ただし、『現代表記のゆれ』は文字種間のゆれのみを扱ったものではないため、提示される非外来語のカタカナ表記は少数である。最近では、小椋秀樹「コーパスに基づく現代語表記のゆれの調査—BCCWJ コアデータを資料として」（『第1回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』pp.321-328、2012）などがあり、ゆれの実態が示されている。笹原（No.31）も漢語表記のゆれの条件を整理して示しており、それはそのまま非外来語がカタカナ表記される条件となるものである。また、NHKも2013年にゆれに関する調査結果を発表している（塩田雄大・山下洋子「“卵焼き”より“玉子焼き”—日本語のゆれに関する調査(2013年3月)から①」『放送研究と調査』63(9)、pp.40-59、2013）。

調査項目の中には、わずかではあるが漢字・カタカナ間のゆれに関するものが含まれる。

文字種を選択を含む表記行動の全体像を捉えようとしているのは佐竹秀雄である。1980年発表の「表記行動のモデルと表記意識」(『電子計算機による国語研究X 国立国語研究所報告 67』pp.142-268)以降、最近の「表記」(『日本語と日本語教育のための日本語学入門』宮地裕編、明治書院、pp.187-204、2010)に至るまで「表記行動の枠組み」と「表記形式決定の過程」を示す「モデル」の改良が重ねられている。このモデルには、おのずと非外来語のカタカナ表記も含まれてくる。

ここで、「表記」という術語に関して触れておきたい。後にいくつかの語の定義を行うが、「表記」は本論文の研究対象そのものであるため、ここで定義を明確にしておく。本論文において、ここですでに「表記」という術語が幾度となく使用された。犬飼隆(『文字・表記探究法 シリーズ日本語探究法 5』、朝倉書店、2002)によれば、「表記」には二つの側面がある。一つは「視覚的な媒体によって表現されている言語的内容」であり、これは「本質的には音韻論や形態論の対象とされるべきものである」とする。そして、もう一つは「表現するための媒体の体系およびその運用の仕方」であるという。確かに日本語学の研究史において、「表記」という術語が示す概念には、これら二つの側面が混在している。

本論文における「表記」は、後者の「表現するための媒体の体系およびその運用の仕方」を指す。さらに本論文では、「人間が表現すべきことを、書いたものとして実現しようとした結果」(『日本語百科大事典』金田一春彦・林大・柴田武編集責任、大修館書店、p.310、1988)までを含む術語として「表記」を用いる。ただし、特に「表記され、文字となって表れている結果」であることを強調して示すときには「表記結果」という術語も用いる。そして、「人間が表現すべきことを、書いたものとして実現しようとして」「文字や記号を用いて書き表す行為」は、「表記する」という動詞で表す。「表記を行う者」つまり「表記者」を指す術語としては、第1章でも述べたとおり「表記主体」を用いる。「表記主体」は、前掲の佐竹秀雄(1980b)による術語である。

2-2-3. その他 — 関連分野、周辺分野における先行研究

文字種全般の選択に関わる研究は、扱う資料等によってさまざまな周辺分野と関

連してくる。

心理学、情報処理、認知言語学の分野でも、文字種がどのように選択されているのかというシステムを明らかにしようとする研究が行われてきた(代表的なものに、海保博之・野村幸正『漢字情報処理の心理学』教育出版、1983など)。その目的は、さまざまである。例えば、インターネットで語を検索する場合には、表記によるゆれが生じる。それを軽減するための研究も存在する(例えば、福岡克「日本語表記の「ゆれ」と情報検索」『政策科学』5(1)、pp.85-96、1997など)。

ほかにも、各文字種による表記形態と単語のイメージとの関係を探る杉島一郎・賀集寛「表記形態が単語のイメージの鮮明性に及ぼす影響」(『人文論究』46(4)、pp.63-86、1997)や、岩原昭彦・八田武志「日本語書字における表記選択と情動情報伝達メカニズムについて」(『ことば工学研究会』第8回、pp.29-34、2001)、カタカナの文字そのもののイメージを扱う小松孝徳・中村聡史・鈴木正明「「ひらがなはカタカナよりも丸っこいよね？」—文字の数式表現および曲率の利用可能性」(『情報処理学会研究報告・HCI, ヒューマンコンピュータインタラクション研究会報告』2014-HCI-159(7)、pp.1-9、2014)などがある。これらも全て、非外来語のカタカナ表記がなされる要因を検討する上で有益な論考である。

また、先行研究一覧で掲げた先行研究の中には、教育の分野における論考も含まれていた。国語教育(No.23)や日本語教育(代表的なものにNo.10、34など)の現場における、非外来語のカタカナ表記の扱い方や教授法に関するものである。このような議論は、第1章で述べたように、教育現場で教授される内容と、実際に観察される用例とが隔たっているという事情を背景としている。

2-2-4. 身近な文字資料に着目することの意義

本項では、文字環境と身近な文字資料に関わる先行研究を踏まえ、身近な文字資料に着目することの意義について述べる。

関連分野、周辺分野における先行研究の中でも、本論文と特に密接な関わりを持つものに、文字環境に関する論考がある。

非外来語のカタカナ表記がなされる要因は、文字情報の「生産」「流通」「受容」

の各過程⁶に注目して検討すべきである。横山詔一「文字環境と単純接触効果」(『国語研プロジェクトレビュー』5(1)、pp.19-31、2014a) および「文字の認知単位」(『日本語文字・表記の難しさとおもしろさ』高田智和・横山詔一編、pp.134-147、2014b) で示される「文字環境の循環モデル」は、この生産・流通・受容の各過程を社会と個人との関係性から示したものであると言え、さらには受容⁷が生産につながり循環していく様をも示す。「社会的使用頻度」の高さが、人々が日常生活で意識的・無意識的に文字に接触する頻度につながり、それによって「なじみ」と「好み」が左右され、ひいては各個人の表記の選択に影響する(横山前掲論文2014b、pp.145-146)。横山(2014a・2014b)のモデルは、漢字に焦点を当てた異体字間の選択に関する調査と論考⁸により提示されたものであるが、文字種すなわち漢字・ひらがな・カタカナ・Alphabetもこのモデルの「文字環境」の一部と考えてよいであろう。つまり、文字種選択要因と接触頻度⁹には密接な関係があるということになる。特に現在は情報機器が普及して「文字を手で書く必要性が低くなり」、「『見て選択すれば書ける』時代」となっている(横山前掲論文2014b、p.139)。「見て選択」する際に、接触頻度が高く見慣れている表記を選ぶことも、文字種選択の一因であるはずである¹⁰。ある文字との接触によるなじみが選択要因につながっていくことを示したこのモデルはそのまま、非外来語のカタカナ表記の選択要因にも適用できるものである。

現代の日本人が日常生活において接触する文字情報はさまざまであるが、上記「文

6 「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)設計の基本方針」国立国語研究所コーパス開発センターホームページ http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/basic-design.html

7 「受容」には、単純に目にする「接触」の段階と、接触した対象を認識し、何らかの印象をいだいたり、解釈したり記憶したりして「受け入れる」段階とがある。本論文ではこれらの段階を区別し、前者には「接触」という語を用いる。そして、「受容」という語を用いる時は後者の「受け入れる」段階を指すものとする。

8 横山詔一「異体字選好における単純接触効果と一般対応法則の関係」(『計量国語学』25(5)、pp.199-214、2006) など

9 「接触頻度」は笹原宏之「漢字字体に対する大学生の接触頻度」(『計量国語学』22(2)、pp.66-79、1999)において使用された術語である。

10 反対に、見慣れているからこそあえてその表記を選ばず、見慣れていない表記を選択することもありうるが、これは表記主体個々の意識に関わる「生産」の問題となる。ただ、「見慣れているから選ばない」という選択も接触頻度が影響を与えた結果であり、接触頻度がカタカナを含む文字種選択の一因であることには変わりがない。

字環境の循環モデル」において重要な役割を果たしているものに、文字・表記研究におけるいわゆる文献資料ではない文字資料がある。近年であればコンピューター等のディスプレイやテレビの画面に表示される文字も該当する。當山日出夫「景観文字研究のこころみ―「祇園」の経年変化を事例として」(『日本語文字・表記の難しさとおもしろさ』高田智和・横山詔一編、pp.166-181、2014)は、「紙でもなく、デジタルでもない」「看板・道路標識・地名表示」「バス停の文字・駅の名称・商店の商品の看板・ポスターなど、一般には『文献』とあつかわれぬ文字」を総称して「景観文字」と呼び、日常に密着したこの種の文字こそ文字を考える上で重要な意味を持つと指摘する (pp.167-169)。

そしてこれらは言語景観研究の観察対象でもある¹¹。例えば魏 (No.13) や本論文が調査対象とした交通広告は、言語景観研究で扱われる対象の一つである。当然のことながら、言語景観研究における論考の中で非外来語のカタカナ表記や文字種の選択に言及される場合もある(代表的なものに染谷裕子「看板の文字表記」『現代日本語講座 第6巻 文字・表記』飛田良文・佐藤武義編、pp.221-243、2002など)。

本論文の焦点であるカタカナも含め、文字種の選択要因を考察する上では、文字環境の一部としての景観文字その他の身近な文字資料も重要な意味を持つ。しかしながら、文字種選択要因を扱う先行研究においては、こうした身近な文字資料に着目した論考は多くない。とりわけ、現代において流通している文字情報から非外来語のカタカナ表記の実態を把握するためには不十分である。

そもそも従来の文字種に関わる研究は、「生産」「流通」「受容」の各過程を分けて捉えた上で各々に着目して行われてきたわけではない。あくまで結果的に、「生産」の観点から「非外来語のカタカナ表記がなされる要因」が分析されてきたに過ぎない。

¹¹ 言語景観関連の先行研究については有元光彦「言語景観研究における実験的アプローチの試み」(『やまぐち学の構築』8、pp.15-25、2012)に詳しく述べられており、先行研究の調査対象として、交通機関に掲示される広告、特定の建物内の掲示物等も挙げられている。しかし有元によれば、言語景観の条件としては公共空間であることと可視的であることが関係しているものの、未だ研究対象の範囲は摸索中の分野である (p.15)。さらに、言語景観研究は書き言葉と社会的な問題との関係を探るものであり、言葉そのものの問題は扱わないとも述べられている (p.17)。カタカナを含む文字種選択要因を考える上で、言語景観の一部である景観文字は重要な資料であり、言語景観研究と文字種の選択に関わる研究との関連については今後の展開への目配りが必要であろう。

い。そして、文字種の実態を記述した研究は多いが、「流通」という側面に意識的に着目し、どのような表記がどのように流通し、どのように受け手の文字種を選択に影響を与えているのかについて考察されてはこなかった。本論文では、身近な文字資料を調査対象とするとともに、「流通」の側面からも考察を行う。

2-3. 理論的背景、用語と概念の定義

2-3-1. 理論的背景

本論文では、非外来語のカタカナ表記がなされる要因を考察するにあたり、他分野における研究成果、また理論や概念を用いる。具体的には以下のとおりである。

①語用論

②語用論におけるポライトネス理論

③語用論におけるディスコース・ポライトネス理論

④待遇コミュニケーションにおける場面・意識・内容・形式の「連動」

本論文第3・4・5章における考察に先立ち、①語用論に関して概略を以下に述べる。②ポライトネス理論および③のディスコース・ポライトネス理論に関しては第5章で、④待遇コミュニケーションにおける場面・意識・内容・形式の「連動」に関しては第3章で述べる。

言語学の一分野である語用論は、人間を分析に介入させる点に特徴がある。先に2-2-1-2において、非外来語のカタカナ表記が出現する要因を考察するには、コミュニケーションが成立する「場」と表記主体の「意識」、すなわち「語用論的な要素」を考慮する必要があると述べた。本論文では、語用論の概念を複数導入し、提示しながら第3章以下の論を進める。

語用論において使用される術語に「コンテキスト」がある。コンテキストは本論文におけるキーワードであり、頻繁に使用するためここで定義を行う。

コンテキスト：コミュニケーションが成立する場面、状況

語用論では、「コンテキスト」およびその訳語である「文脈」は、この意味で使用される。本論文では「コンテキスト」と「文脈」を明確に区別して用いることに

し、「文脈」の定義については後述する。井出祥子(2006)の表現を借りるならば、コンテキストは「発話を取り巻く要素の総合」であり、「話し手、聞き手、登場人物の人間関係、場のあらたまりの程度、話のジャンルなどに関するもの」などのほか、「『何を言うか・言わないか』『いつ言うか』などに関する情報もコンテキストに含まれる」。「話の場において何を言うのが適切かを支配している」要素すべてがコンテキストなのである。(p.28)

語用論の研究範囲は、「話者が意図するところ」「特定のコンテキストにおける発話の意味」「実際に言われた以上のことが、どのようにして伝えられるのか」「人間関係の距離に応じた表現」である。一つの文の命題が表すことは不変であるにもかかわらず、コンテキストによって文の意味、その効力や機能が変化する。語用論は、なぜそのような変化が起こるのかという「言語機能の研究」をする分野である(Yule 1996、pp.3-4を筆者が訳して要約)。

なお、語用論においては、音声言語を前提として「発話」という語が使われるが、文字言語によるコミュニケーションも当然含めて考えるべきであるというのが本論文の立場である。西欧で発達した言語学の一分野であるため、語用論では音声言語中心に研究がなされてきた。乾善彦(1997)が、「文字言語という概念を言語学からはじき出してしまうことに」なったのは、ソシュールとアメリカの構造主義言語学による「書記は言語ではない。(中略)言語を記録する手段にすぎない」という考えであるとしているとおりである(p.2)。しかし、日本語において文字言語は、単なる「言語を記録する手段」ではない。音と表記との対応が一对一ではないことにより、表記を選択する段階で人間の判断、意識が介入してくるためである。

したがって、語用論を文字言語にも適用することは、こと日本語において有益である。語用論の視点から日本語の文字言語によるコミュニケーションを論じた研究も存在する。例えば、三宅和子(2003、2008、2009)、李錦淑(2010)などである。本論文は、語用論の枠組みにおいてコンテキストや表記主体の意図まで分析対象に含め、カタカナを含む文字種選択の要因に関して新たな知見を得ることを目指すものである。

2-3-2. 用語と概念の定義

本論文における議論に先立ち、必要となる用語と概念の定義を行う。また、一つ

の概念に対して術語が複数存在する場合、本論文においてどの術語を使用するのかを示す。

2-3-2-1. 「文字言語」

「話し言葉」「口頭言語」「音声言語」に対して、表記されて目に見える姿となった言語は「書き言葉」「書記言語」「文字言語」などと呼ばれるが、本論文では「文字言語」の呼称を使用する。パソコンや携帯電話で「打つ」ことで産出される「打ち言葉」の比重が高まっていることも一因であるが、本論文が「文字」単位を研究対象としていることが主たる理由である。

なお、本論文における「表記」の定義は先に述べたが、本論文で「表記する」という表現を用いるとき、「書く」行為とともにパソコンや携帯電話で「打つ」行為を含むこととする。両者を区別して述べる時は、「表記する」という語を使用せず「手書きする」「入力する」などと言う。

2-3-2-2. 「文字種」

ここまで本論文においてすでに使用してきた「文字種」を、あらためて定義しておく。「文字種」は、通常「文字体系」と呼ばれる、漢字・ひらがな・カタカナ・Alphabet・ギリシャ文字・数字・記号（句読点や鍵かっこ等）などを指す。

このうち、現代日本語における特定の語の書き分けに関連するのは「漢字・ひらがな・カタカナ・Alphabet」の4種である。したがって、本論文で「文字種」という時は、原則として以上の4種類を指す。字種比率を見る際などに使われる「字種」には、以上の4種類に加えて数字と記号を含む。

2-3-2-3. 「カタカナ語」「カタカナ表記語」「外来語」

『日本語百科大事典』によれば、「カタカナ語」という名称は、「人により多かれ少なかれ便宜的に用いられる傾向があり、大別すると以下の2つの場合があるとされる（石野博史執筆「カタカナ語」の項、p.569）。

- ①カタカナで表記された語あるいは通常カタカナで表記される語（カタカナ表記語）を意味する広義の場合
- ②いわゆるカタカナ外来語を意味する狭義の場合

実際、先行研究においても、「カタカナ語」という語が指し示す対象には①と②とが混在している。本論文では、①を「カタカナ表記語」と呼び、「カタカナを全体もしくは一部に用いて表記された全ての語」を指すものとする。語ではなくカタカナで表記されていることそれ自体を指す時には「カタカナ表記」という表現を用いる。そして、②を本論文では「外来語」と呼ぶ。②は「外来語・和製外来語」を指すものとする。①から②を除いたものが、本論文で言う非外来語のカタカナ表記語ということになる。

「非外来語のカタカナ表記語」という表現には「語」が2つ含まれているが、本論文では「非外来語で、かつカタカナで表記された語」つまり「カタカナ表記された非外来語」という意味で用いる場合がある。この「非外来語のカタカナ表記語」は、「外来語以外がカタカナ表記された語」に「外来語以外がカタカナ表記された語を一部含む混種語」を加えた総称とする。また、一つの語にカタカナ以外の文字種を含む「混合表記語」（佐久間尚子ほか 2008）も、本論文ではカタカナ表記語としてまとめて扱う。

なお、「外来語」という名称も個人により指し示す範囲が異なる場合があるが、本論文では西尾寅弥（2002、p.87）に従い「借用語全体の中から漢語を除いたもの」を「外来語」の定義とする。

2-3-2-4. 「コンテキスト」と「文脈」

本論文では、「コンテキスト」と「文脈」とを区別して用いる。「コンテキスト」については先に述べたが、ここでは本論文における「文脈」との区別を記す。

「文脈」は、語用論で使用される場合、「コンテキスト」の訳語として用いられることが多い。英和辞書・和英辞書でも「文脈」は“context”、“context”は「文脈」と訳されている。しかし、語用論で使用された場合の「文脈」は、カタカナ表記の先行研究で使用される「文脈」とは意味が異なるため、注意が必要である。

本論文においては、語用論にいう「文脈」すなわち「コンテキスト」が重要な概念である。カタカナ表記の先行研究で使用されている「文脈」とは、以下のように区別する。

コンテキスト：コミュニケーションが成立する場面、状況。人間関係、場の改

まりの程度などの非言語的な要素。

文脈：文と文との前後関係、つながり具合。文章の筋道、脈絡。前後に何が書かれているかという言語的な要素。

カタカナ表記の先行研究では、「文脈」はこの意味で使用される。もう少し範囲を広げ、「新聞の政治欄」など、まとまりとしての文章全体を指すことも多い。例えば「先に『マンガ』と書いたため、再度カタカナで『マンガ』と書く」などは、文脈の影響による文字種の選択の例であると本論文では捉える。

2-3-2-5. 「要因」

本論文では、「要因」という語を頻繁に用いる。「要因」は、以下のように定義する。この定義は、三宅和子（2016）の「社会言語学の「要因」（ことばの使われ方に影響を与えている様々な要素）」（p.42）という記述を参考にしたものである。

要因：表記、文字種の使い分けに影響を与えている要素

2-3-2-6. 「非標準的な表記」

2-2-1 で述べたとおり、本論文では外来語以外のカタカナ表記、すなわち和語や漢語のカタカナ表記を「非外来語のカタカナ表記」と呼ぶ。

「非標準的な表記」と言う場合は、「外来語がカタカナ以外で書かれる場合」に加え、「漢語が漢字以外で書かれる場合」「和語が漢字とひらがな以外で書かれる場合」も含んだ表記を指すものとする。すなわち、「漢語は漢字で」「和語は漢字またはひらがなで」「外来語はカタカナで」という「語種とそれらを表記する文字種との対応関係」を外れた表記を総称して指す場合に用いる。カタカナによるものだけでなく「非標準的な漢字表記」や「非標準的なひらがな表記」までも「非標準的な表記」という術語には含むということである。

なお、この定義に拠れば、一般的には標準的と見なされる可能性が高い【煙草】等も「非標準的な表記」ということになるが、実際に社会的に非標準と見なされるかどうかは、ここでは問わない。

以上、本論文において必要となる用語と概念の定義を行った。以上の定義は筆者自身の文に適用されるものであり、引用部分には当てはまらない。

2-4. 本論文の立場

本章の締めくくりとして、本論文の立場を明確にし、本論文における調査対象を箇条書きで列挙して示す。

本論文の目的は、現代日本語におけるカタカナの使用、特に非外来語がカタカナで表記される場合に焦点を当てて実態を示し、その背景を探究することである。カタカナ使用の実態と背景を見る時には、文字種全体がおのずと観察と考察の対象となる。また、冒頭に述べたとおり、本論文では「4種類の文字種から1種類が選択される際の要因」を「文字種選択要因」と呼ぶ。したがって、本論文ではカタカナに限らず全ての文字種の選択にしばしば言及することとなるが、「文字種の選択」「文字種選択要因」などと言う時、そこには「カタカナの選択」「カタカナの選択要因」を常に含んでいる。

本論文は、以下の点において先行研究を補うものである。

まず、本論文では、先行研究では指摘されていない文字種選択要因を探るべく、語用論を考察の枠組みとして用いる。また、「生産」「流通」「受容」の各過程のうち、「生産」を中心に「流通」の側面からも考察を行い、背景を立体的に捉える。

調査資料の面では、BCCWJに含まれていないものを対象とすることで、先行研究に不足していた調査範囲を補っていく。特に、日常生活に密着した身近な文字資料を中心とし、加えて、非外来語のカタカナ表記が出現しにくい資料における実態を把握するため、学術雑誌をも対象とする。

方法の面では、先にも述べた語用論を援用した分析と考察を行うほか、従来指摘されながらも印象論にとどまり、実証されていない要因「文字列への埋没回避」の妥当性を検証する。

さらに、「大まかな基準を外れたカタカナ表記」を表す術語が定まっていない現状に鑑み、現代日本語におけるカタカナの役割、およびカタカナが用いられる時の「社会的に共有されているであろう大まかな基準」を再確認する。そして、何が先

行研究で言うところの「標準」であり「非標準」に該当するのか、その再定義を試みる。合わせて、カタカナ表記の慣用化についても検討を行う。

先行研究においては、非外来語のカタカナ表記が出現する要因が、長きにわたり多々指摘されてきた。しかし、それらの要因がどのように関わり合っているのか、つまり、「どのような語が、どのような場合に、どのような要因によってカタカナで出現するのか」という仕組みと原理は十分に明らかになっていない。本論文では、先行研究で言及された要因を抽出し、本論文の結果を統合して要因同士の関わり合いを考察し、非外来語のカタカナ表記がなされる背景を探究する。

本論文の調査対象は、次のとおりである。本論文においては、これらを「資料」あるいは「媒体」と呼ぶ。

- ・テレビ番組における文字情報
- ・テレビ CM における文字情報
- ・Eメール
- ・日用品のパッケージにおける文字情報
- ・交通広告における文字情報
- ・学術雑誌

本論文の最後に、本論文が調査対象とした全ての資料から抽出された非外来語のカタカナ表記をまとめた語彙表を提示する。それらがどの資料で何件出現したのかも合わせて示す。このような身近な資料における非外来語のカタカナ表記の出現状況を一覧できる語彙表は、これまでに存在していないものである。

第3章 テレビ番組の文字情報における非外来語のカタカナ表記

3-1. はじめに

非外来語のカタカナ表記がなされる背景として、本章では大枠としての「コミュニケーションが成立する場」つまり「コンテキスト」と、コミュニケーション主体つまり表記主体の「意識」に着目する。そして、コンテキストと表記主体の意識といった語用論的な要素が、文字種が選択され使い分けられる要因の一つとして働いていることを述べる。

本章における調査の対象は、テレビ番組で画面に表示されるテロップを中心とする。以下ではまずテロップに関して先行研究を踏まえつつ述べ、続いて具体的な調査対象と方法、調査結果を述べる。また、観察された非外来語のカタカナ表記の一部を、一覧にして章の最後に示す（表 6-1、表 6-2）。

3-2. テロップに関して

インターネットが普及した現代においても、テレビは訴求力の高いメディアであり¹²、言語生活への影響力が大きい。テレビ番組のテロップに関する研究は多分野において数多くなされている。例えば、テロップは「ここ数年で番組演出上なくてはならない“必須項目”となってきた」（植村昌人 2004）とされ、現在もその状況は続いていると思われる。テロップの役割としては、「情報を二重に与える」（柴田実 2007）ことなどが指摘されている。また、内山和也（2002）は振り仮名とテロップの共通性を述べる。

任意に、いわば自由に情報を付加できるテロップは、番組制作者の意図を伝えるために活用しやすい媒体である。番組制作者の意図とはつまり表記主体の意識である。それは、使用される文字種にも現れるはずである。

3-3. 調査の対象および方法

具体的な調査対象と方法、依拠する概念と考察の観点は、以下のとおりである。

¹² 「新聞離れ」は全世代共通の傾向として見られる一方、テレビ視聴時間は若年層では減少、シニア層で増加、全体では微減という傾向を示す。（NHK 放送文化研究所 2011）

3-3-1. 調査対象

2011年1月21日（金）から4月2日（土）の間に放映されたテレビ番組29本におけるテロップおよび画面内の文字（スタジオで使用されるボード等）

（番組詳細は、本章末尾の表5参照）

- ・番組は視聴率の高さを基準に選定し¹³、全番組ジャンルのうち「報道」「教育・教養・実用」「スポーツ」「その他の娯楽番組」を対象とした。「音楽」「ドラマ」「アニメ」「映画」では自然発話を文字化したテロップが観察されないため、対象外とした。
- ・以上の29本に加え、その他のテレビ番組から随時個別に収集した文字情報（以下、「個別収集分」）も対象とした。
- ・テレビ番組で表示される文字情報には、画面上に後から付与されるテロップと、画面内（番組内）で使用されるボード等に記載された文字情報とがある。いずれも同じ番組制作者が一定の方針のもと作成するものであるため、本論文ではテロップと画面内の文字情報の両者を合わせて扱う。

今回調査対象とするこれらの文字情報を、以下「テロップ」と言う。なお、後述するとおり、上記調査期間に東日本大震災が起こった。そのことが、テロップにおける字種比率や第4章で調査対象とするCMの放映内容に影響する結果となった¹⁴。

¹³ (株)ビデオリサーチの視聴率データ「週間高世帯視聴率番組10」Vol.4-8（対象：2011年1月17日～2月20日）から視聴率の平均を求め、視聴率の高い番組を選定した。視聴率の高い番組の文字情報は、人々の言語生活への影響が大きいと考えられるためである。「週間高世帯視聴率番組10」の視聴率データは、過去3年間分のみが公開されている。

<http://www.videor.co.jp/data/ratedata/>

¹⁴ 筆者は2011年の春休み中に当調査を行うべく、番組を選定した。ところが予定していた期間中に東日本大震災が発生し、録画予定だった番組が全て放送されなくなってしまった。3月11日以降、番組編成が通常の状態に戻るのには時間を要した。そこで、震災後1か月程度経過した時点で3月11日以前に録画が済んでいたものと同じ番組を録画し、比較することで、地震発生による番組への影響をも考察する内容とした。最初から震災の前後における比較を意図して調査を行ったわけではない。

3-3-2. 分析・考察の方法

対象となった番組を録画し、画面に表示される全文字情報を、表示される表記のとおり 1 行単位で Excel に入力した。次に、カタカナ表記語を抽出し、『かたりぐさ』¹⁵を用いて品詞情報と語種情報を付与した。

番組の内訳および集計の結果得られたデータは、次のとおりである。

- ・対象番組数：「報道」10 本、「教育・教養・実用」11 本、「スポーツ」2 本、「その他の娯楽番組」6 本 計 29 本（総放映時間：1,448 分）
- ・文字情報の総行数：15,906 行
- ・カタカナ表記語ののべ語数は 4,941 語。うち非外来語のカタカナ表記語が 1,318 語。

第 2 章で述べたとおり、「非外来語のカタカナ表記語」は、「外来語以外がカタカナ表記された語」に「外来語以外がカタカナ表記された語を一部含む混種語」を加えた総称とする。また、一つの語にカタカナ以外の文字種を含む「混合表記語」（佐久間尚子ほか 2008）も、本論文ではカタカナ表記語としてまとめて扱う。

以上の作業によって得られた文字情報のデータを基に、番組のジャンルと使用文字種の間接関係を考察する。また、カタカナ表記された非外来語を切り口にして、文字種選択の要因を探る。

3-3-3. 依拠する概念と考察の観点

本章では、語用論的な要素である「コンテキスト」と「意識」の観点から文字種選択の要因を考察する。

「コンテキスト」は第 2 章で述べたとおり「コミュニケーションが成立する場面、状況」と定義している。本章におけるテレビ番組のジャンルの違いは、コンテクス

¹⁵ 国立国語研究所によって作成された、言語研究、自然言語処理用の語種情報データ。
<http://www2.ninjal.ac.jp/lrc/index.php> 本論文で『かたりぐさ』を使用するにあたり、掲載がない語については、類似の語を参照して筆者の判断で語種情報を付与した。『かたりぐさ』で外来語とされる語のうち「餃子」等は漢語に分類し、それらがカタカナ表記された例は「非外来語のカタカナ表記」として扱う。

トの違いであると見なすことができる。特に本論文においては、「コンテキストに応じた表記主体の意識」という観点が重要である。

表記主体の「意識」に関しては、「社会的規範」と「表記主体のストラテジー」の2つの側面に注目する¹⁶。表記主体はこの双方を調整しつつ言語行動(表記行動)を行っているとの前提に立ち、論を進める。

3-4. 調査結果

3-4-1. 字種比率から見たテレビ番組のテロップの特徴

文字言語としてのテロップの特徴を、字種比率の観点から概観する。番組ごとの使用文字種の割合は、章末に掲げた表5のとおりである。番組ジャンル別に見ると、報道番組のテロップでは漢字の比率が非常に高く、9本の平均で48.5%となる。これは、朝日新聞社説¹⁷の漢字の比率(43.90%)に近い。ひらがなの平均は32.3%で社説の51.22%に比べて20%程度少ない。カタカナの比率は高めで、社説4.41%に対して8.0%であった。概して報道番組、教育・教養・実用番組では漢字の比率が高めであり、その他の娯楽番組つまりバラエティ番組ではカタカナの比率が高めであることが表5からは見て取れる。

この字種比率は、テロップにも文体があり、報道番組においては書き言葉に近く、バラエティにおいては話し言葉に近いことを示していると言えるであろう。

次に、「別の日に放送された同番組」におけるテロップの字種比率を比較する。「情報7days ニュースキャスター」の3月19日および4月2日放送分のテロップを比較したところ、東日本大震災直後の3月19日と、約3週間後の4月2日とでは、字種比率に変化が見られた。4月2日放送分ではテロップ自体215行増加し、カタカナ表記語と非外来語のカタカナ表記語も各々約2倍に増加した。それに伴い、字

¹⁶ 三牧陽子(2002)では、言語使用における「社会的規範」と「個人のストラテジー」の2側面に注目してポライトネス研究がなされるべきであると述べられている。本論文では、表記主体の意識の2側面を表すのに、三牧にならい「社会的規範」という術語を用いる。また、本章と第4章では「個人のストラテジー」の代わりに「表記主体のストラテジー」という術語を用いる。単に「ストラテジー」とする場合もある。

¹⁷ 石井久雄(2001)の朝日新聞社説(2000年発行分)の調査による(p.5)。ここに示したひらがな、カタカナ、漢字以外では、「ラテン=アルファベット」0.44%、「アラビア数字」0.03%との結果が示されている。

種比率ではひらがなは 4.8%減、カタカナは 4.4%増となった。番組内容を比較したところ、この違いは番組構成および扱われる話題の違いから生じていた。すなわち、3月19日放送分にはスポーツ関連ニュースやバラエティの要素を含むコーナーが全く含まれておらず、話題も、番組の最初から最後まで全てが大震災関連のものであった。先に述べたとおり、バラエティ番組においてはカタカナの字種比率が高く、非外来語のカタカナ表記語も多数出現する。スポーツコーナーにおいても、スポーツの名称や選手名、競技の開催地など、外来語や外国の人名・地名にカタカナが多用される。3月19日放送分には、そのバラエティの要素を含むコーナーとスポーツ関連ニュースが番組内容に含まれないことによって、カタカナ表記語が減少し、カタカナの字種比率も低下したのである。

以上のように、番組のジャンルによってテロップで使用される字種の比率が大きく異なる。また、同じ番組であっても、放映時点での社会的な状況によって番組の構成が変わり、それが使用される字種の比率にも反映する。「番組のジャンル」や「社会的な状況」は、すなわちコンテキストである。コンテキストと文字種の比率には密接な関係があることがわかる。

3-4-2. テレビ番組のテロップにおける非外来語のカタカナ表記

3-4-2-1. 番組のジャンルと非外来語のカタカナ表記

番組ジャンルごとに、カタカナで表記された非外来語を品詞別に集計すると表1のとおりである。「報道」「教育・教養・実用」番組内のスポーツコーナーは、「スポーツ」に含めた。なお、本論文の表において「形容動詞語幹」「サ変接続」が名詞の下位区分となっているのは、『かたりぐさ』の品詞区分にしたがっているためである。

「固有名詞」以外の項目では、番組ジャンルごとに、カタカナで表記される非外来語には一定の傾向が見られる。特に顕著であるのは、「報道」では「名詞」と「副詞」にのみ現れる点、「その他の娯楽番組」では「動詞」「形容詞」「副詞」「感動詞」のほか、「名詞」の中でも「代名詞」「形容動詞語幹」に多く現れる点である。「教育・教養・実用」で「副詞」に多い点、「スポーツ」では広い範囲で満遍なく出現している点も注目される。「名詞（一般）」は、「教育・教養・実用」と「その他の娯楽番組」で多数現れている。

【表1】番組ジャンル別・品詞別 非外来語のカタカナ表記(のべ)

品詞		報道		教育・教養・実用		スポーツ		その他の娯楽番組	
		語数	比率	語数	比率	語数	比率	語数	比率
名詞	一般	13	11.8%	104	25.7%	6	10.3%	175	23.5%
	固有名詞	51	46.4%	75	18.6%	35	60.3%	187	25.1%
	動植物(性別含む)	30	27.3%	149	36.9%	2	3.4%	112	15.0%
	助数詞	5	4.5%	5	1.2%	1	1.7%	0	0.0%
	代名詞	2	1.8%	9	2.2%	2	3.4%	64	8.6%
	形容動詞語幹	2	1.8%	13	3.2%	1	1.7%	53	7.1%
	サ変接続	0	0.0%	4	1.0%	2	3.4%	18	2.4%
	略語	0	0.0%	0	0.0%	2	3.4%	0	0.0%
	接尾辞(人名)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
動詞	0	0.0%	3	0.7%	1	1.7%	21	2.8%	
形容詞	0	0.0%	2	0.5%	2	3.4%	32	4.3%	
副詞	7	6.4%	33	8.2%	4	6.9%	53	7.1%	
感動詞	0	0.0%	2	0.5%	0	0.0%	27	3.6%	
連体詞	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	
その他	0	0.0%	5	1.2%	0	0.0%	2	0.3%	
合計		110		404		58		746	1318

「固有名詞」の例には【トヨタ】等の社名、【イチロー】等の人名、商品名その他がある。これらは命名の時点である意図のもと選択されたカタカナ表記であり、原則的に番組のジャンルによって文字種が変化するものではない。【フクシマ】などの地名も、番組のジャンル以外の要因が優勢に働いてカタカナ表記になると考えられる。カタカナに限らず固有名詞に非標準的な表記が選択される要因については第10章で述べる。

3-4-2-2. 非外来語のカタカナ表記 — 実例と、先行研究に見る選択要因

ここでは、表1に該当する語の中から具体例を挙げて、テロップにおいて非外来語にカタカナ表記が選択された要因を考察する。

表2・3・4における記号の意味は、次のとおりである。また、各表の左端に通し番号を付し、用例の番号として用いる。

×：表外字、▽：表外音訓

※：2010年11月30日内閣告示「常用漢字表」で追加されたもの

表2の例がカタカナ表記された理由を、先行研究で指摘されている要因に照らして概観する。まず例1に関しては、この「イス」は物体としてのイスではなく「職」を指したものである。したがって、漢字本来の字義からの距離感を保つ働きを持た

せるため¹⁸⁾にカタカナ表記された例と解釈できる。例3の【カギ】も同じ用法であり、「比喩的な表現に用いられるカタカナ表記」と言い換えることもできる。

【表2】「報道」における「名詞(一般)」

		標準的表記	語種	出現文字列(テロップ)	種類
1	イス	※椅子/×倚子	漢語	イスが少なくなっている	発話
2	ウソ	×嘘/うそ	和語	ウソですか?	発話
3	カギ	※鍵/かぎ	和語	成長のカギ握る	
4	カネ	金/かね	和語	政治とカネに対して	
5	カネ	金/かね	和語	対象は“カネ持ち”高齢者—	
6	ヒマ	暇/×隙/ひま	和語	内容については十分議論するヒマがなくて	発話
7	メド	目▽処/目途/めど	和語	メド立たず	

出典: 1:「NEWS ZERO」、2・3・5:「NEWS23 クロス」、4:「ニュースウオッチ9」
6:「LIVE2011 N JAPAN」、7:「NHKニュース7」

【表3】「報道」における「名詞(代名詞)」

		標準的表記	語種	出現文字列(テロップ)	種類
8	ワシ	▽私/×儂/わし	和語	ワシは寂しくない	発話

出典:「NEWS23 クロス」

しかし、例2【ウソ】、例4・5【カネ】、例6【ヒマ】、例7【メド】は漢字本来の字義どおりの意味で使用されており、今述べた用法には該当しない。考えられる要因として、【ウソ】は表外字であるために漢字を避け、ひらがなかカタカナかを選ぶ段階で、埋没を避ける、あるいは目立たせる意図のもとカタカナ表記が選択された可能性が高い。【カネ】(金)【ヒマ】(暇)に関しては、それぞれ/キン/、/イトマ/と誤読されるおそれがあるという理由からカタカナ表記された可能性がまず考えられる。【政治とカネ】については、マスメディアでよく使用される表現であるが、「政治絡みの裏の金、汚い金である」等のニュアンスを付加しようとしたものであると解釈できる。従来とは少々異なる意味やニュアンスで語を使用している¹⁹⁾ことを、表明しているのである。例5の【カネ持ち】も同様であろう。

【メド】というカタカナ表記も、現代のテロップにおいて頻繁に観察される。同時に、【めど】も頻繁に観察される。【目途】は表内字であるにもかかわらず、今回

¹⁸⁾ 土屋信一(1977)ほかの指摘による。

¹⁹⁾ 土屋(1977)、野村雅昭(1981)ほか多数の先行研究により指摘されてきた。

調査対象となったテロップでは一度も出現しなかった。一方、【メド】は9件、【めど】は8件見られた。【目途】【目処】では読みにくいため仮名にしよう²⁰、そこからひらがなかカタカナに枝分かれするのであろう。テロップでは「めど」の前後にひらがなが使われる場合も多く、【めど】だと埋没してしまう。しかし、それでも【めど】が規範的であると判断し【めど】を採用する、あるいはひらがな文字列への埋没を避けて【メド】を採用する、という流れで【めど】【メド】のいずれかが選択されているのであろう。

【メド】に限らず、テロップは短時間で消えてしまうため、読みやすさが考慮される。概して、形が単純で文字列内で埋没しにくく、語としての識別性にすぐれるカタカナが選ばれるのは理にかなっていると言える。表3の例8【ワシ】も、発話の話し言葉的な特徴を示す²¹とともに、読みやすさが考慮されての表記であろう。

続いて、「報道」以外の番組における非外来語のカタカナ表記を概観する。表1の「教育・教養・実用」「その他の娯楽番組」では、「名詞（一般）」でカタカナ表記された非外来語が多い。この要因として、まず、漢字が表外字である点が考えられる。

【サビ】（錆）【ゴマ】（胡麻）【クジ】（籤）などが実例として挙げられる。同時に、文字列への埋没を回避することもできる。ほかの要因としては、言葉の深刻性、真剣味、強烈すぎるイメージを緩和する効果²²も考えられる。例としては、【ガン】（癌）【コブ】（瘤）【フン】（糞）などが挙げられる。ただし、「鋏」「蓋」「箒」など言葉の深刻性や強烈すぎるイメージとは関係のない語も同様にカタカナ表記となっている。これらがカタカナ表記されたのは表外字であることや字画が多いといった漢字に関する条件が要因として優勢であり、仮名を選ぶ段階で、埋没を避けるためにひらがなではなくカタカナを選択した可能性が高い。

以上の考察は全て先行研究の成果に基づくものであり、非外来語がカタカナで表記された要因を一つひとつの語のレベルで考えていくと、たいていは先行研究で指摘されたいずれかの要因、あるいは複数の要因に当てはまる。そして、語によってその要因はさまざまである。

²⁰ 笹原宏之（2006）でも、「「目処」は読めなそうなので「メド」とする。」と述べられている（p.7）。

²¹ 土屋（1977）、佐竹秀雄（1980a）ほかによる。

²² 柴田由紀子（1993）、堀江紫野（2001）ほかによる。

3-4-2-3. 非外来語のカタカナ表記 — 語用論的要素との関連から

ところが、テロップにおいて実際に観察される非外来語のカタカナ表記には、先行研究で明らかにされてきた要因のみでは十分に説明ができない例が存在する。

例えば、ひらがなに挟まれているためカタカナにしたという「埋没回避」は、内省によっても納得のいく要因である。しかし、埋没を避けるだけが目的であればカタカナを選択する必要がない場合もある。

【表4】カタカナを使用しても埋没が避けられる例

		標準的表記	語種	出現文字列(テロップ)	番組	種類
9	ナゾ	※謎／なぞ	和語	街角ナゾ図鑑	その他	
10	ギモン	疑問	漢語	51分間の“ギモン”会見 専門家が徹底分析	その他	
11	ギモン	疑問	漢語	もう一度見たい！動物のギモンSP	その他	
12	モノマネ	物真▽似／ものまね	和語	モノマネ度	その他	
13	モノマネ	物真▽似／ものまね	和語	“モノマネ”芸人募金活動	その他	
14	モノ	物／もの	和語	カワウソと同じモノが大好物	その他	
15	モノ	物／もの	和語	1月の旬モノ	その他	
16	ヨダレ	×涎／よだれ	和語	ヨダレ必至のグルメワールド！ デパ地下	その他	
17	ハズレ	外れ／はずれ	和語	屈辱の4回ハズレ	その他	
18	オンナ	女／おんな	和語	男を操る強いオンナSP	その他	
19	カンドウ	感動	漢語	カンドウ、 スポーツ！	スポーツ	
20	ワケアリ	訳有り／訳あり／わけあり	和語	ワケアリ大家族6	その他	
21	イキ	粋	漢語	東京の船宿 イキな決断	その他	
22	キワドイ	際▽疾い／きわどい	和語	キワドイ質問に30分答え続けければ20万円	その他	
23	ウマイ	▽甘い／▽旨い／ ▽巧い／うまい	和語	ウマイ事せんかい！	その他	発話
24	スゴイ	×凄い／すごい	和語	スゴイ勝負してるよね！	その他	発話
25	キレイ	奇麗／×綺麗	漢語	だって 君は キレイ	その他	発話
26	フツー	普通	漢語	フツーの家と同じ	その他	発話
27	ボク	僕	漢語	ボク熱く語りましたよ	その他	発話
28	ボク	僕	漢語	いま喋ってたでしょ！ボク	その他	発話
29	コレ	×此れ／これ	和語	ほとんど皆 コレ言うんです	その他	発話

出典： 1「世界一受けたい授業」、2・3・4・5・6・8・12・13・14・18・19・22・26・27:その他の民放番組、
7・9:「ペケ×ボン」、10:「ザ！世界仰天ニュース」、11:NHK スポーツ番組、
15・17・23・25:「行列のできる法律相談所」、16・20・21・24・28・29:「ぶっすま」

表4の例は、そのような語を一部抽出したものである。これらは全て、漢字、またはひらがなで表記しても、文字列に埋没することはない。表内字であれば漢字で書くことが可能であり、表外字であってもひらがなを選択することができる。また、

例 9～22 は発話のテロップではないため、話し言葉的な特徴を表そうとしてカタカナ表記が選択されたわけでもない。

21～29 に関しては、確かに先行研究が指摘する要因でも説明が可能である。まず、21～26 は形容詞と形容動詞である。このような感情や感覚、状態や性質、評価を表す非外来語がカタカナで表記されやすいことは先行研究で指摘されている²³。また、23～29 は発話のテロップであり、かつ 27～29 は代名詞であることから、先行研究の表現を借りるならば「ノリの良さ」²⁴を表したり、特別なニュアンスや語感を持たせたり、目立たせたりする意図が働いていると解釈可能である。

では、なぜ 21～29 のように、非外来語にカタカナ表記を用いて特別なニュアンスや語感を持たせたり、目立たせたりするのであろうか。また、先行研究で明らかにされてきた要因のみでは十分に説明ができない 9～20 のような例が出現するのであろうか。

ここで考慮しなければならないのが、語用論的な要素、つまりコンテキストとそれに連動した表記主体の意識である。表 4 は、1 件が「スポーツ」、そのほかは全て「その他の娯楽番組」いわゆるバラエティ番組からの例である。字種比率にも現れていたとおり、「報道」番組が規範的でかしまった、改まり度の高いコンテキストを持っているのに対し、バラエティ番組はカジュアルでくだけたコンテキストを持っている。

そして、表記主体、つまり番組制作者は、より多くの視聴者に番組を見てもらい、高視聴率を獲得することを目指して番組を制作している。その目的を達成するためには、「報道」番組は信頼性、バラエティ番組は信頼性よりも視聴者の興味を喚起して注目を集めることを重視し、それに応じた番組の空間を作り上げる必要がある。

カタカナを含む文字種の使い分けは、そのための手段の一つである。コンテキストに応じた表記主体の意識として、報道番組では「社会的規範」が、バラエティ番組では「表記主体のストラテジー」が優位に働くよう調整がなされていると言える。したがって、報道番組においては標準的な表記を中心に使用することで視聴者との適正な距離を保ち、バラエティ番組においては、特に非外来語をカタカナで表記し

²³ 佐竹 (1980a・1989)、則松智子・堀尾香代子 (2006) ほかによる。

²⁴ 柴田真実 (1998) による。

た非標準的な表記をテロップで多用することで明るく親しみのある番組空間を作り上げ、視聴者との距離を調整しようと働きかけることになる²⁵。

例えば代名詞「ぼく」はどのジャンルの番組でもテロップになる語であるが、本章の調査対象においては、【ボク】は「報道」や「教育・教養・実用」に属する番組では一度も使用されず、【僕】のみであった。表4のような非外来語のカタカナ表記は、報道番組では現れにくいものである。特に「動詞」「形容詞」「形容動詞語幹」「代名詞」「感動詞」にほとんど現れず、「その他の娯楽番組」と大きな差が出ているのは表1で確認したとおりである。

以上のように、コンテキスト、表記主体の意識、文字種は連動しており、この「連動している」という捉え方が文字種の選択要因を考えるにあたって重要である。

2-3-1で述べたように、これは本論文の理論的背景の一つである。蒲谷宏(2006)においては、待遇コミュニケーションにおける場面・意識・内容・形式の「連動」という捉え方の重要性が論じられた。これは本論文の目的である「カタカナ使用の背景」を探究する際に不可欠な視点であり、本論文における議論は、常に場面・意識・内容・形式が連動しているという前提で行われる。蒲谷(2006)の言う「場面」は本論文における「コンテキスト」と同義であり、「形式」は「文字種」を含む²⁶。

²⁵ 東京都内の大学生271人を対象としたアンケートで、メールにおける【すみません】【スママセン】の表記に対する印象を尋ねた。(2012年1~3月に篠崎晃一先生の指導・監修のもと実施。女子大学で実施後、性別の偏りを是正するためその他の大学でも実施した。)結果、大多数の回答者がひらがな表記に「丁寧さ」「無難さ」「礼儀正しさ」を感じ、多数の回答者がカタカナ表記に「新鮮さ」「親しみ」を感じると回答した。ただしカタカナ表記に対しては「不誠実」「きらい」という評価も一定数存在し、カタカナ表記に対する印象にはプラス評価とマイナス評価が混在していた。また、2018年7月に愛知県内の大学生62人に対しても同じアンケート調査を行ったところ、同様の結果が得られた(本調査結果は、愛知淑徳大学平成30年度研究助成を受けて実施した「非外来語のカタカナ表記に関する意識調査」(特定課題研究18TT31)の一部である。本調査は、愛知淑徳大学人間情報学部倫理審査委員会の承認(2018年7月5日付、2018-007)を受けて実施した)。

番組制作者側の働きかけとしては、無難な表記を避けてカタカナを使用することで、プラスであれマイナスであれ視聴者に何らかの引っかかりを持たせ、注目させることができると言えそうである。

²⁶ 「形式」は、「意味」に対する語形などを指す術語として用いられるのが一般的であるが、本論文における「形式」はコミュニケーションにおける「場面」「意識」「内容」「形式」の4側面の一つとしての「形式」である。したがって、文字種は形式の一側面である。

したがって、「コンテキスト（場面）」「意識」「文字種（形式）」が互いに関連し合っていて動いていることを表すのに、本論文でも蒲谷（2006）に従い「連動」という語を用いている。

なお、バラエティ番組におけるテロップの役割についてはいくつかの先行研究や文献で言及されている。例えば設楽馨（2006）は、バラエティ番組におけるおしゃべりは「極めて個別的で状況依存度の高い発話」であり、視聴者はテロップから「おしゃべりの生じた場がどのような状況なのか、今、ここがどういった場を形成しているのか、という手がかりを得ることになる」（p.49）と述べる。また、宇野常寛（2008）は、バラエティ番組がテロップを多用する理由を、「『この発言のどこで笑えばいいのか』という空気＝表現の空間」が視聴者たちに伝わりにくくなっており、「だからテロップを入れ、空気を指定してあげなければならない」（p.48）ためであると説明している。両者ともにテロップの役割は「場」つまり「空気を指定」することだと述べており、この「空気」「場」こそがコンテキストである。バラエティ番組においては、テロップが「空気」あるいは「場」、つまりコンテキストを規定するのである。

この時に重要な役割を果たすのが文字種である。そして、バラエティ番組が持つコンテキストが、今度はテロップに使用する語や表記を規定していくことになる。循環が起きているのである。

言い換えれば、カジュアルでくだけたコンテキストを持っているバラエティ番組であるからこそ、社会的に共有されている大まかな基準を外れたカタカナ表記を多用することが許されている。現代日本語において、4種類の文字種とそれらによる表記は、各々が異なるイメージを持っている。カタカナ表記は外来語のイメージと結びついているため、外来語以外を表記するのにカタカナが使われた場合は、概して意外性や親しみやすさ、くだけた雰囲気などをもたらす。視覚的に、また語感の上で、違和感を与える効果もある²⁷。そして、規範的な表記を逸脱して非外来語にカタカナ表記が使われた時点で、社会的規範よりも表記主体の戦略が優先されていることを視聴者は敏感に感じ取る。

そこで、バラエティ番組においては、報道番組でカタカナ表記が使われにくい品詞の和語や漢語にカタカナ表記が活用され、意外性やくだけた雰囲気などが付加さ

²⁷ 注 25 参照。石黒圭（2007）においても、ファッション業界などでは目新しさなどを出すためにカタカナ語やカタカナがよく用いられると述べられている（p.137）。

れ、さらに強固な「バラエティ番組のコンテキスト」が作り上げられる。例えば代名詞のカタカナ表記（【オレ】【コイツ】【アレ】【コチラ】等）をはじめ、形容動詞語幹と形容詞（【アホ】【ダメ】【ムダ】【テキトー】【イイ】【スゴイ】等）、動詞（【ズレる】【ダメす】【トぶ】【ハマる】【ハズレる】【ヤめる】等）²⁸、その他感動詞などの例が見られる。

反対に、コンテキストから見てふさわしくないと判断された場合には、たとえ文字列に埋没したとしても規範的と見なされるであろう標準的な表記が選ばれ、非標準的である非外来語のカタカナ表記は現れない。これは特に報道番組に顕著な傾向であり、社会的規範をより重視したいという制作者の意図、つまり表記主体の意識に基づくものと解釈できる。

このように、報道番組においてもバラエティ番組においても、コンテキストとそれに連動した表記主体の意識が関わり、文字種選択にあたっての要因となっているのが明らかである。

3-5. 本章のまとめ

本章では、テレビ番組の文字情報における非外来語のカタカナ表記の実例を題材として取り上げ、文字種が選択され、使い分けられる要因の一つを語用論の枠組みにおいて考察してきた。

非外来語がカタカナで表記される時、先行研究で明らかになってきた要因に加え、語用論的要素すなわち「コンテキスト」やそれに応じた「表記主体の意識」も同時に作用しており、「文字種」という形式と連動している。非外来語がカタカナ表記される背景には語用論的な要素が要因の一つとして確かに働いており、本章で述べたように語用論的要素を考慮することで、文字種選択要因を重層的に、また実状に即して捉えることが可能になる。

²⁸ これらは、バラエティ番組であるからこそ選択され、テロップに使用された「語」であると言える。つまり、コンテキストは語を選択する段階から表記主体に影響を及ぼしているのである。語は前述した「場面・意識・内容・形式」の「内容」に関わるものであり、すなわち語も本論文の言うところの「コンテキスト（場面）」「意識」「文字種（形式）」と連動している。したがって、表記行動の全体像を考える上では表記以前の語の選択段階をも考慮する必要があるが、本論文は語ではなく表記の選択の段階に焦点を当て、その背景を考察するものである。

【表5】調査対象 テレビ番組一覧

ジャンル	番組名	放送局	放送日 (2011年)	長さ (分)	文字情報		カタカナ表記語		全表記記号に対する字種ごとの割合				
					総行数	のべ	うち非 外来 語系	漢字	ひらがな	カタカナ	Alphabet	その他	
1 報	ニュース・気象情報	NHK	3/6(日)	15	162	8	0	52.7%	38.5%	2.5%	1.0%	5.3%	
2 報	NHK7時58ニュース	NHK	3/6(日)	2	19	0	0	70.9%	26.6%	0.0%	0.0%	2.5%	
3 報	首都圏ニュース845	NHK	3/7(月)	15	162	29	2	57.7%	27.7%	6.7%	0.3%	7.6%	
4 報	ニュースウオッチ9	NHK	3/7(月)	60	769	169	17	43.0%	38.5%	9.1%	1.4%	8.0%	
5 報	NEWS23クロス	TBS	3/8(火)	52	598	171	26	43.5%	28.5%	11.7%	3.8%	12.5%	
6 報	NEWS ZERO	日テレ	3/8(火)	64	720	174	15	42.7%	32.3%	10.3%	4.5%	10.2%	
7 報	NHKニュース7	NHK	3/9(水)	30	443	74	11	49.4%	33.7%	6.8%	0.6%	9.5%	
8 報	首都圏ニュース845	NHK	3/9(水)	15	180	45	9	44.8%	31.4%	11.3%	1.1%	11.4%	
9 報	報道ステーション	テレ朝	3/9(水)	76	864	187	42	43.6%	32.4%	8.5%	3.1%	12.4%	
10 報	LIVE2011 ニュースJAPAN	フジ	3/9(水)	23	292	88	18	36.7%	33.5%	12.6%	6.7%	10.5%	
11 教	これが世界のスーパードク ター 第14弾	TBS	3/22(火)	110	1228	281	61	35.6%	45.5%	9.0%	1.7%	8.2%	
12 教	そうだったのか！池上彰の 学べるニュース	テレ朝	1/26(水)	54	565	154	11	36.8%	40.8%	10.5%	2.6%	9.3%	
13 教	爆笑問題のニッポンの教 養	NHK	2/1(火)	30	172	101	82	28.9%	48.2%	17.8%	1.3%	3.8%	
14 教	サンデーモーニング	TBS	3/6(日)	114	863	370	27	45.5%	18.6%	18.0%	3.6%	14.3%	
15 教	真相報道バンキシャ！	日テレ	3/6(日)	55	913	216	37	44.2%	35.2%	9.1%	2.1%	9.4%	
16 教	ダーウィンが来た！ 生きもの新伝説	NHK	3/6(日)	28	150	128	68	20.3%	15.7%	49.3%	5.2%	9.5%	
17 教	Mr. サンデー	フジ	3/6(日)	75	546	134	21	38.7%	38.1%	8.9%	3.5%	10.8%	
18 教	クローズアップ現代	NHK	3/9(水)	28	144	51	9	38.5%	37.3%	14.6%	3.6%	6.0%	
19 教	ためしてガッテン	NHK	3/9(水)	43	459	124	40	32.5%	44.1%	10.4%	1.9%	11.1%	
20 教	情報7daysニュースキャス ター	TBS	3/19(土)	84	757	149	20	40.9%	37.3%	8.2%	4.8%	8.8%	
21 教	情報7daysニュースキャス ター	TBS	4/2(土)	84	972	294	44	39.4%	32.6%	12.7%	5.4%	9.9%	
22 ス	すぽると！	フジ	3/9(水)	30	516	212	9	33.0%	24.1%	16.8%	14.1%	11.9%	
23 ス	S・1	TBS	3/19(土)	58	595	166	5	41.8%	37.4%	9.5%	2.6%	8.7%	
24 他	ぴったんこカン・カン	TBS	1/21(金)	58	417	132	24	28.3%	42.1%	11.9%	7.0%	10.7%	
25 他	世界一受けたい授業	日テレ	1/22(土)	58	680	324	72	34.0%	39.3%	17.1%	1.8%	7.7%	
26 他	行列のできる法律相談所	日テレ	1/23(日)	54	982	265	120	34.7%	42.6%	10.1%	1.5%	11.1%	
27 他	ペケポン	フジ	1/28(金)	57	583	275	184	35.8%	30.3%	19.0%	3.8%	11.1%	
28 他	笑点	日テレ	3/6(日)	30	54	14	1	50.0%	18.6%	15.5%	6.2%	9.7%	
29 他	ぷっすま	テレ朝	3/29(火)	46	1101	606	343	24.9%	41.0%	18.4%	3.9%	11.8%	
	合計			1448	15906	4941	1318	40.3%	34.2%	12.6%	3.4%	9.4%	

※ジャンル欄の「報」は「報道」、「教」は「教育・教養・実用」、「ス」は「スポーツ」、「他」は「その他の娯楽番組」を表す

※放送局欄の「NHK」は「NHK総合」、「日テレ」は「日本テレビ」、「フジ」は「フジテレビ」、「テレ朝」は「テレビ朝日」の略である

【表6-1】 番組ジャンル別・品詞別 非外来語のカタカナ表記 用例(一部)

ジャンル: 「報道」「教育・教養・実用」

※出現した語形をそのまま示す。

品詞		報道		教育・教養・実用	
		語数 (のべ)	用例	語数 (のべ)	用例
名詞	一般	13	イス、ウソ、カギ、カネ、カネ持ち、パチンコ、ヒマ、メド	104	カイロ、カギ、カス、カネ、ガリ、ガン、ギョギョウ、クビ、コブ、ゴミ、サビ、サムライ、センバツ、ダシ、チカラ、ツボ、テコ、ナゾ、ノド、ノリ(海苔)、ハガキ、バラマキ、フリ、フン、メド、モノマネ、ヤマ、ロウソク、ワケ、ワザ など
	固有名詞	51	シンシン、タンタン、パンパンなど(以上はパンダの名)、アサヒ、ミサワ、トヨタ、その他人名(マリなど)、地名(ヒロシマ)	75	アキダイ、カズダンス、ケイ、ケツメイシ、シンシン(パンダの名)、タケダ、バンキンヤ、ヒゲじい、ヨシヨシ号、その他人名(イチローなど)、地名(ニッポンなど)
	動植物(性別含む)	30	カキ、ゴーヤ、ダニ、ホッキョクグマ、オス、メス など	149	アリ、ウコン、カイツブリ、カラス、キツネ、クルミ、ハクトウワシ、ハシブトガラス、ハト、オス、メス など
	助数詞	5	カ(所)、カ(月)、カ(月)	5	カ(所)、カ(月)、カ(月)
	代名詞	2	ワシ	9	アレ、ウチ、コレ、ボク、ボくら、ワタシ
	形容動詞語幹	2	キレイ、ダメ	13	カリカリ、キレイ、ゲンキン、テキメン、ダメ、バカ、マジ、ヤダ など
	サ変接続	0	-	4	ガッテン、ムダ遣い
	略語	0	-	0	-
	接尾辞(人名)	0	-	0	-
動詞		0	-	3	(異変)アリ、トんで、ヤメて
形容詞		0	-	2	ゴツイ、カッコいい
副詞		7	ガタガタ、カピカピ、キラキラ、コロコロ、ポキポキ など	33	ガタガタ、キラキラ、サクサク、ザラザラ、チクチク、ヌルヌル、ネチャネチャ、ビリビリ、キューツ、ググーン、ぜんぜん、ニッコリ、ピシヤーツ など
感動詞		0	-	2	アレ、ギョギョ
連体詞		0	-	0	-
その他		0	-	5	ギョ協力、雨ニモマケズ など
合計		110		404	

【表6-2】番組ジャンル別・品詞別 非外来語のカタカナ表記 用例(一部)

ジャンル: 「スポーツ」「その他の娯楽番組」

※出現した語形をそのまま示す。

品詞		スポーツ		その他の娯楽番組	
		語数 (のべ)	用例	語数 (のべ)	用例
名詞	一般	6	キレ、ゴロ、センバツ、ピラ	175	ウソ、ガチンコ、カマ、カラオケ、ギモン、クジ、クビ、コシ、コツ、ゴマ油、ゴミ、ゴミ箱、サビ、サムライ、旬モノ、スネ、縦ヤリ、ツボ、ナゾ、ネタ、ネタフリ、ノリ(乗り)、ハサミ、ハズレ、バツイチ、ハラミ、ヒッカケ、フケ、フタ、ヘコミ、ボイ捨て、ホウキ、ボケ、ホコリ、マグレ、ムダ、ムチ、モノ、横ヤリ、ワクワク感、ツェーマン など
	固有名詞	35	アサヒ、カネボウ、サントリー、ダイナム、トヨタ、ナゴヤドーム、マツダ、ヤクルト、その他人名(ユウキ、イチロー) など	187	アサヒ、オテンキ、オレコツ、カン・カン、コジマ、サカイ、セイバン、タケダ、マルハン、ヤマザキ、その他人名(アムロ、タカ、タカアンドトシ、ツヨシ、ユースケ など)
	動植物 (性別含む)	2	フクロウ	112	アサリ、イチョウ、イヌ、ケデ、カニ、キュウリ、キンカン、ギンダラ、ニンジン、クマ、毛ガニ、サトウキビ、サル、シダ、シロアリ、タカナ、ダニ、タラ、夏ミカン、ナマコ、ネギ、ノビル、ブタン、ボタンエビ、ボンカン、マグロ、マテガイ、紫イモ、ヤシ、ワサビ、ワタリガニ など
	助数詞	1	ケタ	0	-
	代名詞	2	ボくら	64	アレ、オレ、コイツ、ココ、コチラ、コッチ、コレ、ソコ、ソッチ、ソレ、ボク、ヤツ など
	形容動詞語幹	1	ダメ	53	アホ、カンタン、キレイ、ダメ、テキトー、ハンパ、ピツタリ、ヘタ、へな、ホンマ、マジ、マジメ、ムダ、ヤダ、ヤンチャ など
	サ変接続	2	ビックリ	18	デコボコ、デレデレ、ナンパ、ビックリ、マネ など
	略語	2	三ゴ、二ゴ(ゴロの略)	0	-
	接尾辞(人名)	0	-	1	ピョン
	動詞	1	ガンバって	21	アリ、イける、ズれます、ズれて、ダメして、ハズれた、ハマってる、ボケだしたら、モテる、モテへん など
形容詞	2	カワイ過ぎる、スゴイ	32	イイ、ウザイ、エライ、カッコ悪い、カワイイ、スゴイ、スッゲー、スゴかった、スゲー、チャライ、ヒドイ、マズい、ものスゴく、ヤバイ、ヤバい など	
副詞	4	ガツガツ、ドキドキ、パツパツ	53	イライラ、オドオド、ガシヤガシヤ、カチカチ、キンキラキン、グチャグチャ、コリコリ、スイスイ、バラバラ、プヨプヨ、ヘラヘラ、イチヤイチャ、ピツタリ、スグ、スツクリ、パツクリ、ポーッ、ボン など	
感動詞	0	-	27	アカン、ア〜ッ、アレ、イエ〜イ、イヤ〜、エッ、オイオイ、オェ〜、キャ〜、ゴメンナサイ、コラ〜、ダーッ、ハイ、ハッ、ハハハハ、フォー など	
連体詞	0	-	1	コノ	
その他	0	-	2	苦ッ、ホニヤララ	
合計	58		746		

第4章 テレビCMの文字情報における非外来語のカタカナ表記

4-1. はじめに

第3章では、テレビ番組の文字情報を資料とし、主に非外来語のカタカナ表記の出現状況の違いという観点から、テレビ番組の文字情報における文字種の選択にはコンテキストとそれに応じた表記主体の意識、つまり語用論的要素が要因として関わっていることを述べた。しかし、テレビ番組の文字情報は、番組のジャンルによって使用される「語」の傾向が異なる。非外来語のカタカナ表記の出現状況の違いは「語」の違いによるところが大きいのかもしれず、「語用論的要素によってカタカナが選択されたことによる違いである」と言い切れるのかどうか疑問が残る。

そこで本章では、同じ語が異なる文字種で表記された例を取り上げ、その表記の違いが語用論的要素の違いによるものかどうかの検証を試みる。そのような表記の異なる例が見られる資料として、テレビCM（以下「CM」）の文字情報を調査対象とする。以下ではまず、CMの文字情報に関して先行研究を踏まえながら述べ、続いて具体的な調査対象と方法、結果を述べる。

4-2. CMとその文字情報に関して

広告に関する研究は膨大にあり、広告の媒体の一つとしてのCMに関する研究は多分野において数多くなされている。マーケティングの分野をはじめ、デザインに関するものや情報通信分野、CMから社会心理を読み取ろうとするものなど、さまざまである。

しかし、文字種選択要因を検討するためにCMの文字情報を利用した先行研究はほとんどない。日本語教育の分野で、五十嵐優子（2012）が雑誌、新聞と合わせてCM37本のカタカナ表記語を調査したのにとどまる。その他、日本語学関連では嶺田明美・長澤輝世（2012a・2012b）がCMの表現形式を論じている。また、島田泰子（2013）は広告表現等における表現様式について論じており、分析対象にはCMも含まれている。しかし、嶺田・長澤（2012a・2012b）、島田（2013）はいずれも文字種に焦点を当てたものではない。文字種に焦点を当てた論考としては、新聞広告の漢字を扱った金城ふみ子（2003）、棚橋尚子（2005）がある。また、ネッ

ト広告と雑誌広告のことばにおける表記の工夫に言及した論考に高崎みどり・立川和美(2008)がある。しかしいずれも CM を扱ったものではない。

このように、文字種やカタカナ表記関連の先行研究で、CM を言語資料として用いたものの蓄積は多くない。しかし、本論文の目的を果たすために CM の文字情報は有用である。なぜなら、CM は制作者の意図が極めて明確な媒体だからである。コミュニケーションの目的としては「勧誘」や「招待」「説得」が意図されたものであると言える。コンテキストと表記主体の意識、文字種という形式が連動している様を観察するのに適した資料であろう。

また、第2章で述べたように、「文字環境の循環モデル」(横山詔一 2014a・2014b)では「社会的使用頻度」の高さが個人の表記の選択に影響し、それが循環してさらに「社会的使用頻度」に影響を与えていくというサイクルが示されている。現代日本語の文字環境とこのサイクルにおいて、CM の文字情報の表記は大きな役割を果たしていると考えられる。しかしながら、その文字情報は BCCWJ 等のコーパスに含まれていない。本論文で扱うデータは、日々流通している CM の文字情報全量に比べれば極めて微量である。それでも CM における文字使用の実態を調査し、それに基づき分析を行うことは、現実の文字生活を客観的に記述し、カタカナ使用の実態を把握してその背景を探究するという本論文の目的に合致する。

以上を踏まえ、本章では CM の文字情報を対象としてその特徴を記述し、文字種選択要因として語用論的な要素、つまりコンテキストとそれに応じた表記主体の意識が働いていることを第3章とは別の角度から明らかにする。

なお、ある一つの語において文字種が選択される時には複数の要因が同時に働いていると想定されるが、本章では語用論的な要素に焦点を当てて考察を行う。

4-3. 調査の対象および方法

具体的な調査対象と方法、依拠する概念と考察の観点は、以下のとおりである。

4-3-1. 調査対象

調査対象とした CM は次のとおりである。

- ・対象 CM： 合計 のべ 1,564 本、異なり 1,003 本
- ・内訳： のべ 625 本、異なり 424 本 (2011 年)

のべ 939 本、異なり 579 本 (2012 年)

2011 年 1～4 月放映のテレビ番組 19 番組、2012 年 10～11 月放映の 18 番組、合計 37 番組²⁹の前中後に放映された CM および追加収集した CM³⁰である。CM の詳細は、末尾にまとめて掲げる。これらの CM において表示された文字情報を調査対象とする。

4-3-2. 調査と分析・考察の方法

録画した CM において画面に表示された文字情報を、表示される表記のとおり 1 行単位で Excel に入力した。文字種ごとの字数の集計にも Excel を用いた。

本章の冒頭で述べたように、本章ではいくつかの特定の語を取り出して、語用論的要素との関連から表記の違いを見る。CM における非外来語のカタカナ表記全体の出現状況については、後の章で別途取り上げる。

4-3-3. 依拠する概念と考察の観点

本章では、第 3 章での検討を踏まえ、語用論的な要素である「コンテキスト」と表記主体の「意識」が文字種選択要因となっているかどうかを検証する。第 3 章同様、「コンテキスト」の定義は「コミュニケーションが成立する場面、状況」である。そして表記主体の「意識」に関しては、「社会的規範」と「表記主体のストラテジー」という言語使用における 2 側面を表記主体が調整しつつ表記行動を行っているとの前提に立つ。

なお、本論文では CM を広告主体と商品のジャンル別に分類し³¹、同じ語の表記がジャンルによってどのように異なるのかを主に見ていく。コンテキストとジャンルはイコールではないが、コンテキストの一部でありコンテキストを反映するのが CM におけるジャンルであると本論文では見なす。つまり、「ジャンル」と言う時には常にコンテキストを想定している。また、本章では社会状況が表記主体の意識に

²⁹ 第 3 章で調査対象としたテレビ番組と同じ方法で、2012 年にもテレビ番組を調査対象として選定し、録画した。2012 年に収集したテレビ番組の文字情報は、後の章で使用する。本章ではそのうちの CM だけを対象とする。

³⁰ ジャンルの偏りを是正するため、2011 年 5 月と 8 月に計 12 本を追加収集した。

³¹ 分類にあたっては、CM 総合研究所の『CM DATABANK』<http://www.CMdb.jp/ranking/>の「業類」を参考に、さらに商品によって一部を筆者が細分化した。

影響を与える例も見ていく。社会状況は、すなわちコンテキストである。したがって、本論文で「コンテキスト」と言う時には、ジャンルと社会状況の双方を含んでいる。これを踏まえ、区別しつつ、本論文では「コンテキスト」と「ジャンル」という語を用いる。

4-4. 調査結果

4-4-1. CMのジャンルと文字種

CMのジャンルによって、文字情報に使用される文字種はどのように異なるのであろうか。ジャンル別の字数合計と字種比率を表1に示す。

【表1】テレビCM ジャンル別 字数合計と字種比率

ジャンル	CM本数 異なり	字数 合計	全表記記号に対する字種ごとの比率				
			漢字	ひらがな	カタカナ	Alphabet	その他
1 電子・精密系	25	1,978	14.4%	14.7%	12.2%	51.8%	6.9%
2 携帯電話	10	1,124	12.6%	18.1%	9.9%	52.2%	7.2%
3 AV機器系	4	452	11.3%	10.4%	18.6%	54.2%	5.5%
4 家庭電器系	24	2,650	18.5%	16.9%	19.5%	34.6%	10.5%
5 IT関連	9	1,159	22.8%	23.0%	17.3%	28.8%	8.1%
6 自動車系	93	9,799	16.9%	15.9%	20.5%	34.5%	12.2%
7 食品系	75	4,976	18.1%	28.2%	21.7%	19.6%	12.3%
8 菓子系	33	1,862	15.1%	22.4%	26.8%	29.1%	6.6%
9 ドリンク系	44	2,761	17.2%	21.8%	19.2%	31.7%	10.0%
10 アルコール系	43	3,650	28.7%	28.7%	18.6%	12.4%	11.5%
11 医薬・健康系	109	12,234	31.3%	25.1%	23.7%	10.1%	9.8%
12 化粧品系	38	4,401	18.9%	16.3%	32.5%	22.4%	9.9%
13 生活雑貨系	49	3,581	24.3%	23.1%	26.5%	19.4%	6.6%
14 生活雑貨系(身体用)	65	6,366	21.7%	21.6%	31.4%	17.3%	7.9%
15 衣料系	34	2,351	10.2%	12.4%	22.8%	43.3%	11.3%
16 娯楽・興行系	73	5,475	22.9%	16.7%	21.5%	24.1%	14.8%
17 マスコミ・教育系(マスコミ)	5	362	36.7%	13.0%	20.2%	14.9%	15.2%
18 マスコミ・教育系(教育)	18	2,065	36.6%	25.0%	16.6%	6.2%	15.7%
19 流通・販売系	56	7,406	21.3%	18.3%	23.7%	18.2%	18.6%
20 通信・サービス系	74	8,345	23.1%	16.1%	21.6%	22.8%	16.4%
21 住宅・建設系	28	2,034	22.7%	21.3%	23.3%	20.0%	12.8%
22 金融系	45	7,431	32.0%	25.6%	16.6%	9.8%	16.0%
23 企業・公共・他	49	5,324	26.7%	35.1%	15.1%	10.2%	12.8%
合計	1,003	97,786	23.2%	21.4%	21.9%	21.2%	12.2%

まず顕著であるのは「1. 電子・精密系」「2. 携帯電話」「3. AV 機器系」における Alphanet 使用率の高さ（いずれも 50%以上）である。他に、「15. 衣料系」でも Alphanet の使用率が高く 43.3%である。以上のジャンルでは、漢字の使用率が相対的に低くなっている。

漢字の使用率が高いのは「17. マスコミ・教育系(マスコミ)」「18. マスコミ・教育系(教育)」「22. 金融系」「11. 医薬・健康系」で、いずれも 30%以上である。

カタカナの使用率が高いのは「12. 化粧品系」「14. 生活雑貨系（身体用）」で、30%以上である。ほかに、カタカナの使用率が比較的高いジャンルとして「8. 菓子系」（26.8%）、「13. 生活雑貨系」（26.5%）、「11. 医薬・健康系」「19. 流通・販売系」（ともに 23.7%）が挙げられる。

このように、字種比率にはジャンルによる違いが見られる。その理由の一つとしては、特定の文字種を多く使用することによって、表記主体が意図するイメージの演出が可能になることが挙げられる。例えば、信頼性を打ち出す必要があるジャンルにおいては、漢字使用によって硬い文体的価値を文字情報に付与し、信頼感を演出するなどである。「漢字含有率の多少は、漢語の多寡と連動し、その文章の硬さといったイメージとも結び付く」（佐竹秀雄 1998、p.26）からである。一方、例えば先述したような目新しさやしゃれた感じの演出が意図されるジャンルではカタカナや Alphanet の使用率が高くなり、その分漢字の使用率は低くなる傾向がある。

4-4-2. コンテキストの違いと語の表記

コンテキストの違いによって、語の表記はどのように異なるのか。そしてそれらの違いはなぜ生じるのか。実例をもとに検討する。

4-4-2-1. 同じ語の表記の違い（ジャンル別）

まず、CM のジャンルによる語の表記の違いを検討する。ある程度の用例数が得られた /チカラ/ と /カタチ/ の 2 語に関して見ていく。後に取り上げる /ケイタイ/ と合わせ、ジャンル別の出現状況を表 2 に示す。

【表2】 語の表記別 ジャンル別集計

ジャンル	／チカラ／			／カタチ／			／ケイタイ／		
	力	ちから	チカラ	形	かたち	カタチ	携帯	けいたい	ケータイ(注)
1 電子・精密系									
2 携帯電話							3		1
3 AV機器系									
4 家庭電器系									
5 IT関連									
6 自動車系	2		1			1			
7 食品系		1	2						
8 菓子系	1		1						
9 ドリンク系	3								
10 アルコール系									
11 医薬・健康系	9		10			1			
12 化粧品系			1						
13 生活雑貨系	1		2			1			2
14 生活雑貨系(身体用)			4	2					
15 衣料系			2			1			
16 娯楽・興行系			1		1				1
17 マスコミ・教育系(マスコミ)									
18 マスコミ・教育系(教育)	2						1		1
19 流通・販売系				1					4
20 通信・サービス系			1				3		5
21 住宅・建設系	8					1			1
22 金融系	2								2
23 企業・公共・他	5	2				3			1
合計	33	3	25	3	1	8	7	0	18

注)【ケイタイ】も含む

◇／チカラ／

出現数：【力】33件、【ちから】3件、【チカラ】25件 計61件

漢字の【力】とカタカナの【チカラ】では、概ねジャンルによる住み分けがなされていた。表2にあるように、【力】のみが見られたのは「9. ドリンク系」(3件)、「18. マスコミ・教育系(教育)」(2件)、「21. 住宅・建設系」(8件)、「22. 金融系」(2件)であり、【チカラ】のみが見られたのは「12. 化粧品系」(1件)、「14. 生活雑貨系(身体用)」(4件)、「16. 娯楽・興行系」(1件)である。一方、「11. 医薬・健康系」では【力】9件、【チカラ】10件と、漢字表記とカタカナ表記がほぼ同数見られた。事例の一部を表3に示す。該当する用例が含まれている行のみを抽出した。以下、事例も参照しながら、表記の違いが生じる理由を考察する。表3・4・5の左端に通し番号を付し、用例の番号として用いる。

【表3】／チカラ／

	表記	CM文字情報	企業・団体名	商品・サービス等	ジャンル
1	力	生は、 <u>力</u> だ。 新芽の <u>力</u>	キリンビバレッジ	清涼飲料(お茶)	9 ドリンク系
2	力	腸で生きぬく <u>力</u> が強い	KAGOME	乳酸菌飲料	11 医薬・健康系
3	力	生薬の <u>力</u> で 血行をよくし、	養命酒製造	薬用養命酒	11 医薬・健康系
4	力	そのコリに、磁気 <u>の力</u> 。	ピップエレキバン	磁気治療器	11 医薬・健康系
5	力	天然 <u>の力</u>	小林製薬	消臭剤	13 生活雑貨系
6	力	自分で伸びる <u>力</u>	Z-KAI	通信教育	18 マスコミ・教育系(教育)
7	力	人を、想う <u>力</u> 。 街を、想う <u>力</u> 。	三菱地所グループ	企業広告	21 住宅・建設系
8	力	ふたつの <u>力</u> 。ひとつの想い。	SMBC日興証券	企業広告	22 金融系
9	力	日本の <u>力</u> を、世界につなぐ。	日興コーディアル証券	企業広告	22 金融系
10	力	日本の <u>力</u> を、信じてる。	ACジャパン	震災からの復興	23 企業・公共 他
11	力	みんなでやれば、大きな <u>力</u> に。	ACジャパン	震災からの復興	23 企業・公共 他
12	ちから	しじみ70個分の <u>ちから</u>	永谷園	インスタントみそ汁	7 食品系
13	ちから	森の <u>ちから</u> を、未来の <u>ちから</u> に。	住友林業	ビッグフレーム工法	21 住宅・建設系
14	チカラ	私には、信じられる <u>チカラ</u> がある。	日清オイリオグループ	料理用油	7 食品系
15	チカラ	小さな粒の 大きな <u>チカラ</u> 。	ビオフェルミン製薬	医薬部外品	11 医薬・健康系
16	チカラ	その疲れに、Aの <u>チカラ</u> ！	武田薬品工業	第3類医薬品	11 医薬・健康系
17	チカラ	それは、天然由来の ミネラルの泡の <u>チカラ</u> 。	ARSOA	洗顔石鹸	12 化粧品系
18	チカラ	毛先 <u>チカラ</u> のために	P&G	ヘアケア用品	14 生活雑貨系(身体用)
19	チカラ	7の <u>チカラ</u>	マルハン	パチンコ台	16 娯楽・興行系
20	チカラ	通話を、 <u>チカラ</u> に。	WILLCOM	PHS事業	20 通信・サービス系

【力】が使われているCMと【チカラ】が使われているCMとでは、CMのジャンルと、それに応じた表記主体の「意識」つまり広告主体がCMに託した意図が異なると言える。

すなわち、漢字が使われている「医薬・健康系」の一部や「マスコミ・教育系(教育)」「金融系」「住宅・建設系」は、4-4-1で述べた漢字使用率が高いジャンルと概ね一致する。これらのCMで漢字が選択されているのは、信頼を重視したいという広告主体の意識の表れであろう。広告のキャッチコピーの表記を分析した高崎・立川(2008)も、漢字は「専門用語などによく使用され、信頼性を高める」(p.57)と述べており、商品や企業・団体自らの信頼性を打ち出すとともに、／チカラ／の標準

的な表記である漢字を使用することで「社会的規範」を重んじていることを示していると解釈できる。漢字の【力】／チカラ／にはカタカナの【カ】／カ／と読み間違えられるリスクがあるが、CMは音声に伴うこともあってか、読み間違いのリスク以上に信頼性を高めることや社会的規範が優先されている。

一方、【チカラ】が選択されたCMのジャンルには「化粧品系」「生活雑貨系（身体用）」「娯楽・興行系」「通信・サービス系」などが含まれ、社会的規範よりも表記主体の戦略が優先されていると解釈可能である。石黒圭（2007）は、「ファッションやインテリア業界など、欧米の風合いを出すことが売り上げに直結するような業界」において、しゃれた感じや目新しさ、国際性を出すためにカタカナ語やカタカナがよく用いられると指摘する（p.137）。例14～20も、同様の流れを汲むものであろう。14. 日清オイリオ、15. ビオフェルミン製薬、17. ARSOA、18. P&Gのターゲットは主に女性である。また、19. マルハンパチンコ台、20. WILLCOMはPHS事業のCMであり、ジャンルは「娯楽・興行系」「通信・サービス系」である。カタカナを選択することで目新しさ、おしゃれさを演出して購買意欲を高めたり、自社製品やサービスが他とは違うということをアピールしたりする意図があるものと考えられる。おしゃれさや軽快さ、エンタテインメント性と親和性が高いジャンルのCMにおけるこのような非外来語のカタカナ表記の使用傾向は、女性誌・男性誌やエンタテインメント系の雑誌にカタカナ表記語が多いという先行研究の分析結果とも一致する（佐竹1989など）。

ひらがなの【ちから】も「食品系」「住宅・建設系」で各1件（例12、13）見られたが、商品が「味噌汁」であったり広告主体の社名が「林業」であったりなど、「伝統的な日本」を感じさせるCMである点に注目したい。そのようなCMにおいて漢字ではなくひらがなを用いるのは、「カタカナを用いると軽すぎるし日本的でない。しかし親しみを演出したい」「視聴者の反感を買わず、しかし印象づけたい」といった表記主体の戦略の反映であろう。

以上のような／チカラ／におけるカタカナ表記やひらがな表記は、先行研究が指摘してきた「特殊なニュアンスを付加する」³²「話し言葉的な特徴を表す」³³など

³² 第3章で挙げた先行研究のほか、柴田真実（1998）、中山恵利子（1998）、喜古容子（2007）など。

³³ 第3章で挙げた先行研究のほか、堀江紫野（2001）、村中淑子・黎婉珊（2013）など。

といった要因によって出現しているとの解釈も可能である。しかし第3章でも述べたように、なぜ特殊なニュアンスを付加したり、話し言葉的な特徴を表す必要があるのかという点は、コンテキストとそれに連動した表記主体の意識を要因として考慮しなければ説明がつかない。言語的な要因の背景にある非言語的な要因として語用論的な要素を視野に入れることは、非外来語のカタカナ表記が出現する背景を探究するために有効であり、また、必要である。

◇／カタチ／

出現数：【形】3件、【かたち】1件、【カタチ】8件 計12件

表2に挙げたとおり、「14. 生活雑貨系（身体用）」（2件）、「19. 流通・販売系」（1件）で【形】のみが見られた。【カタチ】のみが見られたのは「6. 自動車系」「11. 医薬・健康系」「13. 生活雑貨系」「15. 衣料系」「21. 住宅・建設系」（各1件）、「23. 企業・公共・他」（3件）であった。／カタチ／においては、／チカラ／よりも明確に漢字表記とカタカナ表記とでジャンルによる住み分けがなされている。また、【かたち】が1件、「16. 娯楽・興行系」で見られた。実例の一部を表4に示す。

【表4】／カタチ／

	表記	CM文字情報	企業・団体名	商品・サービス等	ジャンル
21	形	入れ歯の形、大きさによっては	グラクソ・スミスクライン	入れ歯安定剤	14 生活雑貨系(身体用)
22	形	形が不揃いの為	イトーヨーカドー	特売告知	19 流通・販売系
23	かたち	情熱をかたちに。	SANKYO	パチンコ台	16 娯楽・興行系
24	カタチ	可能性のカタチ	TOYOTA	ハイブリッド車	6 自動車系
25	カタチ	きれいなカタチを、きれいにはく。	UNIQLO	衣料	15 衣料系
26	カタチ	新しい部屋探しのカタチ	東建コーポレーション	不動産・賃貸情報	21 住宅・建設系
27	カタチ	新しい弁護士のカタチを 提案	法律事務所MIRAIO	事業案内	23 企業・公共 他
28	カタチ	その気持ちをカタチに。	ACジャパン	公共広告	23 企業・公共 他

まず【カタチ】について検討する。【カタチ】に限らず、短時間で文字が消えてしまうCMに見られるカタカナ表記は、形式の面で「文字列への埋没を避ける」という表記主体の意識が共通の要因として考えられる。例えば例24～28は【カタチ】の前後あるいは前接する文字がひらがなであるため、【かたち】だとひらがなが続い

て読みにくくなる（例 23 はその例）。そこでカタカナにした、と解釈することもできる。しかし、それならば漢字でもよい。杉島一郎・賀集寛（1997）の調査でも／カタチ／という語の主観的表記頻度³⁴は【形】が圧倒的に高く、イメージの鮮明性も漢字表記が最も高い数値を示している。杉島・賀集（1997）の調査時 1995 年において、カタカナ表記【カタチ】の主観的表記頻度は非常に低いものであった。以降、現在までの間にこの状況が変化したかどうかは不明であるが、第 3 章の調査対象であるテレビ番組のテロップでは【形】が 10 件出現し、【カタチ】は 0 件であった。この現状を考えると、現在でも一般的には【形】が優勢であろうと推測される。

それでも例 24～28 を含む全 8 件の CM があえてカタカナを選択する背景にはコンテキストに基づく広告主体の意図があり、人に優しい企業・団体でありサービス・商品であることをアピールし、親しみを持ってもらうなどの効果が狙われているのであろう。棚橋（2005）は「商店の名前や店先に書かれた文字」にアルファベットやカタカナが多用されるようになったのはそれらの「表出するイメージを『心地よい』と感じる人々が多くなったことの表れ」であり、「表現意識とも大きく結びついている」と分析する（p.212）。例えば例 27 は法律事務所の CM であり、CM 全体の文字情報は一見して漢字が多いのであるが、【カタチ】はわざわざカタカナ表記されている。同じ法律事務所の CM であっても、親しみや心地よさよりも信頼性を打ち出したい時には漢字を選択する可能性は高く、企業や団体個々の、その時点での意図に基づくストラテジーを反映した表記となっている。

なお、これらのカタカナ表記【カタチ】は、漢字表記【形】の場合との意味の違いが要因となって出現していると解釈することも可能である。事実、表 4 で例 21、22 【形】が具体的な「物」の形を意味しているのに対し、【カタチ】はより抽象的な事象を指す例が多い。／カタチ／に限らず、ある語が漢字で書かれると具体的な事物を指し、カタカナで書かれると具体的な事物を指さない場合があることは、先

³⁴ 浮田潤・皆川直凡・杉島一郎・賀集寛（1991）は、語がどの表記形態で書かれることが多いのかという観点から、語の漢字・ひらがな・カタカナ各表記に対する主観的表記頻度の基礎的資料を作成した。主観的表記頻度とは、語をその表記で「よく目にする」と主観的に評定した人数の割合を示したものであり、主観的表記頻度が単語の認知や記憶に影響することが確かめられている。さらに杉島・賀集（1997）は、表記形態による単語のイメージのしやすさ（イメージの鮮明性）の調査を行った。これにより、人々が語をどの表記で「よく見る」と感じているかがわかる。

行研究でも指摘がある³⁵。しかし、例 25 はカタカナで書かれているが具体的な事物を指している。また、確かに表 4 の例のうち例 25 以外の【カタチ】は具体的な事物を指すものではない。しかしながら、具体的な事物を指さない／カタチ／が常にカタカナ表記されるわけではない。本章で調査対象とした CM の中には例がなかったが、例えば表記主体が社会的規範を重視せざるを得ないようなコンテキストにおいては、具体的な事物を指さない／カタチ／であっても【形】と漢字で表記される可能性は高い。本論文で調査したテレビ番組のテロップでは、次のような例も見られた。社会的規範意識が優位に働くと想定される報道番組においてである。

法治国家である以上

もっと違う形がありうるのではないか

(2012.11.6 「ニュースウオッチ 9」)

このような例が実際に出現していることを考えれば、表 4 の法律事務所の CM (例 27) における具体的な事物を指さない／カタチ／は、【形】で出現しても良さそうである。しかし、実際はカタカナで出現している。ここでも、「意味の違い」という言語的な要因の背景にある非言語的な要因として、語用論的な要素という視点を加える必要があることがわかる。

1 件、娯楽・興行系でひらがな表記が見られたが (例 23)、これは CM の最後に企業のロゴの上部に表示されるものである。【かたち】のひらがな表記が一般的でない現状に鑑み、他との差別化を図るために選択された可能性が高い。例 23 はパチンコ台メーカーの CM であり、何よりも斬新さ、他にはない目新しい製品であることをアピールし、顧客を取り込む必要があるからである。ひらがなを選択したことで前後の文字列に埋没し、一つの語として識別しにくくなっているが、それよりもカタカナの【カタチ】を CM で見慣れた視聴者に視覚的違和感を与え、「何かが違いそうだ」という感覚をいだかせる効果を優先していると推測される。

漢字の【形】を採用している例 21 に関しては、CM のジャンルと共にターゲットも考慮して選択された表記であろう。ターゲットはコミュニケーションの相手であり、コンテキストの一部である。村田和代 (2004) によれば、「比較的高い年齢層

³⁵ 土屋 (1977)、堀尾香代子・則松智子 (2005) など。

をターゲットと」した CM では「視聴者とある程度の距離を保つようなフォーマルなことばづかいが好まれる」(p.29)。例 21 のターゲットは高齢者である。フォーマルな、つまり標準的な表記を用いて適度な距離を保つことが顧客の獲得には重要であり、例えばここでカタカナ表記の【カタチ】を使用することは、馴れ馴れしく軽薄な印象を生んで顧客離れにつながる可能性さえある。標準的な表記を選択することもまた、表記主体のストラテジーの一環であることを示す例である。【形】を使用していた CM 3 件のうち、もう 1 件は例 21 と同じコンテキストの CM であった。そして、残りの 1 件(例 22)は事務連絡的なコンテキストの CM であり、情報の伝達に重きが置かれている。そのため特に文字種の選択によって趣向を凝らす意図なく、単に標準的な表記を用いたものと解釈できる。

4-4-2-2. 同じ語の表記の違い /ケイタイ/ を例に

次に、CM 放映時点の社会状況というコンテキストの違いが表記主体の意識に影響を与え、同じ語の表記に反映した例として /ケイタイ/ を取り上げる。ジャンル別の出現数は、表 2 のとおりである。

◇/ケイタイ/

出現数：【携帯】7件、【けいたい】0件、【ケータイ】18件³⁶ 計 25件

2011年3月11日の東日本大震災の直後は、CMがACジャパンのもの一色になった。そして徐々に社会的に必要とされている情報、すなわち災害用伝言板などのCMが流れるようになった。表5の例29、30、37がそれに当たり、3社のうち2社が漢字表記【携帯(電話)】を使用していた(例29、30)。これは、大震災直後という社会状況が表記主体の意識に影響を与え、社会的規範意識の現れとして漢字表記が選択されたと解釈することが可能であろう。日本全体が深刻な空気に包まれた社会状況、コンテキストにおけるこうしたCMは、企業にとっては自社の社会的な存在意義、社会貢献の側面をアピールする機会でもあった。複合語である「携帯電話」の前部要素だけを【ケータイ】とカタカナ表記すると、アクセサリ的な要素を含んだ概念、そして単なる電話を超えて、パソコンと同等の機能を備えた通信機器の意味まで含んだ語となる。広告主体の企業としては、アクセサリ的な要素を

³⁶ 【ケータイ】3件を含む。

含み、おしゃれでカジュアルなイメージをカタカナによって付与された【ケータイ】をこのCMにおいて使用することは、はばかれたのであろう。カタカナを使わず漢字表記にすることで、社会や顧客に向けて「時と場をわかまえている」信頼できる企業であることを表明する社会的規範意識の現れと解釈できる。例29で【携帯】を使用しているNTTグループが、大震災から1年8か月後のCM(例43)では【ケータイ】を使用している事実からもそれが示唆される。もちろん、災害用伝言板(例29)と料金プラン(例43)というサービスの違いも表記の違いに深く関連しているのであろう。しかし、災害用伝言板のCMであっても、例37のようにカタカナ表記を選ぶこともまた可能だったのである。

【表5】／ケータイ／(表記ごとに放映日順)

	表記	CM文字情報	企業・団体名	商品・サービス等	ジャンル	放映日
29	携帯	携帯電話での 安否確認は	NTTグループ	災害用伝言サービス	20 通信・サービス系	2011/3/19
30	携帯	他社携帯電話、PCからも確認できます。	au	災害用伝言サービス	20 通信・サービス系	2011/3/22
31	携帯	携帯電話を見せるだけ	SoftBank	キャンペーン告知	20 通信・サービス系	2011/3/9
32	携帯	携帯電話からも通話料無料・24時間受付中	スピードラーニング	英会話教材	18 マスコミ・教育系(教育)	2012/11/8
33	ケータイ	SHIBUYA109系 <u>ケータイ</u>	FUJITSU	携帯電話機	1 電子・精密系	2011/1/28
34	ケータイ	<u>ケータイ</u> ・PCで SUUMO	RECRUIT	住宅情報	21 住宅・建設系	2011/1/28
35	ケータイ	<u>ケータイ</u> でOK!!	東京電力	引っ越し時の手続き	23 企業・公共・他	2011/3/6
36	ケータイ	<u>ケータイ</u> から お申し込みできます。	三菱東京UFJ銀行	カードローン	22 金融系	2011/3/6
37	ケータイ	他社 <u>ケータイ</u> 、パソコンからも確認できます。	SoftBank	災害用伝言サービス	20 通信・サービス系	2011/3/19
38	ケータイ	パソコンや <u>ケータイ</u> で申し込み	ブランドディア	ブランド品買い取り	19 流通・販売系	2012/10/27
39	ケータイ	<u>ケータイ</u> でカードのお申込み	新生銀行	カードローン	22 金融系	2012/10/28
40	ケータイ	<u>ケータイ</u> ゲーム!	YAMADA	ケータイゲーム	16 娯楽・興行系	2012/11/4
41	ケータイ	すべての <u>ケータイ</u> へ	WILLCOM	料金プラン	20 通信・サービス系	2012/11/4
42	ケータイ	<u>ケータイ</u> 、スマホで独占先行配信中	dwango.jp	音楽ダウンロード	16 娯楽・興行系	2012/11/7
43	ケータイ	スマホも、iモード <u>ケータイ</u> も、キッズ <u>ケータイ</u> も、タブレットも	NTTグループ	docomo料金プラン	20 通信・サービス系	2012/11/7
44	ケータイ	パソコンでも <u>ケータイ</u> でも	KUMON	学習塾	18 マスコミ・教育系(教育)	2012/11/8

カタカナ表記の【ケータイ】は例33~44を含め18件見られたが、CMの放映日を確認すると、うち16件は大震災前あるいは大震災から1年半以上経過した2012年10~11月に放映されたものであった。すなわち、社会的規範よりも表記主体の戦略を優先することが許される社会状況であったと言えよう。以上のこと

から、／ケイタイ／の表記についても、社会状況というコンテキストが表記主体の意識に影響を与え、文字種の選択と連動しているとの解釈が可能である。

例外として、例 31 と 37 の Softbank は／ケイタイ／の表記の選択の面で同業他社の NTT、au とは異なる振る舞いを見せている。災害用伝言板の告知に【ケータイ】を使用する一方、大震災前のキャンペーン告知では【携帯（電話）】が使用されている。このような表記の選択は、同業他社との差別化を図る広告主体の意識の現れとも解釈できる。ここでは、同じコンテキストのもとであっても表記主体によって選択する表記は異なるという、選択要因の個別性も見て取れる。もともと、例 29～32 は【携帯】に【電話】が後接していることが、【携帯】が漢字で表記された理由ではないかと考えることも可能ではある。しかし、ここで注目したいのは、そもそも【電話】という語を使わずに【ケータイ】としてもよいところ、そうならないという事実である。

なお、例 32 の【携帯（電話）】は震災の 1 年 8 か月後に現れているが、CM のジャンルが「マスコミ・教育系（教育）」であり、4-4-1 で述べたように漢字を使用することで信頼性を打ち出したり、社会的規範意識を示したりする意図があるためと解釈できる。一方で、同じ「マスコミ・教育系（教育）」であってもカタカナ表記【ケータイ】も見られ（例 44）、4-4-1 で漢字の比率が高かった「金融系」でもカタカナ表記が使用されている（例 36、39）。【ケータイ】が出現するジャンルは多様であり、また／ケイタイ／という語自体の使用頻度が高いジャンルと低いジャンルとがあるため、その表記の違いを CM のジャンルの違いという観点から説明することは困難である。ここでは、社会状況が表記主体の意識に影響を与え、表記に反映している可能性を指摘するにとどめる。

以上、4-4-2 では CM における語の表記の違いを見てきた。CM の文字情報における文字種は、CM のジャンルや CM 放映時の社会状況といったコンテキストと、それに応じた広告主体、すなわち表記主体の意識が要因の一つとなって選択されているという一面を持つことが確認できる。

4-5. 本章のまとめ

本章では、CMにおける文字情報を資料として、文字種選択要因の一つとして語用論的な要素が働いていることを検証した。CMのジャンルおよび社会状況といったコンテキストの違いが、文字種を選択する際の表記主体の意識に影響を与え、それが文字種という形式の違いとなって現れる。第3・4章を通して見たように、「コンテキスト」と表記主体の「意識」と文字種という「形式」は連動しているのである。

第3章と第4章の調査結果に現れているように、文字種選択要因は語ごとに、また同じ語であっても用例ごとに、個別的である。そして、複数の要因が同時に働くという複合的・重層的な面を持つ。

<用例出典(一部)>

ジャンルごとに、CMのスポンサー名／商品名または商品のカテゴリーの順に示す。企業名の(株)等は省略する。企業・団体名は用例収集時点のものであり、CMに表示されていたものであるため正式名称とは異なる場合がある。スポンサー名は順不同。

1. 電子・精密系：Canon／IXY 31S、CASIO／EXILIM、CASIO／PriviA、DENSO／ハイブリッド用インバータ、FUJIFILM／医療画像ネットワーク技術、hp／intel CORE、NEC／エコ PC、Panasonic／LUMIX ほか
2. 携帯電話：FUJITSU／F-04C、NEC／認証技術・急速充電器 ほか
3. AV 機器系：TOSHIBA／REGZA、FUJITSU／FMV ほか
4. 家庭電器系：TIGER／炊きたて土鍋釜・黒、BRAUN／髭剃り ほか
5. IT 関連：FUJITSU／ICT、三菱電機／Total Security Solution ほか
6. 自動車系：Audi／A4、BRIDGESTONE／TAIYA CAFE、DAIHATSU／Cocoa、DUNLOP／エナセーブ、HONDA／FREED Spike・FIT SHUTTLE HYBRID、NISSAN／JUKE、SUBARU／IMPREZA、TOYOTA／New MarkX ほか
7. 食品系：AJINOMOTO／調理用加工食品、AKAGI／アイスクリーム、HottoMotto／弁当、House／ジュレぽん酢、KAGOME／ラブレ、NISSIN 日清食品／カップヌードル、キューピー／キューピーライト、日清／つけ麺、ヤマザキ／パン類 ほか
8. 菓子系：Asahi／MINTIA、LOTTE／Ghana チョコ、コイケヤ／ポテトチップス、ノーベル製薬／サワーズグミ SOURS、ヤマザキ／洋菓子 ほか

9. ドリンク系 : Asahi/WONDA×AKB48、Coca-Cola/Coca-Cola zero、
 GEORGIA/GEORGIA VINTAGE、KAGOME/シルキーソイ、KIRIN/FIRE、
 KIRIN/生茶、NESCAFE/エクセラ、POKKA/aromax、SUNTORY/BOSS
 Half&Half、SUNTORY/天然水、UCC/ブラック・無糖 ほか
10. アルコール系 : Asahi /Super Dry、Asahi/一番麦、CHOYA/うめほのり、
 KIRIN/淡麗、KIRIN/辛口麦、KIRIN/のどごし生、SAPPORO/OFF、
 SUNTORY/角、SUNTORY 金麦、月桂冠/清酒月桂冠、三和酒類/日田 全麴、
 高橋酒造/しろ、宝酒造/タカラ焼酎ハイボール、白鶴/まる ほか
11. 医薬・健康系 : Kao/カテキン、Kracie/歯みがきガム、LION/BUFFERIN、
 ROHTO/ロート アルガード、sato/ストナリニ S、アース製薬/モンダミン、
 エーザイ/チョコラ BB、エスエス製薬/イブクイック、太田胃散/太田胃散<
 分包>、大塚製薬/オロナミン C ドリンク/小林製薬/アンメルツ、第一三共へ
 ルスケア/AG MOIST、大正製薬/リポビタミンファイン、タケダ/アリナミン、
 ハウス食品/ウコンの力、ロート製薬/Z! ほか
12. 化粧品系 : CHANEL/ルブラン クリーム、Dior/口紅、Kanebo/COFFRET
 D'OR、Kao SOFINA /Whitening、SHISEIDO/MAQuillage、SK-II/ピテ
 ラ、サントリー/エファージュ、ドモホルンリンクル/ドモホルンリンクル無料
 お試しセット、富士フィルム/スキンケア、新日本製薬/RAffINE ほか
13. 生活雑貨系 : Kao/ハミング、LION/泡のチカラ、LION/キレイキレイ、
 Nippon Kodo/青雲、アース製薬/ピレパラアース、エリエール/ティシュー
 ほか
14. 生活雑貨系 (身体用) : ASIENCE・h&s・Kao・PANTENE・ユニリーバ/へ
 アケア、OXY/ロート薬用 C 洗顔 AC、Unilever/DOVE、リステリン/薬用
 リステリン、hoyu rexy/ヘアカラー、LION/Ban ほか
15. 衣料系 : UNIQLO/新チノ、AOYAMA/フレッシュャーズ応援フェア、AIIA
 Corporation/LOUNIE、RENOWN・LOWRYS FARM/企業広告、Wacoal/
 LALAN、AOKI/3D スーツ、ABC MART/靴 ほか
16. 娯楽・興行系 : BOAT RACE/ボートレース、DeAGOSTINI/デジイチ・甲冑、
 FUJI/パチンコ台、KEIRIN/競輪、LOT6、任天堂/NINTENDO 3DS、

- TOKYO DiSNEY RESORT／イベント案内、映画「SP」、ダイナムグループ・マルハン／パチンコ店 ほか
17. マスコミ・教育系マスコミ：東京新聞／新聞、番組宣伝／イロモネア・イッテQ・フィギュアスケート ほか
18. マスコミ・教育系教育：Z-KAI・ユーキャン／通信講座、家庭教師のトライ／家庭教師派遣、英会話イーオン・栄光ゼミナール・東京モード学園・東進ハイスクール・明光義塾・ヤマハ音楽教室・代々木ゼミナール／学校案内 ほか
19. 流通・販売系：AEON・SEIYU LIVIN／イベント等告知、SEVEN&iHOLDINGS イトー・ヨーカドー／BODY COOLER、YAMADA／オープン告知、ガリバー・コジマ・ジャパネットたかた・バイク王・ヨドバシカメラ／サービス案内 ほか
20. 通信・サービス系：au／Android au、au by KDDI／REGZA Phone IS04、au／災害用伝言板、BS 日テレ／BS nippon TELEVISION 10th ANNIV、EMOBILE・Fusion・J:COM・KDDI Android au・NAVITIME／サービス案内、NTTグループ／災害用伝言ダイヤル、NTT 東日本・SECOM・SoftBank・スカパー！・タウンページ・復興支援ポータルサイト／サービス・商品案内 ほか
21. 住宅・建設系：NTT ファシリティーズ／高機能ビルマネジメント、RECRUIT／スーモ、SEKISUI HOUSE／シャームゾン、YKK／内窓、積水ハウス／SEKISUI HOUSE、日立ビルシステム／ビルケア、ミウラ／ボイラー、大和ハウスグループ・高松建設・東京インテリア・ミサワホーム・三井不動産レジデンシャル・三菱地所グループ／企業案内 ほか
22. 金融系：Aflac／保険商品ウェイズ、JA バンク／年金受取、NISSAY／トータルパートナー、SHiNKiN 信用金庫／サービス案内、SMBC 日興証券／合併告知、VISA／自動車保険、アクサ・全労済・ソニー生命・損保ジャパン・日本郵政グループ・明治安田生命／保険商品、野村証券／「相談できる人」、三井住友フィナンシャルグループ／金融商品、三菱東京 UFJ 銀行／バンクイック ほか
23. 企業・公共・他：AC ジャパン／SMAP・トータス松本・オシム・UNHCR ほかによる事業案内、ENEOS、JR、JT、PARAMOUNT BED、TEPCO 東京電力、TKC 全国会、サカイ引越センター、東急グループ、日本郵政グループ、認知症あんないダイヤル、法律事務所 MIRAIO、リーブ 21 ほか

第5章 Eメールにおける非外来語のカタカナ表記

5-1. はじめに

第3章および第4章では、非外来語のカタカナ表記がなされる背景を語用論的な要素という観点から探った。そして、コンテキスト（コミュニケーションが成立する場面・状況）およびそれと連動した表記主体の意識が、非外来語のカタカナ表記が出現する要因の一つとして作用しているとの結論を得た。

本章では、語用論的な要素の中でも特に表記主体個人の意識に焦点を絞る。Eメールに現れた非外来語のカタカナ表記を調査対象として、他の文字種で出現した例と比較しながら、カタカナ表記が出現する背景を探る。

以下ではまず、Eメールにおけるコミュニケーションと文字種に関わる先行研究を概観し、本章で参照する理論に関して述べる。続いて、具体的な調査対象と方法、結果を提示する。調査対象としたEメールで見られた非外来語のカタカナ表記の事例は、巻末の語彙表にて示す。

5-2. 関連する先行研究

これまで見てきたとおり、文字種選択の背後に働く要因には、さまざまなものが想定される。中でも、とりわけ個人対個人のコミュニケーションの場においてはコンテキストに応じた表記主体の意識が介入し、文字種を選択するにあたっての大きな要因になると考えられる。しかしながら、先行研究においては、個人対個人のコミュニケーションの場における文字種の使い分けには着目していない。また、表記主体が「なぜ規範を重視したのか」「なぜそのような表現効果を狙ったのか」といった語用論的な要素、つまり第3・4章で見た「意識」や「意識・場面と文字種の関係」まで考察の対象とし、語用論の観点から論じた研究はない。

文字言語によるコミュニケーションに関しては、インターネット、Eメール、携帯メールの普及に伴い、これらの電子媒体によるコミュニケーションに焦点を当てた研究がなされている。雑誌『日本語学』でも「特集 ケータイ・メール」（20巻10号、2001年）をはじめ、「特集 間違いメールとメールマナー」（28巻1号、2009年）などの特集が組まれてきた。語用論を援用した三宅和子（2003ほか）、李^イ錦淑（2010）の研究もある。また、蔡^{チェ}胤柱（2005）は、「待遇コミュニケーション」の

観点からEメールにおける「断り」を論じている。しかしながら、メール上の言語形式のうち、文字種の選択（使い分け）に着目した研究はなされていない。

待遇コミュニケーションに関わる研究領域においては、語用論、とりわけポライトネス理論を援用した研究成果が多数存在する。例えば文字言語によるコミュニケーションを扱った研究としては、先述の蔡胤柱（2005）、李錦淑（2010）のほか、吉川香緒子（2007）などがある。これらの論文で使用されている例文には、非外来語のカタカナ表記も見られる。しかし、論の焦点はカタカナ表記ではない。

急がせてゴメンね （李 2010、p.117）

でもちょっとクドイでしょうか。 （吉川 2007、p.76）

非外来語のカタカナ表記も含む非標準的な表記は、文字種という「形式」の選択によって生じるものである。そしてすでに述べたように、蒲谷宏（2006）においては、待遇コミュニケーションにおける場面・意識・内容・形式の「連動」という捉え方の重要性が論じられている。しかしながら待遇コミュニケーションに関わる研究領域においては、場面と表記主体の意識が、形式の一つである文字種と連動する点に着目した研究はなされていない。

その他、日本語非母語話者に対する日本語教育の分野においては、携帯メールの使い方全般を指南した笠井淳子・篠崎佳子・二瓶知子（2008）がひらがな、カタカナ、漢字の使い分けにも言及している。使い分けの基準としてそれぞれの文字種から受ける印象が挙げられており、「なんでもひらがなやカタカナにする」ことを戒め、「仕事の相手や先生、あまり親しくない人にメールを送る場合は気をつけ」るようにとの助言がなされている（pp.108-109）。しかしここには、場面に応じて文字種が選択され、そこには第3・4章で述べたような表記主体の意識が連動して関わっているという語用論的な視点は含まれていない。

本章では、個人対個人のコミュニケーションの場としてのEメールの実例を題材に、語用論の枠組みにおいて分析を行う。そして、場面に応じた表記主体の意識が、文字種を選択するにあたっての要因となっているか否かを検証する。

5-3. 理論的枠組み

本章では、ポライトネス理論とディスコース・ポライトネス理論を理論的枠組みとする。以下に、ポライトネス理論と本章に関わる主要な概念に関して述べる。特に、5-3-1-3 に示すフェイスへの侵害度を測定するための公式は、言語活動における事象を式(モデル)として示し得る例としても本論文においては重要な意味を持つ。

5-3-1. ポライトネス理論

5-3-1-1. ポライトネス

ブラウン&レビンソン (Brown and Levinson、以下 B&L) によって導入されたポライトネス理論は、語用論において重要で影響力の大きいものである。語用論における「ポライトネス」は、「人間関係を円滑にするための言語ストラテジー」(宇佐美まゆみ 2010、p.21) という意味で用いられる術語である。他人との関わりに欠かすことのできない対人的配慮全てを含み、礼儀正しさや丁寧さだけでなく、親密さや仲間意識まで含んだ概念である。

語用論における「ポライトネス」を考える際に重要なのは、親密さや仲間意識まで含んでいるため、例えば単に敬語を使えばよいというものではなく、「タメ口」がかえってポライトになる場合もあるという点である。宇佐美 (2002a) の表現を借りれば、ポライトネスは、「対人コミュニケーション」における「言葉遣いというツールそのものの丁寧度」を扱うのではなく、その相手とのコミュニケーションが「心地よいかどうか」という、「言葉遣いというツール」の「使用効果」を問題とするのである (pp.100-101)。

5-3-1-2. フェイス(face)

「フェイス」は B&L のポライトネス理論において鍵となる概念であり、「公共の場において、自らについて望む自己イメージ」であると説明される³⁷。

社会のメンバーは「フェイスの傷つきやすさを互いに認識し、互いのフェイスに配慮し、維持しようと協力している」という大前提に立っている。そして、社会的存在である人間ならば誰でも「フェイスを守りたい」という普遍的な基本的欲求を

³⁷ 以下、5-3-1-2 および 5-3-1-3 における記述は堀素子ほか (2006) pp.ii-viii からの要約である。

持っており、日常の社会生活において、人間は一般的に、フェイスが当然尊重され保たれるものと期待して振る舞う。ただし、この「フェイスを守りたい」という欲求は自分だけで満たすことはできず、他者からの支持が必要である。そこで、人は社会のルール、場の状況、同席者の反応などを考慮して、自分に最もプラスになると思う行動を選ぶ。

5-3-1-3. フェイス侵害行為 (Face-threatening act-FTA)

「フェイスを守りたい」という欲求を脅かす行為は、フェイス侵害行為 (FTA) と呼ばれる。現実問題として、社会生活においては避けられないものである。(例えば、依頼する、申し出る、勧誘するなど全て FTA であるとされる。)

B&L は、フェイスへの侵害度を測定する方法として次の公式を提案している。

$$W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x$$

すなわち、話し手 (S) と聞き手 (H) の社会的・心的距離／横の距離 (D) と、聞き手が話し手に対して持つ力／縦の距離 (P) と、その会話が行われる文化におけるある行為 (x) が聞き手にかける相対的な負荷の度合い (R) の総計が大きいほど、行為 x の聞き手に対するフェイス侵害度は大きくなるのである。

フェイスは、自分が他人を巻き込んで (他者の手をわずらわせて) 事を達成しなければならない時、危機にさらされるといえる。そこで、話し手は自分の言い方が FTA と受け取られそうな場合、その潜在的 가능성을小さくしようとする。

5-3-1-4. ネガティブ・フェイスとポジティブ・フェイス

フェイスには、ネガティブ・フェイスとポジティブ・フェイスの二つの面があるとされる。

「ネガティブ・フェイス」は、じゃまされたくない／自分のテリトリーを守りたい／敬意を払ってほしいなど、他者にむやみに立ち入れたくないという、他人に対して「ある程度距離を置きたい」欲求である。要するに「かまわないでほしい」欲求であると言える。したがって、「ネガティブ・フェイスを尊重する」とは、互いに距離を保ってむやみに近づかないことを意味する。

そこで、相手のネガティブ・フェイスに配慮して、フェイスをおびやかす言語行為を緩和することを「ネガティブ・ポライトネス」と言い、その具体的な方策を「ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー」と言う。

もう一方の「ポジティブ・フェイス」は、他者に近づきたい／理解されたい／好かれたい／ほめてほしいなど、他人に対して「近づいて仲良くなりたい」欲求である。要するに「かまってほしい」欲求であると言える。したがって、「ポジティブ・フェイスを尊重する」とは、「良く思われたい」という人間の普遍的な気持ちを認め、相手のその期待・願望に添うよう行動し、距離を縮めることを意味する。

そこで、相手のポジティブ・フェイスに配慮して、フェイスをおびやかす言語行為を緩和することを「ポジティブ・ポライトネス」と言い、その具体的な方策を「ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー」と言う。ポライトネスを具現化するストラテジーとして、B&Lはネガティブ・ポライトネス・ストラテジー10か条と、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー15か条を提示している。³⁸

フェイスを守ることが人間の基本的な欲求であることから、このB&Lのポライトネス理論は人種・文化を超えた普遍性を持った理論であるとされ、ポライトネス研究のベースとなってきた。さまざまな批判はありながらも、「最も包括的で影響力が大きいものと評価され」（宇佐美 2002a、p.101）ている。

本章ではこのポライトネス理論の枠組みにおいて、「コンテクスト（場面）」と「意識」の観点から「非標準的な表記」（カタカナ表記に限定しない）がなされる要因を考察する。「コンテクスト（場面）」は「人間関係」+「場」³⁹（蒲谷 2006、p.2）に「目的」を加えたものとする。また、「意識」としては特に「ポライトネスの2側面」に注目する。「ポライトネスの2側面」とは、第3章で述べた「社会的規範」と「個人のストラテジー」（三牧陽子 2002）である。三牧（2002）のほか、井出祥子（2006）、宇佐美まゆみ（2002a）もポライトネスの2側面に注目すべきであるという同様の

³⁸ 5-3-1-4における以上の記述は、早稲田大学にて2009年度後期に開講していた「言語学特論2」（鈴木利彦先生）の講義内容と、その講義でテキストとして使用されたYule（1996）を筆者が訳して要約したものとをまとめたものである。

³⁹ 「場」は、蒲谷（2006）において〈「コミュニケーション主体」が認識している、「自分」の置かれている「時間的位置・文脈」、「空間的位置・状況」〉とされている（p.3）。

立場から論を展開しており、井出（2006）は「わきまえ」と「働きかけ」という術語を用いている。本論文では引き続き三牧（2002）にならい「社会的規範」と「個人のストラテジー」の術語を用いるが、本章においては、「社会的規範」に対応する語として「わきまえ」を、「個人のストラテジー」に対応する語として「働きかけ」も随時用いる。

5-3-2. ディスコース・ポライトネス理論

日本においては、B&Lのポライトネス理論では「話者個人のストラテジーとしての言語使用」の側面ばかりが強調され、「社会的規範」が「話者個人のストラテジーとしての言語使用」に与える影響がほとんど考慮されていないとする批判があり⁴⁰、ポライトネス研究は独自の展開を見せてきた。日本におけるポライトネス研究で注目すべき概念に、宇佐美（2002a・2002b・2010など）による「ディスコース・ポライトネス理論」がある。これは、コンテキストや談話レベルの現象を「ポライトネス効果にかかわる重要な要素の一つとして積極的に捉える」（宇佐美 2002a, p.103）というものである。

ディスコース・ポライトネス理論は、談話レベルの言語行動および談話の諸要素に「基本状態」があることを想定し、「ポライトネス効果」はその「基本状態」を基にして相対的に生まれてくるものであると捉える（宇佐美 2002a）。談話レベルすなわち場面との関連で捉える点、基本状態を基にしてポライトネス効果を捉える点において、ディスコース・ポライトネス理論は文字種の選択要因を考察する際に有益である。

本章ではディスコース・ポライトネス理論における「基本状態」「有標行動」「無標行動」などの概念にならい、以下のように術語とその意味を設定する。

「基本状態」 特定の場面・状況ごとに暗黙のうちに共有されている、守られていて当たり前、失礼でない文章全体の典型的な状態

「基本表記」 基本状態の文章において使われる表記

（＝特定の場面で暗黙のうちに使用が想定・期待されている表記）

⁴⁰ 三牧陽子（2002）による。それが先に述べた三牧、井出祥子、宇佐美まゆみの「ポライトネスの2側面に注目すべきである」という立場からの論につながっている。

「有標表記」 基本表記から逸脱したもの

「無標表記」 基本表記によるもの

5-4. 調査の対象および方法

本章で調査対象とするのは、ビジネス・シーン（定義は後述）におけるEメール（以下、単に「メール」と言う場合がある）の実例である。具体的な調査対象と方法は、以下のとおりである。

5-4-1. 調査対象

東京都内の一般企業における、業務連絡に使用されたメール。筆者の勤務先のパソコンに保存されていた14,583通（2011年4月26日時点）のうち、送信日が2004年4月1日から2011年4月25日のもの⁴¹。メールは筆者の所属部署（所属人数は8人前後。組織変更等で随時上下）および関連部署内で送受信されたものが中心であるが、全社一斉送信など、メールの特性を利用した業務連絡も含まれる。また、親しい同僚との間におけるやり取りも含む。

5-4-2. 調査方法

非外来語にカタカナが用いられている用例を目視で抽出した。次に、同一人物が送信したメールにおいて、同じ語でありながら基本表記が用いられている例、つまり漢字やひらがなで表記されている例を検索機能を利用して抽出し、比較を行った。

抽出した用例は、前後の文字列と共にExcelに入力し、メール送信日、宛先（同僚、上司、部下、社外などの分類項目）、メールの内容（業務連絡、業務外などの分類項目）を記録した。本章で分析の対象とするのは、文字種の使い分けが見られ、ある程度の用例数が得られた語である。

⁴¹ 当該企業の業種は製造業である。筆者は2002年10月から2011年4月まで在籍した。調査対象としたメールは、研究目的で主に統計的に利用し、用例は業務内容に関係のない部分を最小限例示することで使用許可を得た。職場におけるメールであっても、個人的な内容のやり取りも行われる。それらに関しては、送信者本人の許可が得られたものを提示する。

5-5. 調査結果

本節では、まず「同一人物が使用する文字種の傾向」および「ビジネス・シーンにおけるコミュニケーションとメール」に関して確認した後、緩衝表現 /ヨロシク /と /スミマセン /、および名字における有標表記を扱う。

5-5-1. 同一人物が使用する文字種の傾向に関して

本章で調査対象としたメールを観察したところ、おおむね「同一人物は同一の語を同一の表記で書く」という恒常性が認められた。【有難う】を用いる人はたいてい【有難う】と書き、【ありがとう】を用いる人はたいてい【ありがとう】と書く。【宜しく】と【よろしく】も同様である。

一方で、このような使い分けには無頓着な送信者も存在し、それらの送信者が用いる表記においては、ひらがな・漢字間のゆれが観察される。それでも、このような緩衝表現は一日に何度もくり返し使用するためパソコンの辞書の学習機能が働き、個々人の好みもあり、大体において各人が使用する表記は決まっていると言える。

5-5-2. ビジネス・シーンにおけるコミュニケーションとメールに関して

ビジネス・シーンにおけるコミュニケーションでは、いかに人間関係を保ちつつ、自分の意図した結果を創出するかに重点が置かれる。「社会的規範」と「個人のストラテジー」を調整しながら言語行動を行う必要がある場面としては、典型的なものである。コミュニケーションの目的は、いわゆる「ハウレンソウ」－「報告、連絡、相談」に加えて、指示、交渉、謝罪、説明、依頼、約束、警告、苦情、賞賛、お礼、招待、挨拶など多様である。近年は、これらをメールによって行うことが非常に増えた。

本章で調査対象としたメールにおいては、文体は上下関係等に関わりなく通常デスマス体が用いられ、ダ体は相手との関係、伝達内容などによって、ごくまれに出現する程度である。文字の書体には若干のバリエーションがあるが、2～3種類程度である。文字の色も、通常使用されるのは黒・濃紺など2～3色である。ただし、他人が書いたメールを「引用して返信」する場合は、自分が書き加えた部分をあえて目立つ色にする場合もある。概してビジネス・シーンで使用するメールの表情は無個性かつ無機質であり、肉筆のような上手・下手もなければ、丁寧さその他のニ

ュアンスが文字から伝わることもない。また、メールに限らず文字言語に共通の性質であるが、手書きあるいは入力すると同時に自分の目で客観的に表記結果を見ることができ、ふさわしくないと感じれば、より適切な表記を求めて修正することが可能である。

そのような状況下で、組織の構成員はポライトネスの2側面である「社会的規範」「個人のストラテジー」の調整を行いながらメールによるコミュニケーションを行っている。調整の方法には、音声言語と同様、文体による方法のほか、緩衝表現などの語の選択による方法がある。文字言語ならではの表記記号の面では、句読点を複数打ったり、長音符号を多用したり、「～」「・・・」「！」などの記号を使用したりする。本章では、こうしたビジネス・シーンのメールにおける「社会的規範」「個人のストラテジー」の調整のあり方が、文字種に現れている例に焦点を当てるものである。なお、「ビジネス・シーン」の定義に関しては、いわゆるビジネス活動以外の活動（職場における人間関係を良好に保つための営みなど）もビジネスの一環と見なし、本章における「ビジネス・シーン」に含む。

5-5-3. /ヨロシク/ と / スミマセン / の表記における使い分けの状況

本項では、送信者 A、B、C、D のメールにおける /ヨロシク/ と / スミマセン / の表記の使い分け状況を概観する。A、B、C、D は全て女性であり、筆者は含まれていない。

以下、見出し部分の「送信者 A」などに続く丸かっこ内の情報は、送信者の身分（「スタッフ」は役職なし、「管理職」は役職者）と送信者の基本表記である。ここでは、各個人がビジネスの場面において通常使用する表記を、各個人の基本表記と見なす。

◇送信者 A（スタッフ・個人の基本表記：【よろしく】）

（例1） あとでお借りできますか？ 申し訳ありませんがヨロシクお願いします
（前後の文は略）

	【宜しく】	【よろしく】	【ヨロシク】	／ヨロシク／合計
使用件数	0	57	1	58

送信者 A は、／ヨロシク／が使用されたメール 58 件中、【よろしく】を 57 件、【ヨロシク】を例 1 の文脈で 1 件使用していた。つまり、送信者 A にとっては【よろしく】が無標表記、【ヨロシク】が有標表記であると言える。

◇送信者 B（スタッフ・個人の基本表記：【宜しく】）

	【宜しく】	【よろしく】	【ヨロシク】	／ヨロシク／合計
使用件数	34	8	0	42

送信者 B は、／ヨロシク／が使用されたメール 42 件中、【宜しく】を 34 件、【よろしく】を 8 件使用していた。送信者 B は【下さる様】【御願い】など基本表記として漢字を使用する傾向が認められる。送信者 B にとっては【宜しく】が無標表記、【よろしく】が有標表記であると言えるであろう。

◇送信者 C（管理職・個人の基本表記：【すみません】）

（例 2）ご本人の入籍明けにお渡ししたかったのですが業務に追われ現在に至っております。スママセン。
（前後の文は略）

	【すみません】	【スママセン】	／スママセン／合計
使用件数	31	1	32

送信者 C は、／スママセン／が使用されたメール 32 件中、【すみません】を 31 件、【スママセン】を例 2 の文脈で 1 件使用していた。送信者 C が使用した 31 件の【すみません】には【すみませ～ん】【すみません。。】各 1 件を含む。送信者 C にとっては【すみません】が無標表記、【スママセン】が有標表記である。

◇送信者 D（スタッフ・個人の基本表記：【すみません】【スママセン】）

	【すみません】	【スママセン】	／スママセン／合計
使用件数	5	24	29

送信者 D は、／すみません／が使用されたメール 29 件中、【すみません】 5 件、【すみません】 24 件という使用状況であった。【すみません】 5 件中 3 件には【すみません。。。】のように句点が 3～4 個付加されている。また、【すみません】 24 件中 2 件に句点が 3 個、1 件に中黒が 3 個付いて各々【すみません。。。】【すみません…】となっている。

使用件数から考えると、送信者 D にとっての無標表記は【すみません】であると言えそうであるが、場面も考慮する必要がある。今回の調査対象メール全体 (14,583 通) からは合計 260 件の／すみません／が抽出されたが、うち、送信者 D 以外が使用した【すみません】は 6 件のみであり、一般的にビジネス・シーンのメールにおいては【すみません】が無標表記であると想定して差し支えないと考えられるからである。送信者 D がどのような場面のメールで【すみません】を使用したのかを、別途検討する必要がある。したがって、ここでは一旦、送信者 D の基本表記として【すみません】【すみません】両者を立てておく。

先に述べたとおり、ビジネス・シーンにおけるメールの送信者はいずれも、業務遂行のために最適と思われる表現を選択してメールを作成している。そして、送信者 A の例 1 の文、送信者 C の例 2 の文を含むメールにおいて、有標表記は各々下線部分だけであった。つまり、それ以外の用件を述べる部分は全て無標表記で一貫しており、上記の箇所においてのみ、自分自身の基本表記とは異なる有標表記を選択しているのである。第 3・4 章で先行研究を参照しながら述べてきたとおり、非外来語にカタカナ表記を使用することによって、強調したり口調を再現したり、ニュアンスを付加したりすることが可能である。しかし、非外来語にカタカナ表記を用いることには、不誠実であるというマイナス印象を与える危険性も同時に伴う⁴²。それでも基本表記を逸脱してあえて有標表記を選択する背景には、そのシフトを起こさせる何らかの要因があるはずである。

また、送信者 B の場合は漢字とひらがな間での使い分けであるが、基本表記の【宜しく】が無標表記であり、これが B にとっての有標表記である【よろしく】になる背景には、やはり何らかの要因が考えられる。

⁴² 第 3 章 注 25 参照

井出(2006)は、「あまりはっきりとした意味情報はないが、生活の潤滑油として必要なきまり文句」として「『よろしくお願ひします』『すみません』『がんばって』など」を挙げ、これらは「意味がその場のコンテキストの諸要素の中でその瞬間に生成されるという性質のもの」ではないかと述べる(pp.200-201)。上記送信者 A~D の事例は、そうした決まり文句の上に有標表記が現れていることに注目すべきであろう。

次項では、送信者 A、B、C、D が各人にとっての有標表記を選択した要因を、場面とそれに応じた意識との関わりから考察する。有標表記が現れたメールが「どのような場面において」、つまりどのような場で、誰に、どのような目的や内容で送信されたのかを確認し、同じ語が無標表記、つまり基本表記で現れているメールとの比較を行う。

5-5-4. /ヨロシク/ と /スミマセン/ の表記における使い分けの要因

まず、有標表記が現れたメールの送信先（人間関係）と目的や内容を、送信者ごとに確認する。

◇送信者 A

送信者 A は、/ヨロシク オネガイ/ から始まる緩衝表現を用いる際は【よろしくお願ひ】を基本表記としている。後接するのは【します】【致します】【申し上げます】である。/ヨロシク オネガイ/ から始まる 58 件中、基本表記を逸脱しているのは【ヨロシクお願ひします】【よろしくおねがいします】各 1 件である。基本表記【よろしくお願ひ】は、送信先（人間関係）と内容に関わりなく安定して使用される。

【ヨロシクお願ひします】が使用された際の場面を確認すると、「送信者 A がグループに新しく異動してきた直後」であり、メールの宛先は新しい同僚、目的は依頼、具体的な内容は「一度借りたノートを再度借りたい」というものであった。そして、【よろしくおねがいします】が使用されたメールも同じ同僚宛で、内容はプライベートな事情で休暇を取ることに關するものであった。

◇送信者 B

送信者 B は、基本表記が【宜しく】である中、【よろしく】を 8 件使用している。場面を確認すると、【宜しく】【よろしく】共に全て業務関連のメールであった。【宜しく】34 件中 16 件が社外および他部署にあてて送信されているのに対し、【よろしく】は 8 件全てグループ内に向けて送信されている。8 件の【よろしく】のうち 2 件は、業務関連ではあるが、少々くだけた内容のメールにおいて使用されている。本来の業務からは少し外れた、「歓送迎会について」などのメールにおいてである。

◇送信者 C

送信者 C は、謝罪の意を表明する際に以下の表現を使用する。

- ・【ごめんなさい】類（【ごめんなさい】および【ごめんなさいです】）
- ・【失礼】類（【失礼しました】および【失礼いたしました】）
- ・【申し訳】類
（【申し訳ありません】【申し訳ございません】【申し訳ないのですが】など）
- ・【すみません】類（【すみません】【すみませ〜ん】【スママセン】など）

【申し訳】類および【すみません】類は、依頼・指示に先行する緩衝表現として用いられることも多いが、本論文ではこれらも謝罪と見なす⁴³。送信者 C が送信したメール 3,017 件中、これら「謝罪の意を表す言葉」を含むものは 114 件である。

送信者 C による「謝罪の意を表す言葉を含むメール」の送信先は、次のとおりである。

- ・【ごめんなさい】類 8 件
送信先：全て社内で同等か下の位にある受信者宛（他部署宛なし）
- ・【失礼】類 9 件
送信先：全て社内で同等か下の位にある受信者宛（うち他部署宛 3 件）
- ・【申し訳】類 65 件

⁴³ 本論文の調査対象となったメールにおいて、緩衝表現としての【申し訳】類、【すみません】類、および【恐れ入りますが】は、いずれも依頼・指示によって受信者に負担が発生するのを前もって謝っておく目的のもと使用されていた。したがって、本論文では広義の謝罪と見なす。また、一般的に【すみません】類は感謝の意味で用いられる場合もあるが、本論文の調査対象においては、感謝の意味で用いられた【すみません】類はなかった。

送信先：社外宛 9 件、社内で同等か下の位にある受信者宛 56 件

（うち他部署宛 9 件、グループ内一斉送信 9 件。複数にあてたメールも含む）

・【すみません】類 32 件

送信先：社外宛 1 件、社内で同等か下の位にある受信者宛 31 件

（うち他部署宛 3 件）

以上を、社外および他部署宛に送信しているかどうかの観点から、内容と送信件数も考慮して、送信者 C にとって丁寧度が高いと考えられる順に並べると次のようになるであろう。

【申し訳】類 > 【失礼】類 > 【ごめんなさい】類 > 【すみません】類

そして、丁寧度が最も低い【すみません】類において【すみません】が 1 度だけ使われた際のメール（前掲例 2）の内容と送信先は次のとおりである。

内容：グループのメンバー B の結婚祝いを送信者 C が購入する約束になっていたが、業務に追われて実現できていないことを詫げる。

送信先：グループメンバー（部下）全員（受信者は A で、グループ内のメンバー B 以外全員に cc の設定で送信）

また、【すみませ～ん】が 1 度だけ使われたが、その際のメールの場面は、「グループのメンバー全員に、自分の都合により忘年会の日程変更を求める」というものであった。残りの【すみません】類 30 件の場面は、1 件が「グループメンバーの送別会の件」であり、それ以外の 29 件は全て業務関連の連絡事項である。

◇送信者 D

送信者 D が謝罪の意を表明する際に使用する表現は、【申し訳ありません】【失礼しました】【恐れ入りますが⁴⁴】【すみません】類【すみません】類である。【ごめんなさい】は使用されない。送信者 D が送信したメール 568 件中、これら謝罪の意を表す言葉を含むものは 64 件である。送信者 C の場合と同様に、送信先と内容、

⁴⁴ 注 43 参照。

送信件数を考慮して、これらの表現を送信者 D にとって丁寧度が高いと考えられる順に並べると次のようになる。なお、送信者 D の場合は【すみません】類の使用が多いため、送信者 C の時と異なり【すみません】類と【すみません】類とを別項目としている。

【恐れ入りますが】 > 【申し訳ありません】 > 【失礼しました】 >

【すみません】類 > 【すみません】類

丁寧度が最も低い【すみません】類と【すみません】類の使い分けに関して観察すると、内容は全てが業務に関係した連絡事項であった。しかし、送信先によって大まかな使い分けの傾向が見られた。【すみません】類は、送信者 D が業務を分担している同じ立場のスタッフ宛に送信されたものが、24 件中 20 件を占める。残りの 4 件も人間関係が同等の場合に使用され、一方、人間関係が同等の場合に【すみません】は使用されない。そして、【すみません】類 5 件のうち【。。】のつかない 2 件の【すみません】は、上司宛およびグループ全員への一斉送信メールにおいて使用されたものである。これらの事実から、送信者 D にとって、【すみません】は自分と同じ立場にある業務上の協力者にあてて何らかのニュアンスを付加した有標表記であると考えられ、D の基本表記はひらがなの【すみません】であると見なすのが妥当であろう。

なお、送信者 C・D の例からは、メールを取り巻く場面が文字種のみならず表現、つまり文体や語の選択の段階から影響を及ぼしていることがわかる。第 3 章で述べたように、「場面」「意識」「形式」に「内容」が連動していることによる。本論文では文字種を対象をしぼって考察を進めているが、場面の違いが表現の段階から影響を及ぼしていることには留意しておく必要があることをここであらためて指摘しておく。どのような表現、つまり語が選ばれるかという点も、文字種の選択要因を考える上では重要になってくるからである。

以上の送信者 A・B・C・D の具体例からは、意識的にせよ無意識的にせよ、本題と直接は関係のない緩衝表現において文字種を使い分けることで、文面から表出するニュアンスの微調整が行われていることがわかる。同時に、業務遂行のために必

要な本題の部分においては中立的な無標表記が一貫して選択されていたことから、情報の正確な伝達に主眼が置かれていることもわかる。社会的規範と個人のストラテジーのバランスを取りながら、わきまえつつ働きかけている送信者の姿が見て取れる。

そして、文字種を使い分けた調整が緩衝表現においてなされる背景には、メールの送信先(人間関係)とメールを取り巻く場、つまり場面が関わっているのである。上記の例を見る限り、／すみません／においては「ひらがな > カタカナ」、／ヨロシク／においては「漢字 > ひらがな > カタカナ」の順で丁寧度の高さが認識され、送信者は各々の基本表記を基準として、場面(人間関係+場)に応じて丁寧度の調整を行っている。

なお、送信者Bの【宜しく】と【よろしく】については、果たして送信者がそこまで考えて使い分けをしているのかどうか、疑問も生じる。「宜(ヨロ)しく」は常用漢字表にはない表外音訓であるとはいえ、漢字・ひらがなどちらで書くこともでき、【宜しく】を基本表記とする人にとって【よろしく】は単なる「ゆれ」の可能性もある。ひらがなの【よろしく】が、意図された有標表記とは必ずしも言い切れない。しかし今回は、送信者Bが【下さる様】【御願い】など安定して漢字を使用する傾向があることを勘案し、場面によって使い分けがなされているものと見なした。

このように、ビジネス・シーンにおけるメールには、場面、つまり人間関係と場の改まり度、目的、内容に応じた文字種の使い分けが見られる。

以下では、送信者A・C・Dが使用した【すみません】【ヨロシク】に限定して、これらの語に非標準的なカタカナ表記が使われている要因を、表記主体、つまりコミュニケーション主体の意識の面から考察する。

まず、土屋信一(1977)が「(片仮名表記は)硬苦しい文体よりも、軟かい文体のほうで使われるのだろう」(p.150)と述べているように、用件は過不足なく伝達した上で緩衝表現の部分にカタカナを使用することで、そのメールの「場」全体に「堅苦しくない柔らかさ」を付加しているものと推測できる。また、テレビのバラエティ番組で多用されるカタカナを使用することで、楽しげで親しみのある空間を作り出すこともできる。

これをポライトネスの観点から考えてみると、今回抽出されたカタカナ表記の【スママセン】はいずれも文字どおりの「謝罪」の場面で使用されていた。これは、謝罪しなければならない事態が先行したことを意味する。また、送信者 A による【ヨロシク】も、自分の不手際を一度謝罪した上で、再度依頼をする際に用いられている。この「謝罪しなければならない事態」を伝えることは、ビジネス・シーンにおいてはそのまま次の「相手の負担」、すなわち新たな依頼や、結論を保留にすることなどにつながる場合が多い。これは受け手にとって負荷の高い、受け手の領域を侵犯する度合いが大きい言語行為である。すなわち「フェイス」を侵害する行為(FTA)であり、「《依頼》の行為は(中略)相手のネガティブ・フェイスを侵害する。同様にして、《謝罪》という行為では自分のポジティブ・フェイスが侵害される」(滝浦真人 2008、p.29) のである。

そこで、それを軽減・補償するためのポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして、カタカナによる有標表記を用いたと考えられる。このストラテジーは、先に触れた B&L が提示するポジティブ・ポライトネス・ストラテジー15 か条には含まれていない。複数の文字種を使い分ける日本語使用者に特有のストラテジーであると言えよう。そして、送信者 A の場合は、【ヨロシク】を使用した「場」も大きな要因であろう。すなわち、A が新しい配属先に異動してすぐのことであり、受信者との距離を縮めたい意図があったものと推察される。

ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーは、「直接的表現と近接化的表現によって、相手との距離を縮め、相手とともに事柄に直接触れようとする、表現の共感性が特徴」(滝浦 2008、p.34) である。すなわち、緩衝表現でカタカナを使用することによって「堅苦しくない」「明るい」「親しい」空間を作り、相手との距離を縮め、同時に自分自身のポジティブ・フェイスをも守ることができるストラテジーとして、有標表記である非外来語のカタカナ表記が使用されているのであろう。これは、何が基本状態(基本表記)かという共通認識があって初めて、相対的に生まれてくるポライトネス効果である。

ただし、この非外来語のカタカナ表記を用いたストラテジーが、どのような相手に対しても使用されるわけではないことに注意しなければならない。例えば、社外の人に対しては使用されない。目上の人に対しても、使用されにくい。相手との距離・力関係が関わってくるのである。また、このストラテジーが使用される場にも

制限がある。目的や内容、つまり相手にかかる負担の度合いによっても使用されるか否かが左右される。これを、先に提示した B&L による FTA の深刻度を測定する公式に当てはめて解釈することが可能である。

$$W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x$$

話し手(S)と聞き手(H)の社会的距離(D)と、聞き手が話し手に及ぼす力の量(P)と、その行為(x)がその文化の中でどの程度負担と見なされるかを示す値(R_x)の総和が大きくなるほど、FTA の深刻度が大きくなる。⁴⁵

すなわち、ビジネス・シーンにおけるメールにおいては、D、P、R ともに小さい場合、つまり W_x=フェイス侵害度がごく小さい場合に限定して、非外来語のカタカナ表記という形式を用いたストラテジーが使用されると結論づけられる。場面と内容に応じたコミュニケーション主体の意識が要因として関わり、文字種という形式と連動しているのである。

5-5-5. 受信者・送信者の名字における表記の選択

本項では、相手や自分の名字をひらがな・カタカナで表記する例を取り上げる。日本人の名字の場合、まず例外なく漢字表記が基本表記で無標表記であり、ひらがな・カタカナはいずれも有標表記である。ここでは本論文の調査対象から実例を抽出し、名字に有標表記が使用される要因を考察する。

送信者 B と E による、有標表記が使用されたメールとその場面とを以下に示す。いずれも筆者あて送信されたものである。内容に業務関連事項が含まれていない部分に限り、本人の了解を得た上で掲載する。B、E の名字は 仮名^{かめい} であり、同じ拍数の別名に置き換えたものである。空行は削除した。

◇送信者 B (5-5-2~5-5-4 の B と同一人物)

送信先 (筆者) との人間関係は同等。

⁴⁵ ここに挙げた公式の説明は、ブラウン、ペネロピ・レヴィンソン、スティーヴン C. (2011、p.98) から要約・引用したものである。5-3-1-3 で示した説明は、堀ほか (2006) による。

(例 3)

増地さん、お疲れ様です。

もしご都合がつけば、今日お昼ご一緒しませんか？

わたなべ

(2005.8.5 昼食の誘い)

同日に送信された業務連絡メールはないが、11 日前 (7 月 25 日) に送信された業務連絡メールは【渡邊】で終わっている。

(例 4)

29 日ですね、了解です！わたなべ

(2005.11.25 昼食を一緒に取る日程調整のメール)

同日に送信された業務連絡メール 2 件は、【増地さん、】で始まり【渡邊】で終わっている。

(例 5)

マスジさん、明日は楽しみですね。ワタナベ

(2005.12.21 業務が立て込んでいる時期に、次の日の昼食を一緒に取る約束をした後のメール)

同日に送信された業務連絡メールはないが、6 日前 (12 月 15 日) の業務連絡メールは【増地さん】で始まり【渡邊】で終わっている。

このように名字を有標表記する例は、送信者 B に限らず見受けられる。B は先に 5-5-2 から 5-5-4 で例示した B と同一人物であるが、「基本表記が漢字」の語が多い表記主体である。また、業務連絡のメールに限定して見れば、相手・自分の名字ともに「記載しない」か、記載する場合は例外なく漢字で表記するというのが B の名字表記の基本形である。このことから、上記例 3・4・5 の文面では明らかに何らかのシフトが起き、漢字と仮名の使い分けがなされていると考えられる。

◇送信者 E (スタッフ)

(例 6)

筆者： (前の文は略)

まだランチタイムだったので遠慮しました・・・ ますじ

E： お気遣いありがとうございます。 やまがた

(2011.2.23 筆者が送信したメールに対する返信。筆者と E は同じグループに所属。E は昼食時間帯に席にいたが、昼休みなので筆者は業務の話をするのを控えた。その後のやり取りである。)

送信者 E と筆者との間のメールにおいて、名字のひらがな表記は上記の例で初めて使用された。筆者自身は、例 6 のメールにおいては場面 (人間関係は社会的に同等) と内容から考えるに、名字の漢字表記では距離を置きすぎた印象になると感じ、ひらがなを使用した。すると、送信者 E からも名字がひらがなで表記されて返信されてきたものである。

例 3～6 に限らず、送信者が自分の名字をひらがなやカタカナで表記する例は多数観察される。それらのメールの場面や内容を見ると、たいていは昼食の誘いや歓送迎会関連、メンバーの誕生祝に関する件など、本来の業務からは少し外れた内容となっている。そして人間関係はほとんどの場合同等か、目上から目下へのメールの場合である。

このような名字に現れる有標表記はポジティブ・ポライトネス・ストラテジーの一環であり、滝浦(2007)の言う「敬語や呼称のような対人的距離の表現装置」(p.32)と同じ機能を備えていると言える。共通認識としての基本状態が存在し、その基本状態を逸脱したことによってポライトネス効果が生じるのである。

これはまた、「こういう表記を使っていい相手なのだと、あなたを見ていますよ」という発信者、すなわちコミュニケーション主体の意識の表明でもある。「使っていい相手」とは、「互いの人間関係の距離から考えて適正である」という意味であるほか、「自分と同様の言語的感覚 (センス) を持っているか、言語ストラテジーを備え

ている相手である」ということも意味する。滝浦(2008)の表現を引用するならば、「何らかの点で逸脱があれば、相手は敏感にそこに込められた“含み”を感じ取る。さらに、そのようにして表され・伝達される距離感、相手との現実の人間関係に対するチューニングだけでなく、ありたいと話し手が思う関係へのシフトを促しもする」(p.4) のである。例えば例3の送信時から例5にかけては、送信相手である筆者の名字の表記が漢字の【増地】からカタカナの【マスジ】に変化している点が注目される。例3と5は同じく昼食に関するメールであるが、これら2件のメールの間には約4か月半の隔りがある。4か月半を経て、送信相手との人間関係の距離感に対する送信者Bの意識が変容した様子が、送信相手の名字に使用された文字種から読み取れるのである。

以上に加えて、送信者Bの例(例3～5)における有標表記は、送信者Bが「場をわきまえて」言語行動を行える人物であることをも表明する効果を發揮している。これは、業務に關係する内容かどうかという「メールの場」を考慮した上で、送信者や受信者の名字に場と連動した有標表記が用いられていることによって生じる効果である。

また、送信者Eの例(例6)では、相手が有標表記を使用してきたことに呼応して、自分自身も有標表記を使用している。言わば、相手の「働きかけ」に乗った形で、人間関係の距離感の調整を行っているのである。ポライトネス理論の枠組みに当てはめるなら、同じ有標表記を使用することで仲間意識を高め、業務上の協力者であることを示すポジティブ・ポライトネス・ストラテジーであると説明することができる。例6において、筆者の名字のひらがな表記に対して、例えば漢字表記で返信をしたならば、距離を置こうとしているように受け取られかねない。相手に呼応させたひらがな表記を選択することで同じ距離感を作り出すとともに、送信者Eの場合も送信者Bと同様に、自身が場面を選んだ上で有標表記の選択ができる人間であること、つまり「場をわきまえて」言語行動を行える人間であることをも表明することが可能になっているのである。

このようにして、「社会的規範」「個人のストラテジー」というポライトネスの2側面が調整されている。名字の表記に非標準的なひらがな・カタカナ表記が使用される背景にもまた、場面と内容に応じたコミュニケーション主体の意識が要因として関わり、文字種という形式と連動しているのである。

5-6. 本章のまとめ

本章では、ビジネス・シーンで使用されるEメールの実例を題材として取り上げ、文字種が選択され、使い分けられる要因の一つを語用論の枠組みにおいて考察してきた。

場面に応じたポライトネスの2側面の調整のありようが、Eメール上の文字種という形式に現れるというのが本章で提示する結論である。そこには確かに、「場面」「意識」「内容」「形式」が連動する様相を見て取ることができるのである。

本論文の目的である非外来語のカタカナ表記出現の背景という観点では、「ビジネス・シーンにおいては、フェイス侵害度がごく小さい場合に限定して、【ヨロシク】【スママセン】などの緩衝表現に表記主体のストラテジーとしてのカタカナ表記が出現する」という条件を一つ、提示することができる。

第3章から第5章までの検討を踏まえ、本論文は、現代日本語において非外来語にカタカナ表記が使用される時、その背景には「語用論的要素」とりわけ「場面」と「意識」が要因の一つとして働いていることを主張する。また、個々人が持っている「基本表記」も、カタカナをはじめ文字種が選択される要因として指摘しておきたい。

第6章 日用品のパッケージと交通広告における非外来語のカタカナ表記

6-1. はじめに

第3章から第5章では、コンテキストと表記主体の意識という観点から非外来語のカタカナ表記がなされる背景を探った。つまり「生産」「流通」「受容」の各過程のうち、「生産」の過程に注目した。本章では非外来語のカタカナ表記の実態を表記の「流通」という観点から示すとともに、それらが受け手の表記意識に与える影響について考察する。

本章における調査資料は、日用品や食品等の包装パッケージ（以下「パッケージ」と総称して略す場合がある）に記載された文字情報、および交通広告における文字情報である。第3章と第4章で扱ったテレビ番組とCMにおける文字情報も、「流通」しているという点ではパッケージや交通広告と同じであるが、パッケージや交通広告には情報伝達のための文字情報がより多く記載されている。したがって創作的な要素もテレビ番組やCMに比べると少なく、日常的な場面における表記の実態を「流通」という観点から観察するのに適した資料である。

以下ではまず、「流通」の過程に着目する意義を述べる。次いで、パッケージと交通広告、各々の文字資料について先行研究を踏まえながら述べた後、調査結果を示し、最後に考察を行う。

6-2. 「流通」の過程に着目する意義

すでに述べたとおり、文字種や非外来語のカタカナ表記の実態を記述し、ゆれの要因や非外来語のカタカナ表記が出現する要因を明らかにしようとした研究は多い。つまり、従来の研究は表記の「生産」に焦点を当てたものが中心である。一方、「流通」という側面に意識的に着目し、どのような表記がどのように流通し、どのように受け手の文字種の選択に影響を与えているのかについて考察されてはこなかった。

本章では、現代の文字生活における接触⁴⁶の実態を少しでも把握するべく、身近な文字資料のうち、日用品や食品等の包装パッケージに記載された文字情報および交通広告における文字情報に「流通」の側面から焦点を当てる。これらは身近な文

⁴⁶ 「接触」と「受容」の各段階の区別については、注7（第2章）を参照。

字資料の中でも特に一人ひとりの日常に密着しており、接触する頻度が高い。パッケージであれば、購入を決める際に見て吟味したり、使用する際に説明部分を読んだりする。交通広告も、日々の生活における移動の際に、意識的、無意識的にその文字を目にすることになる。

横山詔一（2014a・2014b）の「文字環境の循環モデル」が示すように、目にした表記がなじみにつながり表記の選択に影響を与える。したがって、「流通」の過程に着目し、身近な媒体でどのような表記が流通しているのかを知ることは、カタカナを含む文字種選択要因を考える上で欠かせない手続きなのである。そして、パッケージや交通広告に見られる表記は流通という観点で重要な役割を果たしているはずである。しかしながら文献資料と異なり、こうした文字情報は記録されて後世に残されていくことがほぼない。本論文はそれらを一部記述し、残す役目をも果たす。

第3・4・5章における焦点は、非外来語のカタカナ表記が「生産」される要因であった。本章ではまず「流通」という側面に焦点を当て、パッケージと交通広告に記載されて流通している非外来語のカタカナ表記の実態と特徴を記述する。次に、それらが出現する背景を探る一環として、「接触」がどのように「受容」へとつながるのか、パッケージと交通広告における非外来語のカタカナ表記が人々の表記意識に与える影響について考えていく。

6-3. パッケージにおける非外来語のカタカナ表記

6-3-1. 文字資料としてのパッケージ

パッケージに記載された文字情報は、現代を生きる人々にとって非常に身近な文字資料の一つである。身近な文字資料に着目することの意義は第2章において示したとおりであり、いわゆる文献資料ではない文字資料も「文字環境の循環モデル」においては重要な役割を果たしているのである。第2章においても引用したように、當山日出夫（2014）は「紙でもなく、デジタルでもない」「看板・道路標識・地名表示」「バス停の文字・駅の名称・商店の商品の看板・ポスターなど、一般には『文献』とあつかわれない文字」を総称して「景観文字」と呼ぶ。そして、日常に密着したこの種の文字こそ文字を考える上で重要な意味を持つと指摘している（pp.167-169）。

後に取り上げる交通広告はこの景観文字の一種であるが、加えて筆者は、本節で

調査対象とする日用品や食品等の包装パッケージ上の文字も、文字環境と文字生活を考える上では「流通」の観点で同様の価値を持つ文字資料であると考えられる。景観文字と比べると、購入者が自分で選んで手に入れる点で個別的であり公共性が低く、用が済めば通常は短期間で破棄されるため、より臨時的であるという相違点はある。しかし景観文字にしても、受け手はその文字が存在する空間を行動範囲とする人やたまたまそこに身を置いた人々に限られており、個別的・臨時的な面を持つ。自身が選んで入手するパッケージと、その空間に身を置けば自ずと目に入ってくる景観文字とは、接触までのルートこそ異なるが、人々の身近にあって日常生活に密着しているため接触頻度が高く、接触する人々も老若男女の別を超える点で共通している。すなわち、いずれも文字環境と文字種選択要因を考える上では欠かせない文字情報である。

接触頻度が文字情報の生産、ひいては文字種の選択につながるのであれば、現在の文字環境において人々がどのような文字情報にどのくらい接触しているのかを把握する必要がある。そしてそれが循環し、生産につながった結果としての文字生活（表記生活）の実態についてもまた同様である。文字生活については永野賢ほか（1966）から文字使用の実態に関する本格的な調査が始められ、永野ほか（1966）では文字種間の使い分けも扱っている。しかし、非外来語のカタカナ表記はほとんど取り上げられておらず、「サケ」が調査票の選択肢として提示されているのみである。また、接触頻度に関しては笹原宏之（1999）が文字生活における実態を浮き彫りにする調査を行った。そこでは商品や食品の包装パッケージ、その他の身近な文字資料も新聞・雑誌などの媒体と共に扱われており、「一定期間に目にした文字を報告させる」という方法と共に注目される。しかし調査の対象は漢字であり、非外来語のカタカナ表記は扱われていない。

本論文の目的である、現代におけるカタカナ使用の実態の把握、またその背景の探究のためには、文字環境の一部としての景観文字その他の身近な文字資料も重要な意味を持つ。しかしながら、文字種選択要因を扱う先行研究においては、こうした身近な文字資料に着目した論考は多くない。特に非外来語のカタカナ表記を取り上げた研究は少なく、先行研究の章でも挙げたとおり、看板における文字種使用の実態を調査した染谷裕子（2002）や新聞の折り込みチラシを扱った片田康明（2005）、電車の中吊り広告におけるカタカナ表記の実態を記述した^{ウイ}魏 聖銓（1999）等があ

のみである。現代において流通している文字情報からカタカナ表記の実態を把握するには程遠い状況である。

6-3-2. 調査の対象および方法（パッケージ）

具体的な調査対象と用例の収集方法は以下のとおりである。これらは、筆者自身が現代日本における一人の生活者として行動する中で得たデータである。調査対象に偏りがあるとの指摘は免れないが、存在し流通しているパッケージ全てにおける文字情報を網羅的に調査することは困難であるため、可能な範囲で日常の文字生活を反映した結果を得たいと考え、こうした調査方法を取った。なお、本論文の調査対象には、目指す用例が記載されているために購入した商品は含まれていない。

6-3-2-1. 調査対象

2010年12月～2015年8月に筆者が日常生活において入手した日用消耗品・医薬品・化粧品・小型電気製品・衣料品・文具等（以下、これらを総称して本論文では「日用品」と呼ぶ）、食品（以下「食品」）、飲料・酒類等（以下「飲料」）の包装パッケージ（以下「パッケージ」）⁴⁷。具体的な製造者・販売者名、品名を一部、「用例出典」として本章の末尾に示す。

6-3-2-2. 用例の収集と記録方法

パッケージ記載の文字情報から非外来語がカタカナ表記された例を抽出し、前後の文字列、製造または販売者名、商品名、収集日と共に Excel に入力した。

パッケージ上の調査範囲に関しては、キャッチコピー、説明書きの部分等の区別なく一律に扱った⁴⁸。ただし、正式な品名や製造・販売者名、成分等を表示した部

⁴⁷ 日常生活において購入する商品には購入者の属性によって一定の傾向があると思われるため、データ収集期間の筆者の属性を示す。「40代後半から50歳にかけての時期・夫婦2人世帯」である。

⁴⁸ パッケージの文字情報には、キャッチコピーなのか説明文なのか明確な区別が困難なものも多いためである。また、どの部分に注目するかについては個人差や必要性に応じた差があり、それは「接触」「受容」の実態に関わる側面である。本章ではまずは「流通している表記の実態を捉える」ことを主眼に、文字列の長短や文字の大きさによる区別はせずに収集した。文字列の長短や文字の大きさは人々の表記意識に影響を与える可能性があるが、本章ではその相互関連までは扱わない。

分は調査の対象外とした⁴⁹。同じパッケージを複数回入手した場合は1回のみ調査対象として扱った。

以上の手続きにより抽出された非外来語のカタカナ表記は707件であった。296件が日用品、370件が食品、41件が飲料のパッケージから収集された。

得られた用例に品詞、語種、漢字に関わる条件を付与した。「漢字に関わる条件」とは、その語に漢字表記があるかないか、漢字表記があるならば常用漢字か否か、という属性である。品詞情報と語種情報は『かたりぐさ』による。また、用例が出現している文字列の環境（以下「文字列環境」）を調査した。文字列環境については第8章で詳しく述べるが、本章における考察で必要な観点となるためここで提示する⁵⁰。文字列環境は、非外来語のカタカナ表記に前接する文字種と後接する文字種が何であるかを示すものである。文字列環境ごとに集計することにより、どの文字種に挟まれた環境で何件の非外来語のカタカナ表記が出現したかがわかる。

以下に、パッケージに出現し流通している非外来語のカタカナ表記の実態を複数の観点から示す。

6-3-3. 調査結果（パッケージ）

6-3-3-1. パッケージに出現する非外来語のカタカナ表記語の属性

ここでは、属性を見る。「品詞・語種・漢字に関わる条件」を統合して集計した結果を表1に、文字列環境によって集計した結果を表2に示す。なお、表1は出現

⁴⁹ 成分名にはカタカナ表記された語が多く含まれるが、一般に広く使用される語とは言い難く、語種の判定が難しいものも多い。また、この情報欄には固有名詞である会社名（非外来語）のカタカナ表記が多く含まれる。第3章でも述べたとおり、固有名詞に非標準的な表記が使用される事象については別に扱う。

⁵⁰ 調査の手順については第8章を参照。カタカナ表記で出現している非外来語の前と後ろに接している文字種あるいは空白（改行を含む）等に番号を付与し、種類ごとに集計する手法である。パッケージの文字情報においては、語の途中で改行がなされている用例が4件存在したが、今回はあくまで語を一単位とし、語の最初の文字に前接する文字種と、最後の文字に後接する文字種を集計対象とした。なお、書体・フォント・色を変えたり傍点等を併用したりすることで文字列への埋没を避けていると解釈可能な非外来語のカタカナ表記の例は本章の調査対象には出現しなかったが、文字のサイズを変えている例は若干含まれている。本章はどのような非外来語のカタカナ表記が流通しているかという文字種の実態に焦点を当てるのが目的であるため、それらの例も除外せず扱った。

数 10 以下の品詞を省いているため、合計は 707 件にならない。

表 1 に示したように、「和語／名詞（一般）／漢字あり」の語が 344 件（全体の 48.7%）であり、その内訳は常用漢字で書ける語が 197 件（同 27.9%）、常用漢字で書けない語が 147 件（同 20.8%）である。品詞・語種のみで見ると、「和語／名詞（一般）」の総数が 371 件であり、全体の 52.5%を占めている。品詞のみで見ると、「名詞（一般）」が 506 件（同 71.6%）、「副詞」が 123 件（同 17.4%）出現しており、本調査で収集したパッケージにおける非外来語のカタカナ表記語の 9 割近くは「名詞（一般）」と「副詞」が占めるという結果である。

【表 1】品詞・語種・漢字に関わる条件(パッケージ)

	和語			漢語		混種語	その他・不明	計			品詞別計 (全体における%)
	漢有	漢無	漢他	漢有	漢有	漢有	漢有	漢無	漢他		
名詞 (一般)	344(197)	24	3	51(31)	7(6)	77	402(234)	24	80	506 (71.6%)	
名詞 (形容動詞語幹)	9(9)			26(26)			35(35)	0	0	35 (5.0%)	
動詞	6(5)	8			1(1)		7(6)	8	0	15 (2.1%)	
副詞	6(3)	105		5(5)	7(0)		18(8)	105	0	123 (17.4%)	

※漢有:漢字あり、漢無:漢字表記が存在しない、漢他:その他・不明

※()の数字は「漢有」のうち常用漢字で書ける語の数。

※漢語と混種語の「漢無」「漢他」、その他・不明の「漢有」「漢無」欄は出現数0であったため省略した。

次に、非外来語のカタカナ表記が出現した文字列環境を確認する(表 2)。文字列環境は、前接 8 種類と後接 8 種類の組み合わせで、全部で 64 種類ある。非外来語のカタカナ表記に「前接する文字がなく、ひらがなが後接する」02 の環境で 23.1%、「前後をひらがなで挟まれた」22 の環境で 27.3%が出現しており、これら 2 種類の環境で半分を占める。さらに、前接・後接いずれかがひらがなの環境(02、12、20~27、32、62、72)で出現した非外来語のカタカナ表記を合わせると 568 件となり、全体の 80.3%にあたる。本論文で調査したパッケージにおける非外来語のカタカナ表記は、約 8 割がひらがなに接しているということになる。

【表2】 文字列環境(前接・後接文字種 組み合わせ)一覧 および 非外来語のカタカナ表記の出現状況(パッケージ)

0:文字なし 1:漢字 2:ひらがな 3:カタカナ 4:Alphabet 5:数字 6:記号 7:スペース

環境	前接	後接	件数	割合	環境	前接	後接	件数	割合	環境	前接	後接	件数	割合
00	なし	なし	11	1.6%	30	カタカナ	なし	2	0.3%	60	記号	なし	5	0.7%
01	なし	漢字	29	4.1%	31	カタカナ	漢字		0.0%	61	記号	漢字	17	2.4%
02	なし	ひらがな	163	23.1%	32	カタカナ	ひらがな	4	0.6%	62	記号	ひらがな	84	11.9%
03	なし	カタカナ	2	0.3%	33	カタカナ	カタカナ		0.0%	63	記号	カタカナ	1	0.1%
04	なし	Alphabet	1	0.1%	34	カタカナ	Alphabet		0.0%	64	記号	Alphabet		0.0%
05	なし	数字		0.0%	35	カタカナ	数字		0.0%	65	記号	数字		0.0%
06	なし	記号	19	2.7%	36	カタカナ	記号		0.0%	66	記号	記号	22	3.1%
07	なし	スペース	1	0.1%	37	カタカナ	スペース		0.0%	67	記号	スペース		0.0%
10	漢字	なし	3	0.4%	40	Alphabet	なし		0.0%	70	スペース	なし	2	0.3%
11	漢字	漢字	7	1.0%	41	Alphabet	漢字		0.0%	71	スペース	漢字	1	0.1%
12	漢字	ひらがな	25	3.5%	42	Alphabet	ひらがな		0.0%	72	スペース	ひらがな	2	0.3%
13	漢字	カタカナ	4	0.6%	43	Alphabet	カタカナ		0.0%	73	スペース	カタカナ		0.0%
14	漢字	Alphabet		0.0%	44	Alphabet	Alphabet		0.0%	74	スペース	Alphabet		0.0%
15	漢字	数字		0.0%	45	Alphabet	数字		0.0%	75	スペース	数字		0.0%
16	漢字	記号	9	1.3%	46	Alphabet	記号		0.0%	76	スペース	記号	2	0.3%
17	漢字	スペース	1	0.1%	47	Alphabet	スペース		0.0%	77	スペース	スペース		0.0%
20	ひらがな	なし	32	4.5%	50	数字	なし		0.0%	合計		707		
21	ひらがな	漢字	27	3.8%	51	数字	漢字		0.0%					
22	ひらがな	ひらがな	193	27.3%	52	数字	ひらがな		0.0%					
23	ひらがな	カタカナ	2	0.3%	53	数字	カタカナ		0.0%					
24	ひらがな	Alphabet	1	0.1%	54	数字	Alphabet		0.0%					
25	ひらがな	数字		0.0%	55	数字	数字		0.0%					
26	ひらがな	記号	34	4.8%	56	数字	記号		0.0%					
27	ひらがな	スペース	1	0.1%	57	数字	スペース		0.0%					

6-3-3-2. パッケージに出現する非外来語のカタカナ表記の実例

ここでは、先行研究の成果も参照しながら具体例をいくつかの観点から示す。まず、出現頻度が4以上の語を表3に示す。表内の記号の意味を再度掲げる。

×：表外字 ▽：表外音訓 =：常用漢字表付表にない熟字訓

※：2010年11月30日内閣告示「常用漢字表」で追加されたもの

語種欄のW：和語、K：漢語、H：混種語

【表3】出現頻度4以上の非外来語のカタカナ表記(パッケージ)

	漢字表記	頻度	語種	品詞	基本語彙	BCCWJ カタカナ 表記頻度 (順位)	BCCWJ カタカナ 表記率 (順位)	『分類語彙表一増補改訂版』 部門
コク	濃くまたは酷か	77	W? K?	名詞(一般)			15	自然物および自然現象
フタ	※蓋	40	W	名詞(一般)	◎			生産物および用具
ニオイ	※匂い/※臭い	27	W	名詞(一般)	◎			自然物および自然現象
ゴミ	×塵/×芥	25	W	名詞(一般)	◎	10		生産物および用具
ハサミ	×鋏/剪=刀	14	W	名詞(一般)	◎			生産物および用具
コツ	骨	12	K	名詞(一般)	○	14	10	人間活動—精神および行為
コシ	腰	11	W	名詞(一般)	◎			自然物および自然現象
キレイ	奇麗/×綺麗	11	K	名詞(形動)	◎	24		抽象的關係
ケガ	▽怪我	11	K	名詞(一般)	◎	61		自然物および自然現象
ハリ	張り	11	W	名詞(一般)				自然物および自然現象
ネギ	×葱	11	W	名詞(一般)	○	78		自然物および自然現象
チカラ	力	10	W	名詞(一般)	◎			抽象的關係
ピッタリ	-	10	W	副詞	○			抽象的關係
カビ	×黴	9	W	名詞(一般)	○	50	18	自然物および自然現象
カンタン	簡単	9	K	名詞(形動)	◎			抽象的關係
ザル	×笊	9	W	名詞(一般)				生産物および用具
フチ	縁	9	W	名詞(一般)	○			抽象的關係
スッキリ	-	8	W	副詞	○	89		抽象的關係
カラダ	体	7	W	名詞(一般)	◎			自然物および自然現象
サツと	×颯と	7	H	副詞				抽象的關係
キメ	木目/肌=理	7	W	名詞(一般)				抽象的關係
イヤ	嫌/×厭	7	W	名詞(形動)		9		人間活動—精神および行為
バリッ	-	7	W	副詞				抽象的關係
ムラ	×斑	6	W	名詞(一般)				抽象的關係
ホコリ	×埃	6	W	名詞(一般)	◎			自然物および自然現象
ハネ	跳ね/×撥ね	5	W	名詞(一般)				抽象的關係
ツヤ	※艶	5	W	名詞(一般)	○			自然物および自然現象
サラサラ	-	5	W	副詞				自然物および自然現象
センイ	繊維	5	K	名詞(一般)	○			生産物および用具
ノド	×喉/×咽	5	W	名詞(一般)	◎			自然物および自然現象
イカ	烏=賊	5	W	名詞(一般)	○	48		自然物および自然現象
タレ	垂れ	4	W	名詞(一般)				生産物および用具
ヒビ	×罅	4	W	名詞(一般)				自然物および自然現象
キズ	傷/×疵/×瑕	4	W	名詞(一般)	◎			抽象的關係
ヒミツ	秘密	4	K	名詞(一般)	○			抽象的關係
ヤケド	火=傷	4	W	名詞(一般)	○			自然物および自然現象
シミ	染み	4	W	名詞(一般)				自然物および自然現象
ツマミ	▽摘み/▽撮み	4	W	名詞(一般)				生産物および用具
ハナ	鼻	4	W	名詞(一般)	◎			自然物および自然現象
ムレ	蒸れ	4	W	名詞(一般)				抽象的關係
カタチ	形	4	W	名詞(一般)	◎			抽象的關係
キツネ色	×狐色	4	W	名詞(一般)				自然物および自然現象
頻度4以上 計		435		※品詞欄の「名詞(形動)」は「名詞(形容動詞語幹)」の略である。				

「基本語彙」は『日本語教育のための基本語彙調査』（国立国語研究所 1984）に掲載されている語かどうかを示す⁵¹。○は掲載されている 6,060 語、◎はその中で「より基本的な語」とされる 2,030 語に該当する。これらを以下本章では「基本語彙」と呼ぶ。「基本語彙」の右側「BCCWJ」から始まる二つの欄は、柏野和佳子・中村壮範（2013）による BCCWJ の調査結果「カタカナ表記頻度上位 100 語（表 2）」（p.286）および「カタカナ表記率上位 50 語（表 3）」（p.287）に含まれる語かどうかを示す。欄内の数字は、柏野・中村（2013）の表 2・表 3 における順位である。右端には『分類語彙表一増補改訂版』（国立国語研究所 2004）による意味分類（部門）を示した。

ここで頻度 77 と突出して多い【コク】について触れておく。『かたりぐさ』によると語種は「和,漢」である。『日本国語大辞典』第二版「こく」の項には「(形容詞「こい(濃)」の連用形の名詞化したものか。また、「こく(酷)(1)」からとも)」⁵²とあるため、本章では語種・漢字とも「その他・不明」に分類している。

表 3 にあるとおり、出現頻度が 4 以上の語の合計出現数は 435 であり、全体の 61.5% を占めている。また、語種と品詞の種類が限定されている。一方で、表 4 は出現頻度 3 以下の語を一部示したものであるが、出現頻度が低くなるにつれ、語種と品詞の種類は多彩になる。

次に、出現頻度 4 以上の語を商品の種類との関係から見たものが表 5～7 である。日用品・食品・飲料のどのパッケージに出現しているかによって語を分類した。表 5 の語は 3 種類全てのパッケージに出現していた。

意味との関係では、出現頻度 4 以上の語を『分類語彙表一増補改訂版』に基づいて分類すると表 8 のとおりである。右端に則松智子・堀尾香代子(2006) が若者雑誌における非外来語のカタカナ表記を意味分類した結果 (p.22) を合わせて示す。

⁵¹ 日本語教育用の語彙を参照した理由は、一人の自立した生活者が必要とする語を選定していると考えられ、日常生活に即した流通の実態を捉えるという本章の趣旨に合致するためである。

⁵² 「こく(酷)(1)」の語釈は「(1)穀物が熟すること」である。(『日本国語大辞典』第二版「酷」の項)

【表4】出現頻度3以下の非外来語のカタカナ表記

頻度	語種/品詞	
3	W/名詞(一般)	カサつき、クシ(×櫛/×梳)、クセ(癖/▽曲)、ズレ、ヨレ(×縺れ/×擦れ) など計8語
	W/副詞	グツグツ、サクサク、サクッ、サラッ、ツルツル、ピタッ
	W/助詞	ネ(終助詞)
	K/名詞(一般)	チンゲン菜(▽青▽梗菜)
	K/名詞(形動)	ラク(楽)
2	W/名詞(一般)	アク(灰=汁)、ケバ(毛羽/×毳)、コゲ(焦げ)、シワ(×皺/×皺)、ツバキ(×椿)、ヌカ(×糠)、ハミガキ(歯磨き)、ヒモ(×紐)、ヘタ(×蒂)、ヘラ(×篋) など計17語
	W/名詞(代名詞)	コチラ
	W/サ変接続	ゴワゴワ
	W/動詞	バラつく、ベタつく
	W/副詞	カサカサ、サラリ、シャキシヤキ、タツプリ、パツ、バッチリ、ベタベタ、ピカピカ、ピリリ
	K/名詞(一般)	ビン(瓶/×壺/×罎)
	K/名詞(形動)	ガンコ(頑固)
	K/サ変接続	カンパイ(乾杯)
	K/副詞	ラクラク(楽楽/楽々)
H/名詞(一般)	インゲン豆(隠元豆)、キモチ(気持ち)	
1	W/名詞(一般)	アカ(×垢)、アゴ(×顎/×頤)、アタリ(当たり)、アブ(×虻)、アミ(網)、イチゴ(×莓)、オス(雄/×牡)、カギ(※鍵)、カケ(欠け)、カゼ(風邪)、ココロエ(心得)、ゴワつき、サクラ(桜)、ササミ(笹身)、サムライ(侍/▽士)、ザラつき、スキ間(透き間/▽空き間/×隙間)、スズメ(×雀)、スミ(隅/▽角)、スリ傷(擦(り)傷)、ソバカス(蕎=麦×滓/×雀斑)、ダシ(出し/出汁)、タテ(縦)、ダマ、チリ(×塵)、ツッパリ(突っ張り)、ツメ(※爪)、トゲ(▽刺/×棘)、ナルト(鳴▽門)、ヌメリ(▽滑り)、ハグキ(歯茎)、パネ(発=条/撥=条/弾=機)、フケ(雲=脂/頭=垢)、ミゾ(溝)、ミミ(耳)、ムダ(無駄/▽徒)、ヨゴレ(汚れ)、ワザ(業/枝)、ワレモノ(割れ物) など計45語
	W/名詞(代名詞)	コレ(×此れ)、ヤツ(▽奴)
	W/サ変接続	シャリシャリ
	W/名詞(形動)	アツアツ(熱々)、ツヤやか(艶やか)
	W/形容詞	イイ(▽善い/▽良い/▽好い)、ココチイイ(心地▽善い/▽良い/▽好い)
	W/動詞	イける(行ける)、キズつける(傷つける)、ゴワつく、ニオウ(臭う)、ハガス(剥がす)、ベトつく、ワれる(割れる)
	W/副詞	イライラ(×苛苛)、カチッ、カラッ、カリッ、キチン、ギョッ、ギラギラ、グーン、ゴクゴク、ゴロツ、サクシャキ、シロシロ、ジメジメ、ジュークジューク、ジュワッ、スーッ、スカッ、スグ(▽直ぐ)、スッ、スッポリ、ツルッ、ツン、ドッ、ドロドロ、ネットリ、パチパチ、バラバラ、バラバラ、ピリッ、ピリピリ、ピン、プチプチ、ブリブリ、モチモチ、ヨロシク(▽宜しく)、ワクワク
	W/感動詞	オハヨウ(お早う)
	K/名詞(一般)	ケータイ(携帯)、ゴマ(×胡麻)、テッパン(鉄板)、ニンジン(人参)、ニンニク(大=蒜/×葫)、ハクリ(×剥離)、皮フ(皮膚)、フキン(布×巾)、フン(×糞) など計11語
	K/名詞(形動)	トク(得)
	K/サ変接続	シゲキ(刺激/刺×戟)、ナツク(納得)
	K/副詞	イッキ(一気)、ゼッタイ(絶対)
	H/名詞(一般)	イチオシ(一押し)、白インゲン(白隠元)、ナツミカン(夏▽蜜×柑)
	その他	カドメン(角麵)、ココカラ(×此▽処から)

【表5】3種類のパッケージに出現

	頻度	パッケージの種類		
		日用品	食品	飲料
コク	77	3	57	17
フタ	40	10	29	1
チカラ	10	4	3	3
ピッタリ	10	8	1	1
カラダ	7	2	3	2

【表6】2種類のパッケージに出現

	頻度	パッケージの種類				頻度	パッケージの種類		
		日用品	食品	飲料			日用品	食品	飲料
ゴミ	25	6	19		ホコリ	6	5	1	
ハサミ	14	6	8		ハネ	5	1	4	
コツ	12	1	11		ツヤ	5	4	1	
コシ	11	2	9		タレ	4	1	3	
カビ	9	2	7		ヒビ	4	1	3	
カンタン	9	5	4		キズ	4	3	1	
スッキリ	8	5	3		ヒミツ	4	3	1	
サッと	7	2	5		キレイ	11	10	1	
キメ	7	6	1		ケガ	11		4	
ムラ	6	3	3		ヤケド	4		3	

【表7】1種類のパッケージに出現 ※（ ）内は頻度

- 日用品のみ：ニオイ(27)、ハリ(11)、イヤ(7)、サラサラ(5)、センイ(5)、ノド(5)、シミ(4)、ツマミ(4)、ハナ(4)、ムレ(4)
- 食品のみ：ネギ(11)、ザル(9)、フチ(9)、パリッ(7)、イカ(5)、カタチ(4)、キツネ色(4)

【表8】『分類語彙表—増補改訂版』に基づく分類(出現頻度4以上の語)

部門\類	体の類	用の類	相の類	計	則松・堀尾(2006)	
抽象的關係	9		6	15	35.7%	37.6%
人間活動の主体				0	0.0%	9.4%
人間活動—精神および行為	1		1	2	4.8%	33.4%
生産物および用具	7			7	16.7%	9.8%
自然物および自然現象	17		1	18	42.9%	8.7%
計	34	0	8	42		

6-3-4. パッケージの非外来語のカタカナ表記の特徴

ここまで、パッケージに記載されて流通する非外来語のカタカナ表記をいくつかの観点から見てきた。以上の結果を踏まえ、本章が調査対象としたパッケージにおける非外来語のカタカナ表記の特徴として、次の4点が指摘できる。

- (1) 似た属性を持つ語において、くり返し出現する。
- (2) BCCWJに収録された媒体と比較すると、異なる語に出現している。
- (3) 若者雑誌と比較すると、異なる意味分野に属する語に出現している。
- (4) 基本語彙に含まれない一定数の語においても高頻度で出現する。

(1)に関して、「似た属性」として「漢字で書きにくい事情にある「名詞（一般）」

と「副詞」が表3から抽出できる。ここでは漢字表記がない場合も「書きにくい事情」に含む。表3で出現頻度9以上の「名詞（一般）」の漢字表記を確認すると、全てが何らかの「漢字で書きにくい事情」にある。「コク」は出自も漢字表記もはっきりせず、「フタ」「ニオイ」は2010年11月まで表外字・表外音訓であった。また、「ゴミ」「ハサミ」「ケガ」「ネギ」「カビ」「ザル」は現在も表外字または表外音訓である。「コツ（骨）」「コシ（腰）」は漢字表記とパッケージ上で使われている意味との結びつきが弱い。「ハリ（張り）」は、漢字を使用すると一つの語の表記に漢字とひらがなが混在することになり、一語としての識別性に劣る。「フチ」の漢字表記【縁】は／フチ／のほかに／エン／／ユカリ／と複数の読みがあるうえ、／エン／の読みが広く浸透している。「チカラ」も漢字の【力】はカタカナの【カ】と誤読される可能性を考えれば漢字で書きにくい語である。表1で示したように「名詞（一般）」は本章の調査対象全体の71.6%を占めているが、表3・4の実例からは、そのほとんどが今述べたような漢字で書きにくい事情にあることがわかる。「副詞」は、オノマトペなど漢字のない語が大多数を占める。このように、「漢字で書きにくい事情」にある「名詞（一般）」と「副詞」において非外来語のカタカナ表記がくり返し出現するという傾向が認められる。

(2)に関して見る。表3に挙げた語は、柏野・中村（2013）の調査結果による非外来語の「カタカナ表記頻度上位100語」「カタカナ表記率上位50語」とほとんど一致していない。つまり、BCCWJ収録の新聞や雑誌、書籍、インターネット等の媒体においてカタカナ表記頻度や表記率が必ずしも高くない語が、パッケージにおいてはカタカナ表記されるということである。例えば「フタ」という語は、本章の調査対象において2013年9月以降には43件見られたが、文字種ごとの内訳は【フタ】32件、【ふた】9件、【蓋】2件である。特にパッケージにおいて高いカタカナ表記率を示す語の存在が示唆される。

(3)に関して、出現頻度4以上の語を意味により分類した表8を見ると＜自然物および自然現象＞の部門に属する語が42.9%を占め、＜生産物および用具＞の16.7%と合わせると59.6%になる。そして＜人間活動—精神および行為＞に属する語は4.8%にとどまる。他方、則松・堀尾（2006）の調査では＜人間活動—精神および行為＞に属する語が33.4%である一方、＜生産物および用具＞と＜自然物および自然現象＞は各々9.8%、8.7%であった。則松・堀尾（2006）の調査対象は常用漢字

のみであるため単純な比較はできないが、それでもパッケージと若者雑誌とでは、非外来語のカタカナ表記の出現傾向が語の意味の面で大きく異なる可能性が高い。

(4)に関しては、表3に示した42語のうち基本語彙に含まれているのは26語である。パッケージは日常的で身近な媒体であるにもかかわらず、基本語彙に含まれていない語が16語見られる点は注目される。ここではパッケージ特有の語彙の存在が示唆される。それらの語彙の特徴としては、(1)で述べた「漢字で書きにくい事情にある「名詞(一般)」と「副詞」」に加え、例えば「人体や物品の何らかの状態を示す」語などであると大まかには言えるであろうか。パッケージに特有の語彙を明らかにするには、文字種の違いを超えた語そのものの使用状況を調査しなければならない。本章は語彙の実態を明らかにする調査ではないため、パッケージ特有の語彙の存在が示唆されることを指摘するにとどめる。

6-4. 交通広告における非外来語のカタカナ表記

6-4-1. 文字資料としての交通広告

ここからは、今ひとつの身近な文字資料である交通広告について述べ、パッケージとの比較も行いながら調査結果を示す。

「交通広告」とは、「私たちの生活環境をとりまく、様々な交通機関や交通関連施設のスペースを利用したあらゆる広告媒体の総称」であり、「日常生活において『移動者』とコミュニケーションする生活に密着した媒体」であるとされる(協立広告株「交通広告の特徴」2017)。つまり、交通機関を利用している間に目にする広告全てである⁵³。車両内部の天井から吊られている「中づり」、網棚の上に掲出される「まど上」のポスターや「ドア横」のステッカーなど、その種類は多岐にわたる⁵⁴。本論文の調査対象にはこれら全てが含まれるため、以下本節で「交通広告」と言う時には、これらの総称として用いる。

こうした交通広告における文字情報は、本論文第3・4・5章で調査対象としたテレビ番組、CM、Eメール、そして本章で先に述べたパッケージの文字情報と同

⁵³ すなわち交通機関とその周辺の場における商業広告のことであり、「交通機関そのものに関する情報などが書かれている広告」という意味ではない。

⁵⁴ 交通広告における媒体の分類の仕方や名称はさまざまである。ここでは、関東交通広告協議会(2017)および協立広告株の分類と名称を参考にした。

様、BCCWJなどのコーパスに含まれていない。先行研究の章で挙げたように先行研究でもほとんど扱われておらず、電車の中吊り広告における実態を記述した魏（1999）があるにとどまるのは、すでに述べたとおりである⁵⁵。

しかしながら、交通広告に見られる文字情報は日常生活に密着したものであり、人々の文字生活や表記に対する意識の形成に大きな影響を与えている可能性があると考えられる。交通広告は先に述べた景観文字の一種であり、パッケージと同様、「流通」の観点で文字環境と文字生活を考える上では重要な文字資料であろう。そして、文字資料としての交通広告における文字情報もまた、記録しなければ後世に残されていくことがないものの一つである。たとえ大規模な調査ではなくとも、こうして記録し残しておくことには一定の意義が認められると考える。

なお、CMと交通広告は、主に商業目的である点や、使用される文字情報が文章ではなく短い文字列である点、絵や画像を伴うことなど共通点が多いが、文字情報の表示時間は大きく異なる。CMは短時間で消えるのに対し、交通広告はすぐに消えるわけではないため、受け手による文字情報の接触という観点では影響力が異なる。

6-4-2. 調査の対象および方法（交通広告）

調査対象は、筆者が日常生活において目にした交通広告⁵⁶である。交通広告に記載されている文字情報から、非外来語のカタカナ表記を前後の文字列、商品またはサービス名、広告のスポンサー名と共に書き取り、収集日と合わせてExcelに入力

⁵⁵ 魏（1999）が調査対象とした電車の中吊り広告は、本論文の調査対象である交通広告の一部である。本論文では、中吊り広告も含む交通広告全体を対象とする。

⁵⁶ 筆者自身が現代日本における1人の生活者として行動し、交通機関利用時に目にした用例である。例えば満員電車であったり両手が使えないなど、記録できない状況にある時以外はできる限り記録した。居住地は東京、交通機関は通勤・通学に利用した京浜急行線（本線）、都営浅草線、東京メトロ東西線が中心であるが、休日等に外出した際に収集した用例についてはその限りではない。パッケージ同様調査対象に偏りがあるとの指摘は免れないが、存在する交通機関全てにおける広告を網羅的に調査することは困難であるため、可能な範囲で日常の文字生活を反映した結果を得たいと考え、こうした調査方法を取った。なお、雑誌についての交通広告は本章の調査対象には含まない。その文字情報は雑誌の中の見出し等が中心であるため、交通広告ではなく雑誌という媒体の文字情報として扱うべきと考えてのことである。

した。そして、品詞、語種、漢字に関わる条件を付与した。品詞情報と語種情報は『かたりぐさ』による。全く同じ広告は一度のみ収集の対象とした。

調査期間は2010年12月～2016年11月、収集された非外来語のカタカナ表記の用例は713件であった。

6-4-3. 調査結果（交通広告）

6-4-3-1. 交通広告における非外来語のカタカナ表記語の属性

ここでは、属性から全体像を見る。「品詞、語種、漢字に関する条件」を統合して集計した結果が表9である。品詞欄の「その他」54件に含まれるのは、感動詞、助動詞、助詞、接頭辞、接尾辞、助数詞、連体詞等である。また、文字列環境によって集計した結果を表10に示す。

【表9】品詞・語種・漢字に関わる条件(交通広告)

品詞\語種	和語		漢語		混種語			その他・不明			計	品詞別計 (全体における%)
	漢有	漢無	漢有	漢有	漢有	漢無	漢他	漢有	漢無	漢他		
名詞 (一般)	250(198)	14	54(49)	7(7)		1	9	311(254)	15	9	335 (47.0%)	
名詞 (代名詞)	29(19)		4(4)					33(23)	0	0	33 (4.6%)	
名詞 (形容動詞語幹)	10(9)	6	73(73)	4(4)				87(86)	6	0	93 (13.0%)	
名詞 (サ変接続)		1	10(10)					10(10)	1	0	11 (1.5%)	
動詞	26(17)	4		2(2)				28(19)	4	0	32 (4.5%)	
形容詞	29(9)	5		1(1)				30(10)	5	0	35 (4.9%)	
副詞	14(7)	94	9(8)	3(1)				26(16)	94	0	120 (16.8%)	
その他	11(10)	21	18(16)	2(2)	1(1)		1	32(29)	21	1	54 (7.6%)	

※漢有:漢字あり、漢無:漢字表記が存在しない、漢他:その他・不明

※()の数字は「漢有」のうち常用漢字で書ける語の数。

※和語の「漢他」欄および漢語と混種語の「漢無」「漢他」欄は、出現数0であったため省略した。

表9に示したように、「和語／名詞（一般）／漢字あり」の語は250件（全体の35.1%）であり、その内訳は常用漢字で書ける語が198件（同27.8%）、常用漢字で書けない語が52件（同7.3%）である。品詞・語種のみで見ると、「和語／名詞（一般）」の総数が264件であり、全体の37.0%にあたる。品詞のみで見ると、「名詞（一般）」が335件（同47.0%）、「副詞」が120件（同16.8%）出現してい

る。

先に見たパッケージと比較すると、「副詞」は合計でほぼ同じ割合（パッケージ 17.4%に対し交通広告 16.8%）出現しているのに対し、「名詞（一般）」はパッケージの 71.6%に対して 47.1%と少ない。一方で「名詞（形容動詞語幹）」での出現割合が交通広告では高く（パッケージ 5.0%に対し交通広告 13.0%）、パッケージと交通広告とでは非外来語のカタカナ表記の出現傾向が異なる。

次に、非外来語のカタカナ表記が出現した文字列環境を確認する（表 10）。出現数 0 の環境は省略した。非外来語のカタカナ表記に「前接する文字がなく、ひらがなが後接する」02 の環境で 22.0%、「前後をひらがなで挟まれた」22 の環境で 20.9% が出現しており、これら 2 種類の環境で約 4 割を占める。さらに、前接・後接いずれかがひらがなの環境（02、12、20~27、32、62、72）で出現した非外来語のカタカナ表記を合わせると 505 件となり、全体の 70.8%にあたる。本論文で調査した交通広告における非外来語のカタカナ表記は、約 7 割がひらがなに接しているという結果である。

【表10】文字列環境別 非外来語のカタカナ表記の出現状況(交通広告)

0:文字なし 1:漢字 2:ひらがな 3:カタカナ 4:Alphabet (5:数字) 6:記号 7:スペース

環境	前接	後接	件数	割合	環境	前接	後接	件数	割合	環境	前接	後接	件数	割合
00	なし	なし	18	2.5%	20	ひらがな	なし	29	4.1%	51	数字	漢字	2	0.3%
01	なし	漢字	50	7.0%	21	ひらがな	漢字	21	2.9%	60	記号	なし	6	0.8%
02	なし	ひらがな	157	22.0%	22	ひらがな	ひらがな	149	20.9%	61	記号	漢字	4	0.6%
03	なし	カタカナ	8	1.1%	23	ひらがな	カタカナ	4	0.6%	62	記号	ひらがな	36	5.0%
06	なし	記号	26	3.6%	24	ひらがな	Alphabet	2	0.3%	63	記号	カタカナ	3	0.4%
07	なし	スペース	4	0.6%	26	ひらがな	記号	80	11.2%	66	記号	記号	22	3.1%
10	漢字	なし	8	1.1%	27	ひらがな	スペース	5	0.7%	70	スペース	なし	2	0.3%
11	漢字	漢字	10	1.4%	30	カタカナ	なし	4	0.6%	71	スペース	漢字	6	0.8%
12	漢字	ひらがな	12	1.7%	31	カタカナ	漢字	1	0.1%	72	スペース	ひらがな	8	1.1%
16	漢字	記号	23	3.2%	32	カタカナ	ひらがな	2	0.3%	76	スペース	記号	5	0.7%
17	漢字	スペース	1	0.1%	36	カタカナ	記号	3	0.4%	77	スペース	スペース	2	0.3%
												合計	713	

6-4-3-2. 交通広告における非外来語のカタカナ表記の実例と特徴

以下、先行研究の成果も参照しながら具体例をいくつかの観点から示す。まず出現頻度が 4 以上の語を表 11 に示す。表内の記号の意味などは、6-3-3-2 で提示したパッケージの調査結果を示した表 3 と同じである。

【表11】出現頻度4以上の非外来語のカタカナ表記(交通広告)

出現例	漢字表記	頻度	語種	品詞	基本語彙	BCCWJ カタカナ表 記頻度 (順位)	BCCWJ カタカナ 表記率 (順位)	『分類語彙表一増補改訂版』 部門	ページ
おトク	お得	31	H	名詞(形動)	注1			人間活動一精神および行為	
キレイ	奇麗/×綺麗	26	K	名詞(形動)	◎	24		抽象的關係	○11
カラダ	体	23	W	名詞(一般)	◎			自然物および自然現象	○7
チカラ	力	23	W	名詞(一般)	◎			抽象的關係	○10
ニオイ	※匂い/※臭い	21	W	名詞(一般)	◎			自然物および自然現象	○27
スッキリ	-	19	W	副詞	○	89		抽象的關係	○8
キミ	君	11	W	名詞(代名詞)	◎			人間活動の主体	
カタチ	形	10	W	名詞(一般)	◎			抽象的關係	○4
モノ	物	10	W	名詞(一般)	◎	1		生産物および用具	
ココロ	心	9	W	名詞(一般)	◎			人間活動一精神および行為	
コク	濃くまたは酷か	9	W? K?	名詞(一般)			15	自然物および自然現象	○77
ワキ	×脇/×腋	8	W	名詞(一般)	○			自然物および自然現象	
カンタン	簡単	7	K	名詞(形動)	◎			抽象的關係	○9
オススメ/ おススメ	お勧め/お薦め/ ▽お奨め	7	W	名詞(一般)		15(注2)		人間活動一精神および行為	
シゴト	仕事/▽為事	6	W	名詞(一般)	◎			人間活動一精神および行為	
ニキビ	面=皴	6	W	名詞(一般)				自然物および自然現象	
トク	得	6	K	名詞(一般)	◎			人間活動一精神および行為	
ヒザ	膝	5	W	名詞(一般)	◎			自然物および自然現象	
ベタつき	-	5	W	名詞(一般)				自然物および自然現象	
ムダ	無駄/▽徒	5	W	名詞(一般)	◎			人間活動一精神および行為	
ワタシ	※私	5	W	名詞(代名詞)		27		人間活動の主体	
ワクワク	-	5	W	副詞				人間活動一精神および行為	
サラサラ	-	5	W	副詞				自然物および自然現象	○5
ラクラク	楽楽/楽々	5	K	副詞				人間活動一精神および行為	
ネ	ね	5	W	終助詞					
カサつき	-	4	W	名詞(一般)				自然物および自然現象	
クルマ	車	4	W	名詞(一般)	◎	11		生産物および用具	
スキ	好き	4	W	名詞(一般)	◎			人間活動一精神および行為	
ヒゲ	×髭/×鬚/×髯	4	W	名詞(一般)	◎			自然物および自然現象	
ヒミツ	秘密	4	K	名詞(一般)	○			抽象的關係	
ニッポン	日本	4	K	固有名詞(地名)	◎				
ボク	僕	4	K	名詞(代名詞)	◎	5		人間活動の主体	
ダメ	駄目	4	H	名詞(形動)	◎			抽象的關係	
ラク	楽	4	K	名詞(サ変)	◎			人間活動一精神および行為	
スゴイ	×凄い	4	W	形容詞	○			人間活動一精神および行為	
ハマる	×嵌まる・▽填まる	4	W	動詞				人間活動一精神および行為	
キラキラ	-	4	W	副詞	○			自然物および自然現象	
頻度4以上 計		320		品詞欄の「名詞(形動)」は「名詞(形容動詞語幹)」の略である。					

注1)「トク」に接頭詞「お」が付いた「おトク」の例が多く見られたため、単なる「トク」とは区別した。

「トク」(得)は『日本語教育のための基本語彙調査』において「より基本的な語」(◎)とされている。

注2)「ススメル」の順位

右端の「パッケージ」欄に○印がある語は、パッケージの調査においても出現頻度が4以上であった⁵⁷。付された数字は出現数である。

パッケージの調査結果と比較すると、パッケージでは4回以上観察されなかった語（「パッケージ」欄に○印がない語が該当）が、交通広告においては多く見られた。意味との関連で見ると、交通広告では「人間活動」の意味分野に属する語が目立つ。一方で、パッケージでは多く見られた「生産物および用具」に属する語は少ない。また、交通広告における非外来語のカタカナ表記は、多様な品詞において出現している。パッケージで出現頻度が4以上の語はほとんどが「名詞（一般）」であり、他には「名詞（形動）」と「副詞」が散見される程度であったのと対照的である。交通広告とパッケージの文字情報は、キャッチコピーなどの短い文字列が中心である点で共通しているが、使用される語彙は総体的に見て異なっていることが示唆される。

表11の語は、7割程度が基本語彙に含まれている。しかし、BCCWJにおけるカタカナ表記率が上位50位に入っていたのは【コク】1語（15位）であった。この「カタカナ表記率」は、同じ語がカタカナで書かれる割合の高さを示す。カタカナ表記そのものの数を示す「カタカナ表記頻度」を見ても、順位100位以内の語は7語のみである。つまり、表11の語は「基本的な語であり、かつ漢字またはひらがなで書かれることが多い語」ということになる。そのような語がカタカナ表記される背景には、何らかの積極的な理由が想定される。

そして表12は、出現頻度3以下の語の一部を示したものである。一度しか観察されなかった語が極めて多く、ここでも品詞・語種ともに多岐にわたった。そして、出現頻度3以下の語においてもパッケージとは異なる用例が大多数を占める。なお、掛詞の例も9例見られた。【ウナクールさまサマ〜】（下線部が「様」と「summer」を意味する）などである。広告という、単なる情報伝達以上の目的も併せ持つ媒体の特徴と言えるであろう。

⁵⁷ 本論文におけるパッケージと交通広告の調査は、同様の方法と期間にて行い、ほぼ同数の用例を収集した。

【表12】 出現頻度3以下の非外来語のカタカナ表記

* 用例は出現した語形にて、動詞と形容詞の漢字表記は終止形にて示す。

* カタカナ表記部分だけでは語がわかりにくいと判断した場合は、補足説明や前後の文字等を補った。

頻度	語種/品詞	用例		
3	W/名詞(一般)	ウチ(▽家)、カギ(※鍵)、コト(事)、シミ(染み)、タテ(縦)、ヌリ(塗り)、ハリ(張り) など計8語		
	W/名詞(代名詞)	アナタ(貴=方)、ヤツ(▽奴)		
	W/形容詞	イイ(▽善い/▽良い/▽好い)、ウまい/ウマけりゃ(▽甘い/▽旨い/▽巧い) など計5語		
	W/副詞	イキイキ(生き生き/活き活き)、ウキウキ(浮き浮き)、ガチ、ゴクゴク、スグ(▽直ぐ)、モヤモヤ		
	K/名詞(一般)	ガン(×癌)、ケイリン(競輪)	K/名詞(形動)	ベンリ(便利)
	K/副詞	イッキ(一気)	K/感動詞	ホント(本▽当)
	その他	ホーダイ(放題)		
2	W/名詞(一般)	カゼ(風邪)、カビ(×黴)、キレ(切れ)、クシヤミ(×嘔)、テカリ、ワザ(業/技) など計16語		
	W/名詞(代名詞)	オレ(※俺/▽己/乃=公)、ココ(×此▽処)	W/名詞(助数詞)	カ月(箇月/▽個月)
	W/動詞	デキル(出来る)、スベリます、スべっても(滑る)	W/名詞(形動)	シアワセ(幸せ)
	W/副詞	ガツン、ゴロゴロ、サクサク、サラッサラ、バシヤツ、ホッと	W/形容詞	アツイ/アツく(熱い)
	W/感動詞	アノ(▽彼の)	W/その他	求ム(活用語尾)
	K/名詞(一般)	ゴクラク(極楽)、ソッコー(即効、速攻、速効)、ナイショ(内緒)		
	K/名詞(サ変)	ガマン(我慢)、カンバイ(乾杯)	K/副詞	イチバン(一番)
	H/名詞(一般)	エキナカ(駅中)、エキマエ(駅前)	H/動詞	トクする(得する)
	H/副詞	サッと(×颯と)		
1	W/名詞(一般)	アザ(×痣/×癩)、アシ(足/脚)、アタマ(頭)、アブラ(油/脂/×膏)、石コロ(石▽塊)、イス(※椅子/×倚子)、ウソ(×嘘)、ウまさ(▽甘さ/▽旨さ/▽巧さ)、エリ(襟) など計59語		
	W/名詞(代名詞)	アレ(▽彼)、アンタ(貴=方)、ナニ(何)	W/名詞(固有名詞)	シブヤ(渋谷)
	W/名詞(形動)	イヤ(嫌/×厭)、ガチ、カラカラ、キライ(嫌い)、キンキン、ゴワゴワ、つるスベ(滑)、スベスベ(滑滑/滑々)、ソゾロ(▽漫ろ)、バレバレ、ヒエヒエ(冷え冷え)、ユタカ(豊か)、ルンルン		
	W/名詞(サ変)	ビックリ	W/名詞(接頭辞)	マル得(丸)
	W/形容詞	アブナすぎる(危ない)、ウレシイ(×嬉しい)、エライ(偉い/▽豪い)、オイシイ(美=美味しい)、コワイ(怖い/▽恐い)、ニクイ(憎い)、ハヤイ(早い/速い)、マズイ(不=味い) など計13語		
	W/動詞	アタル(当たる)、アリ(有る)、カナエル(叶える)、キラめく(×煌めく)、ケズった(削る)、コマル(困る)、ズレて、タマル(×溜まる/▽堪る)、ツカエル(使える)、ハタラク(働く) など計24語		
	W/副詞	イライラ(×苛×苛)、イロイロ(色々/色々)、キチン、ギューっと、ギョルギョル、コッテリ、サクッ、ジュワっと、スルスル、ドカン、ドン、なぜ(何=故)、トコトン、ピッタリ、ベタベタ など計42語		
	W/感動詞	イタタタ、サヨナラ(左様なら)、ジャン、プハー		
	W/その他	アール(助動詞「ある」)、ガ(格助詞)、セ(終助詞)、タイ(助動詞)、ッ(終助詞)、デ(格助詞)、マス(助動詞)、ヨ(終助詞)		
	K/名詞(一般)	カンケー(関係)、ガンコ(頑固)、グチ(愚痴)、ケイバ(競馬)、セカイ(世界)、センイ(繊維)、チカン(痴漢)、ヒコーキ(飛行機)、皮フ(膚)、ベンピ(便秘)、ミリョク(魅力) など計29語		
	K/名詞(固有名詞)	カエツ(嘉悦)、セイトク(聖徳)、チカハク(地下博)		
	K/名詞(形動)	カイテキ(快適)、バカ(馬※鹿/×莫×迦)、ヘン(変)、ムリ(無理)		
	K/名詞(サ変)	カクゴ(覚悟)、コーフン(興奮/×昂奮/×亢奮)、サイコー(最高)		
	K/副詞	コツコツ(×砵×砵/×兀×兀)	K/名詞(接尾辞)	チュー(中)
	H/名詞(一般)	キモチ(気持ち)、クチコミ(口コミ)、ホンモノ(本物)	H/形容詞	シカクい(四角い)
	H/副詞	イマイチ(今一)	その他	ブス、入リーナ

次に、出現頻度 11 以上の語につき、どのような商品やサービスの広告に出現したのかを見る。商品やサービスごとに広告を分類すると表 13 のとおりである。

【表13】 頻度11以上の非外来語のカタカナ表記が出現した広告の商品・サービス

*頻度の高い順。ただし【トク】は【おトク】の次に示す。

	頻度	商品・サービス（丸かっこ内は出現数）
おトク	31	交通機関やカードの利用促進(12)、交通機関のお得なプラン(7)、商業施設のイベントやセール(5)、情報通信サービス(3)、クレジットカード会社のキャンペーン(1)、スポーツクラブのキャンペーン(1)、ガス器具(1)、賃貸住宅(1)
トク	6	交通機関やカードの利用促進(3)、交通機関のキャンペーン(1)、量販店のカード利用促進(1)、住宅情報誌(1)
キレイ	26	健康食品(8)、美容関連事業(5)、化粧品(3)、施設案内(3)、交通機関のキャンペーンなど(2)、飲料(1)、食品(1)、空気清浄機(1)、美顔器(1)、猫背矯正ベルト(1)
カラダ	23	酒類以外の飲料(10)、日用品／全身用(5)、スポーツクラブの入会案内(2)、美容関連事業(2)、酒類(1)、STOP飲酒啓蒙広告(1)、旅行会社のプラン案内(1)、医薬品(1)
チカラ	23	予備校・大学の入学・学校案内(5)、医薬品(5)、健康食品(3)、日用品／全身・髪用(3)、公共広告(2)、公共施設のイベント案内(1)、スポーツクラブ入会案内(1)、酒類(1)、化粧品(1)、新聞社企業広告(1)
ニオイ	21	日用品／全身・髪用(18)、消臭・抗菌衣類等(3)
スッキリ	19	酒類(5)、医薬品(4)、美容関連事業(2)、食品(2)、酒類以外の飲料(2)、日用品／顔用(2)、日用品／全身用(1)、金融商品(1)
キミ	11	予備校・大学の入学・学校案内(7)、転職支援(1)、インターネット情報提供サービス(1)、モバイルゲーム(1)、酒類(1)

例えば合計 26 件出現した【キレイ】の場合、表 13 では商品・サービスを大まかに 10 に分類したが、「健康・美容関係」ということでさらにまとめれば、【キレイ】という表記が出現する広告は、その扱う商品・サービスという観点から大体限定される。【おトク／トク】も、商品・サービスの「利用促進」のための広告においてほとんどが出現している。【ニオイ】【キミ】なども、出現する広告は極めて限定的である。このように、交通広告においては「商品・サービス」と「語彙」と「表記」の連動が強く見られる傾向がある。「場面」「内容」「形式」の連動と同様、非言語的な要素である「商品・サービス」と、その内容を表す言語的な要素である「語彙」と「表記」が連動しているのである。

6-5. 受け手の表記意識への影響

以上見てきたような特徴を持つ非外来語のカタカナ表記が、パッケージと交通広告の文字情報に記載されて流通しているということである。接触と受容の観点で考えるならば、それらは受け手の表記意識にどのような影響を及ぼすであろうか。

パッケージや交通広告などの身近な媒体において人々が接触し、さらに受容された非外来語のカタカナ表記は、その表記に対する「カタカナ表記存在感覚」を生む。

この「カタカナ表記存在感覚」は、海保博之・野村幸正（1983）の提示した「漢字存在感覚」をカタカナに援用し、本論文において新たに設定する概念と術語である。本論文では「この語はカタカナで書かれるという直観的判断」と定義する⁵⁸。「カタカナ表記存在感覚」の形成は、パッケージや交通広告の非外来語のカタカナ表記が受け手に与える影響の一つである。例えばパッケージにおいて、【コク】は出現頻度が突出しており、日用品・食品・飲料の全てのパッケージに出現して流通していることから、強いカタカナ表記存在感覚を受け手にもたらすと考えられる。パッケージと交通広告の双方において出現頻度の高い【おトク】や【キレイ】も同様であろう。

しかし、カタカナ表記存在感覚は当然、パッケージや交通広告に限らずあらゆる媒体の文字情報によってもたらされる。それでは、特にパッケージや交通広告のような媒体に見られる非外来語のカタカナ表記が受け手に与える影響としては、どのようなものが想定できるであろうか。以下では、パッケージを中心に論じていく。

一つには、パッケージという媒体（場）と連動したカタカナ表記存在感覚を、特定の似た属性を持つ語に対してもたらす。先に見たように、パッケージにおける非外来語のカタカナ表記は、他の媒体におけるそれらとは異なる出現傾向と特徴を持つ。また、パッケージ特有の語彙が存在することも示唆された。つまり、これらの語と表記には他の媒体では見慣れないものも多数含まれ、パッケージという一種の閉じられた媒体（場）と連動して出現するものである。したがって、普段からさまざまな媒体に接触している受け手は、パッケージという媒体（場）と、そこに見られる非外来語のカタカナ表記とを、意識的あるいは無意識的にまとめて認識し、記憶するであろう。また、本章で述べてきたとおりパッケージの非外来語のカタカナ表記は似た属性を持つものが多いため、他の媒体に接触した時よりも「特定の属性を持つ語がカタカナで書かれている」と感じる度合いは強いと推測される。パッケージは、「媒体（場）」と「語」と「表記」とが連動していることを、受け手に感覚

⁵⁸ 「漢字存在感覚」は「対応する漢字が存在するはずだ」という感覚であり、海保・野村（1983）はこの「漢字存在感覚」を「直観的判断」とする（p.77）。海保・野村（1983）の術語をそのまま置き換えると「カタカナ存在感覚」であるが、語を表記しようとした時に表音文字であるカタカナが「存在する」という感覚をいだくのは当然である。そのため、ここでは「カタカナ表記された語」の単位を表現し反映しうる術語として「カタカナ表記存在感覚」を用いることにした。海保・野村（1983）の言う「漢字存在感覚」も、「漢字表記存在感覚」と同意である。

的に認識せしめる媒体であると言えよう。そのようにして「媒体や場と連動したカタカナ表記存在感覚」が形成されていく。そしてそれは、パッケージに特有の、似た属性を持つ語と表記に対して起こる。

二つには、「個人における表記の基準感覚」の形成につながる。これもパッケージという媒体（場）と連動し、特定の似た属性を持つ語に対して生じる。例えば「パッケージのような身近で実用的な媒体や場で使用する簡易・簡潔な文の場合、漢字が難しそうな日用品の名称はカタカナで書けばよい」等といった、公的な規範とは別の、受け手個人の表記の使い分けに対する感覚である。この基準感覚は、パッケージから今回抽出されなかった語、つまり表3には挙げられていない「似た属性」の語—「漢字で書きにくい事情にある「名詞（一般）」と「副詞」」にまで波及し、適用される可能性がある。表4に示した出現頻度の低い語には、そのようにして臨時的な出現につながった例もいくらかは含まれるのであろう。また、「個人における表記の基準感覚」は、文字列環境の影響によっても形成される。表2で見たとおり、パッケージに出現する非外来語のカタカナ表記の8割はひらがなに接している。そのようなカタカナ表記を見慣れてしまうと、同じ語がひらがなで書かれてひらがなが続いている場合は相対的に「見にくい」という感覚をいだくと思われる。

水（牛乳）をミキサーに入れふたをし、こぼれないように軽く振り解凍します。

（出典：食品パッケージ 「冷凍果実 マンゴー」）

例えばこの【ふた】のような例を目にして、「ひらがなが続く時にひらがなで書くと読みにくい」という感覚と共に、その語に対するカタカナ表記存在感覚が呼び起こされるなどである。ひらがなが続くと見にくいのであれば漢字を使用することも可能なわけであるが、パッケージという媒体や場に関する情報が連動するため、【蓋】を想起するまでもなく【フタ】がふさわしいという感覚をいだく。こうして、媒体や場と連動した表記の使い分けの意識、基準感覚が形成されていく。

パッケージの文字情報における非外来語のカタカナ表記は、その他の媒体とは異なる特徴を持っている。それらの表記は、パッケージという媒体や場と連動した「カタカナ表記存在感覚」および「個人における表記の基準感覚」を、特にパッケージ

に特有の語に対して形成する⁵⁹。

そして、以上述べたことはそのまま、交通広告における文字情報にも当てはまる。先に見たように、交通広告においては商品・サービスと語と表記とが連動していた。また、交通広告における文字情報とパッケージの文字情報における非外来語のカタカナ表記は、互いに異なる特徴を持っていた。したがって、交通広告に見られる表記も、交通広告という媒体や場と連動した「カタカナ表記存在感覚」および「個人における表記の基準感覚」を、特に交通広告に多く見られる語に対して形成する。これは、パッケージや交通広告に記載されて流通する非外来語のカタカナ表記が受け手の表記意識に与える影響の一つであろう。

6-6. 本章のまとめ

本章では表記の「生産」「流通」「受容」の各過程における「流通」に焦点を当てつつ、「受容」の面にも触れた。そして、文字種が選択される背景にある要素として「カタカナ表記存在感覚」と「個人における表記の基準感覚」を提示した。ただし、「カタカナ表記存在感覚」も「個人における表記の基準感覚」も要因となる以前の諸要素の一つに過ぎず、それがただちに文字種選択要因となるとは限らない。しかし、文字種が選択される背景を考察する時欠かせない要素である。

ある一つの表記は、多種多様な要素の相互作用により、また何かのきっかけが要因となって、「生産」される。それが「流通」することによる受け手への影響を本章では検討してきた。流通した表記は「接触」から「受容」へとつながっていき、その受け手が今度は表記者となって表記を「生産」する際に影響を及ぼす。こうして循環が起きていく。

媒体や話題等によって非外来語のカタカナ表記の出現傾向に差異があることはすでに当研究分野における共通認識と言っても差し支えないと思われるが、パッケージや交通広告における非外来語のカタカナ表記もまた、他の媒体とは異なる出現傾向を示していた。そしてそれは出現する「語」の違いにもよることが本章の調査結果からうかがえる。文字種選択要因を考察する際には、「媒体（場）」「語」「表記」

⁵⁹ 例えばパッケージと書籍の両方に非外来語のカタカナ表記が見られる語などの場合は、パッケージに特有の語と比べると、「カタカナ表記存在感覚」と「個人における表記の基準感覚」の形成に違いがある可能性がある。これについては、別途検討する必要がある。

を一組として複合的・総体的に捉える必要があることが示唆された。

本論文の目的である非外来語のカタカナ表記出現の背景という観点では、パッケージや交通広告に見られる表記は媒体や場と連動し、目にした受け手の「個人における表記の基準感覚」を形成していく。それが似た属性の語に波及して、臨時的なカタカナ表記の出現にもつながっていく。そのようにして出現した表記が流通し、接触と受容を経て循環をくり返し、パッケージや交通広告といった特定の場で頻繁に用いられる表記として定着していくという動きを認めることができるであろう。

<用例出典(一部)>

パッケージ・交通広告ともに、スポンサー名／商品名または商品のカテゴリーの順に示す。スポンサーである企業・団体名の欄等は省略する。企業・団体名は用例収集時点のものであり、正式名称とは異なる場合がある。また、順不同である。

・**パッケージ** ※商品の種類（日用品、食品、飲料）ごとに示す。

日用品：サンスター・ライオン・花王・プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン・白十字ほか／衣類用洗剤・柔軟剤・石鹸・歯磨き等の衛生用品類・台所用洗剤等・化粧水等の理美容消耗品類、住友スリーエム・三菱アルミニウムほか／スポンジ・アルミホイル等、田辺三菱製薬ほか／常備薬類、菅公工業ほか／文具・事務用品類 ほか

食品：全農パールライス・マインドフィールド／米・穀物類、日本ハム・味の素・エースコック・プリマハム・日清食品・丸大食品・神戸物産・東京めいらく千葉工場ほか／各種加工食品、山崎製パン・フジパン・ユーラクほか／各種パン類・菓子類、ホクトほか／生鮮食料品、はりま製麺・藤原製麺・小国製麺ほか／麺類 ほか

飲料：伊藤園・キリンビバレッジ・キリン・トロピカーナ・コカ・コーラカスタマーマーケティング・森永乳業・ネスレ日本・ネスカフェ・味の素ゼネラルフーズ・UCC 上島珈琲・ポッカコーポレーション・ジェイティ飲料ほか／各種清涼飲料類、

アサヒビール・KIRIN・サントリー・サッポロビール・菊水酒造・旅日記・山梨ワイン倶楽部ほか／酒類 ほか

・交通広告 ※広告のジャンル別に示す。ジャンルはCMの分類に準ずる。

1. 電子・精密系：オリンパス・Canon／カメラ ほか
2. 携帯電話：au／新機種案内 ほか
3. AV機器系：東芝・富士通／テレビ ほか
4. 家庭電器系：日立製作所・三菱電機／エアコン、パナソニック／洗濯機 ほか
5. IT関連：富士通／ITシステム ほか
6. 自動車系：日産自動車／乗用車 ほか
7. 食品系：ハウス食品／調味料、Meiji／加工食品 ほか
8. 菓子系：カルビー・ニッスイ・森永製菓・ラフェクレール／スナック菓子、FUJIYA／アイスクリーム、味覚糖／その他菓子 ほか
9. ドリンク系：アサヒ飲料・Dydo・サントリー／缶コーヒー、サントリー・日本コカ・コーラ・大塚製薬・ポッカ・カルピス Asahi／清涼飲料水、ヤクルト・江崎グリコ／乳酸菌飲料、Ocean Spray ITG／果汁 ほか
10. アルコール系：KIRIN・アサヒビール／ビール、KIRIN・SAPPORO／酎ハイなど、秋田誉酒造・日本盛／酒 ほか
11. 医薬・健康系：太田胃散・小林薬品工業・第一三共ヘルスケア・全薬工業・興和・LION・武田薬品工業・Cracie・エーザイ／医薬品、常盤薬品／健康食品、DHC／ダイエット食品、悠々美的／サプリメント、シオノギ製薬／皮膚科受診啓蒙、白元／マスク ほか
12. 化粧品系：KOSE・日本ロレアル・Ever Doll／化粧品 ほか
13. 生活雑貨系：ライオン・花王／衣類用洗剤・柔軟剤、バスクリン／入浴剤 ほか
14. 生活雑貨系（身体用）：花王・ニベア花王・資生堂・マンダム・P&G・Nature Lab・シービック・effusain's／洗顔料・歯磨き剤・制汗剤等、ドクターショール／靴用インソール、ケンコー／白髪染め ほか
15. 衣料系：ユニクロ／衣料品、ワコール／下着類 ほか

16. 娯楽・興行系：ダイナムグループ・パチンコメッセ／パチンコ、西武グループ・エプソン品川アクアスタジアム／水族館、八景島シーパラダイス／新アトラクション、DeNA／モバイルゲーム ほか
17. マスコミ・教育系（マスコミ）：読売新聞／新聞、NHK・TBS・日本テレビ・フジテレビ・テレビ東京／テレビ番組告知、ニッポン放送／ラジオ番組告知 ほか
18. マスコミ・教育系（教育）：嘉悦大学・國學院大学・聖徳大学・東洋大学・東京成徳大学・千葉商科大学・鎌倉女子大学・音楽専門学校・市進予備校・河合塾・東京工科専門学校・日能研・ECC 外語学院・英会話 AEON／入学案内・学校案内、Z会・ベネッセコーポレーション／通信教育、スピードラーニング／英語教材、AVIVA／資格講座 ほか
19. 流通・販売系：タカシマヤ・イトーヨーカドー・東急ハンズ・上大岡京急百貨店・横浜市商店街総連合会&京急タイアップイベント／イベント案内、島忠ホームセンター／ベビー用品、ジャパネットたかた／キャンペーン告知、ブックオフ／新規店舗開店案内 ほか
20. 通信・サービス系：docomo・ウィルコム／通信プラン、ひかり TV／映像配信サービス、TBC・スリムビューティーハウス・MUSEE・脱毛ラボ／エステティック、ANA・東京メトロ／割引プラン、京急 EX イン／ホテル、Goo グー！／車情報、リクルートエージェント／転職情報 ほか
21. 住宅・建設系：YKK／内窓、リクルート・オウチーノ／住宅情報、京急不動産&京浜急行電鉄・旭化成不動産／マンション、UR 賃貸住宅／賃貸住宅 ほか
22. 金融系：千葉興業銀行／住宅ローン、新生銀行・レイク／個人向けローン、ソニー損保・イーデザイン損保／自動車保険、MUFG／クレジットカード ほか
23. 企業・公共・他：AC ジャパン・東日本高速道路／マナー啓発広告、東京メトロ・京浜急行／マナー啓発広告・利用促進、JT・カネカ／企業広告、ビール酒造組合／啓蒙広告、東京都多重債務問題対策協議会／団体広告、全国自治宝くじ／くじ販売促進、秋田県・沖縄県／県の PR、東京都福祉人材センター／イベント案内、JICA・青年海外協力隊／募集広告 ほか

第7章 学術雑誌における非外来語のカタカナ表記

7-1. はじめに

本論文では、一貫して BCCWJ には含まれない文字資料を取り上げている。第6章までは、BCCWJ には含まれない文字資料の中でも、日常生活に密着した身近なものに焦点を当ててきた。本章では、同じく BCCWJ には含まれない文字資料のうち、学術雑誌を調査対象とする。そして非外来語のカタカナ表記の実態のさらなる把握を目指すとともに、どのような語がどのような場合にカタカナで表記されるのかという条件を、前章までとは異なる観点から示す。

現代において産出されている文字資料のうち、教科書や白書で非外来語のカタカナ表記の使用が避けられる傾向があることは柏野和佳子・中村壮範（2013）が報告している(p.290)。これは教科書や白書が改まったコンテキストの資料だからであろう。ほかに、改まり度の高い資料として、学術雑誌がある。学術雑誌を読んでいると、カタカナ表記そのものは多用されるものの、先行研究や本論文で考察の対象としてきた非外来語のカタカナ表記がほとんど出現しないのに気づく。例えば、【ナゾ】【カタチ】【ハズ】などの類である。しかし一方で、学術雑誌においても出現する例も存在する。つまり、カタカナで表記される非外来語には、コンテキストによってはカタカナ表記で出現しないものと、コンテキストに関わらずカタカナ表記されるものとの2種類があると解釈できる。

本章では、コンテキストに関わりなくカタカナ表記される語、つまりコンテキストがカタカナ表記の出現に影響しない語（語群）を特定する。それは、どのような語がどのような場合にカタカナで表記されるのかという条件の一端を示すことであり、非外来語がカタカナ表記される背景にある仕組みと原理の解明のためには欠かせない手続きである。

以下ではまず、現代日本語における「カタカナの役割」をあらためて整理する。そして、コンテキストと文字種の間を踏まえつつ本章を本研究の中に位置づけ、続いて調査対象と方法、結果を示す。

7-2. カタカナの役割

本節では、現代日本語における一般的な「カタカナの役割」を整理し、カタカナ

の役割をあらためて定義する。「カタカナの役割」は、日本語の文字体系においてカタカナが他の文字種との間で分担している働きを指すものとする。

ここまで本論文では、「非外来語のカタカナ表記」という術語を使用し、外来語以外がカタカナ表記されているかどうか、つまり語種を基準にして、カタカナ表記の実例を抽出する方針を取ってきた。それが基準としては最も明示的であると考えられたためである。したがって、第6章までに抽出した非外来語のカタカナ表記の用例には、先行研究によっては「標準的」なカタカナの用法と見なすものも含まれていた。例えば動植物名やオノマトペなどである。この点がまさに、先行研究によって術語とその指し示す概念が定まっておらず、未だ曖昧さをはらんでいる領域である。本論文では、本章での検討以降も引き続き語種を基準として、外来語以外がカタカナ表記されたものを「非外来語のカタカナ表記」と呼んで扱っていくが、以下では現代日本語におけるカタカナの役割を整理し、カタカナ表記が規範的であると一般的に見なされるであろう語群を確認する。

そもそも、現代における日本語使用者が認識しているカタカナの役割とは、どのようなものなのであろうか。第1章で述べたとおり、その認識が形成される上では、公共性の高い新聞やテレビなどのマスメディアが影響を及ぼしているであろう。また、それ以前に、学童期およびそれ以降の学校教育においてカタカナの使用法を教授されたり、教育の場面で使用する教科書や副読本でカタカナを目にしたりして、「カタカナの役割とはこういうものである」という認識を各自が持つに至るのであろう。海保博之・野村幸正（1983）は、ある語を漢字で書くことがふさわしいという感覚を「漢字表記規範感覚」（p.78）と呼んでいるが、カタカナ表記についても「この語はカタカナで表記されるのがふさわしい、妥当である」という「カタカナ表記規範感覚」⁶⁰ が働くはずである。

マスメディアや教科書関連の出版社が独自の「表記の手引き」類を有し、原則的にはそれに従って語を表記しているのは、すでに述べたとおりである。本章では具体的に、複数の新聞社と教科書の出版社が発行している表記の手引き類からカタカナの用い方を記述した部分を抜き出し、各手引きに共通する項目を抽出して整理す

⁶⁰ 第6章では、海保・野村（1983）の「漢字存在感覚」を援用し、「この語はカタカナで書かれるという直観的判断」を表す術語として「カタカナ表記存在感覚」を設定した。本章でも同様に、「カタカナ表記規範感覚」という術語を新たに設定する。

る。使用する手引き類は以下のとおりである。

- a 『NHK 漢字表記辞典』 2011.3 NHK 放送文化研究所編
- b 『朝日新聞の用語の手引』 2010.12.30 朝日新聞社用語幹事編
- c 『記者ハンドブック 新聞用字用語集』第12版 2010.10 共同通信社編著
- d 『表記の手引き』第六版 2011.12 松村明校閲、教育出版編集局編

a～dのうち3種類以上の手引きに共通するカタカナの用法を抽出すると、次のとおりであった。各項目末尾のアルファベット（丸かっこ内）は、その項目をカタカナの使用法として掲げる「手引き」を示す。本章では、これらを表記することを「A. カタカナの規範的な役割」とする。

A. カタカナの規範的な役割

- ①外来語、外国語（外国人名、外国の地名を含む）（a、b、c、d）⁶¹
- ②擬音語（a、c、d）、擬声語（c、d）、擬態語（c）
（以下「オノマトペ」と総称）
- ③動植物名（a、b、d）⁶²

擬態語に関しては、b、c、dは擬態語を「平仮名で書く」とし、cでは「ただしニュアンスを出したい場合は片仮名書きしてよいが、乱用しない。」と但し書きされている。そしてaは擬態語に言及しないという状況であるが、擬態語と擬音語は区別が難しい場合も多く、cでは「片仮名書きしてよい」とされることから、擬音語と擬声語に擬態語も含め「オノマトペ」と総称することとする。

⁶¹ 外国の地名については、bには「中国、朝鮮などを除く」、cには「中国・朝鮮を除く」との但し書きがある。cは第13版が2016年に発行され、第13版では「中国と朝鮮半島を除く」としている。なお、dも第7版が2017年に発行されたが、「片仮名の使い方」に変更点は認められなかった。本章では、中国・朝鮮なども含め、外国の国名・地域名・地名（「地名」と総称する）がカタカナ表記されているものはカタカナの役割に合致していると見なす。

⁶² aは「学術的名称・外来種・強調する場合」、bは「漢字表の範囲内で書けない動植物名」、dは「学術的名称としての動植物名」としており、いずれも限定的である。本章ではこのような限定条件は設けない。

次に、1～2種類の手引きに記載されているカタカナの用法を抽出し、以下のよう
にまとめた。本章ではこれらを表記することを「B.カタカナの準規範的な役割」
とする。

B. カタカナの準規範的な役割

④俗語 (a) ⁶³

⑤専門的な用語 (a)

⑥助数詞 (b)

⑦記号としての用法 (表音機能に基づくものなど) ※ (d)

※手引き d に示された「発音を示す表記」「漢字の音読みを訓読みと区別し
て示す表記」「用語の活用の名称や、音楽の調の名称の表記」「図形上の
点や、項目の細別の順序の表記」「電報文の表記」を⑦にまとめた。原文
のとおりであることを示す「ママ/マヽ」およびその他のルビもここに
含むこととする。

⑧日本語の固有名詞のうち、特殊なもの ⁶⁴ (d)

⑨能・狂言の用語 (d)

⑩化学物質名 (d)

以上のA・Bに該当する語がカタカナで表記されている時、「カタカナが役割に沿
って使用されている」と受け手は見なすと考えてよいであろう。本章では以上の語
を表記することを「カタカナの役割」とし、稿を進める。これらは、受け手がカタ
カナ表記規範感覚を持っていると考えられる語群である。

さらに、各手引きのカタカナの用い方に関する記述には、表記主体によって判断
や方針が異なると思われるものもある。これらが本論文の冒頭で述べた、表記主体
に文字種の選択が委ねられている項目である。「語を強調する場合」(a)、「ニュア
ンスを出すためや、平仮名文中での埋没を避けるために適宜片仮名を使ってよい」
(b)、「感動表現で特に強調する場合」(c) 等である。これらは表記主体の運用に関

⁶³ a において、例として「インチキ、ダフ屋、ノミ行為」が挙げられている。

⁶⁴ d では例として「サロマ湖」や文学作品中の登場人物の名前が挙げられている。本章で
は、実在する人物の名前もここに含むこととする。

わる問題であるので、上記「カタカナの役割」には含めない。こうした用法によるカタカナ表記を目にした場合に「カタカナの役割に沿って使用されている」と感じるかどうかは、受け手によって個人差があるであろう。

ここで注目すべきは、どのような語が「強調するため」「ニュアンスを出すため」「埋没を避けるため」に「適宜」カタカナで表記されるのかという点である。それらが、先行研究において出現要因が検討されてきた語群である。「カタカナで書くのがふさわしい」というカタカナ表記規範感覚にまでは至らなくとも、「カタカナで書かれているのを目にすることがある」という「カタカナ表記存在感覚」(第6章)を受け手に生じさせる語である。例えば本章第1節で挙げた【ナゾ】【カタチ】などがそれに当たる。以下、本章ではこのようなA・Bに該当しない非外来語のカタカナ表記を、「規範的・準規範的な役割を外れたカタカナ表記」の意味で「役割外のカタカナ表記」と呼び、6節(7-6)でまとめて扱う。

7-3. コンテキストと文字種

非外来語のカタカナ表記の出現傾向は、コンテキストによって差が見られる。例えば本論文第4章では、コンテキストとそれに連動した表記主体の意識が非外来語のカタカナ表記の出現要因の一つとして働いていることを指摘し、コンテキストによって同じ語が【形／かたち／カタチ】のように異なる文字種で出現する様相を示した。しかしながら、内省すれば明らかなように、全ての語がそのようにコンテキストの影響を受けて異なる文字種で出現するわけではない。背景にある要因を整理・分類し出現条件を総体的に検討する上では、どのようなコンテキストにおいてもカタカナ表記になりうる語と、コンテキストによってはカタカナ表記にならない(なりにくい)語とを区別して捉える必要がある。前者の「どのようなコンテキストにおいてもカタカナ表記になりうる語」を言い替えれば、「改まった場でも、カジュアルな場でも、場を

選ばずにカタカナ表記が使える語」である。つまり、コンテキストとカタカナを軸にすると、全ての語はまず、

【表1】コンテキストと出現文字種

コンテキストの影響	出現文字種	左の条件に該当する語
コンテキストが文字種 の選択に影響しない語	カタカナ以外で出現	漢字・ひらがなの役割に 沿って表記される語
	カタカナで出現	<1>
コンテキストが文字種 の選択に影響する語	コンテキストによって文 字種は変化	<2>

「コンテキストが文字種の選択に影響しない語」⁶⁵と「コンテキストが文字種の選択に影響する語」つまり「コンテキストの影響を受けてどの文字種で表記されるかが変化する語」とに二分される。さらに、前者の「コンテキストが文字種の選択に影響しない語」は、カタカナ以外で出現するかカタカナで出現する（しうる）かによって分類できる（表1）。

本章では、表1の<1> <2>各々に該当する語を見出す作業の一環として、<1>に焦点を当てる。そのためには、非外来語のカタカナ表記が出現しにくいコンテキストを持つ文字資料を対象とした調査が有効であろう。先行研究および本論文がここまで取り上げてきた調査対象は、非外来語のカタカナ表記が比較的出現しやすい文字資料、つまり改まり度のそれほど高くない文字資料が中心であった。非外来語のカタカナ表記が出現しにくい資料については、派生的に言及されることはあっても、それに焦点を当てて正面から取り組んだ研究はない⁶⁶。つまり、改まった場でカタカナ表記されない非外来語、また改まった場においてもカタカナで表記される非外来語を把握するというアプローチは取られていない。それは本論文の第6章までの調査についても同様である。

以上が、本章で学術雑誌を調査対象とする理由である。学術雑誌は専門性が高く、冒頭で触れた教科書や白書等と比べても改まり度が特に高い資料である。つまり、学術雑誌で出現する非外来語のカタカナ表記は、どのような資料においても出現する可能性があると言って差し支えないであろう。出現にあたってコンテキストの影響を受けない非外来語のカタカナ表記の実態を把握するのに、学術雑誌は適した資料である。

学術雑誌は、従来扱われてきた資料とは異なり、広く一般の人々の目に触れるものではない。しかし、現代日本語における文字資料の総体を構成する一部であり、その総体が常に新陳代謝をくり返しながらか人々の言語生活に直接的・間接的な影響を与えていることを考えれば、学術雑誌も文字環境と文字生活の一部である。そこ

⁶⁵ つまり、コンテキスト以外の別の要因によって文字種が選択されるという意味である。

⁶⁶ 現代に生きる日本語母語話者であれば、「改まり度の高い資料においては非外来語のカタカナ表記が出現しにくそうだ」と内省によって考えるであろう。このことが、改まった場でカタカナ表記されない語に焦点が当てられてこなかった理由の一つと考える。このような「何となく共有されている共通認識」を記述しておくことは、非外来語のカタカナ表記の出現要因を総体的に捉える上で一定の意味があるであろう。

には現代を生きる日本語使用者の表記行動や表記意識が確かに反映していると考えられる。

そして文字資料としての学術雑誌には、表記の実態を観察し、ある表記が産出される要因を考察するのに適した特徴がある。それは、表記の選択が原則的に表記主体（執筆者）に任されており⁶⁷、新聞や雑誌とは異なり編集者による表記の修正（基準による統制）がない点である。さらに、冒頭に述べたとおり先行研究で考察の対象となってきた非外来語のカタカナ表記がほとんど出現しないため、カタカナ表記の出現にコンテキストが影響する語（語群）や影響しない語（語群）を考察するには打ってつけの資料である。

7-4. 調査の対象と方法

日本語で執筆された学術雑誌は、数も種類も膨大である。そこでまず、調査対象とする学術雑誌を選定するため、予備調査を行った。その結果を踏まえ、『国文学研究』⁶⁸を本調査の対象とした。予備調査の概要と、本調査の対象・方法は以下のとおりである。

7-4-1. 予備調査の概要

早稲田大学の複数の研究科およびその関連組織が発行する学術雑誌を収集し、収録された論文、書評、研究報告等（以下、本章でこれらをまとめて述べる際には「文献」と言う）におけるカタカナの使用状況を調査した。

予備調査で使用した学術雑誌を本章末尾に掲げる。テーマが多様になるよう研究科および関連組織あたり2～5本の文献を選定した（合計44本）⁶⁹。調査対象範囲は、各文献のタイトル、本文（地の文⁷⁰、見出し）、執筆者作成の例文である。他の文献からの直接引用部分、表および図の中の文字、古典籍の出典表示（「セウ四行目」等）は調査対象外とした。

⁶⁷ 執筆要項で表記の統一を求めている学術雑誌も存在する（例えば日本語教育学会の『日本語教育』）が、編集者による修正はない。

⁶⁸ 早稲田大学国文学会発行。

⁶⁹ 英語で書かれた論文が中心の雑誌もあるため、本数にばらつきがある。

⁷⁰ 本章における「地の文」は、他の文献からの直接引用部分以外を指すものとする。

各文献におけるカタカナの使用実態を調査した結果、『国文学研究』におけるカタカナの用法が最も多様であり、特に非外来語のカタカナ表記の出現数が突出して多かった（詳細は後述）。そこで、本調査の対象雑誌を『国文学研究』とした。『国文学研究』におけるカタカナの用法を調査することで、学術雑誌全般における用法をカバーすることができると考えられるためである。ただし、それらのうち役割外のカタカナ表記の用例は非常に少数であるため、学術雑誌における役割外のカタカナ表記の実態を見る際、また、それらの特徴を考察する際には、予備調査で用いた雑誌全てにおいて出現した用例を参照する。なお、本章においても引き続き、非外来語のカタカナ表記を語の一部に含む複合語も非外来語のカタカナ表記語としてまとめて扱う（【クチコミ】など）。

7-4-2. 本調査の対象と方法

- ・対象誌：『国文学研究』第百六十一集（2010年）～第百七十五集（2015年）⁷¹
- ・文献数：計103本（論文61本、書評41本、資料1本）
- ・調査対象範囲：予備調査に同じ
- ・調査方法：調査対象範囲からカタカナ表記語を目視で抽出し、品詞、出現頻度と共にExcelに入力した。カタカナ表記語には、語形を表す用法など「語」とは言えないものも含む。雑誌の情報（第何集か）、文献の種類（論文・書評・資料の別）、テーマ、著者名、研究分野（日本文学・日本語学の別）も合わせて入力した。

7-5. 調査結果（本調査）

7-5-1. 『国文学研究』におけるカタカナ表記語

『国文学研究』におけるカタカナ表記語の出現状況を表2に示す。カタカナ表記語全体において非外来語はのべ

で38.2%、異なりで30.2%を占める。新聞における片仮名表記語を調査した中山恵利子（1998）で非外来語の比率は1割前後と

【表2】『国文学研究』におけるカタカナ表記語

カタカナ部分の語種	のべ		異なり	
	出現数	比率	出現数	比率
外来語	2,261	61.8%	584	69.8%
非外来語	1,399	38.2%	253	30.2%
合計	3,660		837	

⁷¹ 第6章のパッケージおよび交通広告と収集時期を合わせ、この期間とした。

の報告があることに鑑みれば、『国文学研究』におけるカタカナ表記語全体の出現傾向あるいは非外来語のカタカナ表記の用法は、新聞とは異なる可能性が高い。

7-5-2. 『国文学研究』におけるカタカナの役割

『国文学研究』におけるカタカナは、どのような役割をもって使用されているのであろうか。3,660件の用例を、先に設定した「A. カタカナの規範的な役割」「B. カタカナの準規範的な役割」の各項目に当てはめると表3のとおりであった⁷²。AとBの合計で、のべ99.5%、異なり98.6%を占め、『国文学研究』におけるカタカナはほとんどが規範的（A）あるいは準規範的（B）な役割をもって使用されていることがわかる。これらは受け手が「カタカナ表記規範感覚」をいだと見なせる語群である。

【表3】『国文学研究』におけるカタカナ 役割別

	用例	のべ		異なり			
		出現数	A・B・C 別合計	比率	出現数	A・B・C 別合計	比率
A. 規範的な役割			2,265	61.9%	588	70.3%	
①外来語、外国語	アメリカ、アイデア など	2,261			584		
②オノマトペ	ウロウロ、ゴミゴミ など	4			4		
③動植物名		0			0		
B. 準規範的な役割			1,375	37.6%	237	28.3%	
④俗語		0			0		
⑤専門的な用語	チョンガレ、フコト点 など	204			19		
⑥助数詞	数ヵ月、二ヵ月、三四ヵ国	3			1		
⑦記号としての用法	ア、キヤ、カッタ など	748			149		
⑧固有名詞	ポニョ、ヤマト など	390			63		
⑨能・狂言の用語	シテ、ワキ など	30			5		
⑩化学物質名		0			0		
C. A・B以外(役割外)	カギ、カタカナ、ズレ など	20	20	0.5%	12	12	1.4%
合計		3,660			837		

『国文学研究』においては特に、記号としての用法（B. 準規範的な役割⑦）が多く見られた。五十音図の段や行を示したり、方言等の語形を示したりするもので、分野の特徴が現れた用法である。これにより、本章で調査対象とした学術雑誌の中でも『国文学研究』における非外来語のカタカナ表記の出現数は突出して多い結果となっている。他の学術雑誌における結果（後掲表4）と比較すると、その差は顕

⁷² ①～⑩に割り振る際、判断に迷った場合は最も可能性の高い項目に入れた。「専門的な用語」と「名詞（一般）」の区別など、異なる考え方もありうるが、本章の論旨とは直接には関係しないためここではこれ以上の厳密な区別は行わない。

著である。そして、先に述べたとおり、『国文学研究』におけるカタカナの用法は学術雑誌全般におけるカタカナの用法をカバーしていると考えられる。したがって、学術雑誌全般において使用されるカタカナは、ほとんどが規範的あるいは準規範的と見なされる役割によるものであると結論づけられる。これは学術雑誌の改まり度の高さに由来するのであろう。

そのような中であって、A・Bに該当しない例（C）も存在する。本章で言うところの「役割外のカタカナ表記」であり、『国文学研究』ではのべ20件（異なりで12件）出現した。これらは先行研究において「非標準的なカタカナ表記」「非外来語のカタカナ表記」などとして出現要因が検討されてきた語群に相当する。次節では、学術雑誌において出現したこれらの「C. 役割外のカタカナ表記」を詳しく見ていく。以下、『国文学研究』と予備調査に用いた雑誌とを合わせて述べる時は「学術雑誌」と総称する。

7-6. 学術雑誌に出現した役割外のカタカナ表記

先述のとおり、学術雑誌に出現する役割外のカタカナ表記の用例は少ないため、本節では予備調査に用いた雑誌からも用例を抽出し、結果を示す。まず、予備調査に用いた雑誌におけるカタカナの使用状況を、研究科ごと、役割ごとに表4に示す。

①～⑩が7-2や表3で挙げた役割に対応する⁷³。

【表4】カタカナ表記語 出現数（『国文学研究』以外の予備調査で使用した雑誌）

研究科	論文数	A. 規範的			B. 準規範的						C	合計	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨			⑩
政治学	3	313											313
法学	4	206						2				1	209
文学	4	403	5									9	417
教育学	5	714		2	1		4	8				4	733
商学	4	743					1		1			5	750
国際情報通信(理工学術院)	3	938	2					15				6	961
社会科学	4	582		1			39					2	624
人間科学	3	206											206
スポーツ科学	2	451		4		3							458
国際コミュニケーション	2	561						1					562
アジア太平洋	2	381					3						384
日本語教育	4	936	1				2		2			1	942
合計	40	6,434	8	7	1	3	49	26	3	0	0	28	6,559
A・B・Cごと合計		6,449					82					28	
		98.3%					1.3%					0.4%	

⁷³ 机を並べた形を表す「ロの字型」の【ロ】は⑦に含めた。

AとBの合計で 99.6%を占め、『国文学研究』同様、カタカナはほとんどが規範的あるいは準規範的な役割をもって使用されている。「C. 役割外のカタカナ表記」は 28 件 (0.4%) であった。以上のA・B・Cがすなわち、表1の<1>に該当する語群である。

そして、Cの出現例を『国文学研究』とそれ以外の雑誌とに分けて示したものが表5・6である。表5・6ともに、「著者記号」欄に同じ記号が入力されている場合は同じ著者による用例である。空欄の場合は全て異なる著者による。

【表5】『国文学研究』における

役割外のカタカナ表記

品詞欄の「名」は名詞(一般)、「形動」は形容動詞語幹

論文で出現したもの

品詞		出現数	著者記号	テーマ
名	カギ	1		中古文学
名	カタカナ	1		近世文学
名	ズレ	6		近現代文学
名	セリフ	1		中世文学
名	パネ	1		近代文学
出現数 計		10		

参考: 書評で出現したもの(*は書評のみで出現)

品詞		出現数	著者記号	テーマ
名	セカイ *	1	a	近現代文学
名	モノ	1	a	近現代文学
名	カギ	1	b	近代文学
名	モノ	1	b	近代文学
形容詞	カワイイ *	1		現代文学
名	キモ *	1		近代文学
名	ズレ	1		中古 和歌
名	タコツボ型	1		近現代文学
形動	ヘン *	1		近現代文学
動詞	ブレる *	1		現代 文体論
出現数 計		10		

【表6】『国文学研究』以外の雑誌における役割外のカタカナ表記

品詞		出現数	著者記号	研究科	テーマ
名	メガネ	1		法学	緊急避難の制約根拠
名	セリフ	1		文学	ベンヤミン遺稿の解釈
名	ヒト	3	c	文学	子どもの権利
名	モノ	3	c	文学	子どもの権利
形動	ダメ	1	d	文学	犯罪心理学
名	ケガ	1	d	文学	犯罪心理学
名	カラオケ	3	e	教育学	高齢者学習
名	ハガキ	1	e	教育学	高齢者学習
名	クチコミ	2	f	商学	賃貸住宅市場
名	モノ	2	f	商学	賃貸住宅市場
名	バラつき	1	f	商学	賃貸住宅市場
名	ズレ	1		国際情報通信	e-learningシステム
名	バラつき	2	g	国際情報通信	ITプロジェクト
名	モノ	1	g	国際情報通信	ITプロジェクト
名	クチコミ	2		国際情報通信	ICTの進化
名	ツケ	1		社会科学	環境権の展開
名	ケガ	1		社会科学	宗教と健康
名	マンガ	1		日本語教育	学習者の人生
出現数 計		28			

ここで、『国文学研究』については「論文」と「書評」を区別し、書評で出現した例は分析の対象外とする。論文では、直接引用部分以外の地の文は著者自身の表記の方針や習慣に依って原則的には書かれるが、書評の場合は事情が異なると判断されたためである。批評する対象の書籍における表記を、そのまま地の文でも踏襲している用例が見られた。例えば【セカイ】はその例である。この書評では直接引用部分で先行して【セカイ】が使用されており、用例として抽出された【セカイ】はその直接引用部分における記述を受けて地の文で使用された表記であることが明らかであった。つまり、このカタカナ表記の出現は書評の著者の選択というよりも、批評される書籍の著者の表現意図によるものである⁷⁴。特に、書評のみに出現した用例は同様の背景によって出現している可能性が高い。書評のみで出現したカタカナ表記語（表5「参考」の*印）には形容詞や動詞などが含まれ、書評以外で現れたカタカナ表記とは傾向が異なることから、それが裏づけられる。

そこで、書評の10例は除外して表5・6をまとめると、学術雑誌に出現した役割外のカタカナ表記(C)は以下の16種類、のべ38件であった。下線のある語は他の文字種でも出現した語である。丸かっこ内の数字は、のべの出現数を示す。なお、【ヒト】は他の1本の文献において、「生物中の一類としての人間」（『日本国語大辞典』第二版「ひと」の項）の用法で4件出現していた。これはAの③に含めており、以下には含まれていない。

- ・ 3本の文献で出現：モノ(6)
- ・ 2本の文献で出現：クチコミ(4)、ケガ(2)、ズレ(7)、セリフ(2)、バラつき(3)
- ・ 1本の文献で出現：カギ(1)、カタカナ(1)、カラオケ(3)⁷⁵、ダメ(1)、ツケ(1)、ハガキ(1)、パネ(1)、ヒト(3)、マンガ(1)、メガネ(1)

⁷⁴ 「人が自分の頭の中にある概念を自ら書き記すこと」を「直接書記」、「他者の発話や頭の中の概念を第三者が書き記すこと」を「間接書記」という術語で表すこととするならば、書評は直接書記をベースとしながら間接書記が部分的に混在するという性質を持つテキストである。直接書記と間接書記という書記過程の違いは、文字種の選択に影響を及ぼす一因であると考えられる。

⁷⁵ 【クチコミ】と【カラオケ】は、外来語由来の成分を語の一部に持つことが、非外来語部分もカタカナ表記で出現する要因の一つであろう。土屋信一(1977)や笹原宏之(2013)が指摘してきたように、一連続のカタカナとして語がまとまるためである。

7-7. 多義語の表記

次節での検討に先立ち、上記 16 種類の語のうち多義語である「モノ」「カギ」「ヒト」については漢字・ひらがな表記も合わせて用例を確認し、どのような場合にカタカナ表記されるのかを探る。以下、「本章の調査対象」と言う際には『国文学研究』の書評は含まない。

多義語であることは、非外来語のカタカナ表記出現要因の一つである。先行研究では、例えばカタカナ表記によって意味が独立すること、漢字表記語の一種の同音異義語であることが非外来語のカタカナ表記出現要因の一つとして指摘され、語の例として【イケる】【クスリ】などが挙げられている⁷⁶が、それはその語が多義語であることが前提で成り立つ議論である。

◇【モノ】【物】【もの】

本章の調査対象においては、カタカナ表記【モノ】計 6 件のほか、漢字表記【物】が 27 件見られた。ひらがな表記【もの】は全ての文献に出現しており、出現頻度が極めて高い。同一の文献の中に【モノ】【物】【もの】3種類の表記が併存している例はなかった。

【モノ】が出現した 3 本の文献における【モノ】と【もの】の使用状況は次のとおりである。表 6 の著者 c の文献で、【モノ】が 3 件、【もの】が 18 件出現した。【モノ】は例 1 を含む 3 件全てが【ヒト】と並列して使用されていた。著者 f の文献では【モノ】2 件（例 2）、【もの】5 件であった。また、著者 g の文献においては、【モノ】は例 3 の文脈で 1 件、【もの】は 2 件出現していた。以下の用例においては、（後略）に代えて「…」を表示する。

（例 1）子どもが共同体内のヒトやモノ、情報などとの実践的な関係を通して自身を変容させ…

（例 2）従来の住宅が機能便益面を重視した「モノ」を提供するビジネスならば、こちらは「モノよりも、体験やライフスタイルを売る」ことを重視したビジネスだと言える。

⁷⁶ 生熊愛（2009）、奥垣内健（2010）による。

(例3) 簡単に言うと、価値観、モノの見方、判断の基準、常識などで…

3本いずれの文献においても、【もの】は全てが先行する具体的な事物あるいは抽象的な概念の代用であり、「もの」という語を用いずに書き換え可能な用例ばかりであった。表6にあるように、著者c・f・g 3者の分野やテーマは全て異なる。

次に、合計27件出現した【物】の用例を確認する。金銭、不動産など有形物を表す用法が4件、全て法学の論文で出現した。他には、【物真似】【食べ物にする】【生き物】【憑き物】【贈り物】などの複合語20件、【物自体】【能力が物を言う】【物の見方】各1件が、分野をまたいで出現した。「ものの見方」の「もの」は、異なる文献において【モノ】【物】の2通りで出現したことになる。

◇【カギ】【鍵】【かぎ】

「かぎ」は合計で7件出現し、内訳は【カギ】1件、【鍵】6件である。【かぎ】の用例はなかった。

「金属製の錠前」を示す【鍵】が1件見られた以外は、残りの6件（【カギ】1件、【鍵】5件）全てがその表記に関わりなく「物事を解決するために役立つ大事な事柄。問題を考えるための重要な手がかり」（『日本国語大辞典』第二版「かぎ」の項）の意味で使用されていた。本論文が調査対象とした学術雑誌においては、【カギ】と【鍵】の間に表記による意味の使い分けはないと考えてよいであろう。

◇【ヒト】【人】【ひと】

「ひと」は29件出現した。内訳は【ヒト】3件、【人】17件、【ひと】9件である。これ以外に、先にも触れたとおり【ヒト】が「生物中の一類としての人間」の用法で4件見られた。上記3件の【ヒト】はそれとは別の同一著者cによるものであり、【モノ】の項で挙げた例1がその用例のうちの一つである。3件ともに【モノ】と並列して【ヒトやモノ】というひとまとまりで使用されていた。

17件見られた漢字表記【人】の用例は、一部を挙げると例えば次のようである。

(例4) その事実のほうに人の意識を向けさせるのである。

(教育学研究科、テーマ：英文学)

(例5) 天文を学んだ人であるから… (『国文学研究』、テーマ：近世文学)

例4・例5を含め、【人】の用例は全て、ある特定の人物または世の中の間人一般を指したものであった。そして、9件の【ひと】は全て、日本語教育を専門とする同一著者による表記であり、例6・例7のような用例が見られた。また、同じ著者が一度だけ【人】を用いていた(例8)。【ひと】は全てが「日本語の学習者」を限定して指す場合に用いられていたが、例8の【人】は対象が人間一般に広がっている。

(例6) なぜ、ひとをある学習者集団としてカテゴライズし、…

(例7) 一人ひとりの“ひと”としての学習者の生涯学習…

(例8) このようなプロセスは、人が何かに強い興味・関心を抱き続ける限り、おそらく生涯継続される。

本論文の用例数はごく限られてはいるが、以上をまとめると、まず【モノ】は例1・例2に見られるように「資源」や「財産」としての「物」を表す時に出現する傾向がありそうである。これは、資源・財産としての【ヒト、モノ、カネ】という表現が流通し浸透したことによるのであろう。したがって、「人」「金」も、資源や財産を表す場合であって、特に【ヒトやモノ】【ヒト、モノ、カネ】などと他の語と共にひとまとまりで使用される時は、学術雑誌においてもカタカナで表記される可能性が高い。例1はその一例である。そして、【モノ】は、学術雑誌においては複合語の表記には用いられにくい⁷⁷。

7-8. コンテキストがカタカナ表記の出現に影響しない語

本章の以上の調査結果と検討に基づき、コンテキストがカタカナ表記の出現に影響しない非外来語(語群)を特定する。表1の<1>に該当する語群である。

「コンテキストがカタカナ表記の出現に影響しない」というのはつまり、「コンテキストがどのようなものであれカタカナ表記で出現しうる」という意味である。7-3でも述べたとおり、「改まった場でもカジュアルな場でも、場を選ばずにカタカ

⁷⁷ 本論文の調査対象では、テレビ番組のテロップにおいて【モノマネ】【旬モノ】【ホンモノ】が出現した。巻末の語彙表も参照。

ナ表記が使える語」と言い替えられる⁷⁸。そのような語群としては、まず「カタカナの規範的あるいは準規範的と見なされる役割に沿ってカタカナ表記される語」がある。すなわち、7-2「カタカナの役割」で挙げたAとB、①から⑩の語群である。これらは一般的にカタカナ表記が妥当と見なされる役割に沿った用法であるから、コンテキストによってその出現が左右されることは原則的でないはずである。本章の調査範囲においては⑩化学物質名のカタカナ表記の出現例はなかったが、それは⑩に該当する語自体が使用されていなかったことによる。化学物質名が学術雑誌で使用される時には、他のA・Bの語群同様、カタカナ表記で出現しうる。コンテキストがカタカナ表記の出現に影響しない語として、AとB、①から⑩の語群がまず特定できる。

学術雑誌におけるカタカナは、ほとんどが一般的に「カタカナの役割」と見なされている「規範的」「準規範的」な役割に沿って用いられていた。そのような学術雑誌という環境で見られる非外来語のカタカナ表記であれば、7-2「カタカナの役割」で挙げた語以外を表記しているものであっても、コンテキストに関わらずカタカナの使用が容認されている語と考えてよいであろう。つまり、本章におけるCの語群も、コンテキストがカタカナ表記の出現に影響しない語と見なすことができる。

以上を踏まえてまとめると、本章の結果の範囲において「コンテキストがカタカナ表記の出現に影響しない語」は以下のとおりとなる。これらの語群においてカタカナが選択される時には、コンテキスト以外の要素が優位に働いている。

I. カタカナの規範的あるいは準規範的な役割に沿ってカタカナ表記される語

(7-2で挙げたAとB、①から⑩の語群)

II. カギ、カタカナ、カラオケ、クチコミ、ケガ、ズレ、セリフ、ダメ、ツケ、ハガキ、バネ、バラつき、マンガ、メガネ

III. 多義語のうち、資源や財産を表す場合のヒト、モノ、カネ

⁷⁸ 第3章では、特定の非外来語をカタカナで表記することによって、カジュアルな場を作ることができる述べた。つまり、特定の非外来語がカタカナで書かれていることによって、受け手はそれがカジュアルな場であるということを察知することができる。しかし、ここに述べた「コンテキストがカタカナ表記の出現に影響しない語」は、それらの非外来語とは異なり、場を察知する手がかりとはならないということになる。

上記のうち、カタカナの規範的・準規範的な用法であるⅠを除いたⅡとⅢの語群に対し、本章では「慣用カタカナ表記」という術語を提案したい。現段階では、本章の調査で抽出された上記の例のみが、慣用カタカナ表記認定の対象である。本章で行ったようにコンテキストがカタカナ表記の出現を左右するかどうかで非外来語を分類することは、慣用カタカナ表記を認定する基準の一つとなる。

慣用カタカナ表記を認定できれば、非外来語のカタカナ表記の出現要因を総合的に考察するにあたって、「慣用カタカナ表記である」という新たな要素を一つ、立てることができる。非外来語のカタカナ表記の中には、現代においてすでに慣用化していると思なせそうなものも多く含まれるが、慣用化を認定する方法が考案されてこなかった⁷⁹。本章ではその方法を提示するとともに、上述したⅡ・Ⅲの語群に対して慣用カタカナ表記の認定を提案する。

そして、先行研究の章で述べたとおり、これまでカタカナによる「標準的」な表記と「非標準的」な表記との定義が明確ではなかった。この点に関しては、本章の結果を踏まえ、「標準的」を「7-2 で述べたA・Bの役割に沿って使用された場合」と定義したい。つまり、上述したⅠの語群がカタカナで表記される場合である。この定義に基づけば、ⅡとⅢの語群は『標準的』ではないが慣用が認められたカタカナ表記」という位置づけとなる。

7-9. 本章のまとめ

本章では、非外来語のカタカナ表記が出現しにくい資料を用い、コンテキストが非外来語のカタカナ表記の出現に影響するか否かで語を分類するという先行研究にはないアプローチで考察を行った。現代日本語におけるカタカナの役割を整理した上で、学術雑誌における実際の出現状況を踏まえて、コンテキストが非外来語のカタカナ表記の出現に影響しない語群を検討した。また、非外来語のカタカナ表記出現要因と関連して、「慣用カタカナ表記」という術語を立てることを提案し、カタカナによる「標準的な表記」の定義も行った。

本論文で述べてきたとおり、非外来語のカタカナ表記のなされる要因は多々指摘

⁷⁹ 先行研究の章で述べたとおり、堀尾香代子・則松智子（2005）は慣用化の基準を設定して考察しているが、対象が若者雑誌に限定されている。語も限られている。

されてきたが、どのような語がどのような場合にカタカナで表記されるのかという条件や、背景にある仕組みと原理は明らかになっていない。その様相は非常に個別であり、一般化が困難なものである。本章では「コンテキストに関わりなく出現するカタカナ表記」を特定し、その条件の一端を示した。

本論文の目的である非外来語のカタカナ表記出現の背景という観点では、「カタカナ使用が標準的である語群、およびカタカナ使用が標準的ではないが慣用と認められた語群は、コンテキストに関わりなくカタカナ表記される」という条件を提示することができる。

＜予備調査に使用した学術雑誌＞ ※研究科は早稲田大学ホームページ掲載順

- ・政治学研究科：『早稲田 政治公法研究』第 108 号（2015）
- ・法学研究科：『法研論集』第 152 号（2014）、『早稲田法学』第 89 巻 4 号（2014）
- ・文学研究科：『国文学研究』第百七十三集（2014）、
『文学研究科紀要』第 60 輯 第 1 分冊（哲学・東洋哲学・心理学・
社会学・教育学）（2014）
- ・教育学研究科：『教育学研究科紀要』No.25（2014）
- ・商学研究科：『商学研究科紀要』第 80 号（2015）、
『早稲田国際経営研究』第 46 号（2015 年 3 月）
- ・国際情報通信研究科：『GITS/GITI Research Bulletin』2011-2012（2012）、
同 2012-2013（2013）
- ・社会科学研究科：『早稲田 社会科学総合研究』第 15 巻第 2 号（2014 年 12 月）、
『社学研論集』第 24 号（2014）、第 25 号（2015）
- ・人間科学研究科：『人間科学研究』29（2016）
『早稲田大学臨床心理学研究』15(1)（2015）
- ・スポーツ科学研究科：『スポーツ科学研究』12（2015）
- ・国際コミュニケーション研究科：『国際コミュニケーション研究科紀要』1(2013)、
同 3(1)(2016)
- ・アジア太平洋研究科：『アジア太平洋討究』24（2015）
- ・日本語教育研究科：『早稲田日本語教育学』第 17 号（2014 年 5 月）

第8章 文字列環境と非外来語のカタカナ表記

8-1. はじめに

第7章までの考察の観点、語用論的な要素（コンテキストと、それに連動した表記主体の意識）や受け手の表記意識の形成といった、非言語的な側面であった。本章では視点を変え、言語的な側面、つまり形式の面に着目する。具体的には、文字列環境と非外来語のカタカナ表記出現傾向との関係を探る。非外来語のカタカナ表記がなされる要因として先行研究で指摘されてきた「文字列への埋没回避」の妥当性を検証する。

表記の「生産」「流通」「受容」の各過程という面では、ここまで「生産」と「流通」の観点から非外来語のカタカナ表記の実態を記述するとともに、そうした表記がなされる背景を探ってきた。また、「接触」と「受容」についても、それがどのように非外来語のカタカナ表記の出現要因となるのかを考察した。本章で取り上げる「文字列への埋没回避」は「生産」に関わる要因である。

以下ではまず、本論文における本章の位置づけを明確にし、関連する先行研究について述べる。そして、調査の概要に続いて検証結果を提示する。

8-2. 本論文における本章の位置づけ

本論文において何度か言及してきたように、「場面」「意識」「内容」「形式」は連動している（蒲谷宏 2006）。したがって、カタカナを含む文字種選択要因を考える時にはコミュニケーションの「場面」と表記主体の「意識」、伝えられる「内容」⁸⁰、言語の「形式」という異なる面から、しかし各々を考慮に入れて検討を行う必要がある。本章における分析は、それらのうち形式の面、つまり形を取って現れている文字を切り口にするものである⁸¹。

先行研究の章で述べたように、「非外来語のカタカナ表記」がなされる背景として、

⁸⁰ 「内容」は、第3章で述べたように表記以前の語の選択段階と関わる。本論文が扱うのは、ある内容を表現するために語が選択された次の段階としての、表記（文字種）の選択である。

⁸¹ 第3章で触れたとおり、本論文における「形式」はコミュニケーションにおける「場面」「意識」「内容」「形式」の4側面の一つとしての「形式」である。したがって、文字種は形式の一側面である。

「形式」の面では「文字列への埋没回避」や「語を強調し目立たせる」意図が要因となっていることがしばしば指摘されてきた。例えば、佐竹秀雄（2005）は「平仮名が続きすぎて読みにくいときや、その語を特に強調したいときなどにも片仮名が使われる」（p.34）と述べている。本論文においても、ここまでの各章において、文字列への埋没回避が非外来語のカタカナ表記の出現要因となっている可能性に言及しながら論じてきた。

「ひらがなが続くためカタカナにした」というのは確かに納得できる要因であり、直感的な印象としても大多数の日本語使用者の同意を得られるものであろう。しかし、従来の研究は実例を用いた検証によるものではなく、あくまで印象のレベルでの指摘にとどまっている。また、どのような語がどのような条件のもとで文字列への埋没回避のためにカタカナ表記されるのかという点まで踏み込んだ考察はなされていない。

そこで本章では、「文字列への埋没」を「ある語の最初の文字とそれに前接する文字が同じ文字種である、または最後の文字とそれに後接する文字が同じ文字種である状態」と定義し、文字列への埋没回避を主な目的として選択されたと解釈可能な非外来語のカタカナ表記がどのくらい存在するのかを、実例をもとに数値化して検証する。そして、「文字列への埋没回避が主な目的と解釈可能な非外来語のカタカナ表記」と、「それ以外の非外来語のカタカナ表記」、それぞれのなされた語がどのような属性を持つのかを提示し、非外来語がカタカナで表記される要因を探る。資料としては、テレビ番組の文字情報から収集した実例を用いる。

なお、本章では、埋没回避を「主な目的とする」という表現を用いるが、埋没回避だけを要因としてそれらの非外来語がカタカナで表記されていると主張するものではない。非外来語がカタカナ表記されるにあたって、文字列への埋没回避以外にはどのような要因が想定され、それらの要因はどのように関わり合っているのか。本章は、その背景を探究するために、想定される要因によって実例を仕分けする作業の一環と位置づけられる。

8-3. 関連する先行研究

上述のように、日本語学の分野においては、ひらがなが続く文字列において語が埋没するのを避ける「文字列への埋没回避」がカタカナの選択要因として指摘され

てきた。しかしそれは印象論にとどまってきた。一方、他分野に目を転じれば、文字種と読みやすさに着目した研究が存在する。ここでは、本章に関わる他分野の先行研究の例として、松田真幸（2001）が行った日本語文の「読み」に関する実験の概要を述べる。

松田（2001）は、平仮名文と漢字仮名交じり文それぞれにおいて、文節間空白がある場合とない場合とで「読み」にどのような影響があるかを明らかにするための実験を行った。すなわち、「漢字仮名交じり・文節間空白なし」「漢字仮名交じり・文節間空白あり」「平仮名・文節間空白なし」「平仮名・文節間空白あり」の4条件において、「文を読むのに要する時間」や「眼球運動」に対して文節間空白が及ぼす影響を検討したのである。

具体的には、上記の4条件に基づいて作成された以下のような刺激文（4種類）を62セット用意し、4つの条件の刺激文各々に対する読みの時間を分析するとともに、眼球運動を測定したものである。

<刺激文例>

- ・漢字仮名交じり・文節間空白なし

散歩を始めたらその効果があって、最近は元気になりました。

- ・漢字仮名交じり・文節間空白あり

散歩を 始めたら その 効果が あって、最近は 元気に になりました。

- ・平仮名・文節間空白なし

さんぽをはじめてたらそのこうかがあって、さいきんはげんきになりました。

- ・平仮名・文節間空白あり

さんぽを はじめてら その こうかが あって、さいきんは げんきに になりました。

実験の結果、漢字仮名交じり文の場合には、読みの時間と眼球運動のいずれにおいても文節間空白の影響はほとんど認められなかったという。一方、平仮名文の場合には、読みの時間に文節間空白の影響が認められ、空白がある時の方が読みの時間が短かった。上記4種類のうち、「平仮名・文節間空白なし」の場合、読みに要す

る時間は最も長いとの結果であった。この実験結果を受け、松田（2001）は、「文節間空白」および「漢字仮名交じり文における漢字」が統語解析を容易にすると結論づけた（p.92）。

以上の松田（2001）の実験結果によって、ひらがなのみが連続した文字列においては、漢字仮名交じり文や文節間に空白がある場合と比べて語の認知が難しくなることが立証されたと言える。非外来語のカタカナ表記の先行研究においては「ひらがなが連続すると読みにくい」という感覚的な指摘に留まっていたが、松田（2001）の実験結果はそれらの指摘に根拠を与え、裏づけるものである。

一方、第3章で見たように、埋没を避けるだけが目的であるならば、必ずしもカタカナを選択する必要がない例も実際は観察される。漢字で表記しても埋没回避が可能な文字列環境で出現するカタカナ表記である。また、語の前後に空白があるため、文字の連続による埋没を考慮する必要がない用例もある。それらはひらがなで表記しても語の認知が難しくなることはないはずである。本章の趣旨は、そのような例を除くと《文字列への埋没回避が主な目的と解釈可能な非外来語のカタカナ表記》は実際にどの程度出現しているのかを検証することである。

8-4. 調査の概要と検証の観点

調査の概要は次のとおりである。非外来語のカタカナ表記を、前接・後接する文字種との関係によって分類し数値化するため、非外来語のカタカナ表記に前接する文字および後接する文字に文字種ごとに数字を付与する。これにより、非外来語のカタカナ表記が現れている文字列の環境（文字列環境）⁸²を記号化し、計量できるようになる。

ある非外来語のカタカナ表記が、文字列への埋没回避の役割を果たしている場合でも、表記主体が埋没回避の意図を持って非外来語のカタカナ表記を選択したとは限らない。本章では、非外来語のカタカナ表記がなされる要因を検証するという目的のもと、客観的な判定が可能な文字の種類によって機械的に分類を行う。そして、まずは形の上で埋没していないと認められる「非埋没形」がどのくらい存在するのかを明らかにする。次に、それらのうち「文字列への埋没回避を主な目的として選

⁸² 文字列環境については第6章でも触れた。

択されたと解釈可能な非外来語のカタカナ表記」がどのくらい存在するのかを検証する。本章では研究の手続きとして、ある表記がなされるにあたって、表記主体に実際に「文字列への埋没回避を目的とする意図があったかどうか」は考慮せず、「文字列への埋没回避を主な目的として選択されたと解釈可能かどうか」に焦点を当てる。実際に埋没回避を目的とする意図があったかどうかは、一つひとつの用例の表記主体に尋ねなければわからないからである。そして、「文字列への埋没回避を主な目的として選択されたと解釈可能な非外来語のカタカナ表記」以外については、「埋没回避が目的でない想定」して稿を進める。

以上を踏まえ、次の5つの観点から検証を行う。

1. 非外来語のカタカナ表記は、どのような文字列環境でどの程度出現しているか。
2. 非埋没形と認められる非外来語のカタカナ表記は、どの程度存在するのか。
3. 埋没回避を主な目的として選択されたと解釈可能な非外来語のカタカナ表記はどの程度存在するのか。
4. 埋没回避を主な目的として選択されたと解釈可能な非外来語のカタカナ表記がなされる場合、それらの語はどのような属性を持っているか。また、埋没回避が目的でない想定される非外来語のカタカナ表記がなされる場合、それらの語はどのような属性を持っているか。
5. 以上の結果から、非外来語のカタカナ表記がなされる要因に関して何が示唆されるか。

以下、調査の対象および方法、調査結果、考察の順に述べていく。

8-5. 調査の対象および方法

8-5-1. 調査対象

本章における調査対象は、テレビ番組 60 本におけるテロップ（画面上に表示される文字情報）および画面内の文字情報（スタジオで使用されるボード等）⁸³ である。第3章で用いた 2011 年収集分に、2012 年収集分を加えた 60 本の内訳は以下

⁸³ 第3章で述べたとおり、テロップと画面内の文字情報は、いずれも同じ番組制作者が一定の方針のもと作成し、表示時間が短いという条件も同じであるため、本論文では両者ともに調査の対象としている。

のとおりである。

2011年1～4月放映分 29本、2012年10～11月放映分 31本

番組名は、本章末尾にまとめて掲げる。第3章と同様、全番組ジャンルのうち「報道」「教育・教養・実用」「スポーツ」「その他の娯楽番組」が対象である⁸⁴。また、上記60本に加え、その他の番組から随時個別に収集した文字情報も対象とした。次項で述べるとおり、文字列環境の調査対象となった非外来語のカタカナ表記は1,829件であった。

8-5-2. 調査方法

調査対象のテレビ番組を録画し、テロップおよび画面内の文字情報を表示される表記のとおり1行単位でExcelに入力した。改行されて2行で表示される場合は2行分の扱いとなる。

次に、非外来語のカタカナ表記を含む行を行単位で抽出した。カタカナ表記された非外来語のうち、文字種選択の余地がない、つまり前後の文字種に関係なくカタカナ表記されると考えられる固有名詞⁸⁵は調査対象から除外した。また、性別(【オス】【メス】)、化学物質名、助数詞⁸⁶も除外した。全く同じ文字列からなる行は、何回抽出されても1行として扱い、1行に複数の非外来語のカタカナ表記が含まれる場合は複数件として数えた結果、異なりで1,829件の非外来語のカタカナ表記が対象となった。

非外来語のカタカナ表記に前接・後接する文字種は、前接または後接する文字が「ない」場合を含め、各々8種類ある。すなわち「なし」「漢字」「ひらがな」「カタカナ」「Alphabet」「数字」「記号」「スペース」⁸⁷である。「なし」の場合は0、「漢字」の場合は1、「ひらがな」は2、というように、前接・後接する文字に、

⁸⁴ 第3章で行ったのと同様に、2012年分についても(株)ビデオリサーチの視聴率データを参考に、過去に視聴率が高かった番組を主に選定した。「音楽」「ドラマ」「アニメ」「映画」は対象外である。

⁸⁵ 固有名詞については後述する。

⁸⁶ 【3カ月】【1コ】など、前接する文字が洋数字・漢数字に固定しているため。

⁸⁷ 「なし」と「スペース」の違いについて:「なし」は、その語の前か後に文字が全く存在しない場合である。「スペース」は、スペースを挟んでその前か後に文字が存在する場合である。例えば【無理です マジで】の【マジ】の前接文字種はスペースである。

文字種ごとに数字を付与して記号化した（表1参照）。例えば、文字列環境「00」は、非外来語のカタカナ表記の前にも後にも文字が一切ないことを示す。「12」は、非外来語のカタカナ表記の前に漢字、後にひらがなが接していることを示す。

これら全てを組み合わせると、前接文字種・後接文字種によって作られる文字列環境は64種類となる。この64種類の文字列環境にある非外来語のカタカナ表記を数えた。なお、本章の調査ではカタカナ表記された部分を取り出し、その前後の文字に数字を付与したため、例えば【スゴい】は【スゴ】の前に文字がなく、後にひらがなが接している「02」となる。

非外来語のカタカナ表記の属性を見るにあたっては、『かたりぐさ』により品詞情報と語種情報を付与した。

8-6. 調査結果

以下、先に提示した5つの観点に従って結果を示す。

8-6-1. 非外来語のカタカナ表記が出現する文字列環境

非外来語のカタカナ表記の出現状況を文字列環境ごとに集計すると表1のとおりである。非外来語のカタカナ表記の出現数が多い文字列環境は、22（439件）と02（423件）の2種類である。一方で、非外来語のカタカナ表記が全く出現しない文字列環境や、出現数が10件以下の文字列環境も多く存在し、文字列環境ごとの差が大きい。

8-6-2. 非埋没形と認められる非外来語のカタカナ表記

非埋没形と認められる非外来語のカタカナ表記はどの程度存在するのか。非埋没形を「ある語の前あるいは後に文字がある。かつ、その語の最初の文字も最後の文字も同じ文字種に接していない」状態であると定義すると、非外来語のカタカナ表記が非埋没形となる文字列環境は、表1から00、03、07、13、23、30～37、43、53、63、70、73、77を除いた45種類である。これらの環境で出現した非外来語のカタカナ表記の合計は1,663件であった。これは全体（1,829件）の90.9%に当たり、非埋没形かどうかという形式の面から単純に見るならば、従来指摘されてきた「文字列への埋没を回避するためにカタカナ表記されている」という印象は妥当で

あると言える。これらの語において、カタカナは語と語の境目を示す役目を果たしている。該当する実例としては、例1・例2などが挙げられる。

(例1) 型破りのカラ破り！ (出典:「めざましテレビ・第2部」)

(例2) 今日は俺がホンモノを (出典:「情報7days ニュースキャスター」)

【表1】文字列環境(前接・後接文字種 組み合わせ)一覧 および 非外来語のカタカナ表記の出現状況

0:文字なし 1:漢字 2:ひらがな 3:カタカナ 4:Alphabet 5:数字 6:記号 7:スペース

環境	前接	後接	件数	環境	前接	後接	件数	環境	前接	後接	件数
00	なし	なし	70	30	カタカナ	なし	3	60	記号	なし	9
01	なし	漢字	117	31	カタカナ	漢字	0	61	記号	漢字	22
02	なし	ひらがな	423	32	カタカナ	ひらがな	4	62	記号	ひらがな	29
03	なし	カタカナ	9	33	カタカナ	カタカナ	0	63	記号	カタカナ	1
04	なし	Alphabet	2	34	カタカナ	Alphabet	0	64	記号	Alphabet	0
05	なし	数字	2	35	カタカナ	数字	0	65	記号	数字	0
06	なし	記号	65	36	カタカナ	記号	0	66	記号	記号	24
07	なし	スペース	32	37	カタカナ	スペース	1	67	記号	スペース	0
10	漢字	なし	37	40	Alphabet	なし	0	70	スペース	なし	28
11	漢字	漢字	29	41	Alphabet	漢字	0	71	スペース	漢字	15
12	漢字	ひらがな	85	42	Alphabet	ひらがな	0	72	スペース	ひらがな	49
13	漢字	カタカナ	3	43	Alphabet	カタカナ	0	73	スペース	カタカナ	0
14	漢字	Alphabet	2	44	Alphabet	Alphabet	2	74	スペース	Alphabet	0
15	漢字	数字	1	45	Alphabet	数字	0	75	スペース	数字	1
16	漢字	記号	16	46	Alphabet	記号	0	76	スペース	記号	15
17	漢字	スペース	6	47	Alphabet	スペース	0	77	スペース	スペース	11
20	ひらがな	なし	101	50	数字	なし	0			合計	1,829
21	ひらがな	漢字	89	51	数字	漢字	1				
22	ひらがな	ひらがな	439	52	数字	ひらがな	0				
23	ひらがな	カタカナ	4	53	数字	カタカナ	0				
24	ひらがな	Alphabet	4	54	数字	Alphabet	0				
25	ひらがな	数字	2	55	数字	数字	0				
26	ひらがな	記号	69	56	数字	記号	2				
27	ひらがな	スペース	5	57	数字	スペース	0				

8-6-3. 埋没回避が主な目的と解釈可能な非外来語のカタカナ表記

前項では、非埋没形と認められる非外来語のカタカナ表記は 1,663 件（全体の 90.9%）との結果を得た。しかしながら、これらの 1,663 件の中には、埋没を回避するためであれば漢字やひらがなを使用すればよい例が含まれている。それらはわざわざあえてカタカナ表記されたと見なすことができ、埋没回避以外の要因が働いて出現したものと解釈できる。

それでは、埋没回避を主な目的として選択されたと解釈可能な非外来語のカタカナ表記は、どの程度あるのか。結論から述べると、1,829 件中 442 件（全体の 24.2%）である。この結論に至った根拠は以下のとおりである。

まず、非埋没形のうち、埋没回避のためにカタカナ表記が選択でき、かつひらがな表記が選択できない文字列環境は、次の 13 種類である。

02、12、20、21、22、24、25、26、27、42、52、62、72

これらはすなわち、「前接あるいは後接文字種がひらがな」であり、なおかつ「前接・後接文字種いずれもカタカナではない」文字列環境である。例えば 01 や 10、51 などのように「前接あるいは後接文字種が漢字」であり、なおかつ「前接・後接文字種いずれもひらがなではない」文字列環境の場合は、埋没回避が目的であればひらがなを使用すればよいため、埋没回避のためにカタカナが選択されたとは言えず、ここでは対象外となる。

これら 13 種類の文字列環境で現れた非外来語のカタカナ表記は、1,295 件であった（表 2）。しかし、この中には、埋没回避が目的ならば漢字を用いることも可能な例も存在する。例えば表 2 の文字列環境 24 の例【もう一度見たい！動物のギモン SP】は、【もう一度見たい！動物の疑問 SP】としても埋没は回避できる。つまり、この【ギモン】のカタカナ表記には、埋没回避の意図以外の要因が優勢に働いている可能性が高い。先に挙げた例 2 の【今日は俺がホンモノを】も同様である。そして埋没回避の意図については、働いた可能性と働かなかった可能性のいずれも想定でき、形式からは判別できない。

そこで、実例を要因によって仕分けするという本章の目的を達するため、次に上記 1,295 件から漢字表記が可能な非外来語のカタカナ表記を除外する。対象となる

のは、「漢字があり、かつ漢字を使用しても埋没しない」例である。上記【ギモン】や表2の文字列環境 62 の例【ラク】などが該当する。これらを以下「使用可能な漢字がある」と称する。除外後の「A. 漢字表記が存在しない」例（以下、Aを付して示す）と「B. 漢字を使用すると埋没する」例（以下、Bを付して示す）が、ここでの焦点である「埋没回避を主な目的として選択されたと解釈可能な非外来語のカタカナ表記」に該当する。

【表2】カタカナ表記が埋没回避のために選択できる文字列環境

0:文字なし 1:漢字 2:ひらがな 3:カタカナ 4:Alphabet 5:数字 6:記号 7:スペース

	前接	後接	例(…は省略部)	合計 件数	使用可能な 漢字がある	A.漢字表記が 存在しない	B.漢字だと 埋没する
02	なし	ひらがな	マネしたくなる…	423	311	112	0
12	漢字	ひらがな	毎月ゴミが出る	85	0	23	62
20	ひらがな	なし	インド進出のワケ	101	87	14	0
21	ひらがな	漢字	鼻づまりカンタン解消法 最新版公開	89	14	22	53
22	ひらがな	ひらがな	彼はマジメな生活して	439	323	116	0
24	ひらがな	Alphabet	もう一度見たい！動物のギモンSP	4	4	0	0
25	ひらがな	数字	ボクはユゾ0.11がありますから	2	2	0	0
26	ひらがな	記号	赤ちゃんがケガ！？	69	56	13	0
27	ひらがな	スペース	沢山あげなアカン 時間を	5	4	1	0
42	Alphabet	ひらがな	-	0	0	0	0
52	数字	ひらがな	-	0	0	0	0
62	記号	ひらがな	落ちにくい湯アカも、ラクにピカピカ！	29	23	6	0
72	スペース	ひらがな	こういう ネチャネチャした感じは	49	29	20	0
合計				1,295	853	327	115
						A・B 計	442

出典:02・25:「ぷっすま」、12・22・27:「行列のできる法律相談所」、

20:「真相報道バンキシャ!」、21:「世界一受けたい授業」、24・62:その他の民放番組、

26:「ダーウィンが来た!」、72:「これが世界のスーパードクター!第14弾」

12と21では漢字を使用すると漢字が続いて埋没する例が大勢を占めるが、21においては、漢字を使用しても送り仮名が存在することによって埋没が回避できる例も含まれる（例えば【そろそろヒキ始めてる】⇒【そろそろ引き始めてる】）。それらは「使用可能な漢字がある」に分類する。反対に02、22、62、72においては、漢字を使用すると送り仮名が存在することによってひらがなと連続し、後接部分が

埋没する例が含まれる(例えば【タカさんハズレてそう】⇒【「タカさん外れてそう」】。これらも本章では「使用可能な漢字がある」に分類する⁸⁸。なお、ここでは使用可能な漢字が常用漢字かどうかは考慮しない。【凄い】【綺麗】など、常用外であっても漢字表記が観察される語も少なからず存在するためである。

結果、1,295 件の非外来語のカタカナ表記のうち、「A. 漢字表記が存在しない」あるいは「B. 漢字を使用すると埋没する」ものは 442 件であった(表 2)。これらは、文字列への埋没回避を主な目的として非外来語のカタカナ表記が選択された可能性が高く、形式の面においても実際に埋没回避の役割を果たしていることが確認できるものである。

442 件の具体例として、例えば次の例 3・例 4 などがある。カタカナ表記されている部分をひらがなに置き換えてみると、カタカナ表記によって埋没を避ける効果が確認できる。

(例 3) こんなにコリコリしてなかった (出典:「ペケ×ポン」)

(例 3') こんなにこりこりしてなかった

(例 4) それにしてもソックリね (出典:「ザ！世界仰天ニュース」)

(例 4') それにしてもそっくりね

例 3' よりは例 3 が、例 4' よりは例 4 が読みやすいのは明らかである。テロップは短時間で消えるため、他の媒体以上に、埋没を回避する工夫がなされているはずである。本章冒頭で述べた松田(2001)の実験結果によれば、ひらがなが連続した文字列よりも漢字仮名交じり文のほうが単語の認知は容易になる。その点で例 3 と例 4 においてカタカナは漢字と同等の機能を果たしていると考えられる。ほかに、A・B に該当する語の例として、「ぎくしゃく」「ぐさり」などの副詞類、「ずれる」「ばてる」などの動詞類、「うざい」「ぼろい」などの形容詞類、「ぶす」「ぶれ」「はがき」などの名詞類が見られた。

なお、例 3 はオノマトペであることが、そして例 3・例 4 ともに発話を文字化したものであることが、カタカナ表記された要因の一つであると解釈することもでき

⁸⁸ 02、22、62、72 はもともと後接文字種がひらがなであり、漢字を使用することでひらがなの送り仮名が生じて、漢字部分の後接文字種はひらがなのまま変わらないため。

る。また、そもそも本章の調査対象であるテレビ番組の文字情報は、表示時間が短いという時間的な制約を持つ文字資料である。カタカナ表記が選択される背景を総合的に考察する際には、オノマトペであることや元が発話であること、資料の特性なども考慮し、要因同士の関わり方も見ていく必要があるが、ここではあくまで埋没回避に観点を絞って集計を行っている。

8-6-4. 非外来語のカタカナ表記語の属性

①埋没回避を主な目的として選択されたと解釈可能な非外来語のカタカナ表記語（以下、①を付して示す。442件）は、どのような属性を持っているのか。また、②埋没回避が目的でないと想定される非外来語のカタカナ表記語（以下、②を付して示す。1,387件）はどのような属性を持っているのか。①②各々に属する語を「品詞」「語種」「漢字に関わる条件」の観点で集計すると、表3～5のとおりである。

・埋没回避が主な目的と解釈可能な非外来語のカタカナ表記語の属性

表3～5にあるとおり、①埋没回避を主な目的として選択されたと解釈可能な非外来語のカタカナ表記語の40.7%は、「副詞」である。語種の面では88.7%が「和語」であり、漢字に関わる条件の面では、「A. 漢字表記が存在しない」語が73.3%を占める。

ここからさらに「品詞」「語種」「漢字に関わる条件」の3つの観点を統合して集計すると、表6のとおりとなる。品詞のうち、出現数5以下のものは除き、438件を対象とした。①埋没回避が主な目的と解釈可能な非外来語のカタカナ表記語は、表4でも見たとおり「和語」への偏在が確認できる。A. 漢字表記が存在しない「和語」では表6に挙げたどの品詞においても現れており、特に「副詞」は①全体442件中175件（39.6%）を占める（先に挙げた例3などが該当）。

・埋没回避が目的でないと想定される非外来語のカタカナ表記語の属性

表3～5にあるとおり、②埋没回避が目的でないと想定される非外来語のカタカナ表記語の55.6%は「名詞（一般）」である。語種の面では67.8%が「和語」であり、「漢語」も17.5%を占める。漢字に関わる条件の面では、使用可能な漢字があるにもかかわらずカタカナ表記された語が75.5%にのぼるという結果である。

【表3】非外来語のカタカナ表記語(品詞別)

品詞		①埋没回避が 主な目的		②埋没回避が 目的でない	
		件数	比率	件数	比率
名詞	一般	115	26.0%	771	55.6%
	代名詞	9	2.0%	114	8.2%
	形容動詞語幹	39	8.8%	130	9.4%
	サ変接続	16	3.6%	26	1.9%
	略語	0	0.0%	2	0.1%
	接尾辞	0	0.0%	2	0.1%
	数	0	0.0%	4	0.3%
	その他	1	0.2%	0	0.0%
動詞		34	7.7%	54	3.9%
形容詞		28	6.3%	104	7.5%
副詞		180	40.7%	87	6.3%
感動詞		17	3.8%	82	5.9%
連体詞		0	0.0%	4	0.3%
助詞		0	0.0%	0	0.0%
助動詞		3	0.7%	1	0.1%
その他		0	0.0%	6	0.4%
合計		442		1,387	

【表4】非外来語のカタカナ表記語(語種別)

語種	①埋没回避が 主な目的		②埋没回避が 目的でない	
	件数	比率	件数	比率
和語	392	88.7%	940	67.8%
漢語	22	5.0%	243	17.5%
混種語	21	4.8%	151	10.9%
その他・不明	7	1.6%	53	3.8%
合計	442		1,387	

【表5】非外来語のカタカナ表記語(漢字に関わる条件別)

漢字に関わる条件	①埋没回避が主な目的		②埋没回避が目的でない	
	件数	比率	件数	比率
使用可能な漢字あり(*)	0	0.0%	1,047	75.5%
A. 漢字表記が存在しない	324	73.3%	161	11.6%
B. 漢字だと埋没する	115	26.0%	171	12.3%
その他・不明	3	0.7%	8	0.6%
合計	442		1,387	

*「使用可能な 漢字あり」のうち	①埋没回避が主な目的		②埋没回避が目的でない	
	件数	比率(対全体)	件数	比率(対全体)
常用漢字	-	-	551	39.7%
常用外	-	-	496	35.8%
合計	-	-	1,047	75.5%

【表6】①埋没回避が主な目的と解釈可能な非外来語のカタカナ表記

	和語			漢語			混種語			その他・不明			計							
	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B		
名詞 (一般)	29	56(30)			9(4)			13(9)	1	4	1(0)	2	0	33	79(43)	0	33	79(43)		
名詞 (代名詞)	8	1(0)											0	8	1(0)	0	8	1(0)		
名詞 (形容動詞語幹)	24				13(11)			2(2)					0	24	15(13)	0	24	15(13)		
名詞 (サ変接続)	15	1(0)											0	15	1(0)	0	15	1(0)		
動詞	28	6(4)											0	28	6(4)	0	28	6(4)		
形容詞	20	4(1)						4(4)					0	20	8(5)	0	20	8(5)		
副詞	175	5(1)											0	175	5(1)	0	175	5(1)		
感動詞	17												0	17	0	0	17	0		
計	0	316	73(36)	0	0	22(15)	0	0	19(15)	1	0	4	1(0)	2	0	320	115(66)	3		
																			合計	438

※漢有：使用可能な漢字あり、漢A：漢字表記が存在しない、漢B：漢字だと埋没する、漢他：その他・不明

※()内の数字は、()の前に示した数に含まれる常用漢字の数

【表7】 ②埋没回避が目的でないと思定される非外来語のカタカナ表記

名詞 (一般)	和語			漢語			混種語			その他・不明			計			
	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	
	414(203)	22	76(36)	1	128(75)	20(11)	5	36(28)	1	25(14)	2	32(25)	4	5(0)	610(331)	
名詞 (代名詞)	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	
	96(17)	1	11(11)	4(4)		1(1)		1(1)							12(12)	
名詞 (形容動詞語幹)	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	
	12(10)	4	1(0)	45(40)	2(2)			64(63)		2(2)					5(4)	
名詞 (サ変接続)	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	
	11(0)	2	2(0)	7(7)	4(4)										6(4)	
動詞	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	
	48(32)							5(5)		1(1)					1(1)	
形容詞	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	
	87(8)	4	5(0)					7(7)		1(1)					4	
副詞	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	
	12(3)	61	7(0)	6(2)	1(0)										61	
感動詞	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	
	2(2)	47	1(1)	15(9)	1(0)			6(5)							57	
計	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	漢有	漢A	漢B	
	682(275)	141	103(48)	1	205(137)	0	29(18)	5	119(109)	1	29(18)	2	32(25)	14	5(0)	1,038(546)
																156
																166(84)
																8
																合計
																1,368

※漢有:使用可能な漢字あり、漢A:漢字表記が存在しない、漢B:漢字だと埋没する、漢他:その他・不明

※()内の数字は、()の前に示した数に含まれる常用漢字の数

ここからさらに「品詞」「語種」「漢字に関わる条件」の3つの観点を統合して集計すると、表7のとおりとなる⁸⁹。表6同様、品詞のうち出現数5以下のもの、および「その他」は除き、1,368件を対象とした。

②埋没回避が目的でない想定される非外来語のカタカナ表記は、使用可能な漢字がある「和語」において、表7に挙げたどの品詞においても現れる。特に「名詞（一般）」の場合、②全体1,387件中414件（29.8%）であり、そのうち203件は常用漢字で書くことが可能な語である（表2の20の例などが該当）。使用可能な漢字がある「漢語」においても、「動詞」「形容詞」以外の品詞で現れている（表2の24、26、62の例などが該当）。

8-6-5. 非外来語のカタカナ表記が出現する背景—文字列への埋没回避の観点から

先に見たように全体の90.9%が形の上では非埋没形と認められても、「使用可能な漢字がある」などの条件を加えていくと、①埋没回避が主な目的と解釈可能な非外来語のカタカナ表記は全体の約4分の1にまで減少する。これは、一つの非外来語のカタカナ表記に複数の要因が働いていることを裏づける事実である。

また、注目すべきは、表5で見られたように、②埋没回避が目的でない想定される非外来語のカタカナ表記の75.5%は使用可能な漢字があってもカタカナ表記されている点である。しかも39.7%は、常用漢字で書けるにもかかわらずカタカナ表記されている。

②がなされる文字列環境を確認すると、大きく次の3通りがある。

- a カタカナ表記にする必然性がない文字列環境
(00、01 など、漢字またはひらがなが選択可能な環境)
- b カタカナ表記にすることでかえって文字列に埋没する文字列環境
(03、13 など、前接・後接のいずれかあるいは両方がカタカナである環境)
- c 8-6-3 で見た13種類の文字列環境において、漢字が使用可能であるにもかかわらず漢字ではなくカタカナが使用されている場合(02、22などの一部)

⁸⁹ 属性「漢語／名詞（一般）／漢他」の5件は、「不細工」を省略した【ブサ】を含む語と「普通」を省略した【フツ】を含む語である。

a はさらに、次の2通りに大別できる。

a - I 漢字・ひらがな・カタカナのいずれを選んでもよい環境 (00、04 など)

a - II ひらがなを選んでもよい環境 (01、10 など)

このように、②埋没回避が目的でない想定される非外来語のカタカナ表記は、漢字があって埋没させずに使用可能である語や、漢字が使用できない（漢字表記がない、または漢字だと埋没する）場合でもひらがなで書ける語に現れる。要因同士の関わり合いという観点からは、②においては埋没回避以上に優先される要因があつて働いていることが明らかとなった。そしてbのような例も見られることから、積極的に何らかの意図のもと非外来語のカタカナ表記が選取られている可能性が示唆される。

次に①と②の属性を比較すると、②の非外来語のカタカナ表記は、①に比べ、漢語を表記する際に多種類の品詞で現れる。表4で見たとおり、②においてはもともと①よりも漢語のカタカナ表記の比率が高いのであるが、そればかりでなく、①では全く見られなかった「名詞（代名詞）」「名詞（サ変接続）」「副詞」「感動詞」においてもカタカナ表記が現れるのが②の特徴である（表6・表7参照）。例えば以下のような例があり、これらも積極的に非外来語のカタカナ表記が選ばれている例と言えそうである。

(例5) 時差あるから ちょっとボク… (出典：「ためしてガッテン」)

(例6) ホントにピタッと当たる (出典：「池上彰の学べるニュース」)

では、①埋没回避が主な目的と解釈可能な非外来語のカタカナ表記の方は、埋没回避を第一の目的としてカタカナ表記されたのかと言え、そうとも言い切れない。例えば本論文で何度か述べてきたように、発話を文字化したテロップは、先行研究で指摘されてきた「口調などを反映させる」（佐竹 2005, p.48 など）狙いによってカタカナ表記された可能性がある。また、埋没回避以前にオノマトペであることがカタカナ表記を促すとも推測される。①における埋没回避は、「ほかの要因によって非外来語がカタカナで表記された結果、埋没回避もなされた」という二次的・副次

的にもたらされた結果であり、単に埋没回避だけを目指した表記というのはごく少数である可能性が示唆される。

ここで先に提示した表 1 を見ると、前接・後接文字種ともにひらがなである文字列環境 22 において非外来語のカタカナ表記が多く出現するのは、当然のように思われる。現代日本語においては、助詞や活用語尾は原則的にひらがなで書かれるためである。しかし、表 2 で示したように 22 には使用可能な漢字がある語が 439 件中 323 件含まれており、必ずしもカタカナで表記する必要はない。非外来語がカタカナで表記される要因を考えると、一律に「前後をひらがなに挟まれているから」とは言えない。

先行研究において長きにわたり指摘されてきた埋没回避は、複合的・重層的に関わり合う非外来語のカタカナ表記出現要因の一要素では確かにあるものの、それが要因として働く語には一定の傾向があり、また、常に優勢で大きな力を持つものではないと結論づけられる。

8-7. 本章のまとめ

本章で調査対象としたテレビ番組の文字情報においては、形の上で非埋没形と認められる非外来語のカタカナ表記は全体の 90.9%であった。そして、①文字列への埋没回避を主な目的として選択されたと解釈可能な非外来語のカタカナ表記は全体の約 4 分の 1 であった。文字列への埋没を回避しようとする意図が、一定数の非外来語のカタカナ表記の選択要因となっている可能性が示唆された。

一方で、埋没回避は二次的・副次的な要因であり、単に埋没回避だけを目指した表記はごく少数である可能性も見て取れた。②埋没回避が目的でない想定される非外来語のカタカナ表記においては、埋没回避以上に優先される要因があって働いていることが明らかであり、何らかの意図のもとで積極的に非外来語のカタカナ表記が選び取られている可能性がある。

本章では、埋没回避という狭い観点、また、「品詞」「語種」「漢字に関わる条件」という限られた属性による仕分けを行い、数字から読み取れることに焦点を絞って述べてきた。しかし実際には、非外来語のカタカナ表記がなされる要因は実例ごとに個別的であり、かつ複合的・重層的である。

本論文の目的である非外来語のカタカナ表記出現の背景という観点では、「どの

ような語がどのような条件のもとで文字列への埋没回避のためにカタカナ表記されるのか」という問いに対し、以下のような条件を提示することができる。

- ・使用できる漢字がない語が、語の前後またはそのいずれかでひらがなに接している場合
- ・使用できる漢字がある語が、漢字を使用すると語の前後いずれかが漢字と連続する文字列環境にある場合。かつ、ひらがなを使用すると語の前後またはそのいずれかがひらがなと連続する文字列環境にある場合
- ・以上の条件を満たす語のうち、特に属性が和語と副詞であるもの

非外来語のカタカナ表記がなされるにあたっては、どのような要因がどのように関わり合っているのか。要因同士が関わり合う仕組みと原理を多角的、総括的に考察し、記述するのが次の課題となる。

<用例出典>

テレビ番組の文字情報（用例件数 1,829 件）：2011 年 1～4 月放映 29 番組、2012 年 10～11 月放映 31 番組 合計 60 番組、その他随時収集したもの。以下、「番組名」放送局の順に示す。2 回以上使用した番組は、放送局の後に回数を丸かっこに入れて示す。

放送局の「総」は「NHK 総合」、「日」は「日本テレビ」、「T」は「TBS」、「フ」は「フジテレビ」、「朝」は「テレビ朝日」の略である。

「ニュース・気象情報」総(2)、「NHK 7 時^{ママ}58 ニュース」総、「首都圏ニュース 845」総(4)、「首都圏ネットワーク」総、「ニュースウオッチ 9」総(2)、「NHK ニュースおはよう日本」総、「NEWS23 クロス」T (2)、「NEWS ZERO」日、「NHK ニュース 7」総(2)、「報道ステーション」朝(2)、「LIVE 2011/2012 ニュース JAPAN」フ(2)、「news every. 第 1・2 部」日、「そうだったのか！池上彰の学べるニュース」朝、「爆笑問題のニッポンの教養」総、「サンデーモーニング」T、「真相報道バンキシャ！」日(2)、「ダーウィンが来た！」総(2)、「Mr. サンデー」フ(2)、「クローズアップ現代」総(2)、「ためしてガッテン」総(2)、「あさイチ」総、「情報 7 days ニ

ュースカスター」T(3)、「めざましテレビ・第2部」フ、「満天・青空レストラン」日、「がちりマンデー！」T、「これが世界のスーパードクター 第14弾」T、「すぽると！」フ(2)、「S・1」T、「サンデースポーツ」総、「ぴったんこカン・カン」T、「世界一受けたい授業」日、「行列のできる法律相談所」日、「ペケ×ポン」フ、「笑点」日、「ぷっすま」朝、「マツコの知らない世界 SP」T、「もしものシミュレーションバラエティー お試ししかっ！」朝、「鶴瓶の家族に乾杯」総、「SMAP×SMAP」フ、「世界の果てまでイッテQ！」日、「ザ！世界仰天ニュース 2時間 SP」日、「いきなり！黄金伝説。」朝、「中居正広のキンスマスペシャル」T

第9章 非外来語のカタカナ表記出現要因の関わり—CMの文字情報を例に

9-1. はじめに

ここまで本論文では、調査対象を変えながら現代日本語におけるカタカナ使用の実態を記述し、非外来語のカタカナ表記が出現する要因を探ってきた。

まず、非外来語のカタカナ表記がなされる時、先行研究では指摘されてこなかった語用論的な要素が背後には働いていることを示した。受け手の表記意識への影響という切り口でも考察を行い、受け手の意識上に形成される「カタカナ表記が存在する」「カタカナで書かれることがある」といったカタカナ表記に対する感覚や、表記に対する個人的な基準感覚も文字種が選択される背景にある要素であることを述べた。

また、非外来語のカタカナ表記がなされる条件を明らかにする作業の一環として、コンテキストがカタカナ表記の出現に影響するか否かという観点での語の分類を試みた。そして、コンテキストがカタカナ表記の出現に影響しない語群、つまりどのようなコンテキストにおいても出現することが見込まれる語群がカタカナで表記されて出現するものを、「慣用カタカナ表記」として認定することを提案した。

さらに、「文字列への埋没回避」に関する検証を行い、文字列への埋没を回避しようとする意図が一定数の非外来語のカタカナ表記の選択要因となっている可能性があること、しかし一方で、単に埋没回避のみを目指した表記は少数であり、埋没回避以上に優先される要因が働いていることが明白であることも示した。

次に必要なのは、要因が複合的・重層的に関わり合う仕組み（様相）と原理を記述することである。本章では、非外来語のカタカナ表記が出現する際の要因相互の関わりについて考察する。

非外来語のカタカナ表記が出現する背景を総括的に捉えるには、多様な要因と語を相互に関連づけながら整理・分類する必要がある。先行研究によって明らかにされてきた多種多様な要因は言わば点在している状態であり、整理されることも、相互に関連づけて捉えることもなされてこなかった。次元や性質の異なる要因が混在しているにもかかわらず、それらを区別して捉える視点が十分ではなかった。

本論文ではまず、非言語的要因と言語的要因とを区別して捉える⁹⁰。非言語的要因と言語的要因の各々には、先行研究で指摘されてきたさまざまな要因が含まれる。本論文では、第2章でコンテキストを非言語的要素、文脈を言語的要素として区別して示したほか、第4章と第5章で非言語的要因と言語的要因とを区別する必要性を述べた。そして、特に非言語的要因の「コンテキスト」や「コンテキストと連動した表記主体の意識」といった語用論的要素、また、言語的要因としての「文字列への埋没回避」を扱ってきた。

非言語的要因と言語的要因の両者を区別して考えると、言葉には必ずそれが使用される場、つまりコンテキストがあることから、ある表記が出現する要因は全てが「非言語的要因＋言語的要因」という二重構造を持っていることになる。

式A⁹¹： 非言語的要因＋言語的要因

本章では、式Aに示す構造を前提として非外来語のカタカナ表記の出現要因を複合的・重層的に捉える。複数の要因が関わり合う仕組み（以下「要因構造」）を考察し、条件や語の異なりによって要因間の力関係が変化する様相の一端を示す。次に、条件によって変化する要因構造を、用例ごとに個別に把握しうる式を提示する。これにより、先行研究の成果を総合的に統合し、非外来語のカタカナ表記が出現する背景を総括的に捉えたい。資料として、本論文でまだ媒体別の用例を提示していないCMの文字情報を用いる。本章の主目的は要因構造を考察することであるが、CMの文字情報の実態を記述し、示すことも意図している。

⁹⁰ さらに、言語的要因には言語外的要因と言語内的要因の双方が含まれている。吉田充良（2014）は、先行研究の問題点の一つとして、「表外漢字」や「固有名詞」、「専門用語」などの言語外的要因によるカタカナ表記と、語の意味変化、統語的・文法的な機能変化との相関などの言語内的要因によるカタカナ表記とが厳密に区分されずに研究されてきた」点を指摘している（pp.112-113）。言語外的要因と言語内的要因の区別も必要であろうが、本論文では、まずは非言語的要因と言語的要因の区別に主眼を置き、言語外的要因と言語内的要因は区別せずに扱う。

⁹¹ 以下、本論文では、要因の構造を示すのに便宜上「式」という表現を用いる。本章および第10章で提示する式は、第5章（5-3）で提示したブラウン&レビンソンのフェイスの侵害度を測定する公式と同じく、言語事象を取り巻く諸要素の構造を可視化して提示するためのモデルである。具体的な数値を代入して計算するためのものではない。

9-2. 資料と用例の分類に関して

・資料

CM で表示された文字情報から抽出した非外来語のカタカナ表記の用例 838 件のうち、第 3 章・第 6 章同様に固有名詞等を除外した 393 件を対象とする。

対象 CM は、第 4 章の調査対象と同じである。(2011 年 1～4 月、2012 年 10～11 月放映の CM および追加収集した CM : のべ 1,564 本、異なり 1,003 本)

・用例の抽出方法

本論文の各章における調査と同様である。録画した CM で表示された文字情報を、表示される文字種のとおり 1 行単位で Excel に入力した。そして、非外来語のカタカナ表記を含む行を行単位で抽出した。全く同じ文字列からなる行は、何回抽出されても同一の 1 行として扱った。1 行に複数の非外来語のカタカナ表記が含まれる場合は複数件として数えた。

・用例の分類

カタカナ表記された非外来語をいくつかの属性によって分類する。第 8 章と同じ方法にて、非外来語のカタカナ表記が出現している文字列環境を軸に用例进行分类していく。文字列環境による分類に先立ち、固有名詞など明らかに文字列環境以外の要因でカタカナ表記されると考えられるものは分離する。

文字列環境についての考え方、語の定義、および表 2・表 3 の結果に至る分類の過程は、第 8 章とほぼ同じである。まず、前接・後接文字種を組み合わせた 64 種類の文字列環境によって非外来語のカタカナ表記进行分类した後、用例を「①埋没回避を主な目的として選択されたと解釈可能な非外来語のカタカナ表記」(以下、①を付して示す) と、「②埋没回避が目的でないと想定される非外来語のカタカナ表記」(以下、②を付して示す) に分類する。①は、漢字またはひらがなで表記すると前接・後接のいずれかが埋没する環境で出現しているカタカナ表記である。つまり、語が文字列に埋没するのをカタカナ表記によって避けていると解釈できる用例である。

第 8 章との相違点として、総括的な検討に向けて、本章では①を漢字の観点からさらに細分化し 3 種類に分ける (表 2 参照)。1 種類目は、前接または後接文字種が

ひらがなであるもののうち「A. 漢字表記が存在しない」（以下「漢A」と略す）例である。2種類目は、前接あるいは後接が漢字であるため「B. 漢字を使用すると埋没する」（以下「漢B」と略す）例である。さらに漢Bには、送り仮名が生じることによって後接部分がひらがなと連続して埋没する例が含まれる（例えば「ニオイの原因菌」⇒「臭いの原因菌」）。これらを3種類目の「C. 漢字を使用すると後接部分が埋没する」（以下「漢C」と略す）例として区別する。

①と②に分類した後、漢字に関わる条件と語種によって用例をさらに細かく分類する。漢字に関わる条件の中でも、非外来語のカタカナ表記の出現に関わり、かつ客観的な分類の観点として明確であるのは、まず「常用漢字かどうか」という点である。また、上述したように、文字列環境によっては「漢字で書くと埋没する」という条件も加わる。ほかにも漢字に関わる条件については先行研究にも指摘が多々あり、用例によって個別的な要素が働く。それについては後述する。

9-3. 分類結果

本節では、上述した手順で用例を分類した結果を示す。393件の文字列環境は表1のとおりであった。

【表1】文字列環境(前接・後接文字種 組み合わせ)一覧 および 非外来語のカタカナ表記の出現状況

0:文字なし 1:漢字 2:ひらがな 3:カタカナ 4:Alphabet 5:数字 6:記号 7:スペース

環境	前接	後接	件数	環境	前接	後接	件数	環境	前接	後接	件数	環境	前接	後接	件数
00	なし	なし	28	20	ひらがな	なし	28	40	Alphabet	なし	1	60	記号	なし	2
01	なし	漢字	19	21	ひらがな	漢字	0	41	Alphabet	漢字	1	61	記号	漢字	3
02	なし	ひらがな	93	22	ひらがな	ひらがな	75	42	Alphabet	ひらがな	0	62	記号	ひらがな	13
03	なし	カタカナ	16	23	ひらがな	カタカナ	1	43	Alphabet	カタカナ	0	63	記号	カタカナ	3
04	なし	Alphabet	1	24	ひらがな	Alphabet	0	44	Alphabet	Alphabet	0	64	記号	Alphabet	0
05	なし	数字	0	25	ひらがな	数字	0	45	Alphabet	数字	0	65	記号	数字	0
06	なし	記号	30	26	ひらがな	記号	26	46	Alphabet	記号	1	66	記号	記号	8
07	なし	スペース	9	27	ひらがな	スペース	1	47	Alphabet	スペース	0	67	記号	スペース	2
10	漢字	なし	8	30	カタカナ	なし	1	50	数字	なし	3	70	スペース	なし	4
11	漢字	漢字	0	31	カタカナ	漢字	0	51	数字	漢字	0	71	スペース	漢字	1
12	漢字	ひらがな	5	32	カタカナ	ひらがな	0	52	数字	ひらがな	0	72	スペース	ひらがな	2
13	漢字	カタカナ	1	33	カタカナ	カタカナ	0	53	数字	カタカナ	0	73	スペース	カタカナ	2
14	漢字	Alphabet	0	34	カタカナ	Alphabet	0	54	数字	Alphabet	0	74	スペース	Alphabet	0
15	漢字	数字	0	35	カタカナ	数字	0	55	数字	数字	0	75	スペース	数字	0
16	漢字	記号	4	36	カタカナ	記号	0	56	数字	記号	0	76	スペース	記号	1
17	漢字	スペース	0	37	カタカナ	スペース	0	57	数字	スペース	0	77	スペース	スペース	0
														合計	393

次に、これらの 393 件を「①埋没回避を主な目的として選択されたと解釈可能な非外来語のカタカナ表記」と「②埋没回避が目的でない想定される非外来語のカタカナ表記」とに分けると、①に該当するのは 79 件、②に該当するのは 314 件であった。①②別に、漢字に関わる条件と語種を加えて分類した用例を表 2・表 3 に示す。漢字表記が存在する「漢有」「漢 B」「漢 C」に関しては常用漢字か否かによってさらに分類した。

【表 2】 ①埋没回避を主な目的として選択されたと解釈可能な非外来語のカタカナ表記

※表内の【 】内の数字はグループごとの合計出現数を、語の後ろの()内の数字はその語の出現数を示す
 ※語がわかりにくいものは()内に補足した ※漢語の出現例はなかった

文字列環境 0: 文字なし(「なし」と略) 1: 漢字(漢) 2: ひらがな(ひら) 6: 記号 7: スペース(スペ)

文字列環境 (前接/後接)	語種	漢A(漢字表記なし)	漢B(漢字だと埋没)		漢C(漢字にすると後接ひら部分が埋没)	
			常用漢字	常用外 (を含む)	常用漢字	常用外 (を含む)
【出現数】						
02 (なし/ひら)	和語	アカン、ガツン、カリッ(3)、サラ サラ、スーッ、ドキドキ、トロリ、 パッ、ピッ、ピピッ、ペコッ、ポ ン、パチンコ、スカスカ 【16】			デキル、コリ(2)、シ ミ、チラシ、ニオイ (5)、ハリ、モノサ シ、キライ 【13】	
【31】	混種語				カッコイイ、ラクチン 【2】	
12(漢/ひら)【5】	和語	カリカリ、シュワッ 【2】	チカラ、フ タ 【2】	タダ 【1】		
20 (ひら/なし) 【5】	和語	マス(助動詞)、ギョングュー ン、パラパラ、ブッキリ、スカスカ 【5】				
22 (ひら/ひら)	和語	スーッ、スッ(2)、スッキリ(2)、ピ ピッ、ワイワイ、ワクワク、ネバネ バ、ビッキリ 【10】			キレ、コタエ、コリ (2)、チラシ(2)、ニ オイ(2)、ハミガキ、 ハリ、ヨロコビ 【11】	ヤル(遣る) 【1】
【23】	不明	コク(注1) 【1】				
26 (ひら/記号) 【8】	和語	カリカリ、ピーン、ピッター、ワクワ ク、ッ(注2)、ワイ(終助詞) (2)、ゼ(終助詞) 【8】				
62(記号/ひら) 【6】	和語	ピタッ 【1】			コリ、ニオイ(3)、ヨ ゴレ 【5】	
72(スペ/ひら)【1】	和語				コタエ 【1】	
合計出現数 【79】		【43】	【2】	【1】	【32】	【1】

注1) コクは「漢字表記なし」に分類した。

注2) 語尾。出現例は【とんでもないッ！】

【表3】②埋没回避が目的でない想定される非外来語のカタカナ表記

※表内の【 】内の数字はグループごとの合計出現数を、語の後ろの()内の数字はその語の出現数を示す
 ※語がわかりにくいものは()内に補足した

文字列環境 0:文字なし(「なし」と略) 1:漢字(漢) 2:ひらがな(ひら) 3:カタカナ(カタ) 4:Alphabet(AL) 5:数字 6:記号 7:スペース(スペ)

文字列環境 (前接/後接)	語種	漢有(使用可能な漢字あり)		漢A(漢字表記なし)	漢B(漢字だと埋没)	
		常用漢字	常用外(を含む)		常用漢字	常用外(を含む)
00 (なし/なし)	和語	ココロ、ニオイ(3)、オレ 【5】	イライラ、アカメガシワ、サンマ、ブナシメジ、マイタケ 【5】	アチツ、ゲゲゲ、ワンワン、ギョングューン、クチュ、コトコト、スツキリ(2)、ネバネバ 【9】		
【28】	漢語	エンメイソウ、カンノウ、チョウジ、ニンジン 【4】	ウコン(2)、ケイヒ、ニンニク 【4】			
	混種語	イチオシ 【1】				
01 (なし/漢)	和語	ムシムシ 【1】		キツチリ、ギョングューン、バツクリ、ボロボロ 【4】	ココロ(2) 【2】	タダ、ニキビ、コレ 【3】
【19】	漢語				ケイタイ(2)、セインイ、カンタン(2) 【5】	ガン、ニンニク 【2】
	混種語	ラクチン 【1】		ガチガチ 【1】		
02 (なし/ひら)	和語	アブラ、カゼ(3)、カラダ(5)、キメ、クセ、クルマ(5)、ココロ(2)、コドモ、チカラ、ハグキ(2)、フタ、ムダ、モノ(2)、キミ、オレ 【28】	イワシ、ウソ、カビ(2)、ゴミ(2)、サバ(3)、ツボ、ワイ(一人称代名詞) 【11】			
【62】	漢語	ガッコー、カンタン、ケータイ(3)、フツ、マンガ、ラク(2)、キレイ(7) 【16】	ウコン、ガン、ニンニク 【3】			
	混種語	ホンモノ、ステキ、ワガハイ 【3】	バショウカジキ 【1】			
03 (なし/カタ)	和語	サムライ(2) 【2】	オシヤレ、カキフライ(2)、ヒビ 【4】	サクサク、パチンコ 【2】		
【16】	漢語	ラクラク、ケータイ(2) 【3】	ガン(2) 【2】			
	混種語	イチオシ、チューハイ(2) 【3】				
04(なし/AL)【1】	漢語	キブン 【1】				
06 (なし/記号)	和語	オドロキマス、キマル、サムライ、シミ、チカラ、ニオイ(3)、ハリ(2)、ヒザ、メガネ、ヨゴレ(2) 【14】	サバ、サンマ、ヒビ(2)、フケ、オカワヘリ 【6】	ニヤ〜〜、ハイ、ゴホン、サク(サクサクの縮約形)、バツ、バリバリ 【6】		
【30】	漢語	カグ、ケータイ 【2】				
	混種語	コンニチハ、イチオシ 【2】				
07(なし/スペ)	和語	モテ 【1】	オムツ、キュウリ 【2】			
【9】	漢語	カカク、キブン、ソッコー、ニンジン 【4】	ガン、フキン 【2】			
10 (漢/なし)【8】	和語			カリカリ、ゴロゴロ、サクサク、スツキリ(2)、ツルン、バリバリ 【7】	チカラ 【1】	
13(漢/カタ)【1】	和語				チラシ 【1】	
16(漢/記号)	和語			スツキリ 【1】		
【4】	漢語				ケータイ、サイコー 【2】	ハツラツ 【1】
20 (ひら/なし)	和語	ミガク、カタチ(2)、カラダ、コト、シミ、チカラ(4)、ツヤ、ハリ、ハリツヤ、ミカタ(2) 【15】	グミ、サバ 【2】			
【23】	漢語	ラクラク、ビハク、カンタン、キレイ(2) 【5】				
	混種語	ダメダメ 【1】				
22 (ひら/ひら)	和語	アセ、オトコ、オトナ(2)、オンナ、カゼ(2)、カタチ(6)、カラダ(2)、クルマ(3)、チカラ(7)、ツヤ、ハグキ、ヒト(2)、メガネ、モノ、ワザ、イヤ 【33】	イワシ、サバ、ヤツ(2) 【4】			
【52】	漢語	ケータイ(2)、ラク、キレイ(4)、テキトー 【8】	ホント、ウコン(2)、ガン(2)、テッペン 【6】			
	混種語	ステキ 【1】				

文字列環境 (前接/後接) 【出現数】	語種	漢有(使用可能な漢字あり)		漢A(漢字表記なし)	漢B(漢字だと埋没)	
		常用漢字	常用外(を含む)		常用漢字	常用外(を含む)
23(ひら/カタ)【1】	和語	ツヤ 【1】				
26 (ひら/記号) 【18】	和語	クルマ、コト、シミ、チカラ(3)、ハリ(2) 【8】				
	漢語	ラクラク、カイカン、ケータイ、ホーダイ(2)、カンタン(2)、バカ 【8】	ケガ 【1】			
	混種語	ダメ 【1】				
27(ひら/スペ)【1】	漢語	キレイ 【1】				
30(カタ/なし)【1】	和語			ウホウホ 【1】		
40(AL/なし)【1】	和語	チラシ 【1】				
41(AL/漢)【1】	和語	チラシ 【1】				
46(AL/記号)【1】	和語	チラシ 【1】				
50(数字/なし) 【3】	和語		マス(枘)(2) 【2】			
	漢語	ピン 【1】				
60(記号/なし) 【2】	和語			イイエ 【1】		
	漢語	カデン 【1】				
61(記号/漢) 【3】	和語				ウデ、ツヤ 【2】	
	漢語					ウコン 【1】
62 (記号/ひら) 【7】	和語	チカラ、ツヤ 【2】	ソバカス、ココ、オイラ 【3】			
	漢語	カンタン 【1】				
	混種語	ステキ 【1】				
63 (記号/カタ) 【3】	和語				キラキラ 【1】	
	漢語		ガン 【1】			
	混種語	チューハイ 【1】				
66(記号/記号) 【8】	和語	チラシ、ツヤ 【2】			ハイ、ウツリ、バリ 【3】	
	漢語	テンサク、ゲイシャ 【2】	ウコン 【1】			
67(記号/スペ) 【2】	和語	コシ 【1】				
	漢語	トク 【1】				
70(スペ/なし) 【4】	和語	ヤスタ 【1】				
	漢語	ケータイ、キレイ(2) 【3】				
71(スペ/漢)【1】	和語					ミンナ 【1】
72(スペ/ひら)【1】	漢語	ケータイ 【1】				
73(スペ/カタ) 【2】	和語	サケ 【1】				
	漢語		ウコン 【1】			
76(スペ/記号)【1】	漢語	ケータイ 【1】				
合計出現数 【314】		【196】	【61】	【36】	【13】	【8】

9-4. 非外来語のカタカナ表記 出現要因の関わり

9-4-1. 漢B(漢字だと埋没するグループ)における要因間での力関係の変化

ここでは、表2・表3に共通の分類項目である「漢B」すなわち「漢字表記が存在するが、漢字だと埋没する」例を用いて、①②の環境の違いという条件の異なりによって要因間で力関係が変化する様相の一端を示す。

①②の環境で出現した「漢B」の用例を表2・表3から取り出し、常用漢字で書けるか否かで各々を2つのグループG1、G2に分け、表4に示す。のちの検討のため、語種によっても分けておく。表の左端にグループ番号を付し、以下「G1」などと記述する。また、同じグループを①と②で分ける際は「G1②」などと記述

する。煩雑さを避けるため、以下では「非外来語の」を略して単に「カタカナ表記」あるいは「カタカナ」と言う場合がある。

【表4】漢B ①②の環境における非外来語のカタカナ表記

※()内の数字は出現数

	漢字に関わる条件	語種	件数	
			①の環境における用例	②の環境における用例
G1	漢字B (常用漢字)	和語	2:チカラ、フタ	6:ココロ(2)、チカラ、チラン、ウデ、ツヤ
		漢語	0	7:ケイタイ(2)、センイ、カンタン(2)、ケータイ、サイコー
G2	漢字B (常用外)	和語	1:タダ	4:タダ、ニキビ、コレ、ミンナ
		漢語	0	4:ガン、ニンニク、ハツラツ、ウコン

表4の語には、漢字だと埋没するという「文字列環境による制限」(a) (※のちの検討に向け、以下、要因に言及した際にアルファベットの小文字を付す)がある。これは漢字表記を抑制する要因であり、そのままひらがなとカタカナ表記を促進する要因となるものである。この条件は表4の全てのグループにおいて共通である。

一方、「常用漢字で書けるかどうか」という「漢字に関わる条件」(b)はグループ間で異なる。「常用漢字で書ける」という条件はG1において漢字表記の促進要因となり、その分ひらがなとカタカナ表記を抑制する要因となる。反対に「常用漢字で書けない」という条件は、G2において漢字表記の抑制要因であり、ひらがなとカタカナ表記を促進する要因となる。さらに①はひらがなだと埋没する環境であるため、これも「文字列環境による制限」(a)という一つの要因である。以上の記述をまとめると表5となる。

【表5】①②の環境における要因「文字列環境」と「漢字に関わる条件」

	①の環境	②の環境
G1	<ul style="list-style-type: none"> ●「文字列環境による制限」(a): 漢字だと埋没:漢字表記を抑制 ⇒ひらがな・カタカナ表記を促進 ⇒ひらがなだと埋没:ひらがな表記を抑制 ⇒カタカナ表記を促進 ●「漢字に関わる条件」(b): 常用漢字で書ける:漢字表記を促進 ⇒ひらがな・カタカナ表記を抑制 	<ul style="list-style-type: none"> ●「文字列環境による制限」(a): 漢字だと埋没:漢字表記を抑制 ⇒ひらがな・カタカナ表記を促進 ●「漢字に関わる条件」(b): 常用漢字で書ける:漢字表記を促進 ⇒ひらがな・カタカナ表記を抑制
G2	<ul style="list-style-type: none"> ●「文字列環境による制限」(a): 漢字だと埋没:漢字表記を抑制 ⇒ひらがな・カタカナ表記を促進 ⇒ひらがなだと埋没:ひらがな表記を抑制 ⇒カタカナ表記を促進 ●「漢字に関わる条件」(b): 常用漢字で書けない:漢字表記を抑制 ⇒ひらがな・カタカナ表記を促進 	<ul style="list-style-type: none"> ●「文字列環境による制限」(a): 漢字だと埋没:漢字表記を抑制 ⇒ひらがな・カタカナ表記を促進 ●「漢字に関わる条件」(b): 常用漢字で書けない:漢字表記を抑制 ⇒ひらがな・カタカナ表記を促進

ここまでの検討から、各グループの語に働く「カタカナ表記出現を促進する力」の大きさを不等式で表すと式Bのようになる。G 2 ①はカタカナ表記を促進する力と抑制する力との差が最も大きく、カタカナが出現しやすいグループである。そして、G 1 ②はカタカナ表記を促進する力と抑制する力との差が最も小さく、カタカナが出現しにくいグループである。

$$\text{式B: } G 2 ① > G 2 ②, G 1 ① > G 1 ②$$

G 2 ①は漢字もひらがなも選択しにくいため、他の3グループよりもカタカナ表記が出現しやすい環境である。

G 1 ②は漢字だと埋没する環境ではあるがひらがなを選択できるため、G 1 ①よりもカタカナ表記の出現は抑制される。G 1 ②はひらがな表記の出現が促進されている環境と言い換えることもできる。

G 1 ①とG 2 ②については、ここまでの条件下ではどちらがよりカタカナ表記の出現を促進しやすいか確定できないため、暫定的に並列とした。②と①の比較では、①はひらがなだと埋没するため、①のほうがカタカナ促進の力が強く働く。しかしG 1 とG 2 の比較では、常用漢字で書けないG 2 のほうがカタカナ促進の力が強く働く。別の言い方をすれば、G 2 ②はカタカナ同様にひらがなも促進されるグループである。一方で、G 1 ①はカタカナを促進する力と抑制する力の両方が働くグループである。そのため単純に不等号で力関係を示すことができない。

このように、わずかな例だけを取り出してみても、条件が少し異なるだけで要因間での力関係が変化する。これが非外来語のカタカナ表記出現の背景となっている作用であり、要因同士の関わり合う姿である。

さて、G 1 ②は表5に掲げた4グループの中では最もカタカナ表記が抑制される環境であるにもかかわらず、表4で挙げた語がカタカナ表記で出現している。つまり、G 1 ②に属する語のカタカナ表記を促進する要因は強い力を持っていることになる。以下では、用例ごとに個別に働いている要因を検討する。

まず、②だけでなく①でも出現した【チカラ】について見る。①②いずれの環境においても出現したということは、同じ「チカラ」という語でも、文字列環境がカ

タカナ表記を促進する主な要因と形式上見なせる場合もあれば、文字列環境は要因となっておらず、別に促進要因が存在する場合もあるということである。【チカラ】出現の背景としては、例えば「チカラ」の漢字表記【力】は／リョク／やカタカナの／カ／とも読むことができ、漢字表記だと誤読される可能性がある。この「漢字に関わる条件」(b)が、カタカナ表記を促進する要因となる場合もあるであろう。さらに、第4章で見たように、「力」という語における文字種の使用はCMのジャンルとも関連がある。信頼性を重視したい「金融系」「住宅・建設系」などのジャンルでは漢字が、目新しさやおしゃれさを演出したい「化粧品系」「娯楽・興行系」「通信・サービス系」などではカタカナが選択される傾向が認められた。G1②とG1①の【チカラ】は共に、CMのジャンル、すなわちコミュニケーションが成立する場としての「コンテキスト」(c)と「コンテキストと連動した表記主体の意識」(d)がカタカナ表記の促進要因となって、あるいは積極的に促進するとまでは言えなくても、カタカナ表記を抑制する要因とはならずに出現した表記と解釈できる。

同様にG1②に属する語が出現したCMのジャンルを確認すると、【ウデ】は「衣料系」、【ココロ】は「通信・サービス系」と「娯楽・興行系」、【チラシ】は「通信・サービス系」、【ツヤ】は「生活雑貨系（身体用）」、【ケイタイ】【センイ】は「生活雑貨系」、【ケータイ】は「携帯電話」、【サイコー】は「自動車系」であった。これらのほとんどはCMにおけるカタカナの使用率が高く、目新しさやおしゃれさを演出することが目指されているジャンルである（第4章）。【カンタン】は例外的に「金融系」のジャンルで出現していたが、これについては後述する。

G1②に属する語が、常用漢字で書くことができ、また、ひらがなを用いても文字列に埋没することはないにもかかわらずカタカナ表記されている背景には、総じて以上のような「コンテキスト」(c)の影響を認めることができる。「カタカナ文字やカタカナ語の持つ特性・イメージ」(e)による「表現効果」(f)を利用するべく、カタカナ表記が用いられるのであろう。そして、そのような演出をして顧客に働きかけようという語用論的な表記主体の意図によってそれらの表記が出現する。

ここで注意が必要なのは、表記主体の意識には2種類があることである。一つは「表現効果を狙った使い分けの意識」(g)、すなわち「言語的な側面に関わる表記主体の意識」である。二つめは先述した「コンテキストと連動した表記主体の意識」(d)、すなわち「非言語的な側面に関わる表記主体の意識」である。これらは、同

じく表記主体の意識であっても次元が異なるものである。

さらに各々の語を見ると、例えば【チラシ】は「伝統的な語の派生的・現代的・俗語的意味用法」であることが指摘されている（矢田勉 2013, p.88）。【チラシ】は柏野和佳子・中村壮範（2013）による BCCWJ の調査結果においてもカタカナ表記率が 91.0% と高く（p.287）、カタカナ表記が広く流通して定着しつつあると考えられる。この「流通量が多い」というのはすなわち社会的使用頻度が高い（横山詔一 2014a・2014b）ということであり、接触頻度もおのずと高くなる。「接触頻度が高い」というのも、カタカナ表記が選択される要因となりうるものである。しかし、これらの要因は G 1 ② の多くの例に該当するものではないためここでは抽出対象とせず、後で言及する。

9-4-2. 漢 B において非外来語のカタカナ表記が出現する要因構造

先に見たように、条件や語によって出現要因とその力関係は異なる。また、【チカラ】の例のように、同じ語であっても用例によってカタカナ表記出現の背景にある要因が異なる場合もある。本項ではそれらを個別的に記述しうる式を提示する。すなわち個々の用例の要因構造を示す式である。

前項で言及した要因を列挙すると以下のとおりである。

「文字列環境による制限」(a) 「漢字に関わる条件」(b)

「コンテキスト」(c) 「コンテキストと連動した表記主体の意識」(d)

「カタカナ文字やカタカナ語の持つ特性・イメージ」(e)

「表現効果」(f) 「表現効果を狙った使い分けの意識」(g)

これらのうち、非言語的要因は c と d、すなわち「コンテキストとそれに連動した表記主体の意識」とまとめることができる。その他は言語的要因である。そして本章冒頭で述べたとおり、ある表記が出現する要因は全てが「非言語的要因＋言語的要因」(式 A) の構造を持つ。さらに、先の検討からもわかるように、カタカナに限らず、ある文字種による表記の出現を促進する要因と抑制する要因とがある。そして促進要因と抑制要因のいずれにも、全ての要因がなりうる。どのような要因が促進／抑制のどちらとして作用するのか、どの程度の強さを持って作用するのかという力関係は、用例ごとに異なる。

従来、非外来語のカタカナ表記を含む文字種選択の背景を考えるにあたって、以上のような要因の区別はなされてこなかった。しかし、文字種が選択される際の条件を複合的・重層的に把握するには有効な視点であろう。例えば笹原宏之（2013・2014）では漢語表記のゆれの条件に関して新たな分類が提示された。そこでは非外来語のカタカナ表記も検討の対象となっており、その分類は非外来語のカタカナ表記の出現条件を考える際にも有効である。しかし、笹原（2014）の提示した条件には笹原自身も述べているとおり「次元を異にする」（p.58）ものが混在している。次元が異なる条件や要因を現状に即して捉えるため、本論文では、要因を考えるにあたり「非言語的要因と言語的要因」、また「促進要因と抑制要因」という異なる切り口を導入する。

では、この考え方を前提とするならば、先に取り上げたG 1・G 2各グループの表記が出現する際の要因構造はどのように記述しうるであろうか。

まず、 α を「非外来語のカタカナ表記の出現を促進する要因」、 β を「非外来語のカタカナ表記の出現を抑制する要因」とし、非言語的要因を「1」、言語的要因を「2」で表すことにすると、 α にも β にも非言語的要因（「 $\alpha 1$ 」「 $\beta 1$ 」で示す）と言語的要因（「 $\alpha 2$ 」「 $\beta 2$ 」で示す）があり、式Aは α にも β にも適用される。したがって、 α と β の構成要素、つまり非外来語のカタカナ表記が出現する要因は、次の式Cのように記述できる。Nが大きいほど、非外来語のカタカナ表記が出現しやすい構造であることを意味する。これは全ての例に共通の要因構造である。

$$\text{式C： } N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 \} - \{ \beta 1 + \beta 2 \}$$

$\alpha 1$ ：促進要因として働く非言語的要因

$\alpha 2$ ：促進要因として働く言語的要因

$\beta 1$ ：抑制要因として働く非言語的要因

$\beta 2$ ：抑制要因として働く言語的要因

非外来語のカタカナ表記は、 $\alpha 1 + \alpha 2$ の累積あるいは何らかの決定的な強さを持つ要因により出現を促進する力がまさった時（ $\alpha > \beta$ ）に出現する。一方、 $\beta 1 + \beta 2$ の累積あるいは何らかの決定的な強さを持つ要因により抑制する力がまさっていれば（ $\alpha < \beta$ ）出現せず（出現しない状態が保たれ）、他の文字種で書かれるこ

とになる。これが、文字種が選択され1種類の表記が出現するという事象の背景にある力の働きであり、要因同士が関わり合う仕組みである。

本論文で述べてきたように、非外来語のカタカナ表記が出現する要因は条件や語によって異なり、要因同士の関わり合いは用例によって個別的である。その多様性は、式Cを用いて個別的に記述することが可能である。例えば、表4に示した各グループの用例に見出せる共通の規則を抽出し、要因構造を記述すると式Dのようになる。以下に式Bで提示したグループ順で示す。なお、視認性が求められるというCMの資料としての特性は $\alpha 1$ の構成要素であるが、それはCMの用例全てに共通であるため、ここに示す式では表示しない。

式D：(後述するG 1 ②' も含めた5つの式を式Dと総称する。()内のアルファベットは本項冒頭に挙げた要因を示す。)

$$G 2 ①: N = \{\alpha 1 + \alpha 2(a,b)\} - \{\beta 1 + \beta 2\}$$

$$G 2 ②: N = \{\alpha 1 + \alpha 2(a,b)\} - \{\beta 1 + \beta 2(a)\}$$

※ $\beta 2$ のaはひらがなの促進要因であるためカタカナの抑制要因となる。

$$G 1 ①: N = \{\alpha 1(c,d) + \alpha 2(a,e,f,g)\} - \{\beta 1 + \beta 2(b)\}$$

※ $\beta 2$ のbは漢字の促進要因であるためカタカナの抑制要因となる。

$$G 1 ②: N = \{\alpha 1(c,d) + \alpha 2(a,e,f,g)\} - \{\beta 1 + \beta 2(a,b)\}$$

※ $\beta 2$ のaはひらがなの、bは漢字の促進要因であるため、

いずれもカタカナの抑制要因となる。

これらはいくまで本節で言及した要因のみを対象として、共通する部分を抽出して記述した式である。表4に挙げた個々の例には $\alpha 1$ 、 $\alpha 2$ 、 $\beta 1$ 、 $\beta 2$ 各々を構成する別の要素がさらに加わるはずであり、それらの種類も力の大きさもさまざまである。G 2にもジャンルによっては $\alpha 1$ の要素が加わる。また、例えばG 1 ①【フ

タ】の漢字表記【蓋】は現在は常用漢字であるが、2010年に常用漢字表が改定されるまで表外字であった。さらには、横画が多い漢字であるため、テレビの画面に表示された時に見にくい。つまり漢字で書きにくい語であると言え、これらの点もカタカナ表記の出現を促進する「漢字に関わる条件」(b)である。この場合は $\alpha 2$ の構成要素にbを加えることで、要因構造つまり非外来語のカタカナ表記が出現する背景を個別に記述し、把握することができる。

さらに語種の面で言えば、漢語のカタカナ表記が出現するには和語の場合よりも強い促進の力が必要になる。「もともと、漢語はカナ（引用者注：ひらがな・カタカナ両方を指す）表記されにくい性質をもっている」（野村雅昭 1981, p.853）とされるのに加え、例えば武部良明（1991）が「変にちゃかした意味が感じられる」として「カンカンガクガク」を例示した（p.225）ように、漢語がカタカナ表記されると概して独特のニュアンスが付加される場合が多いためである。「漢語である」(h)という語の属性そのものが、非外来語のカタカナ表記に抑制要因として働く言語的要因なのである。表2（①の環境）で漢語が全く出現していないのは、抑制要因としてのhの力の大きさによって $\alpha < \beta$ となった結果とも解釈できる。したがってG1・G2の漢語群においては式Dの $\beta 2$ にhが加わることになる。

一方で、G1②の用例【カンタン】は漢語でありながらカタカナ表記で出現しているが、CMのジャンルは金融系であった。先に述べたように、金融系のような信頼性を重視したいジャンルでは漢字表記が選択される傾向が認められる。したがって、この【カンタン】の例の場合は、ジャンルすなわちコンテキスト(c)がカタカナ表記を抑制する非言語的要因として $\beta 1$ の構成要素となり、この表記が出現した背景は次の式で示される。抑制要因 β の力の大きさに反してカタカナ表記の【カンタン】が出現した背景には、他の何らかの促進要因の存在がある。このようにして、非外来語のカタカナ表記が出現する仕組みを実状に即して捉えることができる。

$$G1②': N = \{\alpha 1(c,d) + \alpha 2(a,e,f,g)\} - \{\beta 1(c) + \beta 2(a,b)\}$$

現実には表4に挙げた語が漢字やひらがなで書かれる場合もあるわけであるが、それは $\alpha < \beta$ つまりカタカナ表記の抑制要因の力が促進要因の力にまさった結果である。要因構造、つまり $\alpha 1$ 、 $\alpha 2$ 、 $\beta 1$ 、 $\beta 2$ 各々の構成要素や各要素の力の

大きさが異なることでNの大きさも多様に変化し、語がカタカナで出現したり、それ以外の文字種で出現したりすることとなる。

先に条件や語の異なりによる要因間での力関係の変化を見たが、さらに別の要因が構成要素として加わることで、要因構造の様相は個々の例ごとにバリエーションに富む。式Cを用いれば、先行研究の成果を取り入れながら多様な要因構造を用例ごとに個別的に記述し、個々の用例が出現する背景を可視化して把握することができる。 $\alpha 1$ 、 $\alpha 2$ 、 $\beta 1$ 、 $\beta 2$ の構成要素として何が想定されるか、語の属性等の共通の要素に加えて、個別的な要素を個々の例に即して具体的に検討する足がかりともなる。

9-4-3. 漢Cにおいて非外来語のカタカナ表記が出現する要因構造

前項と同様の考え方によって、表2の「漢C」すなわち「漢字を使用すると後接部分が埋没する」例の要因構造を把握することもできる。

まず、漢Cに分類された用例は、【ヤル】以外は全て常用漢字で書くことができる。これは漢字の促進要因であり、ひらがな・カタカナ表記を抑制する要因である。しかし、漢Cの場合は漢字で書くと送りながが生じる混合表記語であるため、後接するひらがなと連続して見にくくなってしまう。この点は漢字表記を選択する上での抑制要因となる。また、①の環境にあって前接する文字種がひらがなである場合も多く、その場合はひらがな表記も選択できない。つまり、漢Cにおいては常用漢字・表外字のいずれであるかに関わりなく、漢字で書きにくい事情にあるため、「漢字に関わる条件」(b)がまずカタカナ表記の促進要因となる。そして、以上のような状況を生じさせている文字列環境(a)も、カタカナ表記の促進要因である。

そして、漢Bとの相違点として挙げられるのは、漢字で書くと送りながが生じることによって、全てを同じ文字種で表記する場合と比較すると一語としてのまとまりに欠けるということである。例えば【歯みがき】よりも【ハミガキ】のほうが一語としての識別性に優れている。「一連続のカタカナとして語がまとまる」(i)ためである。これは、前にも述べたとおり、先行研究でも非外来語がカタカナで表記される要因として指摘されてきたものである⁹²。

⁹² 土屋信一(1977)、笹原宏之(2013)などによる。

したがって、漢 C の全ての用例に共通する要素を式 C で記述すると以下のようになる。

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (a,b,i) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 \}$$

さらに、個々の例によって個別にさまざまな要素が加わる。例えば、漢 B でも出現していた【チラシ】が漢 C でも出現している。【チラシ】の場合は、先に述べたとおり、流通量が多く接触頻度が高いことが要因として最も優勢である可能性が高い。式 C に当てはめるなら、【チラシ】が出現する時の要因構造は、 $\alpha 2$ が非常に強い力を持った少数の要素で構成されるというものである。

また、非外来語のカタカナ表記が和語の名詞（一般）と副詞に出現しやすいというのは本論文で述べてきたとおりである。つまり「品詞という属性」(j) がカタカナ表記を促進する力は、名詞（一般）および副詞以外の語においては、名詞（一般）・副詞の場合に比べて概して弱い。言い替えれば、名詞（一般）と副詞以外の語における品詞という属性は、カタカナ表記の抑制要因として作用する力を持ちうるということである。漢 C の和語には、そのような名詞（一般）と副詞以外の語が含まれている。【デキル】【キライ】である。これらの例においては、動詞や形容動詞であることがそのままカタカナ表記の抑制要因であり、 $\beta 2$ にその要素が加わる。

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (a,b,i) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 (j) \}$$

それにもかかわらずカタカナで表記されるのは、促進要因の力の大きさによる。そして、どのような促進要因がどの程度の力を持って作用しているのかは、用例により個別的である。

以上のように、式 C で示される枠組みを用いることで、個々の例における多様な要因構造、つまり非外来語のカタカナ表記が出現する背景を捉えることが可能である。

9-5. 要因の3つの切り口

ここまで、「非言語的要因と言語的要因」「促進要因と抑制要因」という切り口で

複数の要因が関わる様相を示してきた。加えて、そこには要因のもう一つの切り口が存在していた。「固定的要因と変動的要因」である。

固定的要因は、語や表記に付随しており原則的に変化しない要素である。例えば本章の表2を見ると、漢語は①の「埋没回避を主な目的として選択されたと解釈可能な」環境で出現しなかった。つまり、漢語は文字列環境以外の要因によってカタカナで出現する傾向があると言える。漢語であるという語の属性が、非外来語のカタカナ表記の出現を抑制する言語的要因であることもすでに述べた。この「漢語である」という語の属性つまり語種は、個々の出現例ごとに変化するものではないため固定的要因である。固定的要因には、「語種」のほかにも、上述した「品詞」や常用漢字で書けるかどうか等の「漢字に関わる条件」などがある⁹³。第7章で見た、「カタカナの役割に沿ってカタカナ表記されていると一般的に見なされる語である」という点も固定的要因の一つである。固定的要因を見ることによって、その語がカタカナで出現しやすいかどうかの目安となる。

変動的要因は、用例によって変化する要素である。語の前後の文字が何であるかによってその都度変化する「文字列環境」は、その一つである。また、非言語的要因は、用例ごとに異なるため全てが変動的要因である。例えばコンテキストやコンテキストと連動した表記主体の意識などは、語や表記そのものではなくそれらを取り巻く周辺の要素であり、状況（場）や資料の性質によって変化する。「コンテキスト」「コンテキストと連動した表記主体の意識」「状況（場）」「資料」はいずれも変動的要因である。

本章では、「非言語的要因と言語的要因」「促進要因と抑制要因」にこの「固定的要因と変動的要因」を加えた3つの切り口で非外来語のカタカナ表記が出現する背景を捉えてきたのである。本章で式Cとして示したように、非外来語のカタカナ表記が出現する時、その背後では非言語的要因と言語的要因が重なり合い、各々を構成する要素が促進要因あるいは抑制要因となって、両者が綱引きを行っている。促進要因は促進要因同士で、抑制要因は抑制要因同士で後押しして助け合い、促進要因と抑制要因は互いにせめぎ合うという関係性である。

そして言語的要因には、各々の語や表記に付随している固定的要因と、用例ごと

⁹³ 常用漢字表の改定等により変化する可能性はあるが、それでもその語に付随した属性であり、固定的要因であることには変わりがない。

に異なる変動的要因とがある。非外来語のカタカナ表記が出現する仕組みを一般化して客観的に記述するのが困難であるのは、変動的要因がその都度異なるためである。そこには表記主体の個人差も反映する。個人差には本論文で述べた基準感覚や基本表記、習慣、好悪などがあり、どの要素がどのような場合にどの程度表記の選択に入り込んでくるのかを一般化して示すことは困難である。例えば第7章の学術雑誌において、調査対象とした文献計147本のうち役割外のカタカナ表記が見られたのは20本のみであった。これらの20本で出現した役割外のカタカナ表記は7章(7-6)で述べたとおり16種類であったが、そのうち10種類(7-6の最後で下線を付して示した語)は、その他の127本の文献においては漢字またはひらがなで表記されていた。表記主体個人の方針や習慣が反映した結果であると言える。実際には、このような個人的な要素も本節で提示した式に個別に加わって、一つの表記が出現する要因構造を成している。

以上のように、3つの切り口で捉えた次元の異なる3種類の要因の掛け合わせによって、要因構造には無数のバリエーションが生まれると言ってよい。これが、要因相互の複合的・重層的な関わり合いによって一つの非外来語のカタカナ表記が出現する背景である。

9-6. 本章のまとめ

本章では、非外来語のカタカナ表記が出現する際に複数の要因が関わり合う仕組みを考察し、条件や語の異なりによって要因間での力関係が変化する様相を示した。要因構造は個々の例ごとにバリエーションに富むが、その背後に働く要因は「非言語的要因と言語的要因」「促進要因と抑制要因」「固定的要因と変動的要因」という次元の異なる3つの切り口、分類軸として捉えることが可能である。これらの要因の掛け合わせによって、一つひとつの用例は出現している。

次に必要なのは、どのような語が、どのような時に、どのような要因によってカタカナ表記で出現するのかを具体的に明らかにし、記述する作業である。次章ではそれを行い、本論文の総括とする。

第10章 非外来語のカタカナ表記が出現する背景

10-1. はじめに

前章では、非外来語のカタカナ表記が出現する際に要因同士がどのように関わり合っているのか、その様相を抽象化した式として提示することで要因構造の枠組みを示した。本章では、前章で提示した式Cの $\alpha 1$ 、 $\alpha 2$ 、 $\beta 1$ 、 $\beta 2$ 各々の構成要素について、先行研究の成果を参照しながら具体的に見ていく。そして、本論文の調査対象に見られた具体的な用例が式Cを用いてどのように捕捉できるのかを検討する。

以下ではまず、先行研究で指摘されてきた要因を抽出し、前章で示した要因の3つの切り口、分類軸を導入しながら整理して示す。次に、本論文で調査した全ての資料から得られた非外来語のカタカナ表記をまとめた語彙表を用いて、それらの表記が出現する要因構造を記述する。これは、「どのような語が、どのような時に、どのような要因によってカタカナ表記で出現するのか」という問いに具体的に答えるものである。先行研究には不足していた視点も補いながら、非外来語のカタカナ表記出現の背景を探っていく。

10-2. 非外来語のカタカナ表記出現要因

本論文冒頭に述べたとおり、先行研究においては長きにわたり数々の「非外来語がカタカナで表記される要因」が明らかにされてきた。それらは多種多様であり、「要因」は「条件」「理由」などとも表現されている。また、カタカナで表記されることによる効果やカタカナの機能、役割も混在し、要因と似た意味合いをもって提示されている。それぞれが指し示す概念の間に明確な区別は認められない。それらをここでは「要因」としてまとめ、本論文独自の観点で分類して「要因一覧」として示す。

各項目の最後の「No.」から始まる番号は、第2章先行研究の項(2-2-1)の先行研究一覧に付した通し番号と一致しており、どの先行研究で言及されたものかを出典として示すものである。先行研究一覧には含まれない文献を出典とする場合は、著者名と発表年を示した。本論文において指摘した要因には、通し番号に代えて「第3章」などと記す。特に多数の先行研究で言及されている要因については、出典を

省略し、(多)と表示した。なお、似た内容のものは集約しているため先行研究とは表現が異なる場合がある。複数の項目間での区別が曖昧で、さらに集約してもよいように思われるものもあるが、先行研究の記述をなるべく活かすようにした。提示されていた用例を、ごく一部であるが【 】に入れて出典の前に示す。なお、この要因一覧では新聞、小説といった資料の違いは考慮せずに列挙している。

式Cと対応させ、非言語的要因には1、言語的要因には2から始まる番号・記号を付す。これは、のちの検討時に使用する。また、固定的要因は四角で囲んで示す。固定的要因は、常用漢字か否か等、客観的な判断が可能で判定に個人差が出にくいもののみとする。※印は筆者による補足である。

前章で提示した3つの切り口のうち、まず「非言語的要因と言語的要因」を軸として大別する。さらに、「非言語的要因」は「場」と「意識」の観点から、「言語的要因」は「意識」「形式」「表現効果」の観点から、それぞれ分類する。

・要因一覧

1. 非言語的要因

1 A. 場（コミュニケーションが行われる場面）

1 A 1. 記事の内容・性質、話題の違い。社会面か政治面か、文化・家庭欄かなど。

No.3

1 A 2. 新聞か週刊誌かなど、媒体の性格の違い No.5

1 A 3. 書き手と読み手が限られている場である No.3

1 A 4. カジュアルで軟らかい場（コンテキスト）や文章である

No.34, 第3・4・5章

1 A 5. コミュニケーションが成立する場面・状況としての「コンテキスト」

第3・4・5章

※1A4の「カジュアルで軟らかい場」に限定されない。

1 B. 場（物理的な場）

1 B 1. 筆記素材・表示素材（看板の材質・加工技術の制約や、手書きであること、テレビの画面など）（【皮フ】など）No.31

1 C. 意識（非言語的な側面に関わる表記主体の意識）

1 C 1. 手書きである場合などに筆記経済を追求する意識（【皮フ】）No.31

1 C 2. 子供でも読めるようにとの読み手への配慮（【ビン】【カン】）No.31

1 C 3. 受け手との距離を調整しようとする語用論的な意識（コンテキストと連動した表記主体の意識）第3・4・5章

2. 言語的要因

2 A. 意識（言語的な側面に関わる表記主体の意識）

2 A 1. カタカナ表記が規範的・標準的であるという規範意識が働く語である（多）

例：擬音語、擬声語、擬態語、動植物名、性別、外国人の発話文中語、
幼児語、呼び名・呼び声、専門用語、化学物質、医学・衛生関係、
機関・施設名、固有名詞、電報文、事務書類の宛名、単位・数を数える語、
発音辞典やアクセント辞典における発音やアクセントを示すもの、
隠語・俗語、方言

※第7章で述べた「カタカナ表記規範感覚」が働く語群である。

2 A 2. 漢字がわからない語である No.27

2 A 3. 書きにくい／読みにくいと表記主体が判断した漢字や漢語である No.9, 29

2 A 4. 公用文など公式の文体に使われない表記形式であるために、軟らかい文体
で使われるであろうという意識が働く語である No.3

2 A 5. 表記の段階で、表記主体が前後の語句とのバランスを取ろうと考える場合
（前後の単語が全てカタカナであればそれに合わせるなど）No.10, 40

※文脈を考慮しようとする意識、と言い換えられる。

2 A 6. 文字列環境によって生じる文字列内での埋没を避けようとする意識⁹⁴（語
句の切れ目を表し、読みにくさ・読み間違いを避ける）No.3, 5, 9, 14, 17, 22,
23, 24, 29, 34, 第8章

⁹⁴ 「文字列環境」は、コミュニケーションにおける「場面」「意識」「内容」「形式」の4側面
で言えば「形式」に当たる。しかし非外来語のカタカナ表記出現要因という観点で見ると
は、表記主体の意識に属する要素である。同じ場面の、同じ文字列環境で使用する同じ語
に対し、埋没を避けるためにカタカナ表記を選択するかどうかは個々の表記主体の意識に関
わる問題だからである。

※以下、本文中で言及する際には単に「文字列環境」と言う場合がある。

2 A 7. 「カタカナで書かれる」という「カタカナ表記存在感覚」が働く語である

第 6 章

※社会的使用頻度が高いこと（横山詔一 2014a・2014b）により接触頻度が高く、見慣れている語であることがこの感覚が働く一因である。

2 A 8. 表記主体が「基本表記」とするものである 第 5 章

2 A 9. 表記主体個人における「表記の基準感覚」が働くものである 第 6 章

2 A 1 0. 表記主体個人の方針、習慣、好悪に基づくものである 第 9 章

2 A 1 1. 間接書記による表記行動であるため、原案者・原著者の表記に合わせてよ
うとする意識 第 7 章

2 A 1 2. 一連続のカタカナとして語がまとまるため、それにより識別性を持たせ
ようとする意識

※先行研究では、「一連続のカタカナとして語がまとまるため、識別性にす
ぐれる、目立つ」点が要因として挙げられており、【デンワ】【タタミ】【マ
ンガ】などが例示されている。No.3, 31

本論文ではこれを「意識」を軸として捉え直し、2A12 として記述した。

2 B. 形式（言語に属する側面）

2 B 1. 漢字の有無

2 B 1 a. 漢字表記がない

2 B 1 b. 表外字である

※漢字があるが、「漢字表記がやや難しいか結合度が弱い」「漢字だと読み取り
にくい」など、「漢字で書きにくい事情にある」という指摘もまとめてここに含
む⁹⁵。（【アゴ】【ワイロ】【ミソ】【ゴミ】【ケガ】【ボケ】【フタ】【パネ】【ネジ】
【テコ】【マヒ】など）No.1, 3, 9, 10, 14, 22, 24, 29, 31, 32, 39

2 B 2. 漢字にすると複数の読みがある語である（【コツ】【ゴミ】【ワル】【コメ】
【カネ】など）No.17, 30, 39, 佐藤栄作(2010)

2 B 3. 込み入った字画を持つ字である（【皮膚】を避けた【皮フ】）No.31

⁹⁵ 「漢字表記がやや難しいか結合度が弱い」「漢字だと読み取りにくい」については個人差がある要素であるため、「漢字表記がない」および「表外字である」のみを固定的要因とした。

※本論文では、【膚】を基準として 15 画以上の画数を持つ漢字を「込み入った字画を持つ字」と見なす。

2 B 4. カタカナ表記が普通である状況に変化してきた語である（習慣化、慣用化とも）

※複数の先行研究で指摘されている要因であるが、「普通である状況」「習慣化、慣用化」の認定は曖昧である。No.17 のみが慣用化の認定基準を提示している。（【バカ】【ノリ】【ムダ】【ゴミ】【カ月】【カタカナ】【カッコ（括弧）】【ハガキ】【マネ】【カラ（空）】【モテる】【クセ】【コツ】【ダメ】【皮フ】など）No.3, 5, 9, 10, 14, 17, 22, 30, 31, 39

2 B 5. カタカナ表記が慣用表記である（慣用カタカナ表記）（【カタカナ】【カラオケ】【ケガ】など）第 7 章

2 B 6. カタカナを用いずに表記すると漢字・ひらがなが混在する語である（カタカナを用いずに表記すると混合表記語になる）（【チラシ】【ハリ】など）第 6 章

2 B 7. 語義を理解するために特に漢字を必要としない語である（【デンワ】【タタミ】【マンガ】など）No.3

2 B 8. 仮名表記にした場合にまぎれるような同音語がない（同音語があっても前後の文脈によって誤解を生まずに済む）（【デンワ】【タタミ】【マンガ】など）No.3

2 B 9. カタカナ表記の自立語基に接頭辞が引きずられる（【オシャレ】【コギャル】など）No.15

2 B 1 0. 略字としての使用（【会ギ】【名ボ】など）No.9

2 B 1 1. 漢字表記の代用・代行をさせる（【ボロ】【ハツラツ】など）No.3, 6, 16

2 B 1 2. パソコンで表示させることができない文字である（「秘」を丸で囲んだ文字の代わりに【マル秘】と表記するなど）（読み方・音を示しているとも解釈可能）No.11

2 B 1 3. カタカナ表記によって意味が独立する・漢字表記語の一種の同音異義語である（【イケる】【スべる】【クスリ】など）No.24, 25

2 B 1 4. ポピュラーカルチャーに関わる語である（【マンガ】【ツッコミ】【カワイイ】など）No.32

2 B 1 5. 罵倒語・非難語である (【カス】【ワル】【ムダ】【イジメ】【ヤラセ】など) No.32

2 B 1 6. 語の機能(統語的・文法的振る舞い)の違いを表す(【テキトー】) No.35

2 B 1 7. 音声転訛形を持つ語である (【メンドウ】に対する【メンド】など) No.40

2 B 1 8. カタカナの役割に沿ってカタカナ表記されていると一般的に見なされる語である (オノマトペ、動植物名、俗語、専門的な用語など) 第7章

2 B 1 9. カタカナ表記されるにあたってコンテキストの影響を受けない語である (オノマトペ、動植物名、俗語、専門的な用語などカタカナの規範的・準規範的な役割に沿っているもの、【カタカナ】【カラオケ】【ケガ】【ズレ】【セリフ】など) 第7章

2 B 2 0. 品詞 名詞(一般)、または副詞である 第8章

※名詞(一般)・副詞であることは、カタカナ表記出現を積極的に促進するとまでは言えないが、両者において出現しやすいことからここに挙げた。積極的に抑制もしないと考えられ、「品詞の中ではこの2種類に出現しやすい」という要素である。

2 B 2 1. 語種 和語である 第8章

※漢語であることはカタカナ表記出現の抑制要因となる(本節で後述)。

2 B 2 2. 外来語由来の成分を語の一部に持つ (【カラオケ】など) 第7章

2 B 2 3. 多義語である (【モノ】【カギ】など) 第7章

2 B 2 4. 文脈。文と文との前後関係。前後に何が書かれているか 第2章

2 C. 表現効果

2 C a. 表音性を利用した効果

2 C a 1. 話し言葉的な特徴を示すため(【ウン】【ナ～ンだ】など) No.3, 4, 5, 7, 8, 12, 15, 24, 34

2 C a 2. 話し言葉そのもの・音声・発音・音を描写する、際立たせるため(【ガッコ】【ホント】【チョー】【ヨカッタ】など) No.3, 9, 15, 16, 21, 29, 30, 31, 39

2 C a 3. 高く鋭い音/硬質系の音色を表すため(ピアノの音色を表す【ーン】) No.15

2 C a 4. 感動詞・終助詞・語気語調を表すため(【ですよ】など) No.3, 10

2 C a 5. ゴロ合わせ（掛詞）や慣用句（【カマをかける】【コケにする】など） No.9

2 C a 6. 振りがな・読み（「近々に」に対する【キンキンに】など） No.10, 12

2 C b. カタカナ文字やカタカナ語（外来語）の持つ特性・イメージを利用した効果

2 C b 1. 感情や感覚など情態を表すため（【トーゼン】など） No.4, 7, 19

2 C b 2. 状態や性質、程度などを表すため（【メリハリ】【イマイチ】など）

No.12, 19

2 C b 3. 評価を表すため（【メンドウ】【カンタン】【インチキ】【デタラメ】など）

No.4, 7, 12

2 C b 4. レトリックやノリの良さを表すため（【カサつくホッペも、ベタつくオデコも】【ワンモアビジン】など） No.9

2 C b 5. 特に強調するため（話し言葉的な表現に限らない。見出し語等の視覚効果含む） No.10, 30, 39

2 C b 6. 特殊な意味やニュアンス、語感をもたせるため（【カネ】【ズレ】【モノ】
【オンナ】【ラク】【キレル】【ハレ（のお祝い）】【ビミョー】など） No.3,
5, 9, 10, 14, 21, 23, 24, 27, 29, 30, 34, 39, 佐藤(2010)

2 C b 7. 言葉や文の重み、語義や語のニュアンスを低減させるため（深刻性・真
剣味・強烈すぎるイメージの緩和）（【ショーゲキ】【運動オンチ】など）

No.8, 15, 31

2 C b 8. 読み手を立ち止まらせるため No.15

2 C b 9. 漢字本来の字義からの距離感を保つ・区別するため（漢字で書かれた場
合は具体的な事物を指し、カタカナで書かれた場合は具体的な事物を指さ
ないなど）（【コツ（を伝授する）】【クビ（になる）】【（話の）タネ】【クギ
（を刺す）】【（解決の）カギ】【ダシ（にする）】【アク（が強い）】【（体の）
ツボ】など） No.3, 17

2 C b 10. 漢字の第一義でない意味で用いる場合（【オビ】【カギ】【コツ】【ウロ
コ】【クビ】【ノリ】【ツケ】【モテる】など） No.10, 17, 30, 39

2 C b 11. 語を従来とは異なる意味や用法で使っていることを示すため（【ヤマ】
など） No.16, 21

これらの要因は、前章で式Cとして示したように、複合的・重層的に関連し合っている。コミュニケーションには常にそれがなされる「場」があり、その「場」においてコミュニケーションを行う人間には「意識」がある。その上で、「形式」に挙げられたような個々の要因が関わる。また、「表現効果」は、上記一覧において「表音性を利用した効果」と「カタカナ文字やカタカナ語（外来語）の持つ特性・イメージを利用した効果」とに分けて捉えたが、さらに別の側面から捉えることも必要である。「そのような表現効果を狙う表記主体の意識」と「そのような表現効果を持つカタカナ」の両面である。

要因一覧に挙げられた要因同士が、因果関係を持って関わり合う場合もある。例えば、2B10「略字としての使用」の用例【会ギ】（会議）の【ギ】は、2B3「込み入った字画を持つ字である」+1C1「手書きである場合などに筆記経済を追求する意識」の両条件が原因としてあり、かつそこに1A「場（コミュニケーションが行われる場面）」が関わる。略字の使用が許容される場でなければ出現しない表記であり、手書きでなく例えばパソコン等で入力する場合は、何らかの表記主体の意図や事情がない限り出現しない表記である。この例では、2B10は結果であり、2B3、1C1はその原因、1Aは誘因であるという関係になっている。このような、いずれかが原因となりいずれかが結果となるという要因同士の関わりも、用例ごとの要因構造の多様性を生み出している。

加えて、要因構造の多様性を生み出す今一つの分類軸がある。1C「意識（非言語的な側面に関わる表記主体の意識）」は、それが「他者に資するため」のものか「自己に資するため」のものかという観点で見ると、別の志向性を持っている。1C2の読み手への配慮は「他者に資するため」のものであるが、1C1の筆記経済を追求する意識は「自己に資するため」のものである。1C3の受け手との距離を調整しようとする意識は、「他者と自己の両者に資する」と捉えることができるであろう。このような正反対の志向性を持った意識もその都度非言語的な促進要因あるいは抑制要因として働き、他の要因と関わり合い、一つの表記が出現するに至っている。

さて、「非言語的要因と言語的要因」「固定的要因と変動的要因」「促進要因と抑制要因」の3つの切り口から要因一覧に挙げた項目を見ていくと、従来指摘されてきたこれらの要因には、非言語的要因と言語的要因、また固定的要因と変動的要因の各々双方が確かに含まれているのが確認できる。しかし、非外来語のカタカナ表

記が出現するにあたっての促進要因／抑制要因という切り口で見ると、これらは全てが促進要因である。つまり、これまで要因が多々指摘されてきたにもかかわらず、焦点は促進要因にあり、そこには抑制要因が意識的に組み込まれていなかった。捉え方が一面的だったのである。これが、非外来語のカタカナ表記が出現する仕組みと原理を描きにくかった理由の一つである。例えば、前章で述べたように「もともと、漢語はカナ表記（引用者注：ここではひらがなも含む）されにくい性質を持っている」⁹⁶等の指摘は先行研究でなされていた。しかし、それが非外来語がカタカナで表記されるのを「抑制する要因」であると位置づけて促進要因を相対化し、相互の関わりにおいて出現要因を捉えるという視点での考察は、積極的にはなされてこなかった。

要因一覧の項目は全てがカタカナ表記の抑制要因にもなる。例えば 2B13「カタカナ表記によって意味が独立する」ことが、「意味が独立しては困る」ような文脈やコンテキストのもとではカタカナ表記出現を抑制する要因になるなどである。具体的には、2B13 の例として挙げられている【クスリ】はカタカナ表記だと麻薬等をイメージさせるため、一般的な「薬」の意味を表したい場合はカタカナを避けるなどの状況が考えられよう。また、これらのカタカナ表記出現要因は、裏返せば全てが漢字表記やひらがな表記の抑制要因となるのは前章で述べたとおりである。このような要因の両面性を念頭に、カタカナ表記出現の背景を捉える必要がある。式Cで示したとおり、促進要因／抑制要因という要因の分類軸を立てることで初めて、要因が関わり合う様相を実状に即して捉えることができる。

10-3. 非外来語のカタカナ表記出現の背景—固定的要因による分類を基に

すでに述べたように、非外来語のカタカナ表記が出現する仕組みと原理を一般化して客観的に記述するのが困難であるのは、変動的要因が用例ごとにその都度異なるためである。そこで、便宜上変動的要因をいったん排除し、語を固定的要因によって分類した上で、そこを起点として非外来語がカタカナ表記で出現する要因の構造と背景を探る。

⁹⁶ 野村雅昭（1981）による。

先に提示した要因一覧の「2B21 語種」欄に、漢語であることがカタカナ表記出現の抑制要因になる旨を補足しておいた。

本節の検討で用いるため、本論文の調査で得られた全ての用例⁹⁷をまとめた語彙表（以下「語彙表」「付表」などと言う）を資料として巻末に掲げる。この表は、これまで本論文の各章で提示してきた例を含む全ての実例を集約し、各々の表記がどの媒体で何件出現したのかを示すものである。品詞別の表と、五十音順に配列した表との2種類を提示する。本節での検討は、品詞別の語彙表を参照しながら行う。品詞ごとに表を分け、表の見出しに参照用の通し番号を付した。

固定的要因の中でも分類にあたっての基準が特に明確であり、本論文で中心的に扱ってきたのは品詞、漢字に関わる条件、語種である。これらを分類軸として語を分類しながら、どのような語群がどのような固定的要因を要因構造の要素として持っているのかを検討し、カタカナ表記出現の背景を考察していく。「どのような語が、どのような時に、どのような要因によってカタカナで表記されるのか」という問いへの答えを、本論文でここまで述べてきた考え方に基づき、用例に即して描き出していく。出現数の多い「名詞（一般）」を中心に、注目すべき語群に関して見ていく。

以下で同じ項目に分類されていても、語ごとに別の固定的要因が加わる。さらに、同じ語のカタカナ表記であっても、実際は用例ごとに異なる変動的要因が働く。しかし本論文ではそこまでの区別は行わず、語群ごとに共通する要素を抽出していく。

10-3-1. 名詞（一般）

まず、「名詞（一般）」（付表1）について検討する。「名詞（一般）」は総出現数も異なり語数も多いため、「名詞（動植物）」を付表2として分離した上で詳しく見ていく。

10-3-1-1. 漢字表記のない語群

付表1には481の語が挙げられている。このうち、カタカナ表記された部分に漢字表記がないもの⁹⁸は51語である。漢字表記が不明の【コク】は後で検討することとし、【コク】以外で出現数の多いものから一部を列挙すると、【ズレ】【ネタ】【ベタつき】【ポイ捨て】【カサつき】【バラつき】などがある。これらは要因一覧の2B1a

⁹⁷ 固有名詞と掛詞は語彙表に含まれていない。

⁹⁸ 付表の「出現形」欄のカタカナ表記に対応する漢字が、「漢字・ひらがな表記」欄に示されていない語を指す。語源と漢字表記が不明の「コク」も含む。

「漢字表記がない」という要素が促進要因として大きな力を持つ語群である。以下、要因一覧で示した記号を用いて、各要因を式Cに当てはめていく。

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B1a, 2B20, 2B21) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 \}$$

51 語は全てが名詞（一般）であり和語であることから、2B20「品詞」と2B21「語種」も言語的な促進要因 $\alpha 2$ の要素として加えた。これがまず、51語に共通する要素のみを組み込んだ、式Cの基本形である。すなわち、「名詞（一般）／和語／漢字表記なし」を固定的要因として持つ語がカタカナ表記される時の土台とも言える要因構造である。

さらに、【ベタつき】【カサつき】【バラつき】については、カタカナ表記されている前部要素がオノマトペ由来の語（オノマトペの省略形）である。ほかにも【パスつき】【ゴワつき】【ザラつき】の例が見られた。【ポイ捨て】も類似の例と言える。これらに関しては、オノマトペ由来の成分であるという点で、第7章で得た結論である2B18「カタカナの役割に沿ってカタカナ表記されていると一般的に見なされる語である」こと、および2B19「カタカナ表記されるにあたってコンテキストの影響を受けない語である」ことが $\alpha 2$ に加わる。

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B1a, 2B20, 2B21, 2B18, 2B19) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 \}$$

そして【ズレ】も第7章で2B19「カタカナ表記されるにあたってコンテキストの影響を受けない語である」と結論づけたものであるため、式Cは次のようになる。

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B1a, 2B20, 2B21, 2B19) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 \}$$

このような固定的要因による基本形を土台に、これまで述べてきたような多様な変動的要因が促進要因・抑制要因となって働き、個々の表記の出現につながる。例えば、変動的要因の代表的なものは文字列環境である。特に名詞は全体的にその前後に助詞のひらがなが接することも多く、ひらがなの連続を避ける意識を表記主体に生じさせる文字列環境が、変動的な要因の一つとなることもあるであろう。しかし第8章で検証したとおり、文字列環境は非外来語のカタカナ表記出現要因の一要素ではあるものの、常に優勢で大きな力を持つわけではない。第8章、第9章で述べた②の環境、すなわち「埋没回避が目的でない」と想定される環境で出現してい

る用例の場合は、例えば次の例1のように、ひらがなを使用しても文字列に埋没することはない。そのため、カタカナが選択されるならばその要因は別に想定されるからである。

(例1) ネタ潰し? (出典: テレビ番組 その他の民放番組)

【ネタ】のカタカナ表記の場合は、むしろ俗語であるという点、つまり 2B18 が固定的要因として $\alpha 2$ に加わる例である。【ネタ】以外でも、俗語については同様である。「カタカナの役割に沿ってカタカナ表記されていると一般的に見なされる語である」点において、要因構造の基本形は、先に挙げたオノマトペ由来の成分を含む語のカタカナ表記と同じである。

一方で、①の環境、すなわち「埋没回避を主な目的として選択されたと解釈可能な」環境で出現している用例の場合は、変動的要因である 2A6「文字列環境」(文字列環境によって生じる文字列内での埋没を避けようとする意識) が $\alpha 2$ の一要素となる。

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B1a, 2B20, 2B21, 2A6) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 \}$$

第8章の表6、第9章の表2において「和語」「漢A」に分類されている語群のうち「名詞(一般)」に分類されている語は、これと同じ要因構造を基本形として持っている。

文字列環境のほかにも、各々の例にさまざまな変動的要因が掛け合わされて一つひとつのカタカナ表記が出現することになる。その場合、要因一覧に挙げたあらゆる変動的要因が式Cの構成要素になる可能性を持つ。「名詞(一般)」の中には、第7章でコンテキストに関わりなくカタカナ表記されるとして慣用カタカナ表記の認定を提案した語のほとんど全てが含まれるわけであるが、裏を返せば、それら以外の語は「コンテキストの影響を受ける」と現時点では見なせるということである。したがって、本論文で慣用カタカナ表記の認定を提案した語以外については、1A5「コンテキスト」が非言語的な変動的要因として $\alpha 1$ あるいは $\beta 1$ の構成要素となり、カタカナ表記の出現を促進したり抑制したりするという仕組みである。

次に、【コク】の要因構造を検討する。出現数が多く、テレビ番組、CM、交通広

告、パッケージの4種類、つまり学術雑誌とメール以外の媒体で見られた。

【コク】は、第6章で述べたとおり語種、漢字表記ともに不明である。漢字で書きにくい事情にある点では、本項冒頭に挙げた要因構造の基本形と構成要素は同じである。付加される変動的要因として想定されるのは、まず2A7の「カタカナ表記存在感覚」である。第6章で見たとおり、「こく」は柏野和佳子・中村壮範（2013）によるBCCWJの調査結果においてもカタカナ表記率が非常に高い語である。社会的使用頻度が高いことにより接触頻度も高くなり、見慣れていることが使用につながって循環していることが、高いカタカナ表記率の背景にはあると考えられる。表記主体がカタカナ表記存在感覚をいなく代表的な例である。

また、【コク】の場合は文字列環境（2A6）がカタカナ表記を促進する一因となることも多いであろう。本論文の用例では、89例中80例が、前後いずれか、あるいは双方でひらがなに接していた。ひらがなで【こく】と表記した場合に、ひらがなが連続して読みにくくなるのは明白である。したがって、【コク】については、以下が基本的な要因構造となる。

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B1a, 2B21, 2A6, 2A7) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 \}$$

以上は、漢字表記のない語群、および漢字表記の有無が不明な語についての検討であった。引き続き、「名詞（一般）」を漢字に関わる条件で分類した上で非外来語のカタカナ表記出現の背景を検討していく。

10-3-1-2. 漢字があるが表外字である語群

名詞（一般）には、「漢字があるが表外字である」（2B1b）という漢字に関する条件を属性として持つ語⁹⁹も多く含まれる。本論文の調査では、付表1の481語中120語が該当する。漢字表記がない場合と異なり、当然ながらここには漢語も含まれる。語種の内訳は和語98語、漢語20語、混種語2語である。各々につき、代表的な例を示すと以下のとおりである。固定的要因を当てはめた、各々の要因構造の基本形と共に示す。

⁹⁹ 付表の「出現形」欄のカタカナ表記に対応する漢字が「漢字・ひらがな表記」欄に示されている語のうち、「×」「▽」印が付されているものを指す。

和語：【ゴミ】【ウソ】【ハサミ】【カビ】【タダ】【ツボ】【ホコリ】【ザル】

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B1b, 2B20, 2B21) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 \}$$

漢語：【ガン】【ケガ】【ギョーザ】【マヒ】【ケンカ】【フン】【ガレキ】

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B1b, 2B20) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 (2B21) \}$$

混種語：【ゴマ油】

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B1b, 2B20) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 (2B21) \}$$

これらの基本形に加わる、その他の固定的要因と変動的要因を語ごとに個別に見ていく。和語に関しては、漢字表記がない語の場合と要因構造の基本形はほぼ同じである。その上で加わってくる固定的要因をまず見ると、例えば【ゴミ】は先行研究において2B2「漢字にすると複数の読みがある語である」ことが要因として指摘されていた語である¹⁰⁰。そして文字列環境以外の変動的要因については、【ゴミ】は第6章で見たとおりカタカナ表記頻度が高い（柏野・中村 2013）。本論文の調査においても、学術雑誌以外の全ての媒体で出現していた¹⁰¹。つまり、【コク】同様流通量が多いことで接触頻度が高く、2A7の「カタカナ表記存在感覚」を受け手にもたらすことが出現要因の一つとなる語と考えられる。また、【ツボ】は2Cb9「漢字本来の字義からの距離感を保つ・区別するため」にカタカナ表記されることが先行研究で指摘されてきた。これらが各々、構成要素として加わる。

【ウソ】【タダ】については、10-3-1-3 で後述する。【ハサミ】【カビ】【ホコリ】【ザル】は、ほとんどがパッケージにおける出現例である。パッケージはその素材自体が小さく、文字も自ずと小さくなる。また、文字を目にする受け手も老若男女幅広い。したがって、パッケージにおいて表外字にカタカナが使用される時、その背景となる変動的要因としては1B1「筆記素材・表示素材」や1C2「子供でも読めるようにとの読み手への配慮」などが代表的であろう。それは、これらの例に限ったことではない。

¹⁰⁰ 出典は要因一覧 2B2 の項目を参照。以下、先行研究による指摘に本章で言及する際は、その出典が要因一覧の各項目の最後に示されている（No.から始まる番号）。この番号は、先行研究一覧（第2章）の通し番号に対応している。

¹⁰¹ 学術雑誌においては、「ごみ」という語自体一度も出現しなかった。

漢語については、本論文で述べてきたとおり、固定的要因の語種が漢語である(2B21) こと自体がまずカタカナ表記出現の抑制要因になる。そして個別に見るならば、【ケガ】は第7章で調査対象とした学術雑誌でも出現した。したがって、2B19「カタカナ表記されるにあたってコンテキストの影響を受けない語である」ことが言語的・固定的な促進要因、つまり α 2の要素として加わる。

そして変動的要因では、【ガン】や【フン】は表現効果が一因となっている可能性もある。2Cb7「言葉や文の重み、語義や語のニュアンスを低減させるため」などである。【マヒ】は、【麻痺】と漢字表記にした時常用漢字と表外字が混在し、表外字をかな表記すると【麻ひ】あるいは【麻ヒ】という混合表記語となってしまう。それを避けるにあたって 2A12「一連続のカタカナとして語がまとまるため識別性を持たせようとする意識」が働き、【マヒ】が出現するのであろう。／マヒ／には 2B8「仮名表記にした場合にまぎれるような同音語がない」という固定的要因も、カタカナ表記出現を促進する。【ギョーザ】【ケンカ】【ガレキ】についても、その点は同様である。【ギョーザ】については 2A7「カタカナ表記存在感覚」も促進要因となるであろう。変動的要因については客観的な判定は困難であり、最終的にはカタカナで表記した意図を一つひとつの用例に関して表記主体に尋ねなければ、実際に何が要因となってその表記が出現したのかはわからない。本節での試みは、そのような要素を排除して、固定的要因のみで構成された式Cの基本形によって語を分類し、そこを起点として想定される変動的要因の可能性を検討することである。変動的要因を検討することによって、語ごとに異なる要因構造の多様性の一端を示すことができると考えるからである。

混種語【ゴマ油】においては、複合語を構成する成分のうち、漢語の部分のみがカタカナ表記されている。複合語を一単位として見た場合、カタカナ表記された部分がカタカナで出現した固定的要因の構造は、上に掲げた漢語の場合と基本的には同じであろう。ただし、語の全体をカタカナ表記することで語にまとまりを持たせるのと同様に、語の全体を漢字で表記することによってまとまりを持たせようとする表記主体の意識が働くことも当然ながら想定される。常用漢字である【油】に合わせて【胡麻油】と表記することも可能だということである¹⁰²。つまり、カタカナ

¹⁰² 実際、筆者の内省によれば【胡麻油】の表記も流通している。

表記された部分は同じく漢語であっても、この類いの混種語の場合は「複合語であり、常用漢字で書ける成分を含む」という属性がカタカナ表記を抑制する言語的な固定的要因となりうるであろう。しかし、ここで【胡麻】が表外字であることによって漢字表記の出現が抑制される。その場合、／ゴマ／部分を表記する文字種を選択肢としてはひらがなとカタカナが残される。そして、両者のうち、ひらがな表記の【ごま油】は広く流通している表記である。BCCWJでは、／ゴマ／部分がひらがな表記である用例が最も多く抽出された¹⁰³。したがって、「ひらがなで表記される」という感覚が言語的な変動的要因となり、カタカナ出現を抑制する場合もあるであろう。しかしそれでもカタカナ表記を促進する何らかの力が強く働き、本論文の調査対象における【ゴマ油】の出現につながったということになる。【胡麻油】【ゴマ油】【ごま油】のいずれが最終的に選択されるのかについては、非言語的な変動的要因である1A「場（コミュニケーションが行われる場面）」や、例えば2A8「表記主体の『基本表記』である」、2A10「表記主体個人の方針、習慣、好悪に基づくものである」などといった個人差も反映してくる。カタカナ部分に接する文字によっては、2A6「文字列環境」に関わる意識が変動的要因になる場合もあるであろう。それらが用例ごとに要因構造に加わる要素となる。

10-3-1-3. 常用漢字で書ける語群

「名詞（一般）」において最も異なり語数が多いのが、常用漢字で書けるにもかかわらずカタカナ表記されている¹⁰⁴という用例である。これらは481語中305語を占める。語種による内訳は和語192語、漢語78語、混種語34語に、語種不明の1語（【スッピン】）である。各々につき、出現数の多かったものを列挙すると以下のとおりである。これらは第9章で述べたとおり、常用漢字で書けるという事実がそのままカタカナ表記の出現を抑制する言語的・固定的な要因となる。

和語：【ニオイ】【チカラ】【フタ】【カラダ】【モノ】【カタチ】【ワザ】【カギ】

¹⁰³ BCCWJで／ゴマ／部分の文字種を変えて3種類の各々につき検索したところ、抽出された用例の件数は次のとおりであった。

【ゴマ油】115件、【胡麻油】41件、【ごま油】474件

¹⁰⁴ 付表の「出現形」欄のカタカナ表記に対応する漢字が「漢字・ひらがな表記」欄に示されている語のうち、「×」「▽」等の印が付されていないものを指す。

【ハリ】【チラシ】【ワケ】

$$N = \{\alpha 1 + \alpha 2 (2B20, 2B21)\} - \{\beta 1 + \beta 2 (2B1)\}$$

漢語：【コツ】【ケータイ】【ヒミツ】【ギモン】【センイ】

$$N = \{\alpha 1 + \alpha 2 (2B20)\} - \{\beta 1 + \beta 2 (2B21, 2B1)\}$$

混種語：【カラオケ】【アニキ】【旬モノ】【イケメン】【ニオイ菌】【クチコミ】

【ホンモノ】【イチオシ】

$$N = \{\alpha 1 + \alpha 2 (2B20)\} - \{\beta 1 + \beta 2 (2B21, 2B1)\}$$

固定的要因による要因構造の基本形は、先に述べた「漢字表記がない」(2B1a)、「表外字である」(2B1b) という要素を $\alpha 2$ に含まず、代わりに常用漢字で書けるという抑制要因 2B1「漢字の有無」を $\beta 2$ に含むというものである。ただし、【ニオイ】【フタ】【カギ】については各々2010年11月まで表外字あるいは表外音訓であったことで $\alpha 2$ に 2B1b「表外字である」という要素が残留し、言語的、固定的なカタカナ表記の促進要因となる語の例である。それでも常用漢字表に追加された以上は流通量が増加し、接触の機会も増えることで、常用漢字表が改定される以前よりも漢字表記を見慣れた表記主体が多くなりつつあるはずである。したがって、【ニオイ】【フタ】【カギ】も含めた上記の語はいずれも漢字を使用しやすい分、カタカナ表記の出現が促進される力は弱いということになる。10-3-1-2で挙げた2B1b「表外字である」という要素を持つ語群に比べると β に含まれる要素の力が大きく、カタカナ表記が出現するに至るには促進要因となる別の要素の力が必要となる。それは例えばどのようなものであろうか。

以下では、上に例示した語に関し、どのような要素が促進要因として想定されるのかを検討していく。変動的要因を中心に、付加すべき固定的要因についても随時触れる。

◇ 【ワケ】【ギモン】【ワザ】【アニキ】

【ワケ】【ギモン】は、第3章の表4において用例を前後の文字列と共に例示し、その出現要因を検討した語である。19件見られた【ワケ】は全てがテレビ番組における用例であった。また、【ギモン】は7件見られ、6件がテレビ番組、1件が交通広告における用例であった。【ワザ】は22件中17件が、【アニキ】8件全てがテレ

ビ番組における用例である。4語ともに、出現したテレビ番組のジャンルは「教育・教養・実用」あるいは「その他」のいずれかであり、ほとんどが「その他」である。

第3章で見たように、テレビ番組の「教育・教養・実用」あるいは「その他」のジャンルすなわちバラエティ番組においては、非外来語のカタカナ表記が「名詞(一般)」で多く観察される。それらの例に共通する非言語的な変動的要因 1A4「カジュアルで軟らかい場(コンテキスト)や文章である」ことが、カタカナ表記の出現を促進するためである。したがって、これらはいずれも 1A4 が α 1 の構成要素となる。

そして、第3章で述べたとおり、カタカナが使用されるのはカタカナ表記による 2C「表現効果」が生じるからである。したがって、表現効果が α 2 の要素の一つとなる。2Cb6「特殊な意味やニュアンス、語感をもたせるため」等が考えられる。さらに、テレビ番組と CM の場合は視認性が求められる媒体であり、ここで挙げた例に限らずテレビ番組と CM で出現した例においては 1B1「筆記素材・表示素材」も促進要因の要素となる。10-3-1-2 の和語の用例【ウソ】【タダ】も、ここで述べた要素を要因構造として持つ。

◇【チカラ】【カタチ】【ケータイ】

これらは第4章において個別に出現要因を検討した語群である。個別の要因のほか、共通して指摘できるのが、前述の【ワケ】【ギモン】【ワザ】【アニキ】同様、コンテキストの影響である。ただし、【ワケ】【ギモン】【ワザ】【アニキ】が 1A4「カジュアルで軟らかい場(コンテキスト)や文章である」ことを非言語的な変動的要因としていたのに対し、本論文の調査対象で見られた【チカラ】【カタチ】【ケータイ】が 1A5「コミュニケーションが成立する場としての「コンテキスト」」を変動的要因とするのは、第4章で述べたとおりである。カジュアルで軟らかい場に限定されず、コミュニケーションの相手や社会的状況までも含んだ、1A4 よりもさらに広い意味でのコンテキストである。

【チカラ】【カタチ】ともに、学術雑誌と Eメール以外の4種類の媒体、つまりテレビ番組、CM、交通広告、パッケージで出現している。【ケータイ】は CM、交通広告、パッケージの3種類で出現した。ここで取り上げた3語に限らず、このように人々が接触する機会の多い媒体で満遍なく出現するカタカナ表記は、まず 2A7

「カタカナ表記存在感覚」が働く語である」という要素を促進要因として要因構造に持つ。

また、前述したように、視認性が求められるテレビ番組と CM という媒体そのものが 1B1「筆記素材・表示素材」として促進要因の要素となるが、交通広告やパッケージの文字は短時間で消えることはない。交通広告やパッケージの用例と、テレビ番組と CM における用例とは、同じ語のカタカナ表記であっても異なる要因構造を持つということである。これらの例についても、カタカナ表記による何らかの「表現効果」(2C)が生じるからこそカタカナが使用されるという事情が前提となっている。

◇【ニオイ】【フタ】【コツ】【ハリ】【チラシ】

これらは、交通広告とパッケージの両者あるいはいずれかにおいて高頻度で出現した語群である。また、テレビ番組、CM、交通広告、パッケージのうち3種類以上で出現している。したがって、第9章で述べた【チラシ】同様、それ以外の語についても流通量が多く接触頻度が高い。前述の【チカラ】【カタチ】【ケータイ】と同じく、2A7「カタカナ表記存在感覚」が働く語である」という要素を変動的な促進要因として要因構造に持つ。また、【ニオイ】【フタ】については、以前は表外字か表外音訓であったという言語的な固定的要因を要素として持つことも、先に述べたとおりである。第6章で検討したように、【フタ】においては媒体や場と連動した2A9「表記主体個人における「表記の基準感覚」」もその表記の出現を促進する要因となるであろう。

それ以外にも個別に見ていくと、これらの語においてはいくつかの固定的要因が要素となっている。【ニオイ】は2B2「漢字にすると複数の読みがある語」である。すなわち【臭い】に対する／ニオイ／と／クサイ／である。【フタ】の漢字表記【蓋】は2B3「込み入った字画を持つ字」に該当する。【コツ】も漢字表記は【骨】であり、2B2「漢字にすると複数の読みがある語」という固定的な要因を持つ語に該当するが、【コツ】の場合は先行研究においてさまざまな要因が指摘されてきた。2B4「カタカナ表記が普通である状況に変化してきた語である」、2Cb9「漢字本来の字義からの距離感を保つ・区別するため」、2Cb10「漢字の第一義でない意味で用いる場合」など、本論文で言うところの変動的要因である。また、第6章表3にあるよ

うに、柏野・中村(2013)による BCCWJ の調査結果においてもカタカナ表記頻度、カタカナ表記率ともに高い語である。ここで挙げた語群は 2A7 「カタカナ表記存在感覚」が働く語である」と先に述べたが、その中でも【コツ】は特に強いカタカナ表記存在感覚を受け手にもたらず表記であると考えられる。

【ハリ】【チラシ】に関しては、漢字表記にすると【張り】【散らし」となり、まず共通の要素として 2B6 「カタカナを用いずに表記すると漢字・ひらがなが混在する語である」点が挙げられる。この固定的要因を持つ語に 2A12 「一連続のカタカナとして語がまとまるため識別性を持たせようとする意識」が生じると、カタカナ表記が出現する。これに該当する例は一定数見られる。【ニオイ】もその一例であるが、ほかに第 6 章表 3 では【ハネ】(跳ね)、【タレ】(垂れ)、【シミ】(染み)、【ツマミ】(摘み・撮み)、【ムレ】(蒸れ)が挙げられている。特に、【ツマミ】以外は常用漢字で書ける語である。それにもかかわらずカタカナで表記されるのは、本章を通して述べてきたような固定的要因をこれらの語が持っていること、また、その影響を受けた表記主体の意識の働きが背景となっているためである。第 6 章表 3 に挙げた語以外でも、例えば付表 1 の常用漢字で書ける語においては【ダシ】(出し・出汁)【オバケ】(お化け)、【コリ】(凝り)、【ヨゴレ】(汚れ)などが見られる。その他、ここで例示したもの以外でも、以上述べてきた語群と同じ属性を持つ語は促進要因 $\alpha 2$ として同じ要素を要因構造に持っている。ただし、同じく 2B6 を固定的要因とする語であっても、表記主体の選択如何ではカタカナでは出現しないという結果になる。

なお、【ハリ】については、同音異義語を多数持つ点で、ここに挙げたほかの語とは出現要因が異なる場合もありうる。本論文の調査においては CM、交通広告、パッケージにおいて出現したが、全てが肌の引き締まった状態を示す語の「張り」をカタカナ表記したものであった。一方、本論文の調査対象における出現例はなかったが、針(鍼)治療などの文脈で【ハリ】が用いられることもある。つまり、【ハリ】に限らず同音異義語が存在する語においては、前後の文の内容からしてカタカナ表記ではどちらの意味かがわかりにくくなる場合は 2B24 「文脈」がカタカナ出現の変動的な抑制要因となる。このように、固定的要因と連動した変動的要因の多様な関わり合いが、一つのカタカナ表記出現の背景として存在している。

◇ 【カギ】【カラオケ】【クチコミ】

これらは、第7章でカタカナ表記が慣用であると認定した語である。したがって2B5「カタカナ表記が慣用表記である」ことが促進要因 α 2の一要素である。

【カギ】は先に述べた【コツ】同様、2Cb9「漢字本来の字義からの距離感を保つ・区別するため」、2Cb10「漢字の第一義でない意味で用いる場合」という点が先行研究において要因として指摘されてきた。しかし、【カギ】と【コツ】とは、要因構造で見るとその構成要素となる固定的要因は異なる。つまり、和語と漢語であるという語種の違い以外にも、【コツ】(骨)の場合は2B2「漢字にすると複数の読みがある語」という固定的な要因を持つ語に該当するのに対し、【カギ】(鍵)は2B3「込み入った字画を持つ字」であり、また2B23「多義語」である。「多義語である」という語の属性つまり固定的要因が、本論文で言うところの変動的要因につながる語の例である。「多義語である」という背景があるために、表記主体は2Cb9「漢字本来の字義からの距離感を保つ・区別するため」、2Cb10「漢字の第一義でない意味で用いる」ため、あるいは2Cb11「語を従来とは異なる意味や用法で使っていることを示すため」にカタカナ表記を選択するのである。また、2B13「カタカナ表記によって意味が独立する」ことを意図してカタカナ表記を選択することにもつながる。

ただし、同じく多義語であっても【カギ】以外に同じ原理が働くとは限らない。なぜなら、「鍵」は第7章でカタカナが慣用表記であると認定した語、つまり文字種が選択されるにあたりコンテキストの影響を受けない語であるため、コンテキストがカタカナ表記出現の抑制要因とはならない。一方、「鍵」とは異なりコンテキストの影響を受ける語においては、多義語であって「鍵」とほぼ同じ固定的要因を要因構造に持っている語であっても、コンテキストがカタカナ表記出現の抑制要因となる可能性がある。このように、従来の先行研究では一面的に捉えられ、同じ要因で出現していると見なされてきた用例も、要因構造を詳細に検討することによって、その背景は異なるものであることが明らかになるのである。

【カラオケ】【クチコミ】は、いずれも2B22「外来語由来の成分を語の一部(これら2語の場合は後部要素)に持つ」点が固定的要因として挙げられる。筆者の内省によれば、【ロコミ】は見かけることがあるが、【カラオケ】に関しては【空オケ】【からオケ】と表記されることはまずない(Alphabet表記【KARAOKE】は目にしたことがある)。BCCWJを用いて確認したところ、【カラオケ】1,065件、【空オ

ケ】【からオケ】はいずれも0件であった。また、【ロコミ】は236件、【クチコミ】132件、【くちコミ】6件であった。特に／カラオケ／に関しては、語全体をカタカナで表記した【カラオケ】が流通し浸透していると思われる。

この2語に限らず、同じ語構成を持つ語には言語的な固定的要因として $\alpha 2$ に2B22が加わる。【イケメン】もその例の一つである。ほかに、本論文の調査では出現数が少なかったが【ダントツ】や【カキフライ】、用例が見られなかった【ダンボール】なども該当する。これらの語群は、2B22が固定的要因の土台として $\alpha 2$ の構成要素を成し、さらに非外来語成分の「漢字に関わる条件」等の固定的要因がそれぞれの語ごとに加わることによって、どの表記で出現するかを選択肢に違いが出るものと想定される。例えば、【カラオケ】の非外来語成分「から」の漢字表記【空】は／ソラ／の読みが浸透しており、2B2「漢字にすると複数の読みがある語」であるという要素がカタカナ表記の促進要因 $\alpha 2$ に加わる。

【クチコミ】の非外来語成分「くち」の漢字表記【口】はカタカナの【口】と酷似しており、2B1「漢字の有無（漢字で書きにくい事情にある）」に該当する語であると言える。それにもかかわらずBCCWJにおいて【ロコミ】の用例が【クチコミ】よりも多いのは興味深い現象である。その背景には【口】の漢字表記を促進する要因、つまりカタカナの抑制要因が働いているわけであるが、どのような要因同士の関わりによるものなのか今後の検討が必要である。非外来語の成分に最終的に文字種が選択される際には、ここで検討した固定的要因を土台として、その上で変動的要因としてさまざまな要素が加わる。その仕組みと原理はこれまで述べてきたとおりである。

◇【モノ】【旬モノ】【ホンモノ】

【モノ】については第7章で「多義語の表記」として検討したとおり、「もの」が2B23「多義語である」ことがまずカタカナ表記出現の固定的な促進要因となりうる。そして、資源や財産としての「人、物、金」を表す場合は【モノ】を慣用カタカナ表記として認定することも第7章で提案した。したがって、資源や財産としての「人、物、金」を表す場合には、2B5の「カタカナ表記が慣用表記である」という点が言

語的、変動的な促進要因としてα 2の構成要素となる¹⁰⁵。本論文の調査対象において【モノ】は35件出現したが、そのうち資源・財産としての【モノ】を表す用例に【人・モノ・情報】があった(1件)。**【モノづくり】**も2件見られた。この**【モノづくり】**は「日本の技術を活かした物作り」という文脈で使用された表記であるが、資源・財産としての【モノ】を表す用例と似た意味合いで使用されていると見なせるであろう。それ以外の32件は、資源や財産としての意味合いを表記主体が持たせているか否かは文脈では判断がつかない。それらについては2C「表現効果」などが変動的な要因として付加されるわけであるが、資源や財産としての物を表すのに用いられる【モノ】が流通した結果接触頻度が高くなり、2A7「カタカナ表記存在感覚が働く語」となって、意味を限定せずに使用されるに至ったものとも考えられる。実際、第7章で述べたとおり、学術雑誌においても**【モノの見方】**という用例が1件見られた。つまり、資源・財産としての物を表す場合に限らず、コンテキストの影響を受けずに出現する可能性があるということである。また、第6章表11で示したとおり、BCCWJの結果において「物」はカタカナ表記頻度が第1位であり、全ての非外来語の中でカタカナ表記された頻度が最も高かったとされる。BCCWJの調査は意味を限定しておらず、この結果には【モノ】の多様な用法が含まれる。そのような多様な用例の流通によって、カタカナの【モノ】は今後さらに、その意味に関係なく、かつコンテキストの影響も受けずに出現する表記となっていく可能性がある。その過渡期であることが、現段階での【モノ】出現の背景なのであろう。

それでは、**【モノづくり】**以外の複合語についてはどうであろうか。本論文の調査対象においては、**【旬モノ】** 8件、**【ホンモノ】** 4件のほか、用例は少ないものの**【エモノ】****【オカイモノ】****【ツキモノ】****【マモノ】****【モノサシ】****【モノマネ】****【ワレモノ】**の例が見られた(**【モノマネ】** 3件、それ以外は各1件)。これらの出現した媒体を確認すると、以下のとおりである。

- ・**【旬モノ】** 8件 **【モノマネ】** 3件：全てテレビ番組(番組ジャンル：その他のバラエティ番組)
- ・**【ホンモノ】** 4件：テレビ番組(番組ジャンル：その他のバラエティ番組) 2件、

¹⁰⁵ 慣用表記であるかどうかは完全に語に付属して不変の要素ではないため、本論文では変動的な要因としている。

CM、交通広告 各1件

- ・【エモノ】【ツキモノ】【マモノ】各1件：Eメール
- ・【オカイモノ】1件：交通広告
- ・【モノサシ】1件：CM
- ・【ワレモノ】1件：パッケージ

一方、第7章で例示したように、学術雑誌において／モノ／を含む複合語が使用される時の表記は、漢字の【物】が20件見られた。【物真似】【本物】【憑き物】【贈り物】などである。学術雑誌において、カタカナ【モノ】を含む複合語の用例はなかった。

これらのことから、複合語の一部における【モノ】の出現は1A5「コンテキスト」の影響を受け、左右されていることが明らかである。1A5「コンテキスト」が変動的要因としてカタカナ表記出現の促進要因 α 1となったり、漢字表記の促進要因すなわちカタカナ表記の抑制要因 β 1となったりしながら、また、その他の変動的要因も付加されながらカタカナ表記出現に至っているというのが、複合語における【モノ】【物】選択の背景なのであろう。

◇【カラダ】【ヒミツ】【センイ】【イチオシ】

これらは10-3-1-2で検討した【マヒ】や【ケンカ】【ガレキ】と同様に、2A12「一連続のカタカナとして語がまとまるため識別性を持たせようとする意識」や、2B8「仮名表記にした場合にまぎれるような同音語がない」という固定的要因が働き、カタカナ表記出現を促進しているとも考えられる。しかし、これらはさらに強い促進の力が必要とされる「常用漢字で書ける語」である。

促進要因 α に加わる要素を個別に検討すると、【センイ】はパッケージにおける出現が多いことから、10-3-1-2で挙げた【ハサミ】などと同様、その背景となる変動的要因としては1B1「筆記素材・表示素材」や1C2「子供でも読めるようにとの読み手への配慮」などが考えられる。【カラダ】は大多数がCMと交通広告の用例であり、第4章で扱った【チカラ】や【カタチ】同様、1C3「受け手との距離を調整しようとする語用論的な意識」がカタカナ表記出現の背後には働いているであろう。

【ヒミツ】はテレビ番組、交通広告、パッケージにおいて見られた。【ヒミツ】【イチオシ】は 2Cb6「特殊な意味やニュアンス、語感をもたせるため」という変動的要因によって出現すると考えられるが、それは漢語や、漢語を含む混種語をカタカナ表記することによって生じる 2C「表現効果」があつてこそ実現可能なことである。【イチオシ】については【イチ押し】【イチおし】の出現例もあり、表現主体の個人差が反映していると見られる。文字列環境が影響することもあるであろう。2B6「カタカナを用いずに表記すると漢字・ひらがなが混在する語である」ことも 2A12「一連続のカタカナとして語がまとまるため識別性を持たせようとする意識」につながり、【イチオシ】の出現を促進するのであろう。

本論文の調査では出現数が少なかった語、つまり付表 1 には挙げられているが本節で用例を示さなかった語に関しても、ここまで述べてきた語群と同じ属性を固定的要因として持つ語であれば、基本的な要因構造、またどのような構成要素が付加されるかについての仕組みと原理は同じである。

10-3-2. 名詞（一般）以外の品詞

名詞（一般）以外の品詞においても、非外来語がカタカナ表記で出現する仕組みと原理は同じである。各品詞において、語種と漢字に関わる条件が同じ語群は、土台となる固定的要因が同じである。したがって、要因構造の基本形の段階ではカタカナ表記の出現しやすさも同じである。漢字に関わる条件には、「漢字表記がない場合」「漢字はあるが常用外である場合」「常用漢字で書ける場合」の大きく 3 通りがある。

それらの固定的要因を構成要素とする基本形をベースとして、前項で見たとおり、個々の例によって要因構造にさらに別の固定的要因が加わっていく。その上で多様な変動的要因が加わり、非言語的要因と言語的要因とが重なり合い、各要素が促進要因あるいは抑制要因となってせめぎ合う。これが、一つのカタカナ表記が出現に至る背景である。

ここまでの記述にも表れているように、固定的要因が客観的に判定できるものであるのに対し、変動的要因はそれが働いているという可能性をまずは推測し、想定するしか術がない。一つひとつの用例における変動的要因を明らかにするには、究

極的には全ての用例の表記主体にその表記を選択した理由を尋ねなければならない、それは現実的な手続きではないからである。表記主体に尋ねたとしても、確たる理由なくその表記を選んだとの答えが返ってくることも多々ある。そこで、「名詞（一般）」については共通する固定的要因によって全ての用例をまず分類し、その上で用例ごとに個別に想定される固定的要因と変動的要因を検討したものである。

以上の方針を踏襲し、以下では付表で示した品詞の分類を基に、固定的要因を組み込んだ式Cの基本形すなわち要因構造を、各々の品詞につき一部示す。

◇名詞（動植物）（付表2）

各語種とも、「名詞（一般）」の基本形に 2B18「カタカナの役割に沿ってカタカナ表記されていると一般的に見なされる語である」と 2B19「カタカナ表記されるにあたってコンテキストの影響を受けない語である」が加わる。さらに、漢字に関わる条件によって要因構造が異なる。

「漢字で書けるが表外字である／和語」の場合

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B18, 2B19, 2B20, 2B21, 2B1b) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 \}$$

「漢字で書けるが表外字である／漢語」の場合

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B18, 2B19, 2B20, 2B1b) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 (2B21) \}$$

「常用漢字で書ける／和語」の場合

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B18, 2B19, 2B20, 2B21) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 (2B1) \}$$

「常用漢字で書ける／漢語」の場合

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B18, 2B19, 2B20) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 (2B1, 2B21) \}$$

◇名詞（助数詞）（付表3）

「名詞（動植物）」同様、2B18「カタカナの役割に沿ってカタカナ表記されていると一般的に見なされる語」であり、2B19「カタカナ表記されるにあたってコンテキストの影響を受けない語」である。ただし、カタカナ表記が多数観察される「名詞（一般）」でも「副詞」でもないため、「名詞（動植物）」の要因構造から品詞(2B20)が除かれたものとなる。

付表12の「記号・符号としての用法」や「名詞（天然成分、化学物質など）」「ルビ」におけるカタカナ表記、付表13としてまとめた記号類、付表14の学術雑誌に

特有の用例も、この「名詞（助数詞）」と同じ要因構造を持つ。

◇名詞（代名詞）（付表 4）、名詞（形容動詞語幹）（付表 5）、名詞（サ変接続）（付表 6）、動詞（付表 7）、形容詞（付表 8）、感動詞（付表 10）

これらはいずれも要因構造の基本形は同じであり、語ごとに個別に固定的要因がさらに加わる。そして、用例ごとに変動的要因が作用してカタカナ表記が出現する。

「漢字表記がない／和語」の場合

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B21, 2B1a) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 \}$$

「漢字で書けるが表外字である／和語」の場合

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B21, 2B1b) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 \}$$

「常用漢字で書ける／和語」の場合

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B21) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 (2B1) \}$$

「漢字で書けるが表外字である／漢語」の場合

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B1b) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 (2B1, 2B21) \}$$

「常用漢字で書ける／漢語」の場合

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 \} - \{ \beta 1 + \beta 2 (2B1, 2B21) \}$$

これらの語群は、第 3 章で見たように、改まったコンテキストにおいてはカタカナで出現しにくく、カジュアルで軟らかい場で出現しやすいという傾向がある。したがって、カタカナ表記の出現を促進する変動的要因としてまず考えられるのは、非言語的要因の 1A4「カジュアルで軟らかい場（コンテキスト）や文章である」という要素である。その他、媒体によっては 1B1「筆記素材・表示素材」も促進要因、場合によっては抑制要因として作用することであろう。要因構造にも表れているとおり、これらの語群においては、「名詞（一般）」などに比べて促進要因 α の要素が少ない。カタカナ表記が出現するには、それを促進する強い力が必要である。

◇副詞（付表 9）

要因一覧 2B20 で補足して述べたように、「副詞」においてはカタカナ表記が出現しやすい。そこでまず、「名詞（一般）」同様に 2B20 の「品詞」が要因構造に含まれる。そして、付表 9 に見られるように「副詞」のほとんどは漢字がなく、オノマ

トペあるいはオノマトペ由来の語である。オノマトペは第7章で検討したとおり2B18「カタカナの役割に沿ってカタカナ表記されていると一般的に見なされる語」であり、2B19「カタカナ表記されるにあたってコンテキストの影響を受けない語」である。副詞の全てがオノマトペであるわけではないが、押しなべて2B18と2B19を要因構造に持つと捉えるなら、基本形は以下のようなものである。

「漢字表記がない／和語」の場合

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B18, 2B19, 2B20, 2B21, 2B1a) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 \}$$

「漢字で書けるが表外字である／和語」の場合

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B18, 2B19, 2B20, 2B21, 2B1b) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 \}$$

「漢字で書けるが表外字である／漢語」の場合

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B18, 2B19, 2B20, 2B1b) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 (2B21) \}$$

「常用漢字で書ける／和語」の場合

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B18, 2B19, 2B20, 2B21) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 (2B1) \}$$

「常用漢字で書ける／漢語」の場合

$$N = \{ \alpha 1 + \alpha 2 (2B18, 2B19, 2B20) \} - \{ \beta 1 + \beta 2 (2B1, 2B21) \}$$

漢字表記がある語群に関して、漢字で書けるとは言え、表外字の場合も常用漢字の場合も、漢字表記は一般に広く流通していない。例えば【イライラ】の漢字表記は【苛苛】、【コツコツ】は【砵砵】、【ウキウキ】は【浮き浮き】である。この語群においては、「何となく音や状態を表す語らしい」という類推からカタカナ表記が選択されることもあるであろう。また、カタカナ表記存在感覚と対をなす「漢字表記を見かけない」「ひらがな表記を見慣れない」などという感覚の存在も指摘できそうである。「漢字表記非存在感覚」「ひらがな表記非存在感覚」とでも呼びうるものである。これらは漢字・ひらがな表記の抑制要因であり、すなわちカタカナ表記の促進要因となる。

第8章で見たように、カタカナで表記された非外来語のうち、文字列への埋没回避を主な目的として選択されたと解釈可能な語の40.7%を副詞が占める。したがって、副詞においては変動的要因として2A6「文字列環境（によって生じる文字列内での埋没を避けようとする意識）」が働き、カタカナ表記を促進することも多いと考えられる。また、【ラクラク】は常用漢字で書くことができ、かつ漢語であるにもか

かわらず出現数が多い。【ラクラク】については、2Cb6 に例示されている【ラク】同様、「特殊な意味やニュアンス、語感をもたせる」という2C「表現効果」を狙う2A10「表記主体個人の方針」が変動的な要因として背景には想定される。

◇助詞・助動詞（付表 11）、その他（付表 12）

付表 11 に見られるような1～2拍の助詞（終助詞、格助詞）や助動詞におけるカタカナ表記は、表記主体が何らかの意図を持って使用して初めて出現するものである。2Ca4「感動詞・終助詞・語気語調を表すため」という変動的要因が要因構造の要素である。

付表 12 に挙げられた用例も、記号・符号としての用法や名詞（天然成分、化学物質など）、ルビを除けば、表記主体の「カタカナで表記する」という意図や方針があって出現する。付表には含まれていない固有名詞（【ヤマザキ】【イチロー】など）や掛詞も同様である。例えば、掛詞には第6章でも例示した例2（再掲）をはじめ、以下の例3・例4・例5のようなものが見られた。

（例2） ウナクールさまサマ～ （出典：交通広告「ウナクール」）
※【サマ～】が「様」と「summer」を意味する。

（例3） 効カテキメン （出典：テレビ番組「ためしてガッテン」）
※【カ】はカタカナ。「効果観面」と「カテキン」を掛けている。

（例4） ひとつウエノ男へ。 （出典：交通広告「東京上野クリニック」）
※クリニック所在地の「上野」と「上の」を掛けている。

（例5） サバダバダ （出典：CM マルハニチロ「さば缶詰」）
※「シャバダバダ」という歌詞と「鯖」を掛けている。

要因一覧でも2Ca5「ゴロ合わせ（掛詞）や慣用句」という要素が挙げられているとおり、掛詞にカタカナ表記が使用される例は多い。掛詞をカタカナで表記することができるのは、カタカナが表意性を持たない表音文字だからであり、それも促

進要因の一要素ではある。しかし、それならばひらがなを用いて掛詞を表記してもよい。例えば例5を【さばだばだ】などとすることも、物理的には可能である。それにもかかわらず掛詞にカタカナが使用される背景には、2A1「カタカナ表記が規範的・標準的であるという規範意識」、つまり「ゴロ合わせにはカタカナを使用する」といった表記主体の意識の働きがある。そしてそのような意識が形成される背景には、掛詞にカタカナが使用された例の流通量の多さと、接触頻度の高さがある。

10-3-3. 表記主体の意志

本論文で述べてきたような規範意識や基準感覚を、個人差はあれ全ての表記主体が持っている。その上で、日々の表記行動においてどの文字種を選択するかを決定している。本論文では固定的要因に加えてさまざまな変動的要因を想定し、記述してきたが、変動的要因の中でも最も用例による差が大きく一般化できないのは、表記主体の意識（意志）である。例えば前述した掛詞は、創作的な表現手段の一つとしてカタカナ表記が用いられるものである。また、【ヤマザキ】【トヨタ】【コジマ】【イチロー】などの固有名詞におけるカタカナ表記は、命名者の何らかの意図に基づいて積極的に選ばれたものである。要因構造の基本形がどのようなものであるかは問わず、「カタカナで表記しよう」という表記主体の意志が最も優勢となって出現する¹⁰⁶。掛詞や固有名詞以外にも、付表の中にそうした例は見られる。例えば付表9の【ぜんぜん】（【ぜ】はカタカナ、【ん】はひらがな）や付表11の【切りタイ】をはじめ、臨時的に出現するカタカナ表記には、そうした表記主体の意志をその背後に認めることができる。

当然のことながら、カタカナによる表現効果を狙って「カタカナで表記しよう」という強い意志を表記主体が持ったならば、どのような条件下にあるどのような非外来語であろうと、それはカタカナ表記で出現するのである。原則的にコンテクストの影響も文字列環境の影響も受けない。

つまり、表記主体の意志は、いかなる要因よりも優勢である。例えば佐竹秀雄（1980b ほか）で示された表記行動のモデルで考えるなら、最も初期の段階で表記を決定する要因であり、非外来語のカタカナ表記が出現するまでの表記決定プロセ

¹⁰⁶ 「漢字で表記しよう」「ひらがなで表記しよう」という意識が最も優勢となることもあるのは言うまでもない。

スにおける、言わば「最上流要因」¹⁰⁷である。表記主体がどのような「表現効果」(2C)を狙うのかによって、最終的な表記結果の要因構造はバリエーションに富むものとなるが、文字種が選択される仕組みの根本にあるのは常に表記主体の意志である。

本論文で検討してきたのは、「表記主体による最終的な決定」、つまり意志形成の背景にある、要因同士が関わり合う仕組みと原理なのである。

10-4. 本章のまとめ

本章では、先行研究で指摘されてきた要因を抽出して3つの切り口によって整理し、要因一覧として示した。また、本論文で調査した全ての資料から抽出された非外来語のカタカナ表記をまとめた語彙表を参照しながら、それらの表記が出現する要因構造を品詞別に検討した。また、表記主体の意志がいかなる要因よりも優勢な最上流要因であることを述べた。「どのような語が、どのような時に、どのような要因によってカタカナ表記で出現するのか」という問いに答えつつ、非外来語のカタカナ表記出現の背景を探った。

本章においては、幾度か「カタカナ表記を抑制する要因」を指摘した。これらは、促進要因に焦点を当ててきた従来の先行研究では明示されてこなかった視点である。以下にあらためて示し、本章の締めくくりとする。

- ・語種が「漢語である」という属性（言語的・固定的な抑制要因）
- ・「常用漢字で書ける」という属性（言語的・固定的な抑制要因）
- ・同音異義語が存在する語において、前後の文の内容からしてカタカナ表記ではどちらの意味かがわかりにくくなるという「文脈」（言語的・変動的な抑制要因）
- ・カタカナ表記だと語義を理解しにくい語であること（言語的・固定的な抑制要因）

¹⁰⁷ 生物の性別を決定する最も優位の因子は「最上流因子」と呼ばれるようである（庄司佳祐・勝間進「カイコの性決定最上流因子の発見」『蚕糸・昆虫バイオテック』84(1)、pp.7-16、2015）。「あらゆる要因の中で最も優勢である」という概念を表しうる術語として、これにない本論文では「最上流要因」を用いる。

第 1 1 章 結論

11-1. 本論文のまとめ

本論文の目的は、現代日本語におけるカタカナ使用の実態を明らかにすること、特に非外来語がカタカナで表記される背景を探究することであった。本論文では、主に身近な資料から収集した非外来語のカタカナ表記の実例を提示して実態を示し、それらがなされる要因と、要因同士が関わり合う仕組みと原理を考察した。

第 1 章では、本論文における研究の背景、問題の所在と目的を述べた。近年、日本語における文字言語の存在感と重要性が高まる一方で、表記行動を行う上ではさまざまな問題が存在する。それらの中でも重要なものの一つが「表記のゆれ」である。本論文では、表記のゆれの中でも漢字・ひらがな・カタカナ・Alphabet、つまり文字種の中のゆれを扱い、特にカタカナの使用実態に焦点を当てることを述べた。文字種の使い分けには、社会的に共有されている大まかな基準が存在するが、実際にはその基準を外れた表記が多く流通している。中でも多数観察されるのが、和語や漢語すなわち非外来語がカタカナで表記された例である。このような大まかな基準を外れた非外来語のカタカナ表記が流通することで、表記主体が語を表記しようとして判断に迷う場面が生じたり、国語教育や日本語教育における問題が発生したりすることを指摘した。研究という立場から見れば、問題の所在は、非外来語のカタカナ表記を含めた文字種の使い分けに関わる条件を、現状では明確に説明できない点にある。非外来語がカタカナで表記される理由として、さまざまな要因が先行研究によって指摘されてきたが、複数の要因の関わり合いによって一つの表記が出現する仕組みと原理を総括的に説明するには至っていない。以上のような状況を踏まえ、冒頭に示した本論文の目的を定め、第 1 章で提示した。

第 2 章では、まず先行研究を概観した。日本語学の分野における研究を中心に、「非外来語のカタカナ表記に関する研究」、「文字種全般、文字種の選択に関連する研究」、「その他一関連分野、周辺分野における研究」のそれぞれに関して見た。特に「非外来語のカタカナ表記に関する研究」については、《調査対象》《調査の規模と方法》《使用されている術語》の観点から整理し、批判的な検討を加えた。また、文字情報の「生産」「流通」「受容」の各過程を分けて捉え、身近な文字資料に着目することの意義を述べた。次に、本論文が拠り所とする理論的背景と使用する用語

の定義とを並行して示した。本論文では特に、言語学の一分野である語用論の概念を複数導入した。使用する文字種を最終的に決定するのは人間であることから、人間を分析に介入させる語用論は本論文の分析と考察に有用であると考えられたためである。非言語的要因である「コンテキスト」(コミュニケーションが成立する場面、状況)と「コンテキストと連動した表記主体の意識」は、本論文において重要な概念となった。また、待遇コミュニケーションにおける場面・意識・内容・形式の「連動」も本論文において重要な視点であった。第2章の最後に「本論文の立場」として示したように、本論文においては先行研究ではカバーしていない文字資料を調査対象とし、未だ指摘されていない文字種選択要因を探り、さらには全ての成果を網羅的に統合して非外来語のカタカナ表記がなされる背景を探究することを目指した。ここで言う「先行研究」とは日本語学の分野における先行研究である。本研究における語用論は、未だ指摘されていない文字種選択要因を探るための手段であり、分析と考察のための枠組みという位置づけである。

第3章では、テレビ番組の文字情報における非外来語のカタカナ表記を調査対象とした。事例を示しながら、「コンテキスト」および「表記主体の意識」という観点から非外来語のカタカナ表記がなされる要因を探った。「表記主体の意識」には「社会的規範」と「表記主体のストラテジー」の2側面があるとの前提に立ち、考察を進めた。まず、テレビ番組のジャンルや番組放映時の社会的な状況が、番組の文字情報で使用される文字種の比率と密接に関係していることを示した。そして、報道番組とバラエティ番組で使用される非外来語のカタカナ表記の違いから、報道番組では「社会的規範」が、バラエティ番組では「表記主体のストラテジー」が優位に働くよう文字種の使い分けによる調整がなされていることを指摘した。第3章における結論として、非外来語がカタカナで表記される時、先行研究で明らかになってきた要因に加えてコンテキストと表記主体の意識といった語用論的な要素も同時に作用しており、文字種と連動していることを主張した。つまり、文字種が選択され使い分けられる要因の一つとして、語用論的要素が働いているということである。

第4章では、テレビCMの文字情報における非外来語のカタカナ表記を調査対象とした。テレビCMの文字情報における非外来語のカタカナ表記の使用実態を概観するとともに、第3章で提示した考察結果を検証した。第3章では「文字種を選択要因の一つとして語用論的要素が働いている」との結論を得たが、その結論は、番

組のジャンルによって非外来語のカタカナ表記の総体としての出現状況が異なることにより導き出されたものであった。しかしながら、番組のジャンルが異なれば使用される語自体異なるため、非外来語のカタカナ表記の出現状況の違いが、単に語の違いに由来している可能性を捨てきれない。そこで、同じ語が異なる文字種で出現した例を取り上げ、その表記の違いが語用論的要素の違いによるものかどうかを検証したのである。それに先立ち、まず、CMで使用される文字種の比率にはジャンルによる違いがあることを示した。続いて、／チカラ／／カタチ／／ケイタイ／を例に、各々が漢字・ひらがな・カタカナで出現したCMのジャンルやCM放映時の社会状況と、出現文字種との関連を検討した。結果、CMのジャンルやCM放映時の社会状況といったコンテキストと、表記主体が文字種を選択する際の意識との関連が確認できた。こうして第3章・第4章を通して、「コンテキスト」と表記主体の「意識」と文字種すなわち「形式」は連動しており、コンテキストの違いが文字種を選択する際の表記主体の意識に影響を与え、それが文字種という形式となって現れることを明らかにした。また、文字種選択要因は語ごとに、さらに同じ語であっても用例ごとに個別的であり、複数の要因が同時に働くという複合的・重層的な面を持つことを指摘した。

第5章では、語用論的な要素の中でも表記主体個人の意識に焦点を絞り、Eメールに現れた非外来語のカタカナ表記を調査対象とした。ビジネス・シーンにおけるEメールで使用された非外来語のカタカナ表記を抽出し、同じ語が他の文字種で出現した例と比較しながら、カタカナ表記が出現する背景をポライトネス理論の枠組みにおいて探った。／ヨロシク／／スママセン／といった緩衝表現、またEメールの受信者・送信者の名字に現れるカタカナ表記を取り上げ、個々人が持っている「基本表記」を外れた有標表記が使用される際、その背後に働く表記主体の意識を考察した。ここではポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとしてのカタカナ表記の使用が認められ、「社会的規範」と「表記主体のストラテジー」というポライトネスの2側面が調整されていた。本論文の目的である非外来語のカタカナ表記出現の背景という観点では、「ビジネス・シーンにおいては、フェイス侵害度がごく小さい場合に限定して、【ヨロシク】【スママセン】などの緩衝表現に表記主体のストラテジーとしてのカタカナ表記が出現する」という条件を第5章の結論として提示した。

第3章から第5章を通しての結論は、「場面」「意識」「内容」「形式」は連動して

おり、現代日本語において非外来語にカタカナ表記が使用される時、その背景には「語用論的要素」とりわけ「場面」と「意識」が要因の一つとして働いているというものである。

第6章では、日用品や食品等のパッケージと交通広告における文字情報を調査対象とした。第3章から第5章では、コンテキストと表記主体の意識という観点から非外来語のカタカナ表記の実態を探った。つまり「生産」「流通」「受容」の各過程のうち、「生産」の過程に注目した。第6章では表記の「流通」という観点から非外来語のカタカナ表記の実態を示すとともに、「受容」の面にも触れた。パッケージと交通広告はいずれも、現代を生きる日本語使用者の日常生活に密着している点で重要な文字資料である一方で、記録されて後世に残されていくことがない。そこで第6章では、収集した非外来語のカタカナ表記の実例を提示しつつ分析を加えた。そして、パッケージにおける非外来語のカタカナ表記の特徴として、似た属性の語や基本語彙に含まれない一定数の語で出現すること、BCCWJに収録された媒体や若者雑誌とは異なる語に出現する傾向があることを指摘した。今一つの調査対象である交通広告に関しては、交通広告における非外来語のカタカナ表記は、パッケージとは出現傾向が異なることを述べた。一方で、パッケージにおいてはパッケージという「媒体(場)」と「語」と「表記」が連動し、交通広告においても「商品・サービス」と「語」と「表記」が連動しているという共通点が明らかになった。

以上の結果を踏まえ、パッケージと交通広告における文字情報が受け手の表記意識に与える影響について接触と受容の観点から考察した。そして、文字種が選択される背景にある要素として「この語はカタカナで書かれる」という直観的感覚を指摘し、「カタカナ表記存在感覚」という術語を提案した。パッケージや交通広告の文字情報に接触することが受け手の表記意識に与える影響の一つめは、「媒体や場と連動したカタカナ表記存在感覚」が形成されていくというものである。そして二つめは、「個人における表記の基準感覚」の形成である。ここでも、媒体や場と連動して表記の使い分けの意識が形成されていく。それが似た属性の語に波及して、臨時的なカタカナ表記の出現にもつながる。そのようにして出現した表記が流通し、接触と受容を経て循環をくり返し、パッケージや交通広告といった閉じられた特定の場で頻繁に用いられる表記として定着していくという動きを認めることができる。

第7章では、非外来語のカタカナ表記が出現しにくい資料である学術雑誌を用い

て、コンテキストが非外来語のカタカナ表記の出現に影響するか否かで語を分類するという先行研究にはないアプローチで考察を行った。本論文では一貫してBCCWJに含まれていない文字資料を取り上げているが、学術雑誌もその一つである。カタカナで表記される非外来語には、コンテキストによってはカタカナ表記で出現しないものと、コンテキストに関わらずカタカナ表記されるものとの2種類があると解釈できる。それぞれの語群を特定することは、どのような語がどのような場合にカタカナで表記されるのかという条件の一端を示すことにつながる。第7章では、まず現代日本語におけるカタカナの役割を整理し、現代におけるカタカナの規範的な役割と準規範的な役割とを提示した。マスメディアや教科書関連の出版社が有する「表記の手引き」類から共通する項目を抽出し整理した上で、カタカナの規範的な役割は、外来語、外国語、オノマトペ、動植物名を表記することであると示した。また、準規範的な役割は、俗語、専門的な用語、助数詞等を表記することであると示した。これらを表記することが「カタカナの役割」と定め、論を進めた。

学術雑誌において、これらの語以外でもカタカナが使用されているのかどうかは第7章の焦点である。予備調査の結果、カタカナの用法が最も多様であり、学術雑誌全般における用法をカバーしていると考えられた『国文学研究』を本調査の対象とした。そして本調査の結果、学術雑誌全般におけるカタカナはほとんどが規範的あるいは準規範的な役割をもって使用されていると結論づけた。次に、予備調査で使用した学術雑誌も含めた全調査対象から抽出された「役割外のカタカナ表記」28件の中から、コンテキストがカタカナ表記の出現に影響しない非外来語群を特定した。それらの語群においてカタカナが選択される時には、コンテキスト以外の要素が優位に働いているということになる。非外来語のカタカナ表記のなされる要因は多々指摘されてきたが、どのような語がどのような場合にカタカナで表記されるのかという条件やカタカナ選択に関わる仕組みと原理は明らかにされてこなかった。その様相は非常に個別的であり、一般化が困難なものである。本章では「コンテキストに関わりなく出現するカタカナ表記」を特定することで、その条件の一端を示した。また、非外来語のカタカナ表記出現要因と関連して、「慣用カタカナ表記」という術語を立てることを提案した。さらに、これまで明確にされてこなかった、カタカナによる「標準的な表記」の定義を行った。本論文の目的である非外来語のカ

タカナ表記出現の背景という観点では、「カタカナ使用が標準的である語群、およびカタカナ使用が標準的ではないが慣用と認められた語群は、コンテキストに関わりなくカタカナ表記される」という条件を提示した。

第8章では形式の面に着目し、文字列環境と非外来語のカタカナ表記出現傾向の関係を探った。非外来語のカタカナ表記の前後にどの文字種が接しているかという文字列環境によって非外来語のカタカナ表記の実例を分類し、先行研究で指摘されてきた非外来語のカタカナ表記出現要因「文字列への埋没回避」が妥当かどうかを検証した。これは表記の「生産」の過程に関わる要因である。結果、文字列への埋没を回避しようとする意図が、一定数の非外来語のカタカナ表記の選択要因となっているとの結論を得た。一方で、埋没回避は二次的・副次的な要因であり、単に埋没回避だけを目指した表記はごく少数である可能性も見て取れた。埋没回避が目的でないと想定される非外来語のカタカナ表記においては、埋没回避以上に優先される要因があり、何らかの意図のもとで積極的に非外来語のカタカナ表記が選び取られている可能性があることを明らかにした。

本論文の目的である非外来語のカタカナ表記出現の背景という観点では、「どのような語が、どのような条件のもとで文字列への埋没回避のためにカタカナ表記されるのか」という問いに対し、以下のような条件を提示した。

- ・使用できる漢字がない語が、語の前後またはそのいずれかでひらがなに接している場合
- ・使用できる漢字がある語が、漢字を使用すると語の前後いずれかが漢字と連続する文字列環境にある場合。かつ、ひらがなを使用すると語の前後またはそのいずれかがひらがなと連続する文字列環境にある場合
- ・以上の条件を満たす語のうち、特に属性が和語と副詞であるもの

第9章では、非外来語のカタカナ表記が出現する際の要因相互の関わり合いについて考察した。複数の要因が関わり合う仕組みと原理をCMの用例を用いて考察し、条件や語の異なりによって要因間の力関係が変化する様相の一端を示した。また、条件によって変化する要因構造を用例ごとに個別に把握することができる式（モデル）を提示した。要因構造の様相は個々の例ごとにバリエーションに富むが、その背後に働く要因は「非言語的要因と言語的要因」「促進要因と抑制要因」「固定的要因と変動的要因」という次元の異なる3つの切り口、分類軸で捉えることが可能で

ある。これらの要因の掛け合わせによって、一つひとつの用例は出現していることを示した。

第 10 章では、先行研究で指摘されてきた要因を抽出し、第 9 章で示した 3 つの切り口、分類軸のうちの「非言語的要因と言語的要因」に大別した。さらに各々を分類・整理して、要因一覧として示した。また、本論文で調査した全ての資料から抽出された非外来語のカタカナ表記をまとめた語彙表を参照し、それらの表記が出現する要因構造を品詞別に式として提示した。また、表記主体の意志がいかなる要因よりも優勢であること、つまり最上流要因であることを述べた。「どのような語が、どのような時に、どのような要因によってカタカナ表記で出現するのか」という問いに答えつつ、非外来語のカタカナ表記出現の背景を探った。

促進要因に焦点を当ててきた従来の先行研究は、「カタカナ表記を抑制する要因」には着目してこなかった。第 10 章では、抑制要因として以下を指摘した。

- ・ 語種が「漢語である」という属性（言語的・固定的な抑制要因）
- ・ 「常用漢字で書ける」という属性（言語的・固定的な抑制要因）
- ・ 同音異義語が存在する語において、前後の文の内容からしてカタカナ表記ではどちらの意味かがわかりにくくなるという「文脈」（言語的・変動的な抑制要因）
- ・ カタカナ表記だと語義を理解しにくい語であること（言語的・固定的な抑制要因）

以上の総まとめとして、非外来語のカタカナ表記が出現する背景として本論文が提示する結論、および本論文の意義は以下のとおりである。

まず、非外来語のカタカナ表記が出現する要因には「非言語的要因と言語的要因」とがあり、大枠として二重構造になっているということである。そして、その各々において複数の要因が絡み合うという多重構造である。この一見当然のように思われる要因の構造について指摘し、その仕組みと原理を記述しようとした先行研究は存在していない。本論文ではさらに、非言語的要因の中でもコミュニケーションの仕組みを考える時に欠かせない要素である、コンテキストとそれに連動した表記主体の意識が、カタカナを含む文字種選択の背景には働いていることを指摘した。これもまた、先行研究には不足していた視点である。

本論文では、文字種が選択されるにあたってコンテキストの影響を受けない語を特定した。文字種が選択されるにあたりコンテキストの影響を受ける語と受けない語とを区別して捉えるという考え方は従来なされてこなかった。この両者を区別することはそのまま、非外来語がカタカナで表記される条件の一端を示すことである。

さらに、「非言語的要因と言語的要因」に加えて、カタカナを含む文字種選択要因は別の側面、分類軸による捉え方も可能であるというのが、本論文が提示する結論である。すなわち、「促進要因と抑制要因」「固定的要因と変動的要因」である。

「固定的要因と変動的要因」はその語や表記に付随しており原則的に変化しないが、「促進要因と抑制要因」については、全ての要因がどちらとしても働きうる。「非言語的要因と言語的要因」「促進要因と抑制要因」「固定的要因と変動的要因」という次元の異なる3つの切り口、分類軸による、次元の異なる要因が掛け合わされ、個々の用例において文字種が選択される際に作用する。要因同士の力関係は用例ごとに異なり、力関係の変化によって表記のバリエーションが生じる。

これらが、文字種が選択される仕組み、すなわちカタカナ表記が出現する背景にある仕組みと原理である。そして、文字種が選択される仕組みの根本にあるのは常に表記主体の意志である。本論文で検討してきたのは、「表記主体による最終的な決定」、つまり意志形成の背景にある、要因同士が関わり合う仕組みと原理なのである。

11-2. 今後の課題

本研究の軸足は日本語学にある。日本語学の分野における先行研究では解明しきれていない文字種選択に関わる背景、仕組みを探究するにあたり、言語学の語用論を分析と考察の枠組み、手段として用いた。本論文において述べてきたとおり、非外来語がカタカナ表記される時には言語的要因と共に非言語的要因が常に働いている。これは表記の問題のみならず、コミュニケーション全般に関して言えることである。コミュニケーションには必ずそれがなされる場があり、コミュニケーションをする主体（人間）が存在するからである。そして、コミュニケーション主体には意識がある。本研究は社会的な存在としての表記主体の意識を扱った点で、社会言語学の分野における研究とも共通性があるのであろう。本論文においては主に語用論を用いたアプローチを試みたが、隣接分野には日本語学の領域にとって有益な理論や手法が多々あるはずである。それらの中から自身の研究目的に最適なものを見

出し、活用していくことで文字種選択要因や表記行動の原理に新たな知見を加えることは、今後の課題の一つである。

調査対象に関して、本論文は BCCWJ のような大規模なコーパスに含まれていない、しかし身近な文字資料を中心に扱い、非外来語のカタカナ表記の実例を提示して実態を記述してきた。しかしながら一個人の調査には限界があり、BCCWJ に含まれていない資料を広くカバーすることは到底なしえていない。現代日本語における非外来語のカタカナ表記の実態をさらに把握するためには、多種多様な資料の中から何に焦点を当て、調査対象としていくのかを慎重に検討した上で今後の調査を進める必要がある。

その際に留意すべきは、近年における言語生活と文字環境の様変わりである。本研究のデータは主に 2010 年から 2016 年の間に収集したものである（Eメールのみ 2004 年から 2011 年）。その時期にもインターネットはすでに普及していたが、スマートフォンは現在ほど普及していなかった。しかし現在では、スマートフォンの普及に伴い人々が文字情報を目にする媒体も急激に変化している。スマートフォンを利用してインターネット上の文字情報を見る機会が増加したのみならず、文字情報は主に LINE や Twitter など SNS で見るという若者も多いのが現状である。第 3 章注 25 で述べたアンケート調査を行った際には、日常的に接触するメディアに関しても大学生 62 人に尋ねた。結果、日本語の文章や文字情報を見るために、1 日の中で最も長時間利用するメディアとして「インターネット(携帯電話・スマートフォン)」を選択した者(29人、46.8%)と「メール・Twitter・LINE など」を選択した者(22人、35.5%)との合計が8割を超えた。「本・雑誌など(紙の媒体)」を選択した者はわずか5人(8.1%)であった。この結果に鑑みれば、現代における日本語使用者の言語行動の実態を把握しようとするならば、インターネット上やメール・Twitter・LINEなどで使用されている文字情報に重点を置く必要があるだろう。現代日本語における文字言語の研究においては、紙媒体ではなく電子媒体上の文字情報が欠かせない資料となっているものと思われる。膨大な文字情報の中から研究目的に適した調査対象をいかに選択し、どのように代表性を持たせるのが今後の大きな課題となりそうである。

今一つの当分野の課題は、意識調査が不足していることである。これまで指摘されてきた非外来語のカタカナ表記出現要因には、推測の域を出ず、印象論にとどまっているものも多い。表記主体と受け手、つまり「生産」と「受容」の両面から意識調査を行

い、実証されていないものを裏づけていく作業が必要であろう。現在筆者はこれに着手したところであり、本論文の第3章で提示したアンケート調査結果はその途中経過である。今後、調査協力者を増やして調査を継続し、結果を発信していきたい。表記主体に非外来語を「なぜカタカナで表記するのか」を問うことで、何が促進要因・抑制要因になるのかを語別に明らかにしていくことができると考えている。カタカナ表記やひらがな表記のイメージに関する調査も、各々必要であろう。文字環境や言語生活が変化した現在において、それらのイメージが実際にどのように捉えられているのかは明らかになっていないからである。

以上に加え、ほかにも細かい点で分析と考察に至らなかったテーマが多々残されている。例えば、【ヤバい】と【ヤバイ】など、語形が同じでも表記が異なる例が多く存在する。本論文巻末の五十音順語彙表で実態が確認できるとおりである。それらはどのように使い分けられているのか、規則性を見出すことができるのか、今後検討の余地がある。カタカナ表記の出現にコンテキストが影響しない非外来語をより多く特定し、慣用カタカナ表記として認定していく作業も必要である。

先行研究の章でも述べたとおり、カタカナをはじめとする文字種を選択は学際的なテーマである。先に述べたように隣接分野の有益な理論や手法を摂取するのみならず、日本語学の分野における研究成果を周辺分野、他分野に資するものとしていくことも、今後いっそう求められるであろう。

既発表論文との関係

本論文は以下の論文に基づき、その後の研究の成果を加味して加筆・修正を行ったものである。

第1章（書き下ろし）

第2章（以下の複数の既発表論文より各々一部を抜粋して書き下ろし）

第3章 「テレビ番組の文字情報における文字種の選択—番組のジャンルと語用論的要素に注目して—」『早稲田日本語研究』22 pp.24-35 2013年3月

第4章 「テレビCMの文字情報における文字種の選択—CMのジャンルと語用論的要素に注目して—」『早稲田日本語研究』24 pp.13-24 2015年3月

第5章 「Eメールにおける文字種の選択—非標準的な表記の背後に働く語用論的要素—」『待遇コミュニケーション研究』10 pp.120-136 2013年2月

第6章 「日用品のパッケージにおける非標準的なカタカナ表記—表記の「流通」を中心に—」『早稲田日本語研究』25 pp.1-14 2016年3月

「日本語教育で《非標準的なカタカナ表記》と《文字種選択の仕組み》を扱う意義—交通広告における調査結果を例に—」『日本語／日本語教育研究』8 pp.123-138 2017年7月

第7章 「学術雑誌におけるカタカナの役割と使用実態—カタカナ表記で出現する語とコンテキストとの関連—」『国文学研究』184 pp.105-91 2018年3月

第8章 「テレビ番組の文字情報における非標準的なカタカナ表記—「文字列への埋没回避」の観点から—」『国文学研究』176 pp.82-67 2015年6月

第9章～第11章（書き下ろし）

参考文献

- 朝日新聞社用語幹事編（2010）『朝日新聞の用語の手引』朝日新聞出版
- 有元光彦（2012）「言語景観研究における実験的アプローチの試み」『やまぐち学の構築』8 pp.15-25
- 李 曉娜（2010）「「切れる」と「キレる」に関するマインドマップ調査について」『山口国文』33 pp.84-69
- 李 錦淑（2010）「「誘い」とそれに対する「断り」の言語行動について—日本語母語話者同士による携帯メール会話の分析から」『待遇コミュニケーション研究』7 pp.113-128
- 五十嵐優子（2012）「日本の社会とカタカナ表記」『Mukogawa literary review』49 pp.15-25
- 生熊愛（2009）「表記による意味の独立—語幹がカタカナ表記される動詞の傾向」『国文目白』48 pp.左 45-左 31
- 石井久雄（2001）「ひらがなの文法性・語彙性」『同志社大学留学生別科紀要』1 pp.3-16
- 石黒圭（2007）『よくわかる文章表現の技術V 文体編』明治書院
- 石野博史（1988）「カタカナ語」の項 『日本語百科大事典』金田一春彦・林大・柴田武編集責任 大修館書店 pp.569-573
- 井出祥子（2006）『わきまへの語用論』大修館書店
- 乾善彦（1997）「言語における書記の位置付けに関する覚え書き」『女子大文学 国文篇』48 pp.1-14
- 犬飼隆（2002）『文字・表記探究法 シリーズ日本語探究法5』朝倉書店
- 岩原昭彦・八田武志（2001）「日本語書字における表記選択と情動情報伝達メカニズムについて」『ことば工学会』第8回 pp.29-34
- 魏 聖銓（1999）「現代日本語のカタカナ使用の一側面—中吊り広告ポスターに用いるカタカナ語を中心に」『外国語学会誌』28 pp.103-121
- 植村昌人（2004）「特集1 テレビの字幕は誰のためのものか」『放送文化』5 pp.2-17
日本放送出版協会
- 浮田潤・皆川直凡・杉島一郎・賀集寛（1991）「日常物品名の表記形態に関する研

- 究—各表記の主観的出現頻度と適切性についての評定』『人文論究』40(4)
pp.11-26
- 宇佐美まゆみ(2002a)「ポライトネス理論の展開(8) ディスコース・ポライトネス理論構想(2) 発話行為レベルの絶対的ポライトネスから談話レベルの相対的ポライトネスへ」『言語』31(9) pp.100-105
- 宇佐美まゆみ(2002b)「ポライトネス理論の展開(7) 21世紀の対人コミュニケーション研究の展望—ディスコース・ポライトネス理論構想(1)」『言語』31(8) pp.102-107
- 宇佐美まゆみ(2010)「人間関係とポライトネス」『日本語学会 2010年度春季大会 予稿集』 pp.21-28
- 臼木智子(2008)「雑誌の片仮名表記—基準から外れる表記について」『国学院大学大学院紀要 文学研究科』40 pp.265-280
- 内山和也(2002)「振り仮名表現の諸相」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部 文化教育開発関連領域』51 pp.301-309
- 宇野常寛(2008)『ゼロ年代の想像力』早川書房
- NHK放送文化研究所(2011)『国民生活時間調査報告書 2010年』NHK放送文化研究所(世論調査部)
- NHK放送文化研究所編(2011)『NHK漢字表記辞典』NHK出版
- 奥垣内健(2010)「カタカナ表記語の意味についての一考察—身体性とイメージの観点から」『言語科学論集』16 pp.79-92
- 小椋秀樹(2012)「コーパスに基づく現代語表記のゆれの調査—BCCWJ コアデータを資料として」『第1回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』 pp.321-328
- 海保博之・野村幸正(1983)『漢字情報処理の心理学』教育出版
- 笠井淳子・篠崎佳子・二瓶知子(2008)『外国人のためのケータイメール@にっぽん』アスク出版
- 柏野和佳子・奥村学(2012)「和語や漢語のカタカナ表記—『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における使用実態」『計量国語学』28(4) pp.153-161
- 柏野和佳子・中村壮範(2013)「現代日本語書き言葉における非外来語のカタカナ表記事情」『第4回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』 pp.285-290

- 柏野和佳子 (2014) 「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』によるカタカナ表記語の研究」『日本語学』33(10) pp.98-103
- 柏野和佳子 (2014) 「『コーパス』でさぐる和語や漢語のカタカナ表記の実態」『日本語文字・表記の難しさとおもしろさ』高田智和・横山詔一編 彩流社 pp.86-105
- 片田康明 (2005) 「広告で見るカタカナ語について—食品販売店 4 社の食品広告を例として」『天理大学学報』56(2) pp.151-159
- 蒲谷宏 (2006) 「『待遇コミュニケーション』における「場面」「意識」「内容」「形式」の連動について」『早稲田大学日本語教育研究センター紀要』19 pp.1-12
- 関東交通広告協議会ホームページ <http://www.train-media.net/index.html> (2017年9月1日参照)
- 喜古容子 (2007) 「片仮名の表現効果」『早稲田日本語研究』16 pp.61-72
- 共同通信社編著 (2010) 『記者ハンドブック 新聞用字用語集』第12版 共同通信社
- 共同通信社編著 (2016) 『記者ハンドブック 新聞用字用語集』第13版 共同通信社
- 協立広告(株)ホームページ「交通広告とは」<http://www.kyoritz-ad.co.jp/media/> (2017年9月1日参照)
- 金城ふみ子 (1998a) 「『大学広告』におけるカタカナ表記語及びアルファベット表記語の使用状況—調査報告」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』10 pp.97-118
- 金城ふみ子 (1998b) 「TIU 新入生配布資料におけるカタカナ表記語使用の実態分析」『東京国際大学論叢 経済学部編』19 pp.95-117
- 金城ふみ子 (2003) 「3. 広告の漢字」『朝倉漢字講座 3』野村雅昭・前田富祺編 朝倉書店 pp.48-76
- 金田一春彦・林大・柴田武編集責任 (1988) 『日本語百科大事典』大修館書店
- 国立国語研究所(1983) 『現代表記のゆれ』国立国語研究所報告 75 国立国語研究所
- 国立国語研究所 (1984) 『日本語教育のための基本語彙調査』秀英出版
- 国立国語研究所 (2004) 『分類語彙表—増補改訂版』大日本図書
- 国立国語研究所コーパス開発センターホームページ「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) 設計の基本方針」http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/basic-design.html (2016年1月20日参照)

- 小松孝徳・中村聡史・鈴木正明 (2014)「「ひらがなはカタカナよりも丸っこいよね？」
一文字の数式表現および曲率の利用可能性」『情報処理学会研究報告. HCI,
ヒューマンコンピュータインタラクション研究会報告』2014-HCI-159(7)
pp.1-9
- 金野美帆 (2014)「ファッション誌におけるカタカナの役割と表現効果について」『玉
藻』48 pp.86-117
- 斎賀秀夫 (1955)「総合雑誌の片かな語」『言語生活』46 pp.37-45
- 佐久間尚子・伊集院睦雄・伏見貴夫・辰巳格・田中正之・天野成昭・近藤公久 (2008)
「単語心像性評価における表記の影響」『日本心理学会第72回大会 発表論
文集』p.791
- 笹原宏之 (1999)「漢字字体に対する大学生の接触頻度」『計量国語学』22(2)
pp.66-79
- 笹原宏之 (2005)「手紙と日記における文字・表記の特徴」『表現と文体』中村明・
野村雅昭・佐久間まゆみ・小宮千鶴子編 明治書院 pp.77-86
- 笹原宏之 (2006)『日本の漢字』岩波書店
- 笹原宏之 (2013)「漢語表記のゆれ」『現代日本漢語の探究』野村雅昭編 東京堂出
版 pp.261-287
- 笹原宏之 (2014)「日本における漢字に対する加工とその背景」『HUMAN』7
pp.58-65
- 佐竹秀雄 (1980a)「若者雑誌のことば一新・言文一致体」『言語生活』343 pp.46-52
- 佐竹秀雄 (1980b)「表記行動のモデルと表記意識」『電子計算機による国語研究X』
国立国語研究所報告 67 国立国語研究所 pp.142-168
- 佐竹秀雄 (1989)「若者の文章とカタカナ効果」『日本語学』8(1) pp.60-67
- 佐竹秀雄 (1998)「文字・表記の調査」『日本語学』17(10) pp.21-30
- 佐竹秀雄 (2001)「新聞投書欄の片仮名表記－1999年の新聞3紙を資料として」『武
庫川女子大学言語文化研究所年報』13 pp.5-17
- 佐竹秀雄 (2005)「現代日本語の文字と書記法」『朝倉日本語講座2 文字・書記』
林史典編 朝倉書店 pp.22-50
- 佐竹秀雄 (2010)「表記」『日本語と日本語教育のための日本語学入門』宮地裕編
明治書院 pp.187-204

- 佐藤栄作 (2010) 「ケータイと手書きの表記差—ケータイの文と一週間後に手書きした文との比較」『愛媛国文と教育』42 pp.31-55
- CM 総合研究所『CM 総合研究所 CM DATABANK』<http://www.CMdb.jp/ranking/>
(2014年8月2日参照)
- 塩田雄大・山下洋子 (2013) 「“卵焼き”より“玉子焼き”—日本語のゆれに関する調査(2013年3月)から①」『放送研究と調査』63(9) pp.40-59
- 設楽馨 (2006) 「テレビのトークコーナーを読む—同一の発話を伴わない文字テロップの実態」『武庫川女子大学言語文化研究所年報』18 pp.37-61
- 柴田真美 (1998) 「現代のカタカナ表記について」『学習院大学国語国文学会誌』41 pp.12-20
- 柴田実 (2007) 「放送と漢字」『文字と社会』新「ことば」シリーズ 20 国立国語研究所 p.34
- 柴田由紀子 (1993) 「文体形成から見たカタカナの役割」『花園大学国文学論究』21 pp.22-34
- 島田泰子 (2013) 「広告表現等における〈終止形準体法〉について」『叙説』40 pp.340-355
- 庄司佳祐・勝間進 (2015) 「カイコの性決定最上流因子の発見」『蚕糸・昆虫バイオテック』84(1) pp.7-16
- 陣内正敬 (2008) 「日本語学習者のカタカナ語意識とカタカナ語教育」『言語と文化—語言与文化』11 pp.47-60
- 杉島一郎・賀集寛 (1997) 「表記形態が単語のイメージの鮮明性に及ぼす影響」『人文論究』46(4) pp.63-86
- 染谷裕子 (2002) 「看板の文字表記」『現代日本語講座 第6巻 文字・表記』飛田良文・佐藤武義編 明治書院 pp.221-243
- 高崎みどり・立川和美 (2008) 「2. 広告のことばの分析 ネット広告と雑誌広告を材料に」『ここからはじまる文章・談話』高崎みどり・立川和美編 ひつじ書房 pp.43-64
- 滝浦真人 (2007) 「呼称のポライトネス—“人を呼ぶこと”の語用論」『言語』36(12) pp.32-39
- 滝浦真人 (2008) 『ポライトネス入門』研究社

- 武部良明 (1991) 『文字表記と日本語教育』 凡人社
- 棚橋尚子 (2005) 「8. 現代社会における漢字表現」『朝倉漢字講座4』 野村雅昭・前田富祺編 朝倉書店 pp.204-226
- 蔡胤柱 (2005) 「日本語母語話者のEメールにおける「断り」—「待遇コミュニケーション」の観点から」『早稲田大学日本語教育研究』7 pp.95-108
- 土屋信一 (1977) 「現代新聞の片仮名表記」『電子計算機による国語研究VIII』 国立国語研究所報告 59 国立国語研究所 pp.140-159
- 當山日出夫 (2014) 「景観文字研究のこころみ—「祇園」の経年変化を事例として」『日本語文字・表記の難しさとおもしろさ』 高田智和・横山詔一編 彩流社 pp.166-181
- 永野賢・高橋太郎・渡辺友左 (1966) 『戦後の国民各層の文字生活』 国立国語研究所報告 29 国立国語研究所
- 中本美穂 (2008) 「小学生向け媒体におけるカタカナ表記の規範と実態—国語教科書と学年誌を例に」『教育学研究紀要』54(2) pp.471-476
- 中山恵利子 (1998) 「非外来語の片仮名表記」『日本語教育』96 pp.61-72
- 成田徹男・榊原浩之 (2004) 「現代日本語の表記体系と表記戦略—カタカナの使い方の変化」『人間文化研究』2 pp.41-55
- 西尾寅弥 (2002) 「語種」『朝倉日本語講座4 語彙・意味』 北原保雄監修、斎藤倫明編 朝倉書店 pp.79-109
- 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部編 (2003) 『日本国語大辞典』第二版 小学館
- 日本民間放送連盟 (2014) 「第15章 広告の表現」『民放連 放送基準解説書 2014』 pp.69-81
- 野村雅昭 (1981) 「週刊誌のカタカナ表記語」『馬淵和夫博士退官記念 国語学論集』 馬淵和夫博士退官記念国語学論集刊行会編 大修館書店 pp.847-865
- 則松智子・堀尾香代子 (2006) 「若者雑誌における常用漢字のカタカナ表記化—意味分析の観点から」『北九州市立大学文学部紀要』72 pp.19-32
- 花田康紀 (2011) 「和語・漢語がカタカナがきされるばあい」『東京国際大学論叢 人間社会学部編』17 pp.57-67
- (株)ビデオリサーチ 「週間高世帯視聴率番組 10」 <http://www.videor.co.jp/data/rate>

- data/ (2011年3月3日参照)
- 福岡克 (1997) 「日本語表記の「ゆれ」と情報検索」『政策科学』5(1) pp.85-96
- ブラウン, ペネロピ・レヴィンソン, スティーヴン C. (2011) 『ポライトネス一言語使用における、ある普遍現象』 田中典子監訳、斉藤早智子他訳 研究社文化庁ホームページ「国語施策情報」「国語表記の基準」「内閣告示・内閣訓令」
www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/sisaku/joho/joho/kijun/naikaku/index.html (2018年2月20日参照)
- ポクロフスカ, オーリガ (2016) 「キーワードの読み誤りが文章理解に及ぼす影響—ウクライナ人初中級日本語学習者のケーススタディ」『日本語／日本語教育研究』7 pp.149-164
- 堀素子・津田早苗・大塚容子・村田泰美・重光由加・大谷麻美・村田和代 (2006) 『ポライトネスと英語教育一言語使用における対人関係の機能』ひつじ書房
- 堀江紫野 (2001) 「カタカナ表記の研究—非外来語系を中心に」『国文目白』40 pp.16-24
- 堀尾香代子・則松智子 (2005) 「若者雑誌におけるカタカナ表記とその慣用化をめぐって」『北九州市立大学文学部紀要』69 pp.35-44
- 松田真幸 (2001) 「日本語文の読みに及ぼす文節間空白の影響」『基礎心理学研究』19(2) pp.83-92
- 松田梨江 (2007) 「外来語の変遷—新聞記事における外来語とカタカナ表記語」『東京女子大学言語文化研究』16 pp.115-132
- 松村明校閔・教育出版編集局編 (2011) 『表記の手引き』第六版 教育出版
- 松村明校閔・教育出版編集局編 (2017) 『表記の手引き』第七版 教育出版
- 間淵洋子 (2017) 「漢語の仮名表記—実態と背景」『言語資源活用ワークショップ2016 発表論文集』 pp.201-213
- 嶺田明美・長澤輝世 (2012a) 「広告の表現について(1) —テレビコマーシャルの表現形式と文末表現」『學苑』862 pp.13-23
- 嶺田明美・長澤輝世 (2012b) 「広告の表現について(2) —テレビコマーシャルにおける業種と表現形式を中心に」『學苑』864 pp.20-29
- 三牧陽子 (2002) 「待遇レベル管理からみた日本語母語話者間のポライトネス表示—初対面会話における「社会的規範」と「個人のストラテジー」を中心に」『社

会言語科学』5(1) pp.56-74

三宅和子 (2003) 「対人配慮と言語表現—若者の携帯電話のメッセージ分析」『文学論藻』77 pp.207-176

三宅和子 (2008) 「ケータイ方言—ハイブリッドな対人関係調整装置」(特集 ケータイ世界—ケータイ表現)『國文學：解釈と教材の研究』53(5) pp.92-103

三宅和子 (2009) 「謝罪メールをめぐる対人関係調整行動「了解で～す☆」の真意を探る」『メディアとことば 4』三宅和子・竹野谷みゆき・佐竹秀雄編 ひつじ書房 pp.158-188

三宅和子 (2016) 「身近なやりとりからことばを見つめ直す」『日本語学』35(2) pp.40-51

村田和代 (2004) 「テレビコマーシャルの好感度—世代別言語ストラテジーの視点から」『メディアとことば 1』三宅和子・岡本能里子・佐藤彰編 ひつじ書房 pp.2-35

村中淑子・黎婉珊 (2013) 「中上級日本語教科書における非外来語のカタカナ表記の実態」『国際文化論集』48 pp.113-134

茂木俊伸 (2012) 「第5課「チョー恥ずかしかったヨ！」なカタカナの不思議」『私たちの日本語』朝倉書店 pp.47-57

矢島英美子 (1968) 「女性向け広告文におけるカタカナ表記のことば」『立教大学日本文学』20 pp.85-94

矢田勉 (2013) 「日本語の攻防 文字・表記 カタカナとひらがな」『日本語学』32(12) pp.82-91

Yule, George (1996) *Pragmatics* Oxford, NY: Oxford University Press

横山詔一 (2006) 「異体字選好における単純接触効果と一般対応法則の関係」『計量国語学』25(5) pp.199-214

横山詔一 (2014a) 「文字環境と単純接触効果」『国語研プロジェクトレビュー』5(1) pp.19-31

横山詔一 (2014b) 「文字の認知単位」『日本語文字・表記の難しさとおもしろさ』高田智和・横山詔一編 彩流社 pp.134-147

吉川香緒子 (2007) 「メールによる話し合いにおける「異見表明」の方法に関する考察」『早稲田大学日本語教育研究』10 pp.71-82

吉田充良（2014）「カタカナ表記による機能差異の表示—「適当／テキトー」を例にして」『日本文学論叢』43 pp.115-103

吉村弓子（1982）「現代日本語における漢字の表意性」『言語学論叢』1 pp.2-16

渡辺さゆり（2014）「J-POP 歌詞の中のカタカナ—AKB48」『比較文化論叢 札幌大学文化学部紀要』30 pp.70(49)-66(53)

<資料> 非外来語のカタカナ表記 用例一覧

資料として、本論文の調査で得られた全ての用例をまとめた語彙表を提示する。各々の表記がどの媒体で出現したのかを示すものである。語彙表の提示は、現代における非外来語のカタカナ表記の実態を明らかにするという本論文の目的を達すると同時に、他の参考にも供することができるものとする。

本論文の調査で収集した用例数は、以下のとおりである。掛詞は数に含まない。固有名詞は数に含まれているが、交通広告とパッケージについては固有名詞を収集の対象外としていたため、含んでいない。

<媒体別用例数>

テレビ番組：	1,318 件	(固有名詞含む)	
テレビ CM：	783 件	(固有名詞含む)	
交通広告：	713 件		
パッケージ：	707 件		
学術雑誌：	1,524 件	(固有名詞含む)	
Eメール：	177 件	(固有名詞含む)	合計 5,222 件

ここから固有名詞を除いた全用例を、2種類の語彙表として提示する。1つは、用例を品詞別に分けたものである(以下「品詞別の語彙表」)。2つには、それらの用例全てを統合して、五十音順に配列したものである(以下「五十音順の語彙表」)。

なお、本論文の語彙表の目的は、「どのような語が、どのような媒体で、どのようにカタカナ表記で出現しているのか」を示すことである。したがって、短単位で機械的に語を抽出して配列した語彙表とは、語や表記の提示方法が異なる。特記事項を以下に記す。

<品詞別の語彙表に関して>

- ・品詞別の表それぞれにおいて、まず漢字に関わる条件ごと(漢字がない、漢字があるが常用外、常用漢字で書ける)にまとめ、さらにその中で語種別にまとめて配列した。

- ・以上の条件が同じ語群の中においては、出現頻度（総用例数）の高いものから用例を配列してある。合計出現数が2および1の語は、五十音順に表示している。
- ・品詞の認定は、カタカナ表記された部分を基準にしている場合がある。他の類似の例と同じ品詞に分類し、品詞別の語彙表に表示するためである。

例：【ヒラメ筋】【タカ派】【カキフライ】

⇒「名詞（一般）」の「動植物」に分類

- ・語種や漢字の有無が不明であるなど特殊な例は、各表の最後にまとめた。ただし、「名詞（一般）」の【コク】のみ出現数が非常に多いため冒頭に掲げた。
- ・品詞別の表の提示順は、本論文第3章において提示した品詞別の集計表（表1）における品詞の提示順と同じである。ただし、用例数の少ない「略語」「接尾辞（人名）」「連体詞」等は、品詞別の表に分類されなかったものとまとめて「その他」として最後にまとめて掲げる。反対に、第3章表1で「その他」に含まれていた「助詞・助動詞」は、「その他」から独立させて1つの表とした。
- ・品詞は一つひとつの例の用法により認定しているため、同じ語でも別の品詞に分類されている場合がある。例えば【イッキ】（一気）は、後に助詞「に」が接続していた場合は「副詞」、単独で使用されていた場合は「名詞（一般）」としている。「簡単」は【カンタンがいちばん】などの場合は「名詞（一般）」、それ以外は「名詞（形容動詞語幹）」としている。
- ・転成名詞は、原則として「名詞（一般）」とした。
- ・「12：その他」においては、性質が似ているものを大まかにまとめて表示している。
- ・記号類と学術雑誌に特有の語は、最後に13・14番としてまとめた。

<品詞別の語彙表・五十音順の語彙表 共通>

- ・各表左端の番号は、品詞別の語彙表全体を通しての通し番号である。五十音順の語彙表における左端の番号と対応しているため、五十音順の語彙表を用いて特定の語を検索することが可能である。
- ・「出現形」は、その表記で出現していたことを示す。この欄では用例を示すことを目的にする。そのため、漢字やひらがなを含む混合表記の複合語を、文字種が混合した状態でそのまま記載している場合がある（カタカナ表記部分単独では意

味や用法がわかりにくい場合など。例えば【バリ肩】。外来語との複合語で一語と見なせるものも、複合語の状態では外来語部分も含めて表示している。（【アイドルオタク】など）

- ・複合語の場合、見やすさを考慮し、「漢字・ひらがな表記」欄で要素を「+」でつないでいる場合がある。
- ・「見出し形」は語の検索に使用するため、また、同じ語（成分）がどのようにカタカナ表記されているのかを比較する目的で掲示している。そのため、混合表記の複合語の場合は出現形がそのまま見出し形となっていない場合がある。例えば、出現形が漢字またはひらがなから始まる場合はカタカナ部分のみ取り出して「見出し形」としている。これにより、五十音順で語を配列した時、同じカタカナ表記が隣接して表示される。

例：出現形【味噌ダレ】【液ダレ】⇒見出し形【タレ】

出現形【旬モノ】【モノ】⇒見出し形【モノ】

ただし、【歯ソーノロー】のようにカタカナ部分だけを取り出すと1つの語として成り立たない用例の場合は、見出し形に漢字表記部分も含めて「シソーノロー」などと示す。

- ・出現形がカタカナ表記から始まる混合表記語の場合は、出現形全体を見出し形としてカタカナで示す場合がある。例：出現形【ポイ捨て】⇒見出し形【ポイステ】
- ・「漢字・ひらがな表記」欄では、カタカナ表記された部分のみでは元の語がわかりにくくなる場合は、語の全体を示す。

例：出現形【皮フ科】⇒「漢字・ひらがな表記」欄【皮膚】

出現形【バラつき】⇒「漢字・ひらがな表記」欄【ばらつき】

また、活用語に分類されている用例の場合は、カタカナ以外で出現している部分も含めて終止形で示す。

例：出現形【イケてない】⇒「漢字・ひらがな表記」欄【行ける／いける】

- ・表内の情報だけでは語の意味が特定しにくいと判断したものについては、「漢字・ひらがな表記」欄に補足説明を加えた。
- ・語種はカタカナ表記されていない部分も含めた一語単位で認定している。

例：【車イス】【正直モノ】【イケ面】⇒混種語

ただし、複合語での出現例が多い【タレ】を含む語については、【タレ】を認定

の対象とし、いずれも和語とした。

また、例えば【豚トロ】【トロ】のように、カタカナ表記された部分単独で別個の用例も見られるものは、カタカナ表記された部分の語種で分類している場合がある。【おトク】【トク】なども同様である。

- ・表記の異なりを基準としているため、例えば助数詞の【カ】と【カ】や、【ツライ】【ツライ】は別に集計している。そのような例が各々何件出現したのかは、五十音順の語彙表で確認することができる。
- ・資料（媒体）名は、各々次のように略す。
テレビ番組⇒TV、テレビCM⇒CM、交通広告⇒交通、
学術雑誌⇒学術、Eメール⇒メール

表内の記号の意味は以下のとおりである。語種に「G」（外来語）が加わった点以外は、本論文で提示してきた表に準ずる。「G」は、語源が和語か外来語か不明とされる【ゴロ】に使用している。

- ×：表外字 ▽：表外音訓 ＝：常用漢字表付表にない熟字訓
- ※：2010年11月30日内閣告示「常用漢字表」で追加されたもの
- 語種欄のW：和語、K：漢語、H：混種語、G：外来語

■ 品詞別語彙表

■ 1: 名詞(一般)

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
1	コク	コク	酷? / こく(濃く)?	KorW	89	2	1	9	77		
2	ズレ	ズレ	ずれ	W	12	1			3	8	
3	ネタ	ネタ	ねた	W	9	6		1		1	1
4	ベタツキ	ベタつき	べたつき	W	9		1	5	3		
5	ボイステ	ボイ捨て	ぼい捨て	W	8	3	3	1	1		
6	カサツキ	カサつき	かさつき	W	7			4	3		
7	バラツキ	バラつき	ばらつき	W	5				2	3	
8	コシヒカリ	コシヒカリ	こしひかり	W	4	4					
9	ガチ	ガチ	がちんこの省略形	W	4	1		3			
10	バラツメ	バラ詰	ばら(ばらばらの省略形) + 詰	W	4		4				
11	パサツキ	パサつき	ばさつき	W	4		1		3		
12	ピリカラ	ピリ辛	びり辛 / びりから	W	4		1		3		
13	オッサン	オッサン	おっさん	W	3	3					
14	ガチンコ	ガチンコ	がちんこ	W	3	3					
15	ガラ	鶏ガラ	がら	W	3				3		
16	ゲー	ゲー	ぐう (じゃんけんの石)	W	3	3					
17	パチンコ	パチンコ	ぱちんこ	W	3	1	2				
18	ガチカタ	ガチ肩	がち(がちがちの省略形) + 肩	W	2		1	1			
19	グル	グル	ぐる	W	2	2					
20	ケチ	ケチ	けち	W	2	1					1
21	テカリ	テカリ	てかり	W	2			2			
22	バテ	夏バテ	ばて	W	2			2			
23	バリカタ	バリ肩	ばり(ばりばりの省略形) + 肩	W	2		1	1			
24	ベタ	ベタ	べた	W	2	1					1
25	オナラ	オナラ	おなら	W	1	1					
26	カマ	カマ	かま	W	1	1					
27	ガラ	ガラ炊き	がら炊き	W	1				1		
28	ガリ	ガリ	がり	W	1	1					
29	ゴワツキ	ゴワつき	ごわつき	W	1				1		
30	ササニシキ	ササニシキ	ささにしき	W	1	1					
31	サビ	サビ	さび(楽曲の聞かせどころ)	W	1	1					
32	サビ	サビ	さび(山=葵 / わさび)	W	1	1					
33	ザラツキ	ザラつき	ざらつき	W	1				1		
34	ズレオチ	ズレ落ち	ずれ落ち	W	1				1		
35	ソツ	ソツ	そつ	W	1						1
36	ダマ	ダマ	だま	W	1				1		
37	チュー	チュー	ちゅう	W	1	1					
38	ヅラ	ヅラ	づら	W	1	1					
39	ツンデレ	ツンデレ	つんでれ	W	1	1					
40	ドス	ドス	どす	W	1	1					
41	ドヤガオ	ドヤ顔	どや顔	W	1	1					
42	トロ	トロ	とろ	W	1	1					
43	トロ	豚トロ	とろ	W	1	1					
44	トンカチ	トンカチ	とんかち	W	1	1					
45	パク	ロパク	ぱく	W	1	1					
46	パク	音パク	ぱく	W	1	1					
47	ブレ	ブレ	ぶれ	W	1	1					
48	ペチャパイ	ペチャパイ	ぺちゃぱい	W	1	1					
49	ポチブクロ	ポチ袋	ぽち袋	W	1	1					
50	マグレ	マグレ	まぐれ	W	1	1					
51	モン	モン	もん (【どんなモンや】)	W	1	1					
52	ヤンチャ	ヤンチャ	やんちゃ	W	1	1					
53	ゴミ	ゴミ	×塵 / ×芥 / ごみ	W	51	20	2	2	25		2
54	ウソ	ウソ	×嘘 / うそ	W	21	19	1	1			

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
55	ハサミ	ハサミ	×鋏／剪＝刀／はさみ	W	17	3				14	
56	カビ	カビ	×黴／かび	W	14	1	2	2		9	
57	タダ	タダ	▽徒／×只／ただ	W	11	8	2	1			
58	ツボ	ツボ	×壺／つぼ	W	9	8	1				
59	ホコリ	ホコリ	×埃／ほこり	W	9	3				6	
60	ザル	ザル	×笊／ざる	W	9					9	
61	ニキビ	ニキビ	面＝皸／にきび	W	8	1	1	6			
62	ヒビ	ヒビ	×罅／ひび	W	8		3	1	4		
63	ムラ	ムラ	×斑／むら	W	7			1	6		
64	ヒナ	ヒナ	×雛／ひな	W	6	6					
65	オムツ	オムツ	▽御襁＝褌／おむつ	W	6	4	1	1			
66	シワ	シワ	×皺／×皺／しわ	W	5	1		2	2		
67	ヒゲ	ヒゲ	×髭／×鬚／×髯／ひげ	W	5			4			1
68	サビ	サビ	×錆／×銹／さび	W	4	4					
69	ババァ	ババァ	▽婆／ばばあ	W	4	4					
70	フケ	フケ	雲＝脂／頭＝垢／ふけ	W	4	2	1		1		
71	ヒモ	ヒモ	×紐／ひも	W	4	2			2		
72	ヘタ	ヘタ	×蒂／へた	W	4	2			2		
73	ツマミ	ツマミ	▽摘み／▽撮み／つまみ	W	4				4		
74	ヤケド	ヤケド	火＝傷／やけど	W	4				4		
75	カビ	防カビ	×黴／かび	W	3		3				
76	クジ	クジ	×籤／×闔／くじ	W	3	3					
77	クマ	クマ	×隈／▽曲／×阿／くま	W	3	3					
78	シワ	小ジワ	×皺／×皺／しわ	W	3		3				
79	スネ	スネ	×脛／×臑／すね	W	3	2					1
80	ホウキ	ホウキ	×箒／ほうき	W	3	3					
81	モノマネ	モノマネ	物真▽似／ものまね	W	3	3					
82	ヨレ	ヨレ	×縫れ／×襷れ／よれ	W	3				3		
83	アカ	アカ	×垢／あか	W	2	1			1		
84	アク	アク	灰＝汁／あく	W	2				2		
85	アザ	アザ	×痣／×癩／あざ	W	2	1		1			
86	オトリ	オトリ	×囚／媒＝鳥／おとり	W	2	2					
87	カス	カス	×滓／かす	W	2	2					
88	カビ	黒カビ	×黴／かび	W	2		2				
89	クシ	手グシ	×櫛／×梳／くし	W	2				2		
90	クシャミ	クシャミ	×嚏／くしゃみ	W	2			2			
91	クソ	クソ	×糞／×屎／くそ	W	2	2					
92	コブ	コブ	×瘤／こぶ	W	2	2					
93	ゴミ箱	ゴミ箱	×塵／×芥／ごみ＋箱	W	2	2					
94	セリフ	セリフ	台＝詞／せりふ	W	2					2	
95	ソバカス	ソバカス	蓄＝麦×滓／雀斑／そばかす	W	2		1		1		
96	チリ	チリ	×塵／ちり	W	2	1			1		
97	トコ	トコ	▽所／とこ	W	2			2			
98	ヌカ	ヌカ	×糠／ぬか	W	2				2		
99	ヌカ	肌ヌカ	肌×糠／ぬか	W	2				2		
100	ヌメリ	ヌメリ	▽滑り／ぬめり	W	2	1			1		
101	ノコ	ノコ	×鋸／のこ	W	2				2		
102	バネ	バネ	発＝糸／撥＝糸／弾＝機／ばね	W	2				1	1	
103	バラマキ	バラマキ	▽散×蒔き／ばらまき	W	2	2					
104	ヘラ	ヘラ	×篋／へら	W	2				2		
105	ボケ	ボケ	×惚け／×呆け／ぼけ	W	2	2					
106	ヨダレ	ヨダレ	×涎／よだれ	W	2	2					
107	アダ	アダ	×仇／×寇／あだ	W	1	1					
108	ウソツキ	ウソツキ	×嘘つき／うそつき	W	1	1					
109	ウソナキ	ウソ泣き	×嘘／うそ＋泣き／なき	W	1	1					
110	ウマサ	ウマさ	▽甘さ／▽旨さ／▽巧さ／うまさ	W	1			1			
111	オカワリ	オカワ〜り!	▽御代(わり)／おかわり	W	1		1				
112	オキテ	オキテ	×掟／おきて	W	1	1					
113	オシヤレ	オシヤレ	▽御×洒▽落／おしやれ	W	1			1			

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
114	オマケ	オマケ	▽御負け／おまけ	W	1			1			
115	カツラ	カツラ	×鬘／かつら	W	1	1					
116	カミソリ	カミソリ	剃＝刀／かみそり	W	1			1			
117	クシ	クシ	×櫛／×梳／くし	W	1				1		
118	コマ	ひとコマ	×駒／こま	W	1			1			
119	コロ	石コロ	石▽塊／石ころ	W	1			1			
120	シビレ	シビレ	×痺れ／しびれ	W	1	1					
121	ズル	ズル	×狡／ずる	W	1	1					
122	ソリ	ソリ	×橇／そり	W	1	1					
123	タコツボガタ	タコツボ型	×蛸×壺／たこつぼ +型	W	1					1	
124	ダマシ	ダマシ	×騙し／だまし	W	1	1					
125	ダミゴエ	ダミ声	×訛み声／▽濁声／だみ声／だみごえ	W	1						1
126	ツキモノ	ツキモノ	×憑き物／つきもの	W	1						1
127	ツボ	肩ツボ	×壺／つぼ	W	1		1				
128	ツボ	腰ツボ	×壺／つぼ	W	1		1				
129	ツル	ツル	×蔓／つる	W	1						1
130	ツワリ	ツワリ	悪阻／つわり	W	1	1					
131	テコ	テコ	×梃子／×梃／てこ	W	1	1					
132	トゲ	トゲ	▽刺／×棘／とげ	W	1					1	
133	トサカ	トサカ	鶏＝冠／とさか	W	1	1					
134	トドメ	トドメ	▽止め／とどめ	W	1	1					
135	ナルト	ナルト	鳴▽門／なると	W	1					1	
136	ニワカアメ	ニワカ雨	×俄雨／にわか雨／にわかあめ	W	1			1			
137	ハゲ	ハゲ	×禿／はげ	W	1	1					
138	ハズ	ハズ	×筈／はず	W	1	1					
139	バラ	バラ	×肋／ばら	W	1	1					
140	ピラ	ピラ	▽片／▽枚／びら	W	1	1					
141	ヘコミ	ヘコミ	▽凹み／へこみ	W	1	1					
142	ボロ	ボロ	襦＝褌／ぼろ	W	1	1					
143	ムチ	ムチ	×鞭／×笞／むち	W	1	1					
144	モリ	モリ	×鉢／もり	W	1	1					
145	ヤケグイ	ヤケ食い	自＝棄／やけ＋食い	W	1	1					
146	ヤマンバ	ヤマンバ	山×姥／やまんば	W	1	1					
147	ヤミ	ヤミ	×闇／やみ	W	1			1			
148	ヤリ	縦ヤリ	×槍／×鏢／やり	W	1	1					
149	ヤリ	横ヤリ	×槍／×鏢／やり	W	1	1					
150	ヤル	ヤル期	▽遣る／やる	W	1			1			
151	ワガママ	ワガママ	我が×儘(俚)／わがまま	W	1	1					
152	ガン	ガン	×癌	K	27	16	8	3			
153	ケガ	ケガ	▽怪我	K	27	12	1		11	2	1
154	ガン	冒ガン	×癌	K	12	12					
155	ギョーザ	ギョーザ	[中]餃子	K	11	11					
156	マヒ	マヒ	麻×痺	K	8	8					
157	ケンカ	ケンカ	×喧×嘩／×誼×譚	K	7	7					
158	フン	フン	×糞	K	4	2		1	1		
159	ガレキ	ガレキ	※瓦×礫	K	3	3					
160	カバン	カバン	[中]×鞆	K	2	2					
161	バイキン	バイ菌	×黴菌	K	2		2				
162	フキン	フキン	布×巾	K	2		1		1		
163	ロウソク	ロウソク	×蠟×燭	K	2	2					
164	ケンカ	夫婦ケンカ	×喧×嘩／×誼×譚	K	1	1					
165	コショウ	コショウ	×胡×椒	K	1	1					
166	シナーロー	歯シナーロー	齒槽×膿漏	K	1		1				
167	タンパク質	タンパク質	×蛋白質	K	1			1			
168	テッペン	テッペン	▽天辺	K	1		1				
169	ハクリ	ハクリ	×剥離	K	1					1	
170	ヒケツ	ヒケツ	秘×訣	K	1	1					
171	ホント	ホント	本▽当	K	1	1					
172	ハク	アルミハク	×箔	H	3					3	

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
173	ゴマアブラ	ゴマ油	×胡麻油	H	2	2					
174	ニオイ	ニオイ	※匂い/※臭い/におい	W	61		16	18	27		
175	チカラ	チカラ	力/ちから	W	56	5	19	22	10		
176	フタ	フタ	※蓋/ふた	W	52	10	2		40		
177	カラダ	カラダ	体/からだ	W	39	1	8	23	7		
178	モノ	モノ	物/もの	W	34	9	3	10		8	4
179	カタチ	カタチ	形/かたち	W	23	1	8	10	4		
180	ワザ	ワザ	業/技/わざ	W	22	17	1	2	1		1
181	カギ	カギ	※鍵/かぎ	W	21	14		3	1	2	1
182	ハリ	ハリ	張り/はり	W	21		7	3	11		
183	チラシ	チラシ	散らし/ちらし	W	20	9	8	2			1
184	ワケ	ワケ	訳/わけ	W	19	19					
185	オススメ	オススメ	お勧め/お薦め/▽お奨め/おすすめ	W	16	8		6	2		
186	コシ	コシ	腰/こし	W	15	2	1	1	11		
187	クルマ	クルマ	車/くるま	W	14		9	4			1
188	ココロ	ココロ	心/こころ	W	14		5	9			
189	ナゾ	ナゾ	※謎/なぞ	W	13	13					
190	ツヤ	ツヤ	※艶/つや	W	11		6		5		
191	ダシ	ダシ	出し/出汁/だし	W	10	9			1		
192	ノド	ノド	※喉/×咽/のど	W	10	3		2	5		
193	コト	コト	事/こと	W	10	1	2	3			4
194	シミ	シミ	染み/しみ	W	9		4	1	4		
195	ヒト	ヒト	人/ひと	W	9	1	2	1		3	2
196	フチ	フチ	縁/ふち	W	9				9		
197	キメ	キメ	木目/肌=理/きめ	W	9		1	1	7		
198	アゴ	アゴ	顎/×頤/あご	W	8	7			1		
199	カゼ	カゼ	風-邪/かぜ	W	8		5	2	1		
200	メド	メド	目途/目▽処/めど	W	8	8					
201	ワキ	ワキ	※脇/×腋/わき	W	8			8			
202	オバケ	オバケ	お化け/おぼけ	W	7	7					
203	ムダ	ムダ	無駄/▽徒/むだ	W	7	1	1	4	1		
204	カネ	カネ	金/かね	W	6	6					
205	クビ	クビ	首/くび	W	6	5					1
206	サムライ	サムライ	侍/▽士/さむらい	W	6	2	3		1		
207	クセ	クセ	癖/▽曲/くせ	W	6	1	1	1	3		
208	ヒザ	ヒザ	膝/ひざ	W	6		1	5			
209	シゴト	シゴト	仕事/▽為事/しごと	W	6			6			
210	エサ	エサ	※餌/えさ	W	5	5					
211	タレ	タレ	垂れ/たれ	W	5	3			2		
212	タテ	タテ	縦/×豎/たて	W	5	1		3	1		
213	コリ	コリ	凝り/こり	W	5		5				
214	ヨゴレ	ヨゴレ	汚れ/よごれ	W	5		3	1	1		
215	メガネ	メガネ	眼-鏡/めがね	W	5		2	2		1	
216	スキ	スキ	好き/すき	W	5			4	1		
217	ムレ	ムレ	蒸れ/むれ	W	5			1	4		
218	ハネ	ハネ	跳ね/×撥ね/はね	W	5				5		
219	キッカケ	キッカケ	切っ掛け/きっかけ	W	4	4					
220	リ	リ	乗り/のり	W	4	4					
221	カラ	カラ	空/▽虚/から	W	4	2		1			1
222	オトナ	オトナ	大人/おとな	W	4	1	2	1			
223	キレ	キレ	切れ/きれ	W	4	1	1	2			
224	ウチ	ウチ	内/うち	W	4	1		3			
225	ハグキ	ハグキ	歯茎/はぐき	W	4		3		1		
226	キズ	キズ	傷/×疵/×瑕/きず	W	4				4		
227	ハナ	ハナ	鼻/はな	W	4				4		
228	アタマ	アタマ	頭/あたま	W	3	1		1			1
229	ウラ	ウラ	裏/うら	W	3	3					
230	オンナ	オンナ	女/おんな	W	3	1	1				1
231	スジ	スジ	筋/すじ	W	3	2		1			

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
232	タレ	液ダレ	垂れ／たれ	W	3		1	1	1		
233	ヌリ	ヌリ	塗り／ぬり	W	3			3			
234	ハミガキ	ハミガキ	歯みがき／はみがき	W	3		1		2		
235	ハラミ	ハラミ	腹身／はらみ	W	3	3					
236	ヒジ	ヒジ	肘／×肱／×臂／ひじ	W	3			3			
237	フリ	フリ	振り／▽風／ふり	W	3	2		1			
238	ミカタ	ミカタ	味方／身方／▽御方／みかた	W	3		2	1			
239	ミミ	ミミ	耳／みみ	W	3	2			1		
240	ムシバ	ムシ歯	虫歯／むしば	W	3		1		2		
241	メシ	メシ	飯／めし	W	3	1					2
242	ワ	ワ	輪／わ	W	3	3					
243	アブラ	アブラ	油／脂／×膏／あぶら	W	2		1	1			
244	アラ	アラ	粗／あら	W	2	2					
245	イマ	イマつぶ	今／いま	W	2	2					
246	オクサマ	オクサマ	奥様／奥さま／おくさま	W	2						2
247	オススメ	おススメ	勧め／薦め／▽奨め／すすめ	W	2			1	1		
248	オトコ	オトコ	男／おとこ	W	2		1	1			
249	オドロキ	オドロキ	驚き／×愕き／×駭き／おどろき	W	2			2			
250	オニギリ	オニギリ	お握り／おにぎり	W	2	2					
251	カミサン	カミさん	上さん／かみさん	W	2	2					
252	ケバ	ケバ	毛羽／×毳／けば	W	2				2		
253	コ	コ	子／こ	W	2			2			
254	コゲ	コゲ	焦げ／こげ	W	2				2		
255	コタエ	コタエ	答え／こたえ	W	2		2				
256	コドモ	コドモ	子供／こども	W	2		1	1			
257	ススメ	ススメ	勧め／▽奨め／すすめ	W	2				2		
258	スベ	スベ肌	滑滑／すべすべの省略形+肌	W	2			1	1		
259	ツケ	ツケ	付け／▽附け／つけ	W	2	1				1	
260	トリハダ	トリハダ	鳥肌／とりはだ	W	2	2					
261	ハガキ	ハガキ	葉書／はがき	W	2	1				1	
262	ハリ	ハリ肌	張り／はり	W	2		2				
263	ヒマ	ヒマ	暇／×隙／ひま	W	2	1					1
264	フリ	腰フリ	振り／ふり	W	2	2					
265	フリ	ネタフリ	ねた+ 振り／ふり	W	2	2					
266	マス	マス	×拵／升／×榊／▽斗／ます	W	2		2				
267	マヌケ	マヌケ	間抜け／まぬけ	W	2	1					1
268	ムダツカイ	ムダ遣い	無駄／▽徒／むだ	W	2	2					
269	モテ	モテ	持て／もて	W	2	1	1				
270	ヨロコビ	ヨロコび	喜び／よろこび	W	2		2				
271	アシ	アシ	足／脚／あし	W	1			1			
272	アセ	アセしゅん	汗／あせ	W	1		1				
273	アセ	アセ	汗／あせ	W	1		1				
274	アタリ	アタリ	当たり／あたり	W	1					1	
275	アミ	アミ	網／あみ	W	1					1	
276	イナヅマ	イナヅマ	稲妻／いなずま	W	1					1	
277	ウデ	ウデ	腕／うで	W	1		1				
278	ウマ	ウマ	馬／うま	W	1	1					
279	ウラワザ	ウラ技	裏／うら + 技	W	1		1				
280	エモノ	エモノ	獲物／得物／えもの	W	1						1
281	エリ	エリ	襟／えり	W	1			1			
282	オカイモノ	オカイモノ	お買い物／お買いもの／おかいもの	W	1			1			
283	オス	オス	雄／×牡／おす	W	1					1	
284	オモシロサ	“オモシロ”さ	面白さ／おもしろさ	W	1		1				
285	カケ	カケ	欠け／かけ	W	1					1	
286	カゴ	カゴ	※籠／かご	W	1	1					
287	カサ	カサ	傘／かさ	W	1			1			
288	カタ	カタ	方／片／かた	W	1	1					
289	カタカナ	カタカナ	片仮名／かたかな	W	1					1	
290	カネモチ	カネ持ち	金／かね+持ち／もち	W	1	1					

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
291	カラ	カラ	殻／▽骸／から	W	1	1					
292	ガラ	ガラ	柄／がら	W	1	1					
293	キメガオ	キメ顔	決め／きめ＋顔	W	1	1					
294	キメテ	キメ手	決め／きめ＋手	W	1	1					
295	キモ	キモ	肝／▽胆／きも	W	1					1	
296	キリ	キリ	切り／きり	W	1						1
297	キワガリ	キワ刈り	際／きわ	W	1		1				
298	クセ	寝グセ	寝癖／▽曲／ぐせ	W	1		1				
299	クセ	酒グセ	酒癖／▽曲／ぐせ	W	1	1					
300	ココロエ	ココロエ	心得／こころえ	W	1				1		
301	コリ	肩コリ	凝り／こり	W	1			1			
302	ササミ	ササミ	笹身／ささみ	W	1				1		
303	シミ	汗ジミ	染み／しみ	W	1			1			
304	シメ	シメ	締め／×メ／しめ	W	1	1					
305	ジャリ	ジャリ	砂利／じやり	W	1	1					
306	シラ	シラ	白／しら	W	1	1					
307	スキマ	スキマ	透き間／▽空き間／×隙間／すきま	W	1			1			
308	スキマ	スキ間	透き間／▽空き間／×隙間／すきま	W	1				1		
309	スミ	スミ	隅／▽角／すみ	W	1				1		
310	スリキズ	スリ傷	擦(り)／すり	W	1				1		
311	ソラ	ソラ	空／そら	W	1			1			
312	タネ	タネ	種／たね	W	1	1					
313	タマゴ	タマゴ	卵／玉子／たまご	W	1	1					
314	タレ	醬油ダレ	垂れ／たれ	W	1	1					
315	タレ	胡麻ダレ	垂れ／たれ	W	1	1					
316	タレ	塩ダレ	垂れ／たれ	W	1	1					
317	タレ	秘伝ダレ	垂れ／たれ	W	1	1					
318	タレ	味噌ダレ	垂れ／たれ	W	1	1					
319	タレ	みそダレ	垂れ／たれ	W	1				1		
320	タレメ	タレ目	垂れ目／たれめ	W	1			1			
321	チカラ	肌チカラ	力／ちから	W	1			1			
322	ツッパリ	ツッパリ	突っ張り／つつぱり	W	1				1		
323	ツブ	ツブ	粒／つぶ	W	1			1			
324	ツメ	ツメ	※爪／つめ	W	1				1		
325	テリヤキ	テリヤキ	照り焼き／てりやき	W	1			1			
326	トキ	売りトキ	時／とき	W	1			1			
327	トシ	トシ	年／▽歳／とし	W	1						1
328	ドロ	ドロ	泥／どろ	W	1	1					
329	ナナメ	ナナメ	斜め／ななめ	W	1			1			
330	ナマ	ナマ	生／なま	W	1			1			
331	ネガイ	ネガイ	願い／ねがい	W	1			1			
332	バケモン	バケモン	化けもん／ばけもん	W	1	1					
333	ハズレ	ハズレ	外れ／はずれ	W	1	1					
334	ハミガキコ	ハミガキ粉	歯磨き／はみがき	W	1		1				
335	ハラ	ハラ	腹／×肚／はら	W	1			1			
336	ハリ	ハリつや	張り／はり	W	1		1				
337	ハリ	ハリツヤ	張り／はり＋艶／つや	W	1		1				
338	ハリ	肌ハリ	張り／はり	W	1		1				
339	ハル	ハル	春／はる	W	1	1					
340	ビショ濡れ	ビショ濡れ	びしょ＋濡れ	W	1			1			
341	ヒッカケ	ヒッカケ	引っ掛け／引っ懸け／ひっかけ	W	1	1					
342	ヒトアジ	ヒト味	一味／ひとあじ	W	1		1				
343	ヒトネタ	ヒトネタ	一ねた／ひとねた	W	1	1					
344	ヒトリジメ	ヒトリジメ	独り占め／ひとりじめ	W	1			1			
345	ヒヤ	ヒヤ	冷や／ひや	W	1				1		
346	フエ	フエ	笛／ふえ	W	1	1					
347	フリガナ	フリガナ	振り仮名／振りがな／ふりがな	W	1						1
348	ホメコトバ	ホメ言葉	褒め／▽誉め／ほめ＋言葉	W	1			1			
349	マメ	血マメ	豆／まめ	W	1	1					

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
350	ミゾ	ミゾ	溝／みぞ	W	1				1		
351	ムコ	おムコ	婿／×壻／×賀／むこ	W	1	1					
352	モノサシ	モノサシ	物差し／ものさし	W	1		1				
353	モレ	伝いモレ	漏れ／×洩れ／もれ	W	1		1				
354	モレ	モレ	漏れ／×洩れ／もれ	W	1						1
355	ヤキモチ	ヤキモチ	焼きもち／やきもち	W	1						1
356	ヤジ	ヤジ	野次／弥次／やじ	W	1	1					
357	ヤマト	ヤマト	大和／倭／やまと	W	1	1					
358	ヨコ	ヨコ	横／よこ	W	1			1			
359	ヨロコビ	ヨロコビ	喜び／よろこび	W	1		1				
360	ワキゲ	ワキ毛	※脇／×腋／わき+毛	W	1	1					
361	ワケアリ	ワケアリ	訳／わけ+ 有り／あり	W	1	1					
362	ワレモノ	ワレモノ	割れ物／割れもの／われもの	W	1					1	
363	コツ	コツ	骨	K	44	31		1	12		
364	ケイタイ	ケータイ	携帯	K	15		13	1	1		
365	ヒミツ	ヒミツ	秘密	K	12	4		4	4		
366	ギモン	ギモン	疑問	K	7	6		1			
367	センイ	センイ	繊維	K	7		1	1	5		
368	バツイチ	バツイチ	罰一	K	6	6					
369	イス	イス	※椅子／×倚子	K	6	5		1			
370	ダンナ	ダンナ	×檀那／旦那	K	5	3					2
371	ヒフカ	皮フ科	皮膚	K	5		3	1	1		
372	センバツ	センバツ	選抜	K	4	4					
373	サギ	サギ	詐欺	K	4	4					
374	マンガ	マンガ	漫画	K	4		1	1		1	1
375	ガキ	ガキ	餓鬼	K	3	3					
376	ケイリン	ケイリン	競輪	K	3			3			
377	ソッコウ	ソッコー	即効、速攻、速効(いずれとも考えられる)	K	3		1	2			
378	トク	トク	得	K	3			3			
379	バッテン	バッテン	罰点	K	3	3					
380	ビン	ビン	瓶／×壺／×罎	K	3		1		2		
381	フツウ	フツウ	普通	K	3		1				2
382	イッキ	イッキ	一気	K	2			2			
383	カイロ	カイロ	懐炉	K	2	2					
384	キブン	キブン	気分	K	2		2				
385	ケイタイ	ケータイ	携帯	K	2		2				
386	ケツ	ケツ	穴／▽尻	K	2	2					
387	ゴクラク	ゴクラク	極楽	K	2				2		
388	セカイ	セカイ	世界	K	2			1		1	
389	ナイショ	ナイショ	内緒	K	2			2			
390	バツ	バツ	罰	K	2	1					1
391	イキ	イキ	粋	K	1	1					
392	イチガン	イチガン	一眼	K	1			1			
393	ウツ	ウツ	※鬱／×鬱	K	1						1
394	エキ	エキ	駅	K	1			1			
395	オンガク	オンガク	音楽	K	1			1			
396	カイカン	カイカン	快感	K	1		1				
397	カカク	カカク	価格	K	1		1				
398	カガク	カガク	化学／科学	K	1			1			
399	カグ	カグ	家具	K	1		1				
400	ガッコウ	ガッコウ	学校	K	1		1				
401	カデン	カデン	家電	K	1		1				
402	カンケイ	カンケイ	関係	K	1			1			
403	カンタン	カンタン	簡単	K	1		1				
404	カンペキ	完ペキ	完璧	K	1	1					
405	キセキ	キセキ	奇跡／奇×蹟	K	1			1			
406	キノ	キノ	基礎	K	1			1			
407	ギョギョウ	ギョギョウ	漁業	K	1	1					
408	キョシヨウ	キョシヨウ	巨匠	K	1	1					

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
409	グチ	グチ	愚痴	K	1			1			
410	ゲイシャ	ゲイシャ	芸者	K	1		1				
411	ケイバ	ケイバ	競馬	K	1			1			
412	ゲン	ゲン	験	K	1	1					
413	ケンミン	ケンミン	県民	K	1			1			
414	ゴハン	ゴハン	御飯	K	1	1					
415	サイフ	サイフ	財布	K	1	1					
416	ジテン	ジテン	事典	K	1	1					
417	ジブン	ジブン	自分	K	1			1			
418	タンキ	タンキ	短気	K	1			1			
419	チカン	チカン	痴漢	K	1			1			
420	テッパン	テッパン	鉄板	K	1				1		
421	トク	おトク	お得	K	1			1			
422	トクトク	トクトク	得々	K	1			1			
423	トクホ	トクホ	特保	K	1			1			
424	ネンビ	低ネンビ	燃費	K	1		1				
425	ノウテンキ	ノー天気	能天気	K	1						1
426	バツイチ	バツ1	罰一	K	1	1					
427	バツグン	バツグン	抜群	K	1				1		
428	バツニ	バツ2	罰二	K	1	1					
429	バン	バン犬	番犬	K	1	1					
430	バン	ご意見バン!	御意見番	K	1	1					
431	バンガイヘン	バンガイヘン	番外編	K	1	1					
432	ヒコウキ	ヒコウキ	飛行機	K	1			1			
433	ビハク	ビハク	美白	K	1		1				
434	プータロウ	プータロウ	風太郎	K	1						1
435	ベンピ	ベンピ	便秘	K	1			1			
436	ボウズ	ボウズ	坊主	K	1	1					
437	ボツ	ボツ	没	K	1	1					
438	ミリョク	ミリョク	魅力	K	1			1			
439	ムリ	ムリ	無理	K	1	1					
440	カラオケ	カラオケ	空/▽虚 +オケ	H	11	8				3	
441	アニキ	アニキ	兄貴	H	8	8					
442	モノ	旬モノ	物/もの	H	8	8					
443	イケメン	イケメン	行け/いけ面/men	H	7	7					
444	ニオイキン	ニオイ菌	※匂い/※臭い/におい	H	5		2	3			
445	クチコミ	クチコミ	口コミ	H	5			1		4	
446	ホンモノ	ホンモノ	本物/本もの/ほんもの	H	4	2	1	1			
447	イチオシ	イチオシ	一押し	H	4		3		1		
448	イケメン	イケメン税	行け/いけ面/men	H	3	3					
449	カンジ	カンジ	感じ	H	3			1			2
450	キモチ	キモチ	気持ち	H	3			1	2		
451	チューハイ	チューハイ	酎+ハイ	H	3		3				
452	エキナカ	エキナカ	駅中/駅なか	H	2			2			
453	エキマエ	エキマエ	駅前/駅まえ	H	2			2			
454	オタク	オタク	お宅	H	2	2					
455	アニキ	アニキ部長	兄貴+部長	H	1		1				
456	アミダ	アミダばばあ	阿弥陀+ばばあ	H	1	1					
457	イケメン	イケ面	行け/いけ面/men	H	1						1
458	イス	車イス	※椅子/×倚子	H	1	1					
459	イチオシ	イチ押し	一押し	H	1	1					
460	イチオシ	イチおし	一押し	H	1			1			
461	オタク	アイドルオタク	アイドルお宅/おたく	H	1	1					
462	ガングロ	ガングロ	顔黒	H	1	1					
463	サケ	サケペット	酒/さけ+ペット	H	1		1				
464	ダントツ	ダントツ	断トツ	H	1	1					
465	ツェーマン	ツェーマン	ツェー万	H	1	1					
466	デンスケ	デンスケ賭博	伝助賭博	H	1	1					
467	トク	エコ・トク	エコ+得	H	1		1				

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
468	バカタレ	バカタレ	馬※鹿／×莫×迦／ばか+たれ	H	1	1					
469	ハンコ	ハンコ	判子／はんこ	H	1	1					
470	バンツケ	バンづけ	番付(け)	H	1	1					
471	ボンマ	ボンマ	本真	H	1	1					
472	マモノ	マモノ	魔物	H	1						1
473	モノ	正直モノ	正直者／もの	H	1	1					
474	スッピン	スッピン	素っぴん／すっぴん	?	25	25					
475	ゴロ	ゴロ	ごろ／ゴロ?	WorG	3	3					
476	ブス	ブス	ぶす	W?	2	1		1			
477	ブサメン	ブサメン	ぶさ(不細工の省略形)+面／men	H	4	4					
478	キモメン	キモメン	きも(い)+面／men	H	3	3					
479	フツメン	フツメン	ふつ(普通の省略形)+面／men	H	1	1					

■2: 名詞(動植物)

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
480	カラス	カラス	×鳥／×鴉／からす	W	44	44					
481	ネギ	ネギ	×葱／ねぎ	W	14	4			10		
482	キツネ	キツネ	×狐／きつね	W	6	5				1	
483	サバ	サバ	×鯖／さば	W	6		6				
484	カキ	カキ	牡＝蠣／かき	W	5	5					
485	ダニ	ダニ	壁＝蝨／だに	W	5	5					
486	ナマコ	ナマコ	海＝鼠／なまこ	W	5	5					
487	ハト	ハト	×鳩／×鴿／はと	W	5	5					
488	イカ	イカ	鳥＝賊／いか	W	5				5		
489	ハシブトガラス	ハシブトガラス	×嘴太×鴉／はしぶとがらす	W	4	4					
490	ワタリガニ	ワタリガニ	渡×蟹／わたりがに	W	4	4					
491	キツネ	キツネ色	×狐／きつね+色	W	4				4		
492	アリ	アリ	×蟻／あり	W	3	3					
493	カニ	カニ	×蟹／かに	W	3	3					
494	タマネギ	タマネギ	玉×葱／たまねぎ	W	3	3					
495	ニラ	ニラ	×韭／×韭／にら	W	3	1			2		
496	ノビル	ノビル	野×蒜／のびる	W	3	3					
497	ハシボソガラス	ハシボソガラス	×嘴細×鴉／はしぼそがらす	W	3	3					
498	マグロ	マグロ	×鮪／まぐろ	W	3	3					
499	ミョウガ	ミョウガ	×茗荷／みょうが	W	3	3					
500	イワシ	イワシ	×鰯／いわし	W	2		2				
501	エビ	エビ	×海＝老／×蝦／えび	W	2				2		
502	カイツブリ	カイツブリ	鶺鴒＝鶺鴒／かいつぶり	W	2	2					
503	キュウリ	キュウリ	胡＝瓜／▽黄×瓜／きゅうり	W	2	1	1				
504	クルミ	クルミ	胡＝桃／くるみ	W	2	2					
505	サンマ	サンマ	秋＝刀＝魚／さんま	W	2		2				
506	ツバキ	ツバキ	×椿／つばき	W	2				2		
507	ネズミ	ネズミ族	×鼠／ねずみ+族	W	2	2					
508	バラ	バラ	薔＝薇／ばら	W	2			2			
509	フクロウ	フクロウ	×梟／ふくろう	W	2	2					
510	マイタケ	マイタケ	舞×茸／まいたけ	W	2		1		1		
511	マテガイ	マテガイ	馬＝刀貝／馬＝蛤貝／×蛸貝	W	2	2					
512	アカメガシワ	アカメガシワ	赤芽×柏／あかめがしわ	W	1		1				
513	アサリ	アサリ	浅×蜆／あさり	W	1	1					
514	アブ	アブ	×虻／×蠅／あぶ	W	1				1		
515	イカスミ	イカスミ	鳥＝賊墨／いかすみ	W	1				1		
516	イチゴ	イチゴ	×莓／いちご	W	1				1		
517	カイツブリ	クビナガカイツブリ	首長+鶺鴒＝鶺鴒／かいつぶり	W	1	1					
518	カエデ	カエデ	×楓／槭＝樹／かえで	W	1	1					
519	カジキ	カジキ	×梶木／旗＝魚／かじき	W	1		1				
520	カニ	毛ガニ	毛+×蟹／がに	W	1	1					
521	カニ	焼ガニ	焼×蟹／かに	W	1	1					

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
522	カワウソ	カワウソ	川×獺/×獺/かわうそ	W	1	1					
523	サメ	サメ	×鮫/さめ	W	1		1				
524	シダ	シダ	羊=齒/齒×朶/しだ	W	1	1					
525	シロアリ	シロアリ	白×蟻/しろあり	W	1	1					
526	スズメ	スズメ	×雀/すずめ	W	1					1	
527	タマネギ	玉ネギ	玉×葱/たまねぎ	W	1	1					
528	タマネギ	紫タマネギ	紫玉×葱/たまねぎ	W	1	1					
529	タラ	タラ	×鱈/大=口=魚/たら	W	1	1					
530	トンボ	トンボ	蜻=蛉/蜻=蜓/とんぼ	W	1					1	
531	ネギ	下仁田ネギ	下仁田+ ×葱/ねぎ	W	1	1					
532	ネギ	長ネギ	×葱/ねぎ	W	1					1	
533	ハエ	ハエ	×蠅/はえ	W	1						1
534	ヒヨコ	ヒヨコ	×雛/ひよこ	W	1	1					
535	ブナシメジ	ブナシメジ	×樺湿地/×樺占地/ぶなしめじ	W	1		1				
536	ヨモギ	ヨモギ	×艾/×蓬/よもぎ	W	1	1					
537	ワサビ	ワサビ	山=葵/わさび	W	1	1					
538	ウコン	ウコン	▽鬱金	K	8	1	7				
539	イチヨウ	イチヨウ	銀=杏/公=孫=樹/鴨=脚=樹	K	5	5					
540	ニンニク	ニンニク	大=蒜/×葫	K	5	1	3			1	
541	ブシュカン	ブシュカン	▽仏手×柑	K	3	3					
542	チンゲンサイ	チンゲン菜	▽青▽梗菜	K	3					3	
543	ケイヒ	ケイヒ	×桂皮	K	1		1				
544	ゴボウ	ゴボウ	▽牛×蒟	K	1	1					
545	ゴマ	ゴマ	×胡麻	K	1					1	
546	ミカン	ミカン	▽蜜×柑	K	1	1					
547	ヤシ	ヤシ	×椰子	K	1	1					
548	ラバ	ラバ	×驃馬	K	1						1
549	リンゴ	リンゴ	林×檜	K	1					1	
550	イルカ	イルカ漁	海=豚/いるか+漁	H	2	2					
551	カキ	カキフライ	牡=蠣+フライ	H	2		2				
552	ギンダラ	ギンダラ	銀×鱈/たら	H	2	2					
553	サトウキビ	サトウキビ	砂糖×黍/きび	H	2	2					
554	カイツブリ	クラークカイツブリ	クラーク+ 鷗=鷗/かいつぶり	H	1	1					
555	カワウソ	カナダカワウソ	カナダ+ 川×獺/×獺/かわうそ	H	1	1					
556	タカ	タカ派	×鷹派/たか派	H	1	1					
557	ナツミカン	ナツミカン	夏/なつ+▽蜜×柑	H	1					1	
558	ハクトウワシ	ハクトウワシ	白頭×鷲/わし	H	1	1					
559	バショウカジキ	バショウカジキ	×芭×蕉×梶木/×芭×蕉旗=魚	H	1		1				
560	ボタンエビ	ボタンエビ	×牡丹海=老/×牡丹×蝦/えび	H	1	1					
561	ヤシ	ヤシ殻	×椰子+殻/がら	H	1	1					
562	ヒト	ヒト	人/ひと	W	4						4
563	タカナ	タカナ	高菜/たかな	W	4	4					
564	サクラ	サクラ	桜/さくら	W	3	2				1	
565	クマ	クマ	熊/くま	W	2	2					
566	ホタテ	ホタテ	帆立/ほたて	W	2	1				1	
567	イヌ	イヌ	犬/×狗/いぬ	W	1	1					
568	イネ	イネ	稲/いね	W	1	1					
569	イモ	紫イモ	紫芋/×薯/×藷/いも	W	1	1					
570	イモ	イモ	芋/×薯/×藷/いも	W	1	1					
571	イロワケイルカ	イロワケイルカ	色分海=豚/いろわけいるか	W	1				1		
572	サル	サル	猿/さる	W	1	1					
573	ニワトリ	ニワトリ	鶏/にわとり	W	1	1					
574	ノラネコ	ノラ猫	野良猫/のらねこ	W	1	1					
575	ブタ	ブタ	豚/ぶた	W	1	1					
576	ミドリムシ	ミドリムシ	緑虫/みどりむし	W	1				1		
577	ニンジン	ニンジン	人参	K	3		2			1	
578	ブンタン	ブンタン	文旦	K	2	2					
579	エンメイソウ	エンメイソウ	延命草	K	1		1				
580	カバ	カバ舎	河馬舎	K	1	1					

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
581	カンゾウ	カンゾウ	甘草	K	1		1				
582	キンカン	キンカン	金柑	K	1	1					
583	ダイズ	ダイズ	大豆	K	1			1			
584	チョウジ	チョウジ	丁子／丁字	K	1		1				
585	スギ	スギ花粉	杉／すぎ＋花粉	H	2	2					
586	インゲンマメ	インゲン豆	隠元豆／まめ	H	2					2	
587	ナツミカン	夏ミカン	夏／なつ＋▽蜜×柑	H	2	2					
588	インゲン	白インゲン	白隠元	H	1					1	
589	ウメ	ウメ酒	梅／うめ＋酒	H	1			1			
590	サクランボ	サクランボ	桜ん坊／桜＝桃	H	1	1					
591	サル	“育メン”ザル	育メン＋猿／さる	H	1	1					
592	ニンジン	金時ニンジン	金時人參	H	1	1					
593	ホッキョクグマ	ホッキョクグマ	北極熊／くま	H	1	1					
594	ポンカン	ポンカン	ポン柑	H	1	1					
595	ゴーヤ	ゴーヤ	ごおや(漢字表記の有無不明)	W?	3	3					
596	イバラトミヨ	イバラトミヨ	いばらとみよ(漢字表記の有無不明)	W	1					1	
597	ハリザッコ	ハリザッコ	はりざっこ(漢字表記の有無不明)	W	1					1	

■3: 名詞(助数詞)

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
598	コマ	コマ	×駒／こま	W	1					1	
599	ケタ	ケタ	桁／けた	W	1	1					
600	ツ	ツ	つ	W	1					1	
601	カ	カ	箇／▽個／か	K	45			2		43	
602	カ	カ	箇／▽個／か	K	9		1			8	

■4: 名詞(代名詞)

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
603	コイツ	コイツ	こいつ	W	6	6					
604	アイツ	アイツ	あいつ	W	1	1					
605	コッチ	コッチ	こっち	W	1	1					
606	ソッチ	ソッチ	そっち	W	1	1					
607	コレ	コレ	×此れ／▽是／×之／▽誰／×惟／これ	W	44	41	1		1		1
608	ココ	ココ	×此▽処／ここ	W	16	13	1	2			
609	アレ	アレ	▽彼／あれ	W	13	12		1			
610	ヤツ	ヤツ	▽奴／やつ	W	12	6	2	3	1		
611	コチラ	コチラ	×此▽方／こちら	W	9	7			2		
612	アナタ	アナタ	貴＝方／▽彼▽方／あなた	W	5	2		3			
613	アンタ	アンタ	貴＝方／あんた	W	4	2		1			1
614	ワシ	ワシ	▽私／×僕／わし	W	3	3					
615	ウチ	ウチ	▽家／うち	W	2	2					
616	ソコ	ソコ	×其△処／そこ	W	2	2					
617	ソレ	ソレ	×其れ／それ	W	2	2					
618	アンタラ	アンタら	貴＝方ら／あんたら	W	1	1					
619	オイラ	オイラ	▽己▽等／▽俺▽等／おいら	W	1		1				
620	ミンナ	ミンナ	▽皆／みんな	W	1		1				
621	オレ	オレ	※俺／▽己／乃＝公／おれ	W	13	9	2	2			
622	キミ	キミ	君／きみ	W	12		1	11			
623	ワタシ	ワタシ	※私／わたし	W	9	2		5			2
624	ウチ	ウチ	内／うち	W	4	4					
625	ダレ	ダレ	誰／だれ	W	2	2					
626	ナニ	ナニ	何／なに	W	1			1			
627	ボク	ボク	僕	K	9	5		4			
628	ボクチン	ボクチン	僕ちん	H	1	1					
629	ワガハイ	ワガハイ	我輩／我が輩／わが輩／×吾が輩	H	1		1				

■ 5: 名詞 (形容動詞語幹)

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
630	マジ	マジ	まじ(「真面目」の省略形)	W	13	13					
631	カリカリ	カリカリ	かりかり	W	3	3					
632	ピッタリ	ピッタリ	ぴったり	W	2	2					
633	ベタ	ベタ	べた	W	2	2					
634	スカスカ	スカスカ	すかすか	W	2		2				
635	ガチガチ	ガチガチ	がちがち	W	1		1				
636	カラカラ	カラカラ	からから	W	1			1			
637	キンキン	キンキン	きんきん	W	1			1			
638	クタクタ	クタクタ	くたくた	W	1	1					
639	ゴワゴワ	ゴワゴワ	ごわごわ	W	1			1			
640	ソックリ	ソックリ	そっくり	W	1	1					
641	デブ	デブ	でぶ	W	1	1					
642	バレバレ	バレバレ	ばればれ	W	1			1			
643	ピッタリ	ピッタリ	ぴったり	W	1	1					
644	メロメロ	メロメロ	めろめろ	W	1	1					
645	ヤダ	ヤダ	やだ	W	1	1					
646	ヤンチャ	ヤンチャ	やんちゃ	W	1	1					
647	ルンルン	ルンルン	るんるん	W	1			1			
648	ヘタクソ	ヘタクソ	下-手×糞/へたくそ	W	2	2					
649	ソソロ	ソソロ	▽漫ろ/そぞろ	W	1			1			
650	メチャクチャ	メチャクチャ	▽滅茶苦茶/めちゃくちゃ	W	1	1					
651	ホント	ホント	本▽当	K	8	1					7
652	アホ	アホ	×阿×呆	K	3	3					
653	テキメン	テキメン	×覲面	K	1	1					
654	キザ	キザ	気▽障	H	1	1					
655	イヤ	イヤ	嫌/×厭/いや	W	12	2	1	1	7		1
656	ムダ	ムダ	無駄/▽徒/むだ	W	4	3		1			
657	キライ	キライ	嫌い/きらい	W	3	1	1	1			
658	シアワセ	シアワセ	幸せ/しあわせ	W	3			2			1
659	アツアツ	アツアツ	熱々/あつあつ	W	2	1					
660	スキ	大スキ!	好き/すき	W	1		1				
661	スベ	つるスベ	つる+滑溜/すべすべ の省略形?	W	1			1			
662	スベスベ	スベスベ	滑溜/すべすべ	W	1			1			
663	ツヤヤカ	ツヤやか	艶やか/つややか	W	1				1		
664	ヒエヒエ	ヒエヒエ	冷え冷え/ひえひえ	W	1			1			
665	ヘタ	ヘタ	下-手/へた	W	1	1					
666	マジメ	マジメ	真-面-目/まじめ	W	1	1					
667	モテモテ	モテモテ	持て持て/もてもて	W	1	1					
668	ユタカ	ユタカ	豊か/ゆたか	W	1			1			
669	キレイ	キレイ	奇麗/×綺麗	K	77	20	16	26	11		4
670	カンタン	カンタン	簡単	K	38	15	6	7	9		1
671	トク	おトク	お得	K	36		5	30	1		
672	バカ	バカ	馬※鹿/×莫×迦	K	13	11	1	1			
673	ラク	ラク	楽	K	9		3	2	3		1
674	テキトウ	テキトウ	適当	K	3	1	1				1
675	ベンリ	ベンリ	便利	K	3			3			
676	ガンコ	ガンコ	頑固	K	3			1	2		
677	ヘン	ヘン	変	K	2			1		1	
678	ブサイク	ブサイク	不細工	K	2	2					
679	ムリ	ムリ	無理	K	2	1		1			
680	カイトキ	カイトキ	快適	K	1			1			
681	ゲンキ	ゲンキ	元気	K	1	1					
682	ゲンキン	ゲンキン	現金	K	1	1					
683	サイコウ	サイコー	最高	K	1		1				
684	サイテイ	サイテー	最低	K	1	1					
685	ダイジョーブ	ダイジョーブ	大丈夫	K	1						1
686	マンマン	マンマン	満々	K	1						1
687	ダメ	ダメ	駄目	H	63	49	1	3		1	9
688	ステキ	ステキ	素敵/素的	H	17	12	3				2
689	ホンマ	ホンマ	本真	H	4	4					

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
690	ハンパ	ハンパ	半端	H	2	2					
691	ラクチン	ラクチン	楽ちん	H	2		2				
692	ダメ	ダメ出し	駄目	H	1			1			
693	ダメダメ	ダメダメ	駄目駄目	H	1		1				

■6: 名詞(サ変接続)

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
694	ビックリ	ビックリ	びっくり	W	14	11	1	1			1
695	ネバネバ	ネバネバ	ねばねば	W	3	1	2				
696	スッカリ	スッカリ	すっきり	W	2	1	1				
697	ゴワゴワ	ゴワゴワ	ごわごわ	W	2				2		
698	ウロウロ	ウロウロ	うるうる	W	1					1	
699	サバサバ	サバサバ	さばさば	W	1	1					
700	シャリシャリ	シャリシャリ	しゃりしゃり	W	1				1		
701	デコボコ	デコボコ	でこぼこ	W	1	1					
702	デレデレ	デレデレ	でれでれ	W	1	1					
703	ホンワカ	ホンワカ	ほんわか	W	1	1					
704	イタズラ	イタズラ	悪=戯/いたずら	W	6	6					
705	オシャレ	オシャレ	▽御×洒▽落/おしゃれ	W	6	5	1				
706	マネ	マネ	真▽似/まね	W	3	3					
707	ゴミゴミ	ゴミゴミ	×塵×塵/×芥×芥/ごみごみ	W	1					1	
708	トク	トク	得	K	6			5	1		
709	カンパイ	カンパイ	乾杯	K	4			2	2		
710	ガマン	ガマン	我慢	K	4			2			2
711	ナンパ	ナンパ	軟派	K	3	3					
712	シゲキ	シゲキ	刺激/刺×戟	K	2	1			1		
713	ナットク	ナットク	納得	K	2			1	1		
714	ラク	ラク	楽	K	2			2			
715	カクゴ	カクゴ	覚悟	K	1			1			
716	ガッテン	ガッテン	合点	K	1	1					
717	カンドウ	カンドウ	感動	K	1	1					
718	コウフン	コウフン	興奮/×昂奮/×亢奮	K	1			1			
719	サイコウ	サイコー	最高	K	1			1			
720	テンサク	テンサク	添削	K	1		1				
721	バクハツ	バクハツ	爆発	K	1						1
722	オジャマ	オジャマ	お邪魔/おじゃま	H	3						3

■7: 動詞

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
723	バレル	バレる	ばれる	W	8	8					
724	ズレル	ズれる	ずれる	W	7	4		1	1		1
725	バラツク	バラつく	ばらつく	W	3	1			2		
726	ベタツク	ベタつく	べたつく	W	3			1	2		
727	バクル	バクリ	ばくる	W	2	2					
728	ビビル	ビビる	びびる	W	2	2					
729	イジル	イじる	いじる	W	1	1					
730	ガサツク	ガサつく	がさつく	W	1		1				
731	グレル	グれる	ぐれる	W	1						1
732	ゴワツク	ゴワつかない	ごわつく	W	1					1	
733	スカス	スカしてる	すかす	W	1	1					
734	ズッコケル	ズッコける	ずっこける	W	1	1					
735	ズラス	ズラす	ずらす	W	1	1					
736	スル	スル	する	W	1			1			
737	テカル	テカリにくい	てかる	W	1		1				
738	トキメク	トキめく	ときめく	W	1	1					
739	パスツク	パスつく	ぱさつく	W	1			1			
740	バタツク	バタつく	ばたつく	W	1						1
741	バテル	バテた	ばてる	W	1	1					
742	バラス	バラし	ばらす	W	1	1					

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
743	ブレル	ブレなさ	ぶれる	W	1	1					
744	ブレル	ブレる	ぶれる	W	1						1
745	ブンナグル	ブン殴る	ぶん殴る／ぶんなぐる	W	1	1					
746	ベトツク	ベトつく	べとつく	W	1					1	
747	ボコル	ボコられた	ぼこる	W	1	1					
748	ムカツク	ムカツく	むかつく	W	1	1					
749	ハマル	ハマる	×嵌まる／▽填まる／はまる	W	8	3	2	3			
750	カブル	カブらない	▽被る／▽冠る／かぶる	W	3	3					
751	ダマス	ダまして	×騙す／だます	W	3	3					
752	ハマル	ハマッテ	×嵌まる／▽填まる／はまる	W	2	1		1			
753	ヤル	ヤル	▽遣る／やる	W	2		1				1
754	ウソツク	ウソつけ	×嘘つく／うそつく	W	1	1					
755	エグル	エぐる	×抉る／×剥る／えぐる	W	1	1					
756	カマス	カマしたれ	×噛ます／×咬ます／×嚼ます／かます	W	1	1					
757	キラメク	キラめく	×煌めく／きらめく	W	1			1			
758	タマル	タマル	×溜まる／▽墮る／たまる	W	1			1			
759	ナメル	ナメル	×嘗める／×舐める／なめる	W	1			1			
760	ハジケル	ハジケル	▽弾ける／はじける	W	1			1			
761	ハメル	ハメられた	×嵌める／▽填める／はめる	W	1	1					
762	ボケル	ボケ出したら	×惚ける／×量ける／ぼける	W	1	1					
763	ボケル	ボケだしたら	×惚ける／×量ける／ぼける	W	1	1					
764	ボケル	ボケない	×惚ける／×量ける／ぼける	W	1			1			
765	ヤメル	ヤメて	▽止める／×已める／やめる	W	1	1					
766	ヤル	ヤってやる	▽遣る／やる	W	1	1					
767	ヨレル	ヨレにくい	×縫れる／×燃れる／よれる	W	1					1	
768	モテル	モテたい	持てる／もてる	W	13	12	1				
769	スベル	スベったら	滑る／×こぼる／すべる	W	7	5		2			
770	イケル	イケてない	行ける／いける	W	5	4				1	
771	アル	アリ	有る／ある	W	4	2		1			1
772	キレル	キれる	切れる／きれる	W	3	2					1
773	デキル	デキル	出来る／できる	W	3		1	2			
774	ニオウ	ニオわない	臭う／におう	W	2		1			1	
775	ハズレル	ハズれた	外れる／はずれる	W	2	2					
776	アタル	アタル	当たる／あたる	W	1			1			
777	ウケル	ウケる	受ける／うける	W	1	1					
778	オドロク	オドロキマス	驚く／×愕く／×駭く／おどろく	W	1		1				
779	カナエル	カナエル	叶える／かなえる	W	1			1			
780	キズツケル	キズつける	傷／×疵／きず＋付く／つく	W	1					1	
781	キマル	キマル	決まる／▽極まる／きまる	W	1		1				
782	キメル	キメろ	決める／▽極める／きめる	W	1			1			
783	クサル	クサル	腐る／くさる	W	1		1				
784	ケズル	ケズった	削る／けずる	W	1			1			
785	コマル	コマル	困る／こまる	W	1			1			
786	スグレル	スグレ	優れる／すぐれる(【ecosグレ製品】)	W	1					1	
787	ススメル	ススメる	勧める／▽奨める／すすめる	W	1	1					
788	タレル	タレにくい	垂れる／たれる	W	1		1				
789	ツカエル	ツカエル	使える／つかえる	W	1			1			
790	ツク	ツク	付く／▽附く／つく	W	1		1				
791	ツッコム	ツッコむ	突っ込む／つつこむ	W	1	1					
792	ツッコム	ツッコんだ	突っ込む／つつこむ	W	1	1					
793	ツヤメク	ツヤめく	艶めく／つやめく	W	1			1			
794	トブ	トんで	飛ぶ／とぶ	W	1	1					
795	ナル	ナレ	成る／▽為る／なる	W	1			1			
796	ハガス	ハガス	剥がす／はがす	W	1					1	
797	ハタラク	ハタラク	働く／はたらく	W	1			1			
798	ヒク	ヒキ	引く／ひく	W	1	1					
799	フラレル	フラれる	振られる／ふられる	W	1	1					
800	ホメル	ホメとる	褒める／▽誉める／ほめる	W	1	1					
801	ミガク	ミガク	磨く／▽研く／×琢く／みがく	W	1		1				
802	ミノル	ミノル	実る／みのる	W	1			1			
803	ムレル	ムれない	蒸れる／むれる	W	1			1			

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
804	メデル	メデ	愛でる／めでる	W	1	1					
805	リキム	リキまない	力む／りきむ	W	1			1			
806	ワレル	ワレる	割れる／われる	W	1					1	
807	カッコツケル	カッコつける	格好／×恰好＋つける	H	2	1	1				
808	ガンバル	ガンバレ	頑張る／がんばる	H	2	2					
809	ガンバル	ガンバって	頑張る／がんばる	H	1	1					
810	ガンバル	ガンバロー	頑張る／がんばる	H	1	1					
811	ガンバル	ガンバル	頑張る／がんばる	H	1		1				
812	グチル	グチリ	愚痴る／愚×癡る／ぐちる	H	1						1

■8: 形容詞

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
813	ヤバイ	ヤばい	やばい	W	11	8	1	2			
814	ヤバイ	ヤバイ	やばい	W	8	5		1			2
815	エエ	エエンちやう	ええんちやう	W	1	1					
816	ウザイ	ウザイ	うざい	W	1	1					
817	オモタイ	重タイ	重たい	W	1	1					
818	キツイ	キツイ	きつい	W	1	1					
819	ゴツイ	ゴツイ	ごつい	W	1	1					
820	チャライ	チャライ	ちゃらい	W	1	1					
821	デカイ	デカ	でかい の省略形	W	1			1			
822	デカイ	デカすぎ	でかい	W	1			1			
823	デカイ	デカイ	でかい	W	1						1
824	デカイ	デッカイ	でっかい	W	1	1					
825	トロイ	トロい	とろい	W	1	1					
826	ハズカシイ	はずかぴー	恥ずかぴー／はずかぴー	W	1	1					
827	ヤバイ	ヤベえ	やべえ	W	1	1					
828	スゴイ	スゴイ	▽凄い／すごい	W	30	27		3			
829	スゴイ	スゴい	▽凄い／すごい	W	19	18		1			
830	イイ	イイ	▽善い／▽良い／▽好い／いい	W	19	14		3	1		1
831	カワイイ	カワイイ	可▽愛い／かわいい	W	13	9		3		1	
832	マズイ	マズイ	不=味い／まずい	W	6	4		1			1
833	スゴ	スゴ	▽凄い／すごい の省略形?	W	3	2		1			
834	ウマイ	ウマイ	▽甘い／▽旨い／▽巧い／うまい	W	3	1		2			
835	ツライ	ツらい	▽辛い／つらい	W	3		1	2			
836	スゴイ	ものスゴく	物▽凄い／ものすごい	W	3	3					
837	カワイイ	カワイく	可▽愛い／かわいい	W	2	2					
838	スゴイ	スゲー	▽凄い／すごい	W	2	2					
839	ヒドイ	ヒドイ	▽酷い／非▽道い／ひどい	W	2	2					
840	イイ	CHO-イイね!	▽善い／▽良い／▽好い／いい	W	1	1					
841	ウマイ	激ウマ	▽甘い／▽旨い／▽巧い／うまい	W	1	1					
842	ウマイ	ウマーイ	▽甘い／▽旨い／▽巧い／うまい	W	1	1					
843	ウマイ	ウマけりゃ	▽甘い／▽旨い／▽巧い／うまい	W	1			1			
844	ウレシイ	ウレシイ	×嬉しい／うれしい	W	1			1			
845	オイシイ	オイシイ	美=味しい／おいしい	W	1			1			
846	キワドイ	キワドイ	際▽疾い／きわどい	W	1	1					
847	スゴイ	スゲー	▽凄い／すごい	W	1	1					
848	スゴイ	スッゲー	▽凄い／すごい	W	1	1					
849	スゴイ	スッごい	▽凄い／すごい	W	1						1
850	スゴイ	スッゴク	▽凄い／すごい	W	1						1
851	ダルイ	ダルい	▽怠い／×懈い／だるい	W	1	1					
852	ツライ	ツライ	▽辛い／つらい	W	1			1			
853	マズイ	マズい	不=味い／まずい	W	1	1					
854	エライ	エライ	偉い／▽豪い／えらい	W	3	2		1			
855	コワイ	コワイ	怖い／▽恐い／こわい	W	3			1			2
856	アツイ	アツい	熱い／あつい	W	2	1		1			
857	スルドイ	スルドイ	鋭い／するどい	W	2						2
858	アツイ	アツい	熱い／あつい	W	1			1			
859	アブナイ	アブナすぎる	危ない／あぶない	W	1			1			
860	オモシロイ	オモシロ	面白い／おもしろい	W	1	1					

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
861	キモイ	キモい	気持ち悪い／きもちわるい	W	1	1					
862	クサイ	クサッ	臭い／くさい	W	1	1					
863	ココチイ	ココチイ	心地いい	W	1				1		
864	ナイ	ナイ	無い／ない	W	1						1
865	ニガイ	ニガイ	苦い／にがい	W	1		1				
866	ニクイ	ニクイ	憎い／にくい	W	1			1			
867	ハズカシイ	ハズカシー	恥ずかしい／はずかしい	W	1			1			
868	ハヤイ	ハヤイ	早い／速い／はやい	W	1			1			
869	マルイ	マルく	丸く／円く／まるく	W	1			1			
870	ヤスイ	ヤスク	安い／やすい	W	1		1				
871	ユルイ	ユルい	緩い／ゆるい	W	1						1
872	ヨイ	ヨカッタ	良い／善い／▽好い／▽吉い／▽佳い／よい	W	1						1
873	カッコイイ	カッコイイ	格好／×恰好いい	H	4	3	1				
874	カッコヨイ	カッコ良い	格好／×恰好良い	H	4	3					1
875	カッコワルイ	カッコ悪い	格好／×恰好悪い	H	2	2					
876	カッコイイ	カッコいい	格好／×恰好いい	H	2	1	1				
877	カッコヨイ	カッコよい	格好／×恰好よい	H	1	1					
878	キモチイイ	気持ちイイ	気持ち▽善い／▽良い／▽好い／いい	H	1	1					
879	シカクイ	シカクい	四角い	H	1			1			
880	バカラシイ	バカラしい	馬※鹿／×莫×迦らしい	H	1	1					

■9: 副詞

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
881	スツキリ	スツキリ	すつきり	W	36	3	6	19	8		
882	ピッタリ	ピッタリ	ぴったり	W	23	10	1	1	10		1
883	サクサク	サクサク	さくさく	W	13	5	2	2	3		1
884	ワクワク	ワクワク	わくわく	W	12	3	2	5	1	1	
885	サラサラ	サラサラ	さらさら	W	11		1	5	5		
886	ギリギリ	ギリギリ	ぎりぎり	W	10	7					3
887	バリッ	バリッ	ばりっ	W	10	3			7		
888	シャキシャキ	シャキシャキ	しゃきしゃき	W	9	7			2		
889	バッチリ	バッチリ	ばっちり	W	9	7			2		
890	パッ	パッ	ぱっ	W	9	4	2	1	2		
891	キラキラ	キラキラ	きらきら	W	9	4	1	4			
892	フト	フト	ふと	W	8						8
893	スツ	スツ	すっ	W	7	4	2		1		
894	バラバラ	バラバラ	ばらばら	W	7	2			1	3	1
895	ピタッ	ピタッ	ぴたっ	W	6	2	1		3		
896	サクッ	サクッ	さくっ	W	6	2		1	3		
897	ボン	ボン	ぼん	W	5	4	1				
898	モチモチ	モチモチ	もちもち	W	5	4			1		
899	パリパリ	パリパリ	ぱりぱり	W	5	3	2				
900	ドキドキ	ドキドキ	どきどき	W	5	3	1				1
901	ピカピカ	ピカピカ	ぴかぴか	W	5	3			2		
902	バリバリ	バリバリ	ばりばり	W	5	2					3
903	ハッキリ	ハッキリ	はっきり	W	4	4					
904	ズバリ	ズバリ	ずばり	W	4	3		1			
905	ギョッ	ギョッ	ぎゅっ	W	4	3			1		
906	プリプリ	プリプリ	ぷりぷり	W	4	3			1		
907	パンパン	パンパン	ぱんぱん	W	4	3					1
908	プチプチ	プチプチ	ぷちぷち	W	4	2		1	1		
909	カリッ	カリッ	かりっ	W	4	1	2		1		
910	ゴクゴク	ゴクゴク	ごくごく	W	4			3	1		
911	モヤモヤ	モヤモヤ	もやもや	W	4			3		1	
912	キチン	キチンと	きちんと	W	4			1	1		2
913	サクッ	サクッ	さくっ	W	4				4		
914	グッ	グッ	ぐっ	W	3	3					
915	ボーッ	ボーッ	ぼーっ	W	3	3					
916	ピン	ピン	ぴん	W	3	2			1		

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
917	ホッ	ホッ	ほっ	W	3	1		2			
918	サラリ	サラリ	さらり	W	3	1			2		
919	カリカリ	カリカリ	かりかり	W	3		3				
920	スーッ	スーッ	すーっ	W	3		2			1	
921	ガツン	ガツン	がっん	W	3		1	2			
922	ゴロゴロ	ゴロゴロ	ごろごろ	W	3		1	2			
923	ベタベタ	ベタベタ	べたべた	W	3			1	2		
924	グツグツ	グツグツ	ぐつぐつ	W	3					3	
925	サラッ	サラッ	さらっ	W	3					3	
926	ツルツル	ツルツル	つるつる	W	3					3	
927	イザ	イザ	いざ	W	2			1			1
928	イチャイチャ	イチャイチャ	いちゃいちゃ	W	2	2					
929	オドオド	オドオド	おどおど	W	2	2					
930	カサカサ	カサカサ	かさかさ	W	2					2	
931	ガタガタ	ガタガタ	がたがた	W	2	2					
932	ガツガツ	ガツガツ	がっがっ	W	2	2					
933	ガッカリ	ガッカリ	がっかり	W	2	2					
934	カラッ	カラッ	からっ	W	2	1				1	
935	カンカン	カンカン	かんかん	W	2	2					
936	ギョングュン	ギョングュン	ぎゅんぎゅーん	W	2		2				
937	クルン	クルン	くるん	W	2	2					
938	ゴホッ	ゴホッ	ごほっ	W	2	2					
939	コリコリ	コリコリ	こりこり	W	2	2					
940	サラッサラ	サラッサラ	さらっさら	W	2			2			
941	ジュワッ	ジュワッと	じゅわっ	W	2			1	1		
942	スイスイ	スイスイ	すいすい	W	2	1		1			
943	スカッ	スカッと	すかっ	W	2			1	1		
944	ゾッ	ゾッ	ぞっ	W	2	2					
945	タッブリ	タッブリ	たっぶり	W	2					2	
946	ツルン	ツルン	つるん	W	2		1	1			
947	ドキッ	ドキッ	どきっ	W	2	1		1			
948	ドッキリ	ドッキリ	どっきり	W	2	1		1			
949	ドロドロ	ドロドロ	どろどろ	W	2	1				1	
950	ニコニコ	ニコニコ	にこにこ	W	2	2					
951	ネットリ	ネットリ	ねっとり	W	2	1				1	
952	バシヤッ	バシヤッ	ばしやっ	W	2			2			
953	バタバタ	バタバタ	ばたばた	W	2						2
954	バラバラ	バラバラ	ばらばら	W	2		1		1		
955	ピピッ	ピピッ	ぴぴっ	W	2		2				
956	ピリリ	ピリリ	ぴりり	W	2					2	
957	フワフワ	フワフワ	ふわふわ	W	2	2					
958	ボロボロ	ボロボロ	ぼろぼろ	W	2	1	1				
959	ボン	ボン	ぼん	W	2	2					
960	ウィ	ウィ	うい	W	1	1					
961	ウツリ	ウツリ	うつとり	W	1		1				
962	ウホウホ	ウホウホ	うほうほ	W	1		1				
963	ガァーッ	ガァーッ	がぁーっ	W	1	1					
964	ガシガシ	ガシガシ	がしがし	W	1			1			
965	ガシヤガシヤ	ガシヤガシヤ	がしやがしや	W	1	1					
966	カチカチ	カチカチ	かちかち	W	1	1					
967	カチッ	カチッ	かちっ	W	1					1	
968	カチン	カチン	かちん	W	1	1					
969	ガックリ	ガックリ	がっくり	W	1						1
970	ガッツリ	ガッツリ	がっつり	W	1			1			
971	カピカピ	カピカピ	かぴかぴ	W	1	1					
972	カラリ	カラリ	からり	W	1	1					
973	ガリガリ	ガリガリ	がりがり	W	1	1					
974	ガリッ	ガリッ	がりっ	W	1		1				
975	ガンッ	ガンッ	がんっ	W	1	1					
976	キッチリ	キッチリ	きっちり	W	1		1				
977	キット	キット	きつと	W	1						1

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
978	キューツ	キューツ	きゅーつ	W	1	1					
979	ギューツ	ギューツ	ぎゅーつ	W	1			1			
980	ギュルギュル	ギュルギュル	ぎゆるぎゆる	W	1			1			
981	ギュン	ギュン	ぎゅん	W	1	1					
982	ギュンギュン	ギュンギュン	ぎゅんぎゅん	W	1		1				
983	ギュンツ	ギュンツ	ぎゅんつ	W	1	1					
984	ギラギラ	ギラギラ	ぎらぎら	W	1					1	
985	キリキリ	キリキリ	きりきり	W	1			1			
986	キンキラキン	キンキラキン	きんきらきん	W	1	1					
987	グーグー	グーグー	ぐーぐー	W	1	1					
988	グーン	グーン	ぐーん	W	1					1	
989	ググーン	ググーン	ぐぐーん	W	1	1					
990	グサグサ	グサグサ	ぐさぐさ	W	1	1					
991	グチャグチャ	グチャグチャ	ぐちゃぐちゃ	W	1	1					
992	クチュ	クチュ	くちゅ	W	1		1				
993	グビツ	グ美ツ	ぐびつ	W	1		1				
994	クラクラ	クラクラ	くらくら	W	1	1					
995	クラッ	クラッと	くらっ	W	1	1					
996	クリクリ	クリクリ	くりくり	W	1	1					
997	グルグル	グルグル	ぐるぐる	W	1	1					
998	グングン	グングン	ぐんぐん	W	1			1			
999	ゴチャ	ゴチャ	ごちゃ	W	1	1					
1000	コツテリ	コツテリ	こつてり	W	1			1			
1001	コトコト	コトコト	ことこと	W	1		1				
1002	コホ	コホ・・・	こほ	W	1	1					
1003	ゴホン	ゴホン	ごほん	W	1		1				
1004	コロコロ	コロコロ	ころころ	W	1	1					
1005	ゴロツ	ゴロツ	ごろつ	W	1					1	
1006	サク	サク	さくさく	W	1		1				
1007	サクシャキ	サクシャキ	さくしゃき	W	1					1	
1008	サツサツ	サツサツ	さつさつ	W	1	1					
1009	ザラザラ	ザラザラ	ざらざら	W	1	1					
1010	サラツヤ	サラつや	さら(さらさらの省略形)	W	1		1				
1011	サラフワ	サラふわ	さら(さらさらの省略形)	W	1			1			
1012	シーン	シーン	しーん	W	1	1					
1013	シコシコ	シコシコ	しこしこ	W	1					1	
1014	ジメジメ	ジメジメ	じめじめ	W	1					1	
1015	シャカ	シャカ	しゃか	W	1	1					
1016	ジャンジャン	ジャンジャン	じゃんじゃん	W	1	1					
1017	ジुकジुक	ジुकジुक	じゅくじゅく	W	1					1	
1018	シュツ	シュツ	しゅつ	W	1	1					
1019	シュワツ	シュワツ	しゅわつ	W	1		1				
1020	ジロジロ	ジロジロ	じろじろ	W	1	1					
1021	ジワリ	ジワリ	じわり	W	1	1					
1022	ズキズキ	ズキズキ	ずきずき	W	1	1					
1023	スキツ	スキツと	すきつ	W	1			1			
1024	ズキユウ	ズキユウ	ずきゆう	W	1	1					
1025	スッカリ	スッカリ	すっかり	W	1	1					
1026	ズッシリ	ズッシリ	ずっしり	W	1			1			
1027	スッポリ	スッポリ	すっぽり	W	1					1	
1028	スパッ	スパッ	すぱっ	W	1	1					
1029	スルスル	スルスル	するする	W	1			1			
1030	ズルズル	ズルズルズルズル	ずるずるずるずる	W	1	1					
1031	チクチク	チクチク	ちくちく	W	1	1					
1032	チュツチュチュツ	チュツチュチュツチュ	ちゅつちゅつちゅつちゅ	W	1	1					
1033	チヨロチヨロ	チヨロチヨロ	ちよろちよろ	W	1	1					
1034	チラチラ	チラチラ	ちらちら	W	1	1					
1035	ツルツ	ツルつ	つるつ	W	1			1			
1036	ツルツ	ツルツ	つるつ	W	1					1	
1037	ツン	ツン	つん	W	1					1	
1038	ドオオオオン	ドオオオオン	どおおおおん	W	1	1					

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
1039	ドカン	ドカン	どかん(擬音・擬態)	W	1			1			
1040	トコトコ	トコトコ	とことこ	W	1	1					
1041	トコトン	トコトン	とことん	W	1			1			
1042	ドゥ	ドゥと	どぅと	W	1					1	
1043	トロリ	トロリ	とろり	W	1	1					
1044	トロン	トロンと	とろん	W	1			1			
1045	ドワウン	ドワウン	どわうん	W	1	1					
1046	ドン	ドン	どん	W	1			1			
1047	ドンドン	ドンドン	どんどん	W	1	1					
1048	ナヨナヨ	ナヨナヨ	なよなよ	W	1	1					
1049	ニコッ	ニコッ	にこっ	W	1	1					
1050	ニッコリ	ニッコリ	にっこり	W	1	1					
1051	ニンマリ	ニンマリ	にんまり	W	1	1					
1052	ヌルヌル	ヌルヌル	ぬるぬる	W	1	1					
1053	ネチャネチャ	ネチャネチャ	ねちゃねちゃ	W	1	1					
1054	パーッ	パーッ	ぱあーっ	W	1	1					
1055	バキバキ	バキバキ	ばきばき	W	1	1					
1056	パクッ	パクッ	ぱくっ	W	1	1					
1057	パサパサ	パサパサ	ばさばさ	W	1			1			
1058	バシッ	バシッ	ばしっ	W	1	1					
1059	パシパシ	パシパシ	ばしばし	W	1	1					
1060	パタパタッ	パタパタッ	ばたばたっ	W	1	1					
1061	バチッ	バチッ	ばちっ	W	1	1					
1062	パチパチ	パチパチ	ばちばち	W	1					1	
1063	ハッ	ハッ	はっ	W	1						1
1064	バッ	バッ	ばっ	W	1	1					
1065	バックリ	バックリ	ばっくり	W	1			1			
1066	バツバツ	バツバツ	ばつばつ	W	1	1					
1067	バツン	バツン	ばつん	W	1	1					
1068	バリ	バリ	ばり(ばりばりの省略形)	W	1			1			
1069	バリ	バリうま	ばり(ばりばりの省略形)	W	1					1	
1070	バレバレ	バレバレ	ばればれ	W	1						1
1071	バンバン	バンバン	ばんばん	W	1	1					
1072	ピーン	ピーン	ぴーん	W	1			1			
1073	ピカッ	ピカッと	ぴかっ	W	1			1			
1074	ビクトモ	ビクとも	びくとも	W	1						1
1075	ビシバシ	ビシバシ	びしばし	W	1						1
1076	ピシャーッ	ピシャーっ	ぴしゃーっ	W	1	1					
1077	ピッ	ピッ	ぴっ	W	1			1			
1078	ピッショリ	ピッショリ	ぴっしより	W	1	1					
1079	ピラピラ	ピラピラ	ぴらぴら	W	1	1					
1080	ピリッ	ピリッと	ぴりっ	W	1					1	
1081	ピリピリ	ピリピリ	ぴりぴり	W	1	1					
1082	ピリピリ	ピリピリ	ぴりぴり	W	1					1	
1083	ピンッ	ピンッ	ぴん	W	1			1			
1084	ヒンヤリ	ヒンヤリ	ひんやり	W	1	1					
1085	プイッ	プイッ	ぷいっ	W	1	1					
1086	プチッ	プチッ	ぷちっ	W	1	1					
1087	ブックリ	ブックリ	ぶっくり	W	1			1			
1088	フニヤ	フニヤ	ふにゃ	W	1	1					
1089	ブヨブヨ	ブヨブヨ	ぶよぶよ	W	1	1					
1090	ブリッ	ブリッ	ぶりっ	W	1	1					
1091	ブルッ	ブルッ	ぶるっ	W	1			1			
1092	フワーッ	フワーッ	ふわーっ	W	1	1					
1093	ブンブン	ブンブン	ぶんぶん	W	1	1					
1094	ペコッ	ペコッ	ぺこっ	W	1			1			
1095	ペコリ	ペコリ	ぺこり	W	1						1
1096	ベタベタ	ベタベタ	べたべた	W	1			1			
1097	ベチャッ	ベチャッ	べちゃっ	W	1	1					
1098	ヘラヘラ	ヘラヘラ	へらへら	W	1	1					
1099	ベラベラ	ベラベラ	べらべら	W	1						1

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
1100	ペラペラ	ペラペラ	ぺらぺら	W	1	1					
1101	へろへろ	へろへろ	へろへろ	W	1						1
1102	ペロペロ	ペロペロ	ぺろぺろ	W	1	1					
1103	ポーン	ポーン	ぽーん	W	1	1					
1104	ポキポキ	ポキポキ	ぽきぽき	W	1	1					
1105	ホコホコ	ホコホコ	ほこほこ	W	1				1		
1106	ボコボコ	ボコボコ	ぼこぼこ	W	1	1					
1107	ボサボサ	ボサボサ	ぼさぼさ	W	1	1					
1108	ボチボチ	ボチボチ	ぼちぼち	W	1	1					
1109	ポテッ	ポテッ	ぽてっ	W	1	1					
1110	ポロポロ	ポロポロ	ぽろぽろ	W	1	1					
1111	マツタリ	マツタリ	まつたり	W	1	1					
1112	ミシミシ	ミシミシ	みしみし	W	1	1					
1113	ムスッ	ムスッと	むすっ	W	1			1			
1114	モグモグ	モグモグ	もぐもぐ	W	1			1			
1115	モコモコ	モコモコ	もこもこ	W	1			1			
1116	モジモジ	モジモジ	もじもじ	W	1	1					
1117	ワーッ	ワーッ	わーっ	W	1	1					
1118	ワイワイ	ワイワイ	わいわい	W	1						1
1119	ワッ	ワッ	わっ	W	1	1					
1120	イライラ	イライラ	▽苛▽苛/いらいら	W	13	4	1	1	1	4	2
1121	スグ	スグ	▽直ぐ/すぐ	W	9	5		3	1		
1122	メチャ	メッチャ	▽滅茶(当て字)/めっちゃ	W	6	6					
1123	チョット	チョット	一=寸/▽鳥渡/ちよっと	W	4	2		1			1
1124	ヨロシク	ヨロシク	▽宜しく/よろしく	W	4	1		1	1		1
1125	ナゼ	ナゼ	何=故/なぜ	W	3	2		1			
1126	シッカリ	シッカリ	▽確り/×駈り/しっかり	W	2						2
1127	チト	チト	×些と/ちと	W	1						1
1128	ホントウ	ホント	本▽当	K	7	4					3
1129	コツコツ	コツコツ	×砧×砧/×兀×兀	K	2			1			1
1130	ハツラツ	ハツラツ	×澆×刺/×澆×刺	K	1		1				
1131	ボウゼン	ボ一然	×呆然	K	1	1					
1132	サッ	サッと	×颯	H	9			2	7		
1133	ウキウキ	ウキウキ	浮き浮き/うきうき	W	4	1		3			
1134	イキイキ	イキイキ	生き生き/活き活き/いきいき	W	3			3			
1135	イマドキ	イマドキ	今時/いまどき	W	2	2					
1136	イロイロ	イロイロ	色々/いろいろ	W	1			1			
1137	マルゴト	マルごと	丸/まるごと	W	1	1					
1138	ムシムシ	ムシムシ	蒸し蒸し/むしむし	W	1		1				
1139	ラクラク	ラクラク	楽々(らくらく)	K	10		3	5	2		
1140	タイヘン	タイヘン	大変	K	3						3
1141	イチバン	イチバン	一番	K	2			2			
1142	イッキ	イッキ	一気	K	2			1	1		
1143	ゼットタイ	ゼットタイ	絶対	K	1					1	
1144	ゼンゼン	ぜんぜん	全然	K	1	1					
1145	フツウ	フツウ	普通	K	1	1					
1146	ラクラク	楽ラク	楽々(らくらく)	K	1					1	
1147	イマイチ	イマイチ	今一	H	1			1			

■10: 感動詞

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
1148	アカン	アカン	あかん	W	13	12	1				
1149	ハイ	ハイ	はい	W	7	4	2				1
1150	アレ	アレ	あれ	W	4	4					
1151	イヤ	イヤ	いや	W	3	3					
1152	アッ	ア〜ッ	あっ	W	2	2					
1153	エッ	エッ	えっ	W	2	2					
1154	コラー	コラ〜	こらー	W	2	2					
1155	ダーッ	ダーッ	だーっ	W	2	2					
1156	ハッ	ハッ	はっ	W	2	2					
1157	フッフ	フッフ	ふふふ	W	2	1					1

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
1158	ヤダ	ヤダ	やだ	W	2	2					
1159	アーン	アーン	あーん	W	1	1					
1160	アチッ	アチッ	あちっ(熱いっ)	W	1		1				
1161	アッハッハッハッハッハッハ	アッハッハッハッハッハッハ	あっはっはっはっはっは	W	1	1					
1162	アノ	アノ	▽彼の/あの	W	1			1			
1163	イイエ	イイエ	いいえ	W	1		1				
1164	イカン	イカン	いかん	W	1	1					
1165	イヤン	イヤン	いやん	W	1	1					
1166	ウフフフ	ウフフフ	うふふふ	W	1						1
1167	ウフフフ	ウフフフフ	うふふふふ	W	1	1					
1168	ウフフフ	ウフフフフッ	うふふふふっ	W	1	1					
1169	ウフフフ	ウフフフフフッ	うふふふふふっ	W	1	1					
1170	エー	エー	えー	W	1						1
1171	オイオイ	オイオイ	おいおい	W	1	1					
1172	キヤー	キヤー	きやー	W	1	1					
1173	キヤッキヤッキヤ	キヤッキヤッキヤ	きやつ	W	1	1					
1174	ギョギョ	ギョギョ	ぎよぎよ	W	1	1					
1175	グスン	グスン	ぐすん	W	1						1
1176	ゲゲゲ	ゲゲゲ	げげげ	W	1		1				
1177	コラコラ	コラコラ	こらこら	W	1	1					
1178	ジャン	ジャン	じゃん	W	1			1			
1179	ニヤー	ニヤー	にやー	W	1		1				
1180	ハテナ	ハテナ	はてな	W	1	1					
1181	ハハ	ハハ	はは	W	1						1
1182	ハハハハ	ハハハハ	はははは	W	1	1					
1183	ヒーイ	ヒーイ	ひーい	W	1	1					
1184	ヒーヒー	ヒーヒー	ひーひー	W	1	1					
1185	ヒッヒー	ヒッヒー	ひっひー	W	1	1					
1186	ブハー	ブハー	ぶはー	W	1			1			
1187	フフフフ	フフフフ	ふふふふ	W	1	1					
1188	ホイ	ホイ	ほい	W	1	1					
1189	ホニヤララ	ホニヤララ	ほにやらら	W	1	1					
1190	ホホホ	ホホホ	ほほほ	W	1						1
1191	ホホホホ	ホホホホ	ほほほほ	W	1						1
1192	ヤダヤダ	ヤダヤダ	やだやだ	W	1						1
1193	ヨイショ	ヨイショ	よいしょ	W	1	1					
1194	ヨーローヨーロー	ヨーローヨーロー	よーろよーろ	W	1	1					
1195	ヨッシャ	ヨッシャ	よっしゃ	W	1	1					
1196	ヨッシャー	ヨッシャー	よっしゃー	W	1	1					
1197	ヨレヒーヒーヒー	ヨレヒーヒーヒー	よれーひーひーひー	W	1	1					
1198	ルルル	ルルル	るるる	W	1	1					
1199	ワッショイ	ワッショイ	わっしょーい	W	1	1					
1200	ワンワン	ワンワン	わんわん	W	1		1				
1201	ワンワンワン	ワンワンワン	わんわんわん	W	1	1					
1202	ボント	ボント	本▽当	K	16	7	1	3			5
1203	バカ	バーカ	馬※鹿/×莫×迦	K	2	2					
1204	スママセン	スママセン	済みません/すみません	W	25						25
1205	イヤ	イヤ	嫌/×厭/いや	W	2	2					
1206	イタタタ	イタタタ	痛たた/いたたた	W	1		1				
1207	オハヨウ	オハヨウ	お早う/おはよう	W	1				1		
1208	ナント	ナント	何と/なんと	W	1	1					
1209	バカヤロー	バカヤロー	馬※鹿/×莫×迦 野郎	K	6	6					
1210	ゴメン	ゴメン	御免	K	3	2					1
1211	ゴメンナサイ	ゴメンナサイ	御免/ごめんなさい	H	2	1					1
1212	サヨナラ	サヨナラ	左様なら/さよなら	H	1		1				
1213	アリガトウゴザイマス	アリガトウゴザイマス	有難う/ありがとうございます	H	1	1					
1214	コノヤロー	コノヤロー	この野郎/やろう	H	1	1					
1215	コンニチハ	コンニチハ	今日は/こんにちは	H	1		1				
1216	セイ	セイ	せい	W?	4	4					
1217	フオー	フオー	ふおー	W?	2	2					
1218	イエイ	イエイ	いえーい	W?	1	1					
1219	オエー	オエー	おえー	W?	1	1					
1220	トゥース	トゥース	とーす	?	1	1					
1221	トゥットウル	トゥットウル	とーつとーる	?	1	1					

■11: 助詞・助動詞（出現形態に用例の一部を示す。）

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
1222	ネ	ネ【遊んでネ！】など	ね	助詞-終助詞	W	9			5	3		1
1223	ッ	ッ【苦ッ】【つくるッ！】 【とんでもないッ！】	っ	助詞-終助詞	W	3	1	1	1			
1224	セ	セ【書けまっせ！】	せ	助詞-終助詞	W	1			1			
1225	ゼ	ゼ(小文字)【かもだぜ！】	ぜ(小文字)	助詞-終助詞	W	1		1				
1226	ダベ	ダベ【何日ダベ？】	だべ	助詞-終助詞	W	1						1
1227	ヨ	ヨ【つころうヨ！】	よ	助詞-終助詞	W	1			1			
1228	ワ	ワ【思わせられますワ…】	わ	助詞-終助詞	W	1						1
1229	ガ	ガ【セカイガキラキラ】	が	助詞-格助詞	W	1			1			
1230	デ	デ【メロ・デ・フリマ】	で	助詞-格助詞	W	1			1			
1231	ス	ス【申し訳けないス】など	です	助動詞	W	4	3				1	
1232	マス	マス【足りてマスか？】 【快適にしマス】	ます	助動詞	W	2		1	1			
1233	アル	アール【なのでアール。】	ある	助動詞	W	1			1			
1234	ダ	ダ【必要ダ】	だ	助動詞	W	1	1					
1235	タイ	タイ【切りタイ】	たい	助動詞	W	1			1			

■12: その他

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
1236	マル	マル	丸/まる	接頭辞-数接続		W	1			1			
1237	ド	ド	弩/ど	接頭辞-名詞接続		W	5	4					1
1238	ニセ	ニセ	偽/×贋/にせ	接頭辞-名詞接続		W	1	1					
1239	コクキレ	コクキレ	酷?/こく(濃)?+ 切れ/きれ	名詞	複合	H?	1			1			
1240	サヨナラ	サヨナラHR	左様なら/さようなら +ホームラン	名詞	複合	H	1	1					
1241	サヨナラ	サヨナラ本塁打	左様なら/さようなら +本塁打	名詞	複合	H	1	1					
1242	ヤマ	ヤマ	やま	名詞	「ヤマト」の一部	W	1	1					
1243	ケイサン	無水ケイ酸	×珪酸	名詞	天然成分、化学物質など	K	1		1				
1244	ダイズタンパク	加水分解ダイズ タンパク	大豆×蛋白	名詞	天然成分、化学物質など	H	1		1				
1245	ゴロ	ゴロ	ごろ/ゴロ(?)の省略形	名詞-略語		H	2	2					
1246	イチ	イチ	一	名詞-数	【一か八か】1件含む	K	3	3					
1247	ハチ	ハチ	八	名詞-数	【一か八か】	K	1	1					
1248	チュー	チュー	中	名詞-接尾-一般	その他	K	1			1			
1249	ホウダイ	ホウダイ	放題	名詞-接尾-一般	その他	K	5		2	3			
1250	ビョン	ビョン	びよん	名詞-接尾-人名		W	1	1					
1251	サマ	サマ	様/さま	名詞-接尾-人名		W	1						1
1252	アノ	アノ	△彼の/あの	連体詞		W	4	3		1			
1253	コノ	コノ	×此の/この	連体詞		W	1	1					
1254	ココカラ	ココカラ	×此△処/ここ から	その他	連語扱い	W	1					1	
1255	モトメル	モトメル	求める/もとめる	その他	活用語尾	W	2		2				
1256	テアライ	テアライ	手洗い	その他	活用語尾	W	2					2	
1257	チャイ	チャイ	食べチャイな	その他	活用語尾	W	1					1	
1258	ハリナ	ハリナ	入りーな	その他	活用語尾	W	1			1			
1259	ツキヒホシホイ ホイホイ	ツキ・ヒ・ホシ、ホ イホイホイ	-	その他	鳥の鳴き声	W	1					1	
1260	ヒフノコト	ヒフノコト	皮膚の事/皮膚のこと	その他	複合	H	1					1	

■13: その他(記号類)

	見出し形	出現形	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
1261	ロ(ロの字型)	ロ(ロの字型)	その他	形を表す記号として	W	1						1
1262	ア	ア	その他	引用時の符号(図と対応 させるための記号)	W	1						1
1263	イ	イ	その他	引用時の符号(図と対応 させるための記号)	W	7						7
1264	ウ	ウ	その他	引用時の符号(図と対応 させるための記号)	W	4						4
1265	エ	エ	その他	引用時の符号(図と対応 させるための記号)	W	1						1
1266	オ	オ	その他	引用時の符号(図と対応 させるための記号)	W	2						2
1267	ア	ア	その他	引用時の符号	W	1						1
1268	イ	イ	その他	引用時の符号	W	1						1
1269	ウ	ウ	その他	引用時の符号	W	1						1
1270	エ	エ	その他	引用時の符号	W	1						1
1271	キ	キ	その他	引用時の符号	W	1						1
1272	ク	ク	その他	引用時の符号	W	1						1
1273	ケ	ケ	その他	引用時の符号	W	1						1
1274	シ	シ	その他	引用時の符号	W	1						1
1275	ス	ス	その他	引用時の符号	W	1						1
1276	ソ	ソ	その他	引用時の符号	W	1						1
1277	タ	タ	その他	引用時の符号	W	1						1

	見出し形	出現形	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
1278	チ	チ	その他	引用時の符号	W	1						1
1279	ツ	ツ	その他	引用時の符号	W	1						1
1280	テ	テ	その他	引用時の符号	W	1						1
1281	ア	ア	その他	数え上げの記号(1、2、3…と同じ)	W	1						1
1282	イ	イ	その他	数え上げの記号(1、2、3…と同じ)	W	4						4
1283	ハ	ハ	その他	数え上げの記号(1、2、3…と同じ)	W	1						2
1284	ロ	ロ	その他	数え上げの記号(1、2、3…と同じ)	W	1						3
1285	クダル	下ル	その他	住所	W	1						1
1286	ノボル	上ル	その他	住所	W	1						1
1287	ココロ	ココロ	ルビ	「意」の読みとして	W	1						1
1288	コエ	コエ	ルビ	「音」の読みとして	W	1						1
1289	ママ	マハ	ルビ	「原文のまま」の意	W	1						1
1290	ママ	ママ	ルビ	「原文のまま」の意	W	1						5
1291	トウ	トウ	ルビ	【10ちゃん】の【10】に付されたルビ	W	1		1				
1292	ヤミー	ヤミー	ルビ	【jvA-Me】に付されたルビ	?	1		1				

■14: その他(学術雑誌に特有の用例。語種はカタカナ表記された部分で認定。)

	見出し形	出現形	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
1293	ウケヒ	ウケヒ	その他	専門的な用語	W	78						78
1294	ウケヒガリ	ウケヒガリ	その他	専門的な用語	W	2						2
1295	オホマノアラコ	オホマノアラコ	その他	専門的な用語	W	1						1
1296	オミヅノ	オミヅノ	その他	専門的な用語	W	1						1
1297	オロチ	オロチ	その他	専門的な用語	W	3						3
1298	カマエ	カマエ	その他	専門的な用語	W	16						16
1299	ガリバン	ガリ版	その他	専門的な用語	W	1						1
1300	ケガリハ	ケガリハ	その他	専門的な用語	W	1						1
1301	ケガレ	ケガレ	その他	専門的な用語	W	1						1
1302	シテ	シテ	その他	専門的な用語	W	5						5
1303	チョンガレ	チョンガレ	その他	専門的な用語	W	1						1
1304	ツマ	ツマ	その他	専門的な用語	W	3						3
1305	ツレ	ツレ	その他	専門的な用語	W	1						1
1306	トガキ	ト書き	その他	専門的な用語	W	1						1
1307	ナカノモノ	ナカノ物	その他	専門的な用語	W	1						1
1308	ナリチョウ	ナリ調	その他	専門的な用語	W	2						2
1309	ハコビ	ハコビ	その他	専門的な用語	W	7						7
1310	ヒラメキン	ヒラメ筋	その他	専門的な用語	W	3						3
1311	マクラ	マクラ	その他	専門的な用語	W	1						1
1312	マドコオフスマ	マドコオフスマ	その他	専門的な用語	W	61						61
1313	マナシカタマ	マナシカタマ	その他	専門的な用語	W	4						4
1314	マナシカタマノラフネ	マナシカタマ(ノラフネ)	その他	専門的な用語	W	1						1
1315	ミゴホウ	ミ語法	その他	専門的な用語	W	2						2
1316	ミツジウタイ	三ツ地謡	その他	専門的な用語	W	2						2
1317	ムラ	ムラ	その他	専門的な用語	W	1						1
1318	ムラクニ	ムラ・クニ	その他	専門的な用語	W	3						3
1319	モノザネ	モノザネ	その他	専門的な用語	W	6						6
1320	ワキ	ワキ	その他	専門的な用語	W	1						1
1321	ワレ	ワレ	その他	専門的な用語	W	39						39
1322	ワコトデン	ワコト点	その他	専門的な用語	W	3						3
1323	ア	ア	その他	音を表す	W	1						1
1324	イ	イ	その他	音を表す	W	1						1
1325	ウウ	ウウ	その他	音を表す	W	1						1
1326	オウ	オウ	その他	音を表す	W	1						1
1327	カ	カ	その他	音を表す	W	1						1
1328	ガ	ガ	その他	音を表す	W	1						1
1329	キ	キ	その他	音を表す	W	1						1
1330	キヤ	キヤ	その他	音を表す	W	2						2
1331	ギヤ	ギヤ	その他	音を表す	W	2						2
1332	キュ	キュ	その他	音を表す	W	2						2
1333	ギユ	ギユ	その他	音を表す	W	2						2
1334	キョ	キョ	その他	音を表す	W	2						2
1335	ギョ	ギョ	その他	音を表す	W	2						2
1336	クウ	クウ	その他	音を表す	W	2						2
1337	グウ	グウ	その他	音を表す	W	1						1
1338	クワ	クワ	その他	音を表す	W	1						1
1339	グワ	グワ	その他	音を表す	W	1						1
1340	コ	コ	その他	音を表す	W	1						1

	見出し形	出現形	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
1341	コウ	コウ	その他	音を表す	W	3						3
1342	ゴウ	ゴウ	その他	音を表す	W	1						1
1343	サ	サ	その他	音を表す	W	14						14
1344	シ	シ	その他	音を表す	W	21						21
1345	ジ	ジ	その他	音を表す	W	2						2
1346	シャ	シャ	その他	音を表す	W	2						2
1347	ジャ	ジャ	その他	音を表す	W	2						2
1348	シュ	シュ	その他	音を表す	W	2						2
1349	ジュ	ジュ	その他	音を表す	W	2						2
1350	ショ	ショ	その他	音を表す	W	2						2
1351	ジョ	ジョ	その他	音を表す	W	2						2
1352	ズ	ズ	その他	音を表す	W	1						1
1353	スウ	スウ	その他	音を表す	W	1						1
1354	ソウ	ソウ	その他	音を表す	W	1						1
1355	ゾウ	ゾウ	その他	音を表す	W	1						1
1356	チャ	チャ	その他	音を表す	W	2						2
1357	チュ	チュ	その他	音を表す	W	2						2
1358	チョ	チョ	その他	音を表す	W	2						2
1359	ツウ	ツウ	その他	音を表す	W	1						1
1360	トウ	トウ	その他	音を表す	W	1						1
1361	ドウ	ドウ	その他	音を表す	W	1						1
1362	ニ	ニ	その他	音を表す	W	2						2
1363	ニヤ	ニヤ	その他	音を表す	W	4						4
1364	ニユ	ニユ	その他	音を表す	W	4						4
1365	ニョ	ニョ	その他	音を表す	W	5						5
1366	ヌウ	ヌウ	その他	音を表す	W	1						1
1367	ノウ	ノウ	その他	音を表す	W	7						7
1368	ノウ	ノウ	その他	音を表す	W	1						1
1369	バ	バ	その他	音を表す	W	1						1
1370	ヒヤ	ヒヤ	その他	音を表す	W	1						1
1371	ビヤ	ビヤ	その他	音を表す	W	1						1
1372	ヒュ	ヒュ	その他	音を表す	W	1						1
1373	ビュ	ビュ	その他	音を表す	W	1						1
1374	ヒョ	ヒョ	その他	音を表す	W	1						1
1375	ビョ	ビョ	その他	音を表す	W	1						1
1376	フウ	フウ	その他	音を表す	W	2						2
1377	ホウ	ホウ	その他	音を表す	W	1						1
1378	ボウ	ボウ	その他	音を表す	W	1						1
1379	ミヤ	ミヤ	その他	音を表す	W	1						1
1380	ミュ	ミュ	その他	音を表す	W	1						1
1381	ミョ	ミョ	その他	音を表す	W	1						1
1382	ム	ム	その他	音を表す	W	12						12
1383	ムウ	ムウ	その他	音を表す	W	1						1
1384	モ	モ	その他	音を表す	W	1						1
1385	モウ	モウ	その他	音を表す	W	1						1
1386	ヤ	ヤ	その他	音を表す	W	12						12
1387	ユ	ユ	その他	音を表す	W	1						1
1388	ユウ	ユウ	その他	音を表す	W	3						3
1389	ヨウ	ヨウ	その他	音を表す	W	1						1
1390	リヤ	リヤ	その他	音を表す	W	1						1
1391	リュ	リュ	その他	音を表す	W	1						1
1392	リョ	リョ	その他	音を表す	W	1						1
1393	ルウ	ルウ	その他	音を表す	W	1						1
1394	ロウ	ロウ	その他	音を表す	W	2						2
1395	ア	ア	その他	五十音図の行・段を示す	W	9						9
1396	ウ	ウ	その他	五十音図の行・段を示す	W	8						8
1397	オ	オ	その他	五十音図の行・段を示す	W	12						12
1398	カ	カ	その他	五十音図の行・段を示す	W	2						2
1399	サ	サ	その他	五十音図の行・段を示す	W	1						1
1400	ナ	ナ	その他	五十音図の行・段を示す	W	3						3
1401	ハ	ハ	その他	五十音図の行・段を示す	W	25						25
1402	マ	マ	その他	五十音図の行・段を示す	W	1						1
1403	ヤ	ヤ	その他	五十音図の行・段を示す	W	4						4
1404	ワ	ワ	その他	五十音図の行・段を示す	W	7						7
1405	イ	イ	その他	仮名の音を表す	W	2						2
1406	ウ	ウ	その他	仮名の音を表す	W	3						3
1407	エ	エ	その他	仮名の音を表す	W	16						16
1408	オ	オ	その他	仮名の音を表す	W	4						4
1409	シ	シ	その他	仮名の音を表す	W	12						12
1410	ジ	ジ	その他	仮名の音を表す	W	10						10
1411	ソ	ソ	その他	仮名の音を表す	W	2						2
1412	ゾ	ゾ	その他	仮名の音を表す	W	1						1
1413	ニ	ニ	その他	仮名の音を表す	W	3						3
1414	バ	バ	その他	仮名の音を表す	W	13						13

	見出し形	出現形	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	ハンゲージ	学術	メール
1415	ヨ	ヨ	その他	仮名の音を表す	W	1					1	
1416	ル	ル	その他	仮名の音を表す	W	1					1	
1417	エ	エ	その他	仮名の音を表す	W	1					1	
1418	ヲ	ヲ	その他	仮名の音を表す	W	1					1	
1419	シキキ	シキキ	その他	訓の表示	W	1					1	
1420	トコ	トコ	その他	訓の表示	W	1					1	
1421	ミモトノカタハラ	ミモトノカタハラ	その他	訓の表示	W	1					1	
1422	ユカ	ユカ	その他	訓の表示	W	1					1	
1423	ワニ	ワニ	その他	訓の表示	W	5					5	
1424	アカクテ	アカクテ	その他	語形を表す	W	1					1	
1425	アカクナル	アカクナル	その他	語形を表す	W	3					3	
1426	アカテ	アカテ	その他	語形を表す	W	1					1	
1427	アカナル	アカナル	その他	語形を表す	W	3					3	
1428	アカンナル	アカンナル	その他	語形を表す	W	3					3	
1429	アコテ	アコテ	その他	語形を表す	W	1					1	
1430	アコナル	アコナル	その他	語形を表す	W	3					3	
1431	イタクテ	イタクテ	その他	語形を表す	W	1					1	
1432	イタクナル	イタクナル	その他	語形を表す	W	1					1	
1433	イタテ	イタテ	その他	語形を表す	W	1					1	
1434	イタナル	イタナル	その他	語形を表す	W	1					1	
1435	イタンナル	イタンナル	その他	語形を表す	W	1					1	
1436	イトテ	イトテ	その他	語形を表す	W	1					1	
1437	イトナル	イトナル	その他	語形を表す	W	1					1	
1438	オドロ	オドロ	その他	語形を表す	W	2					2	
1439	カ	カ	その他	語形を表す	W	9					9	
1440	カウバシ	カウバシ	その他	語形を表す	W	52					52	
1441	カグハシ	カグハシ	その他	語形を表す	W	31					31	
1442	カッタ	カッタ	その他	語形を表す	W	30					30	
1443	カヲル	カヲル	その他	語形を表す	W	6					6	
1444	カンバシ	カンバシ	その他	語形を表す	W	29					29	
1445	カンバシイ	(カン(バ))シイ	その他	語形を表す	W	1					1	
1446	カンバシイ	カンバシイ	その他	語形を表す	W	2					2	
1447	カンバシク	カンバシク	その他	語形を表す	W	1					1	
1448	クサシ	クサシ	その他	語形を表す	W	5					5	
1449	クナル	クナル	その他	語形を表す	W	1					1	
1450	クズ	クズ	その他	語形を表す	W	3					3	
1451	コウバシイ	(コウ(バ))シイ	その他	語形を表す	W	1					1	
1452	コウバシイ	コウバシイ	その他	語形を表す	W	4					4	
1453	サ	サ	その他	語形を表す	W	1					1	
1454	シテ	シテ	その他	語形を表す	W	8					8	
1455	ズ	ズ	その他	語形を表す	W	1					1	
1456	スル	スル	その他	語形を表す	W	48					48	
1457	テ	テ	その他	語形を表す	W	39					39	
1458	ナガラ	ナガラ	その他	語形を表す	W	1					1	
1459	ナシ	ナシ	その他	語形を表す	W	1					1	
1460	ナリ	ナリ	その他	語形を表す	W	1					1	
1461	ナル	ナル	その他	語形を表す	W	19					19	
1462	ニオイ	ニオイ	その他	語形を表す	W	1					1	
1463	ニオウ	ニオウ	その他	語形を表す	W	3					3	
1464	ニホヒ	ニホヒ	その他	語形を表す	W	15					15	
1465	ニホフ	ニホフ	その他	語形を表す	W	62					62	
1466	バシ	(バ)シ	その他	語形を表す	W	2					2	
1467	バヤイ	バヤイ	その他	語形を表す	W	2					2	
1468	ワレカラ	ワレカラ	その他	語形を表す	W	1					1	

五十音順語彙表

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	パッケージ	学術	メール
1262	ア	ア		その他	引用時の符号 (図と対応させるための記号)	W	1						1
1267	ア	ア		その他	引用時の符号	W	1						1
1281	ア	ア		その他	数え上げの記号 (1、2、3…と同じ)	W	1						1
1323	ア	ア		その他	音を表す	W	1						1
1395	ア	ア		その他	五十音図の行・ 段を示す	W	9						9
1159	アーン	アーン	あーん	感動詞		W	1	1					
604	アイツ	アイツ	あいつ	名詞-代名詞		W	1	1					
83	アカ	アカ	×垢/あか	名詞-一般		W	2	1				1	
1424	アカクテ	アカクテ		その他	語形を表す	W	1						1
1425	アカクナル	アカクナル		その他	語形を表す	W	3						3
1426	アカテ	アカテ		その他	語形を表す	W	1						1
1427	アカナル	アカナル		その他	語形を表す	W	3						3
512	アカメガシロ	アカメガシロ	赤芽×柏/あかめがしわ	名詞-一般	動植物	W	1		1				
1148	アカン	アカン	あかん	感動詞		W	13	12	1				
1428	アカンナル	アカンナル		その他	語形を表す	W	3						3
84	アク	アク	灰=汁/あく	名詞-一般		W	2					2	
198	アゴ	アゴ	顎/×頤/あご	名詞-一般		W	8	7				1	
1429	アコテ	アコテ		その他	語形を表す	W	1						1
1430	アコナル	アコナル		その他	語形を表す	W	3						3
85	アザ	アザ	×瘰/×癩/あざ	名詞-一般		W	2	1		1			
513	アサリ	アサリ	浅×鯛/あさり	名詞-一般	動植物	W	1	1					
271	アシ	アシ	足/脚/あし	名詞-一般		W	1			1			
272	アセ	アセしゅん	汗/あせ	名詞-一般		W	1		1				
273	アセ	アセ	汗/あせ	名詞-一般		W	1		1				
107	アダ	アダ	×仇/×寇/あだ	名詞-一般		W	1	1					
228	アタマ	アタマ	頭/あたま	名詞-一般		W	3	1		1			1
274	アタリ	アタリ	当たり/あたり	名詞-一般		W	1				1		
776	アタル	アタル	当たる/あたる	動詞		W	1			1			
1160	アチツ	アチツ	あちつ(熱いつ)	感動詞		W	1		1				
1152	アツ	アツ	あつ	感動詞		W	2	2					
659	アツアツ	アツアツ	熱々/あつあつ	名詞-形容動詞語幹		W	2	1					
856	アツイ	アツイ	熱い/あつい	形容詞		W	2	1		1			
858	アツイ	アツイ	熱い/あつい	形容詞		W	1			1			
1161	アツハツハツハツハツハツハ	アツハツハツハツハツハツハ	あつはつはつはつはつは	感動詞		W	1	1					
612	アナタ	アナタ	貴=方/▽彼▽方/あなた	名詞-代名詞		W	5	2		3			
441	アニキ	アニキ	兄貴	名詞-一般		H	8	8					
455	アニキ	アニキ部長	兄貴+部長	名詞-一般		H	1		1				
1162	アノ	アノ	▽彼の/あの	感動詞		W	1			1			
1252	アノ	アノ	▽彼の/あの	連体詞		W	4	3		1			
514	アブ	アブ	×虻/×蠱/あぶ	名詞-一般	動植物	W	1					1	
859	アブナイ	アブナすぎる	危ない/あぶない	形容詞		W	1			1			
243	アブラ	アブラ	油/脂/×膏/あぶら	名詞-一般		W	2		1	1			
652	アホ	アホ	×阿×呆	名詞-形容動詞語幹		K	3	3					
275	アミ	アミ	網/あみ	名詞-一般		W	1					1	
456	アミダ	アミダばばあ	阿弥陀+ばばあ	名詞-一般		H	1	1					
244	アラ	アラ	粗/あら	名詞-一般		W	2	2					
492	アリ	アリ	×蟻/あり	名詞-一般	動植物	W	3	3					
1213	アリガトウゴザイマース	アリガトウゴザイマース	有難う/ありがとうございます	感動詞		H	1	1					
771	アル	アリ	有る/ある	動詞		W	4	2		1			1
1233	アル	アール【なのでアール。】	ある	助動詞		W	1			1			
609	アレ	アレ	▽彼の/あれ	名詞-代名詞		W	13	12		1			
1150	アレ	アレ	あれ	感動詞		W	4	4					
613	アンタ	アンタ	貴=方/あんた	名詞-代名詞		W	4	2		1			1
618	アンタラ	アンタラ	貴=方ら/あんたら	名詞-代名詞		W	1	1					
1263	イ	イ		その他	引用時の符号 (図と対応させるための記号)	W	7						7
1268	イ	イ		その他	引用時の符号	W	1						1
1282	イ	イ		その他	数え上げの記号 (1、2、3…と同じ)	W	4						4
1324	イ	イ		その他	音を表す	W	1						1
1405	イ	イ		その他	仮名の音を表す	W	2						2
830	イイ	イイ	▽悪い/▽良い/▽好い/いい	形容詞		W	19	14		3	1		1
840	イイ	CHOーイイね!	▽悪い/▽良い/▽好い/いい	形容詞		W	1	1					
1163	イイエ	イイエ	いイエ	感動詞		W	1		1				
1218	イエイ	イエ〜イ	いえーい	感動詞		W?	1	1	1				
488	イカ	イカ	烏=賊/いか	名詞-一般	動植物	W	5					5	
515	イカシミ	イカシミ	烏=賊墨/いかすみ	名詞-一般	動植物	W	1					1	
1164	イカン	イカン	いかん	感動詞		W	1	1					
391	イキ	イキ	粋	名詞-一般		K	1	1					
1134	イキイキ	イキイキ	生き生き/活き活き/いきいき	副詞		W	3			3			
443	イクメン	イクメン	行け/いけ面/men	名詞-一般		H	7	7					
448	イクメン	イクメン税	行け/いけ面/men	名詞-一般		H	3	3					
457	イクメン	イク面	行け/いけ面/men	名詞-一般		H	1						1
770	イケル	イケてない	行ける/いける	動詞		W	5	4			1		
927	イザ	イザ	いざ	副詞		W	2			1			1
729	イジル	イジる	いじる	動詞		W	1	1					

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	学術	メール
369	イス	イス	※椅子 / ×倚子	名詞一般		K	6	5		1		
458	イス	車イス	※椅子 / ×倚子	名詞一般		H	1	1				
1431	イタクテ	イタクテ		その他	語形を表す	W	1					1
1432	イタクナル	イタクナル		その他	語形を表す	W	1					1
704	イタズラ	イタズラ	悪=戯 / いたずら	名詞-サ変接続		W	6	6				
1206	イタタ	イタタ	痛たた / いたた	感動詞		W	1			1		
1433	イタテ	イタテ		その他	語形を表す	W	1					1
1434	イタナル	イタナル		その他	語形を表す	W	1					1
1435	イタンナル	イタンナル		その他	語形を表す	W	1					1
1246	イチ	イチ	一	名詞-数	【一か・八か】1件含む	K	3	3				
447	イチオン	イチオン	一押し	名詞一般		H	4		3		1	
459	イチ押し	イチ押し	一押し	名詞一般		H	1	1				
460	イチおし	イチおし	一押し	名詞一般		H	1			1		
392	イチガン	イチガン	一眼	名詞一般		K	1			1		
516	イチゴ	イチゴ	×莓 / いちご	名詞一般		W	1					1
1141	イチバン	イチバン	一番	副詞		K	2			2		
928	イチヤイチヤ	イチヤイチヤ	いちやいちや	副詞		W	2	2				
539	イチヨウ	イチヨウ	根=杏 / 公=孫=樹 / 鴨=脚	名詞一般		K	5	5				
382	イッキ	イッキ	一気	名詞一般		K	2			2		
1142	イッキ	イッキ	一気	副詞		K	2			1	1	
1436	イトテ	イトテ		その他	語形を表す	W	1					1
1437	イトナル	イトナル		その他	語形を表す	W	1					1
276	イナズマ	イナズマ	稲妻 / いなずま	名詞一般		W	1				1	
567	イヌ	イヌ	犬 / ×狗 / いぬ	名詞一般		W	1	1				
568	イネ	イネ	稲 / いね	名詞一般		W	1	1				
596	イバラトミヨ	イバラトミヨ	いばらとみよ(漢字表記の有無不明)	名詞一般		W	1				1	
245	イマ	イマつぶ	今 / いま	名詞一般		W	2	2				
1147	イマイチ	イマイチ	今一	副詞		H	1			1		
1135	イマドキ	イマドキ	今時 / いまどき	副詞		W	2	2				
569	イモ	紫イモ	紫芋 / ×薯 / ×薯 / いも	名詞一般		W	1	1				
570	イモ	イモ	芋 / ×薯 / ×薯 / いも	名詞一般		W	1	1				
655	イヤ	イヤ	嫌 / ×厭 / いや	名詞-形容動詞語幹		W	12	2	1	1	7	1
1151	イヤ	イヤ	いや	感動詞		W	3	3				
1205	イヤ	イヤ	嫌 / ×厭 / いや	感動詞		W	2	2				
1165	イヤン	イヤン	いやん	感動詞		W	1	1				
1120	イライラ	イライラ	▽苛▽苛 / いらいら	副詞		W	13	4	1	1	1	4
550	イルカ	イルカ	海=豚 / いるか+漁	名詞一般		H	2	2				
1136	イロイロ	イロイロ	色々 / いろいろ	副詞		W	1			1		
571	イロワケイルカ	イロワケイルカ	色分海=豚 / いろわけいるか	名詞一般		W	1			1		
500	イワン	イワン	×鬪 / いわし	名詞一般		W	2		2			
588	インゲン	白インゲン	白隠元	名詞一般		H	1				1	
586	インゲンマメ	インゲン豆	隠元豆 / まめ	名詞一般		H	2				2	
1264	ウ	ウ		その他	引用時の符号 (図と対応させるための記号)	W	4					4
1269	ウ	ウ		その他	引用時の符号	W	1					1
1396	ウ	ウ		その他	引用時の符号 五十音図の行・段を示す	W	8					8
1406	ウ	ウ		その他	仮名の音を表す	W	3					3
960	ウイ	ウイ	うい	副詞		W	1	1				
1325	ウウ	ウウ		その他	音を表す	W	1					1
1133	ウキウキ	ウキウキ	浮き浮き / うきうき	副詞		W	4	1		3		
1293	ウケヒ	ウケヒ		その他	専門的な用語	W	78					78
1294	ウケヒガリ	ウケヒガリ		その他	専門的な用語	W	2					2
777	ウケル	ウケル	受ける / うける	動詞		W	1	1				
538	ウコン	ウコン	▽鬱金	名詞一般		K	8	1	7			
816	ウザイ	ウザイ	うざい	形容詞		W	1	1				
54	ウソ	ウソ	×嘘 / うそ	名詞一般		W	21	19	1	1		
108	ウソツキ	ウソツキ	×嘘つき / うそつき	名詞一般		W	1	1				
754	ウソツク	ウソツク	×嘘つく / うそつく	動詞		W	1	1				
109	ウソナキ	ウソ泣き	×嘘 / うそ+泣き / なき	名詞一般		W	1	1				
224	ウチ	ウチ	内 / うち	名詞一般		W	4	1		3		
615	ウチ	ウチ	▽家 / うち	名詞-代名詞		W	2	2				
624	ウチ	ウチ	内 / うち	名詞-代名詞		W	4	4				
393	ウツ	ウツ	※鬱 / ×鬱	名詞一般		K	1					1
961	ウツリ	ウツリ	うつり	副詞		W	1		1			
277	ウデ	ウデ	腕 / うで	名詞一般		W	1		1			
1166	ウフフフ	ウフフフ	うふふふ	感動詞		W	1					1
1167	ウフフフ	ウフフフフ	うふふふふ	感動詞		W	1	1				
1168	ウフフフ	ウフフフフフ	うふふふふふ	感動詞		W	1	1				
1169	ウフフフ	ウフフフフフフ	うふふふふふふ	感動詞		W	1	1				
962	ウホウホ	ウホウホ	うまうま	副詞		W	1		1			
278	ウマ	ウマ	馬 / うま	名詞一般		W	1	1				
834	ウマイ	ウマイ	▽甘い / マ甘い / マ辛い / うまい	形容詞		W	3	1		2		
841	ウマイ	激ウマイ	▽甘い / マ甘い / マ辛い / うまい	形容詞		W	1	1				
842	ウマイ	ウマーイ	▽甘い / マ甘い / マ辛い / うまい	形容詞		W	1	1				
843	ウマイ	ウマけりゃ	▽甘い / マ甘い / マ辛い / うまい	形容詞		W	1				1	
110	ウマサ	ウマさ	▽甘さ / マ旨さ / マ巧さ / うまさ	名詞一般		W	1			1		
589	ウメ	ウメ酒	梅 / うめ+酒	名詞一般		H	1			1		
229	ウラ	ウラ	裏 / うら	名詞一般		W	3	3				
279	ウラワザ	ウラ技	裏 / うら + 技	名詞一般		W	1			1		
844	ウレシイ	ウレシイ	×嬉しい / うれしい	形容詞		W	1			1		
698	ウロウロ	ウロウロ	うろろ	名詞-サ変接続		W	1					1

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	学術	メール
1265	エ	エ		その他	引用時の符号 (図と対応させる ための記号)	W	1					1
1270	エ	エ		その他	引用時の符号	W	1					1
1407	エ	エ		その他	仮名の音を表す	W	16					16
815	エエ	エエンチャウ	ええんちやう	形容詞		W	1	1				
1170	エー	エー	えー	感動詞		W	1					1
394	エキ	エキ	駅	名詞一般		K	1			1		
452	エキナカ	エキナカ	駅中/駅なか	名詞一般		H	2			2		
453	エキマエ	エキマエ	駅前/駅まえ	名詞一般		H	2			2		
755	エグル	エグル	×挟る/×判る/えぐる	動詞		W	1	1				
210	エサ	エサ	※餌/えさ	名詞一般		W	5	5				
1153	エツ	エツ	えつ	感動詞		W	2	2				
501	エビ	エビ	×海=老/×蝦/えび	名詞一般	動植物	W	2				2	
280	エモノ	エモノ	獲物/得物/えもの	名詞一般		W	1					1
854	エライ	エライ	偉い/▽豪い/えらい	形容詞		W	3	2		1		
281	エリ	エリ	襟/えり	名詞一般		W	1			1		
579	エンメイソウ	エンメイソウ	延命草	名詞一般	動植物	K	1		1			
1266	オ	オ		その他	引用時の符号 (図と対応させる ための記号)	W	2					2
1397	オ	オ		その他	五十音図の行・ 段を示す	W	12					12
1408	オ	オ		その他	仮名の音を表す	W	4					4
1171	オイオイ	オイオイ	おいおい	感動詞		W	1	1				
845	オイシイ	オイシイ	美=美味しい/おいしい	形容詞		W	1			1		
619	オイラ	オイラ	▽己▽等/▽俺▽等/おいら	名詞代名詞		W	1		1			
1326	オウ	オウ		その他	音を表す	W	1					1
1219	オエー	オエー	おえー	感動詞		W?	1	1				
282	オカイモノ	オカイモノ	お買い物/お買ひもの/おかいもの	名詞一般		W	1			1		
111	オカワリ	オカワリ!	▽御代(わり)/おかわり	名詞一般		W	1		1			
112	オキテ	オキテ	×控/おきて	名詞一般		W	1	1				
246	オクサマ	オクサマ	奥様/奥さま/おくさま	名詞一般		W	2					2
722	オジャマ	オジャマ	お邪魔/おじゃま	名詞サ変接続		H	3					3
113	オシヤレ	オシヤレ	▽御×酒▽落/おしやれ	名詞一般		W	1			1		
705	オシヤレ	オシヤレ	▽御×酒▽落/おしやれ	名詞サ変接続		W	6	5	1			
283	オス	オス	雄/×牡/おす	名詞一般		W	1					1
185	オススメ	オススメ	お勧め/お薦め/▽お奨め/おすす	名詞一般		W	16	8		6	2	
247	オススメ	オススメ	勧め/薦め/▽奨め/すすめ	名詞一般		W	2			1	1	
454	オタク	オタク	お宅	名詞一般		H	2	2				
461	オタク	アイドルオタク	アイドルお宅/おたく	名詞一般		H	1	1				
13	オッサン	オッサン	おっさん	名詞一般		W	3	3				
929	オドオド	オドオド	おどおど	副詞		W	2	2				
248	オトコ	オトコ	男/おとこ	名詞一般		W	2		1	1		
222	オトナ	オトナ	大人/おとな	名詞一般		W	4	1	2	1		
86	オトリ	オトリ	×囮/媒=鳥/おとり	名詞一般		W	2	2				
1438	オドロ	オドロ		その他	語形を表す	W	2					2
249	オドロキ	オドロキ	驚き/×愕き/×駭き/おどろき	名詞一般		W	2			2		
778	オドロク	オドロキマス	驚く/×愕く/×駭く/おどろく	動詞		W	1		1			
25	オナラ	オナラ	おなら	名詞一般		W	1	1				
250	オニギリ	オニギリ	お握り/おにぎり	名詞一般		W	2	2				
202	オバケ	オバケ	お化け/おぼけ	名詞一般		W	7	7				
1207	オハヨウ	オハヨウ	お早う/おはよう	感動詞		W	1				1	
1295	オホマノアラコ	オホマノアラコ		その他	専門的な用語	W	1					1
114	オマケ	オマケ	▽御負け/おまけ	名詞一般		W	1		1			
1296	オミツノ	オミツノ		その他	専門的な用語	W	1					1
65	オムツ	オムツ	▽御襦=褌/おむつ	名詞一般		W	6	4	1	1		
860	オモシロイ	オモシロイ	面白い/おもしろい	形容詞		W	1	1				
284	オモシロサ	“オモシロ”さ	面白さ/おもしろさ	名詞一般		W	1		1			
817	オモタイ	重タイ	重たい	形容詞		W	1	1				
621	オレ	オレ	※俺/▽己/乃=公/おれ	名詞代名詞		W	13	9	2	2		
1297	オロチ	オロチ		その他	専門的な用語	W	3					3
395	オンガク	オンガク	音楽	名詞一般		K	1			1		
230	オンナ	オンナ	女/おんな	名詞一般		W	3	1	1			1
602	カ	カ	箇/▽個/か	名詞接尾-助数詞		K	9		1			8
601	カ	カ	箇/▽個/か	名詞接尾-助数詞		K	45			2		43
1327	カ	カ		その他	音を表す	W	1					1
1398	カ	カ		その他	五十音図の行・ 段を示す	W	2					2
1439	カ	カ		その他	語形を表す	W	9					9
1229	ガ	ガ【セカイガキラキラ】	が	助詞格助詞		W	1		1			
1328	ガ	ガ		その他	音を表す	W	1					1
963	ガアーツ	ガアーツ	があーつ	副詞		W	1	1				
396	カイカン	カイカン	快感	名詞一般		K	1		1			
502	カイツブリ	カイツブリ	鶺鴒=鶺鴒/かいつつぶり	名詞一般	動植物	W	2	2				
517	カイツブリ	クビナガカイツブリ	首長+鶺鴒=鶺鴒/かいつつぶり	名詞一般	動植物	W	1	1				
554	カイツブリ	クラークカイツブリ	クラーク+ 鶺鴒=鶺鴒/かいつつぶり	名詞一般	動植物	H	1	1				
680	カイテキ	カイテキ	快適	名詞形容動詞語幹		K	1			1		
383	カイロ	カイロ	懐炉	名詞一般		K	2	2				
1440	カウバシ	カウバシ		その他	語形を表す	W	52					52
518	カエデ	カエデ	×楓/榊=樹/かえで	名詞一般	動植物	W	1	1				
397	カカク	カカク	価格	名詞一般		K	1		1			
398	カガク	カガク	化学/科学	名詞一般		K	1			1		
484	カキ	カキ	牡=蠣/かき	名詞一般	動植物	W	5	5				
551	カキ	カキフライ	牡=蠣+フライ	名詞一般	動植物	H	2		2			

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	学術	メール	
181	カギ	カギ	※鍵／かぎ	名詞一般		W	21	14		3	1	2	1
375	ガキ	ガキ	餓鬼	名詞一般		K	3	3					
399	カグ	カグ	家具	名詞一般		K	1		1				
715	カクゴ	カクゴ	覚悟	名詞サ変接続		K	1			1			
1441	カグハシ	カグハシ		その他	語形を表す	W	31					31	
285	カケ	カケ	欠け／かけ	名詞一般		W	1				1		
286	カゴ	カゴ	※籠／かご	名詞一般		W	1	1					
287	カサ	カサ	傘／かさ	名詞一般		W	1			1			
930	カサカサ	カサカサ	かさかさ	副詞		W	2					2	
6	カサツキ	カサつき	かさつき	名詞一般		W	7			4	3		
730	ガサツク	ガサつく	がさつく	動詞		W	1	1					
964	ガシガシ	ガシガシ	がしがし	副詞		W	1			1			
519	カジキ	カジキ	×梶木／旗＝魚／かじき	名詞一般	動植物	W	1		1				
965	ガシヤガシヤ	ガシヤガシヤ	がしやがしや	副詞		W	1	1					
87	カス	カス	×滓／かす	名詞一般		W	2	2					
199	カゼ	カゼ	風・邪／かぜ	名詞一般		W	8			5	2	1	
288	カタ	カタ	方／片／かた	名詞一般		W	1	1					
931	ガタガタ	ガタガタ	がたがた	副詞		W	2	2					
289	カタカナ	カタカナ	片仮名／かたかな	名詞一般		W	1						1
179	カタチ	カタチ	形／かたち	名詞一般		W	23	1	8	10	4		
9	ガチ	ガチ	がちこの省略形	名詞一般		W	4	1			3		
18	ガチカタ	ガチ肩	がち(がちがちの省略形)＋肩	名詞一般		W	2		1	1			
966	カチカチ	カチカチ	かちかち	副詞		W	1	1					
635	ガチガチ	ガチガチ	がちがち	名詞・形容動詞語幹		W	1		1				
967	カチッ	カチッ	かちっ	副詞		W	1					1	
968	カチン	カチン	かちん	副詞		W	1	1					
14	ガチンコ	ガチンコ	がちんこ	名詞一般		W	3	3					
932	ガツガツ	ガツガツ	がつつ	副詞		W	2	2					
933	ガツカリ	ガツカリ	がつつかり	副詞		W	2	2					
969	ガツクリ	ガツクリ	がつつくり	副詞		W	1						1
873	カッコイイ	カッコイイ	格好／×恰好いい	形容詞		H	4	3	1				
876	カッコイイ	カッコいい	格好／×恰好いい	形容詞		H	2	1	1				
400	ガッコウ	ガッコウ	学校	名詞一般		K	1	1					
807	カッコツケル	ガッコつける	格好／×恰好＋つける	動詞		H	2	1	1				
874	カッコヨイ	カッコ良い	格好／×恰好良い	形容詞		H	4	3					1
877	カッコヨイ	カッコよい	格好／×恰好よい	形容詞		H	1	1					
875	カッコワルイ	カッコ悪い	格好／×恰好悪い	形容詞		H	2	2					
1442	カッタ	カッタ		その他	語形を表す	W	30						30
970	ガツリ	ガツリ	がつつり	副詞		W	1			1			
716	ガッテン	ガッテン	合点	名詞サ変接続		K	1	1					
115	カツラ	カツラ	×髻／かつら	名詞一般		W	1	1					
921	ガツン	ガツン	がつつん	副詞		W	3		1	2			
401	カデン	カデン	家電	名詞一般		K	1		1				
779	カナエル	カナエル	叶える／かなえる	動詞		W	1			1			
493	カニ	カニ	×蟹／かに	名詞一般	動植物	W	3	3					
520	カニ	毛ガニ	毛＋×蟹／がに	名詞一般	動植物	W	1	1					
521	カニ	焼ガニ	焼×蟹／かに	名詞一般	動植物	W	1	1					
204	カネ	カネ	金／かね	名詞一般		W	6	6					
290	カネモチ	カネ持ち	金／かね＋持ち／もち	名詞一般		W	1	1					
580	カバ	カバ舎	河馬舎	名詞一般	動植物	K	1	1					
160	カバン	カバン	〔中〕×鞆	名詞一般		K	2	2					
56	カビ	カビ	×黴／かび	名詞一般		W	14	1	2	2	9		
75	カビ	防カビ	×黴／かび	名詞一般		W	3		3				
88	カビ	黒カビ	×黴／かび	名詞一般		W	2		2				
971	カビカビ	カビカビ	かびかび	副詞		W	1	1					
750	カブル	カブらない	▽被る／▽冠る／かぶる	動詞		W	3	3					
26	カマ	カマ	かま	名詞一般		W	1	1					
1298	カマエ	カマエ		その他	専門的な用語	W	16						16
756	カマス	カマしたれ	×噛ます／×咬ます／×噛ます／かます	動詞		W	1	1					
710	ガマン	ガマン	我慢	名詞サ変接続		K	4			2			2
251	カミサン	カミさん	上さん／かみさん	名詞一般		W	2	2					
116	カミソリ	カミソリ	剃＝刀／かみそり	名詞一般		W	1			1			
221	カラ	カラ	空／▽虚／から	名詞一般		W	4	2		1			1
291	カラ	カラ	殻／▽殻／から	名詞一般		W	1	1					
15	ガラ	鶏ガラ	から	名詞一般		W	3					3	
27	ガラ	ガラ炊き	がら炊き	名詞一般		W	1					1	
292	ガラ	ガラ	柄／がら	名詞一般		W	1	1					
440	カラオケ	カラオケ	空／▽虚＋オケ	名詞一般		H	11	8					3
636	カラカラ	カラカラ	からから	名詞・形容動詞語幹		W	1			1			
480	カラス	カラス	×鳥／×鴉／からす	名詞一般	動植物	W	44	44					
177	カラダ	カラダ	体／からだ	名詞一般		W	39	1	8	23	7		
934	カラッ	カラッ	からっ	副詞		W	2	1				1	
972	カラリ	カラリ	からり	副詞		W	1	1					
28	ガリ	ガリ	がり	名詞一般		W	1	1					
631	カリカリ	カリカリ	かりかり	名詞・形容動詞語幹		W	3	3					
919	カリカリ	カリカリ	かりかり	副詞		W	3		3				
973	ガリガリ	ガリガリ	がりがり	副詞		W	1	1					
909	カリッ	カリッ	かりっ	副詞		W	4	1	2		1		
974	ガリッ	ガリッ	がりっ	副詞		W	1		1				
1299	ガリバン	ガリ版		その他	専門的な用語	W	1						1
159	ガレキ	ガレキ	※瓦×礫	名詞一般		K	3	3					
831	カワイイ	カワイイ	可▽愛い／かわい	形容詞		W	13	9		3			1
837	カワイイ	カワイ	可▽愛い／かわい	形容詞		W	2	2					

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	学術	メール
522	カワウソ	カワウソ	川×獺/×獺/かわうそ	名詞一般	動植物	W	1	1				
555	カワウソ	カナダカワウソ	カナダ+ 川×獺/×獺/かわうそ	名詞一般	動植物	H	1	1				
1443	カヲル	カヲル		その他	語形を表す	W	6				6	
152	ガン	ガン	×癌	名詞一般		K	27	16	8	3		
154	ガン	胃ガン	×癌	名詞一般		K	12	12				
935	カンカン	カンカン	かんかん	副詞		W	2	2				
462	ガングロ	ガングロ	顔黒	名詞一般		H	1	1				
402	カンケイ	カンケイ	関係	名詞一般		K	1			1		
676	ガンコ	ガンコ	頑固	名詞-形容動詞語幹		K	3			1	2	
449	カンジ	カンジ	感じ	名詞一般		H	3			1		2
581	カンゾウ	カンゾウ	甘草	名詞一般	動植物	K	1		1			
403	カンタン	カンタン	簡単	名詞一般		K	1		1			
670	カンタン	カンタン	簡単	名詞-形容動詞語幹		K	38	15	6	7	9	1
975	ガンツ	ガンツ	がんつ	副詞		W	1	1				
717	カンドウ	カンドウ	感動	名詞-サ変接続		K	1	1				
709	カンバイ	カンバイ	乾杯	名詞-サ変接続		K	4			2	2	
1444	カンバシ	カンバシ		その他	語形を表す	W	29					29
1445	カンバシイ	(カンバシ)シイ		その他	語形を表す	W	1					1
1446	カンバシイ	カンバシイ		その他	語形を表す	W	2					2
1447	カンバシク	カンバシク		その他	語形を表す	W	1					1
808	ガンバル	ガンバル	頑張る/がんばる	動詞		H	2	2				
809	ガンバル	ガンバって	頑張る/がんばる	動詞		H	1	1				
810	ガンバル	ガンバロー	頑張る/がんばる	動詞		H	1	1				
811	ガンバル	ガンバル	頑張る/がんばる	動詞		H	1		1			
404	カンベキ	完ベキ	完璧	名詞一般		K	1	1				
1271	キ	キ		その他	引用時の符号	W	1					1
1329	キ	キ		その他	音を表す	W	1					1
654	キザ	キザ	気▽障	名詞-形容動詞語幹		H	1	1				
226	キズ	キズ	傷/×疵/×瑕/きず	名詞一般		W	4				4	
780	キズツケル	キズつける	傷/×疵/きず+付く/つく	動詞		W	1				1	
405	キセキ	キセキ	奇跡/奇×蹟	名詞一般		K	1		1			
406	キソ	キソ	基礎	名詞一般		K	1		1			
912	キチン	キチンと	きちんと	副詞		W	4			1	1	2
818	キツイ	キツイ	きつい	形容詞		W	1	1				
219	キツカケ	キツカケ	切っ掛け/きつかけ	名詞一般		W	4	4				
976	キツチリ	キツチリ	きつちり	副詞		W	1		1			
977	キツト	キツト	きつと	副詞		W	1					1
482	キツネ	キツネ	×狐/きつね	名詞一般	動植物	W	6	5				1
491	キツネ	キツネ色	×狐/きつね+色	名詞一般	動植物	W	4				4	
384	キブン	キブン	気分	名詞一般		K	2		2			
781	キマル	キマル	決まる/▽極まる/きまる	動詞		W	1		1			
622	キミ	キミ	君/きみ	名詞-代名詞		W	12		1	11		
197	キメ	キメ	木目/肌=理/きめ	名詞一般		W	9		1	1	7	
293	キメガオ	キメ顔	決め/きめ+顔	名詞一般		W	1	1				
294	キメテ	キメ手	決め/きめ+手	名詞一般		W	1	1				
782	キメル	キメる	決める/▽極める/きめる	動詞		W	1			1		
295	キモ	キモ	肝/▽胆/きも	名詞一般		W	1					1
861	キモイ	キモい	気持ち悪い/きもちわるい	形容詞		W	1	1				
450	キモチ	キモチ	気持ち	名詞一般		H	3			1	2	
878	キモチイイ	キモチイイ	気持ちいい/▽良い/▽好い/いい	形容詞		H	1	1				
478	キモメン	キモメン	きも(い)+面/men	名詞一般		H	3	3				
366	ギモン	ギモン	疑問	名詞一般		K	7	6		1		
1330	キヤ	キヤ		その他	音を表す	W	2					2
1331	ギヤ	ギヤ		その他	音を表す	W	2					2
1172	キヤ〜	キヤ〜	きや〜	感動詞		W	1	1				
1173	キヤツキヤツキヤ	キヤツキヤツキヤ	きやつ	感動詞		W	1	1				
1332	ギユ	ギユ		その他	音を表す	W	2					2
1333	ギユ	ギユ		その他	音を表す	W	2					2
978	ギユーツ	ギユーツ	きゅーつ	副詞		W	1	1				
979	ギユーツ	ギユーツ	きゅーつ	副詞		W	1			1		
503	キュウリ	キュウリ	胡=瓜/▽黄×瓜/きゅうり	名詞一般	動植物	W	2	1	1			
905	ギユツ	ギユツ	きゅつ	副詞		W	4	3			1	
980	ギユルギユル	ギユルギユル	ぎゅるぎゅる	副詞		W	1			1		
981	ギユン	ギユン	ぎゅん	副詞		W	1	1				
936	ギユンギユン	ギユンギユン	ぎゅんぎゅん	副詞		W	2		2			
982	ギユンギユン	ギユンギユン	ぎゅんぎゅん	副詞		W	1		1			
983	ギユンツ	ギユンツ	ぎゅんつ	副詞		W	1	1				
1334	ギョ	ギョ		その他	音を表す	W	2					2
1335	ギョ	ギョ		その他	音を表す	W	2					2
153	ギョーザ	ギョーザ	[中]餃子	名詞一般		K	11	11				
1174	ギョギョ	ギョギョ	ぎょぎょ	感動詞		W	1	1				
407	ギョギョウ	ギョギョウ	漁業	名詞一般		K	1	1				
408	ギョシヨウ	ギョシヨウ	巨匠	名詞一般		K	1	1				
657	キライ	キライ	嫌い/きらい	名詞-形容動詞語幹		W	3	1	1	1		
891	キラキラ	キラキラ	きらきら	副詞		W	9	4	1	4		
984	ギラギラ	ギラギラ	ぎらぎら	副詞		W	1					1
757	キラメク	キラめく	×煌めく/きらめく	動詞		W	1			1		
296	キリ	キリ	切り/きり	名詞一般		W	1					1
985	キリキリ	キリキリ	きりきり	副詞		W	1			1		
886	ギリギリ	ギリギリ	ぎりぎり	副詞		W	10	7				3
223	キレ	キレ	切れ/きれ	名詞一般		W	4	1	1	2		
669	キレイ	キレイ	奇麗/×綺麗	名詞-形容動詞語幹		K	77	20	16	26	11	4
772	キレル	キレル	切れる/きれれる	動詞		W	3	2				1
297	キワガリ	キワガリ	際/きわ	名詞一般		W	1		1			
846	キワドイ	キワドイ	際▽疾い/きわどい	形容詞		W	1	1				

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	学術	メール	
582	キンカン	キンカン	金柑	名詞一般	動植物	K	1	1					
986	キンキラキン	キンキラキン	きんきらきん	副詞		W	1	1					
637	キンキン	キンキン	きんきん	名詞-形容動詞語幹		W	1			1			
552	ギンダラ	ギンダラ	銀×鱗/たら	名詞一般	動植物	H	2	2					
1272	ク	ク		その他	引用時の符号	W	1					1	
1336	クウ	クウ		その他	音を表す	W	2					2	
1337	グウ	グウ		その他	音を表す	W	1					1	
16	グー	グー	ぐう (じゃんけんの石)	名詞一般		W	3	3					
987	グーグー	グーグー	ぐーぐー	副詞		W	1	1					
988	グーン	グーン	ぐーん	副詞		W	1				1		
989	ググーン	ググーン	ぐぐーん	副詞		W	1	1					
862	クサイ	クサッ	臭い/くさい	形容詞		W	1	1					
990	クサグサ	クサグサ	くさぐさ	副詞		W	1	1					
1448	クサシ	クサシ		その他	語形を表す	W	5					5	
783	クサル	クサル	腐る/くさる	動詞		W	1		1				
89	クシ	手クシ	×櫛/×梳/くし	名詞一般		W	2					2	
117	クシ	クシ	×櫛/×梳/くし	名詞一般		W	1					1	
76	クジ	クジ	×籤/×團/くじ	名詞一般		W	3	3					
90	クシャミ	クシャミ	×嚏/くしゃみ	名詞一般		W	2			2			
1175	グスン	グスン	ぐすん	感動詞		W	1					1	
207	クセ	クセ	癖/▽曲/くせ	名詞一般		W	6	1	1	1	3		
298	クセ	寝クセ	寝癖/▽曲/くせ	名詞一般		W	1		1				
299	クセ	酒クセ	酒癖/▽曲/くせ	名詞一般		W	1	1					
91	クソ	クソ	×糞/×屎/くそ	名詞一般		W	2	2					
638	クタクタ	クタクタ	くたくた	名詞-形容動詞語幹		W	1	1					
1285	クダル	下ル		その他	住所	W	1					1	
409	グチ	グチ	愚痴	名詞一般		K	1			1			
445	クチコミ	クチコミ	口コミ	名詞一般		H	5			1		4	
991	グチャグチャ	グチャグチャ	ぐちゃぐちゃ	副詞		W	1	1					
992	グチュ	グチュ	ぐちゅ	副詞		W	1		1				
812	グチル	グチリ	愚痴る/愚×癡る/ぐちる	動詞		H	1					1	
914	グツ	グツ	ぐつ	副詞		W	3	3					
924	グツグツ	グツグツ	ぐつぐつ	副詞		W	3				3		
1449	クナル	クナル		その他	語形を表す	W	1					1	
205	クビ	クビ	首/くび	名詞一般		W	6	5				1	
993	グビツ	グ美ツ	ぐびつ	副詞		W	1		1				
77	クマ	クマ	×隈/▽曲/×阿/くま	名詞一般		W	3	3					
565	クマ	クマ	熊/くま	名詞一般	動植物	W	2	2					
994	クラクラ	クラクラ	くらくら	副詞		W	1	1					
995	クラッ	クラッ	くらっ	副詞		W	1	1					
996	クワクワ	クワクワ	くわくわ	副詞		W	1	1					
19	グル	グル	ぐる	名詞一般		W	2	2					
997	グルグル	グルグル	ぐるぐる	副詞		W	1	1					
187	クルマ	クルマ	車/くるま	名詞一般		W	14		9	4		1	
504	クルマ	クルマ	胡=桃/くるみ	名詞一般	動植物	W	2	2					
937	クルン	クルン	くるん	副詞		W	2	2					
731	クレル	クレル	ぐれる	動詞		W	1					1	
1338	クワ	クワ		その他	音を表す	W	1					1	
1339	グワ	グワ		その他	音を表す	W	1					1	
998	グングン	グングン	ぐんぐん	副詞		W	1			1			
1450	クンズ	クンズ		その他	語形を表す	W	3					3	
1273	ケ	ケ		その他	引用時の符号	W	1					1	
1243	ケイサン	無水ケイ酸	×珪酸	名詞	天然成分、化学物質など	K	1		1				
410	ゲイシャ	ゲイシャ	芸者	名詞一般		K	1		1				
364	ケイタイ	ケータイ	携帯	名詞一般		K	15		13	1	1		
385	ケイタイ	ケイタイ	携帯	名詞一般		K	2		2				
411	ケイバ	ケイバ	競馬	名詞一般		K	1			1			
543	ケイヒ	ケイヒ	×桂皮	名詞一般	動植物	K	1		1				
376	ケイリン	ケイリン	競輪	名詞一般		K	3			3			
153	ケガ	ケガ	▽怪我	名詞一般		K	27	12	1		11	2	1
1300	ケガリハ	ケガリハ		その他	専門的な用語	W	1					1	
1301	ケガレ	ケガレ		その他	専門的な用語	W	1					1	
1176	ゲゲゲ	ゲゲゲ	げげげ	感動詞		W	1		1				
784	ケズル	ケズった	削る/けずる	動詞		W	1			1			
599	ケタ	ケタ	桁/けた	名詞-接尾-助数詞		W	1	1					
20	ケチ	ケチ	けち	名詞一般		W	2	1				1	
386	ケツ	ケツ	穴/▽尻	名詞一般		K	2	2					
252	ケバ	ケバ	毛羽/×毳/けば	名詞一般		W	2					2	
412	ゲン	ゲン	験	名詞一般		K	1	1					
157	ケンカ	ケンカ	×喧×嘩/×諍×譁	名詞一般		K	7	7					
164	ケンカ	夫婦ケンカ	×喧×嘩/×諍×譁	名詞一般		K	1	1					
681	ゲンキ	ゲンキ	元気	名詞-形容動詞語幹		K	1	1					
682	ゲンキン	ゲンキン	現金	名詞-形容動詞語幹		K	1	1					
413	ケンミン	ケンミン	県民	名詞一般		K	1			1			
253	コ	コ	子/こ	名詞一般		W	2			2			
1340	コ	コ		その他	音を表す	W	1					1	
603	コイツ	コイツ	こいつ	名詞-代名詞		W	6	6					
1341	コウ	コウ		その他	音を表す	W	3					3	
1342	ゴウ	ゴウ		その他	音を表す	W	1					1	
1451	コウバシイ	(コウ(バ))シイ		その他	語形を表す	W	1					1	
1452	コウバシイ	コウバシイ		その他	語形を表す	W	4					4	
718	コウブン	コーブン	興奮/×昂奮/×亢奮	名詞-サ変接続		K	1			1			
1288	コエ	コエ		ルビ	「音」の読みとして	W	1					1	

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	学術	メール
595	ゴーヤ	ゴーヤ	ごおや(漢字表記の有無不明)	名詞一般	動植物	W?	3	3				
1	コク	コク	酷? / こく(濃く)?	名詞一般		KorW	89	2	1	9	77	
1239	コクキレ	コクキレ	酷? / こく(濃く)? + 切れ / きれ	名詞	複合	H?	1			1		
910	ゴクゴク	ゴクゴク	ごくごく	副詞		W	4			3	1	
387	ゴクラク	ゴクラク	極楽	名詞一般		K	2				2	
254	コゲ	コゲ	焦げ / こげ	名詞一般		W	2				2	
608	ココ	ココ	×此▽処 / ここ	名詞代名詞		W	16	13	1	2		
1254	ココカラ	ココカラ	×此▽処 / ここ から	その他	連語扱い	W	1				1	
863	ココチイ	ココチイ	心地いい	形容詞		W	1				1	
188	ココロ	ココロ	心 / こころ	名詞一般		W	14		5	9		
1287	ココロ	ココロ		ルビ	「意」の読みとして	W	1					1
300	ココロエ	ココロエ	心得 / こころえ	名詞一般		W	1				1	
186	コシ	コシ	腰 / こし	名詞一般		W	15	2	1	1	11	
8	コシヒカリ	コシヒカリ	こしひかり	名詞一般		W	4	4				
165	コシヨウ	コシヨウ	×胡×椒	名詞一般		K	1	1				
255	コタエ	コタエ	答え / こたえ	名詞一般		W	2		2			
999	ゴチャ	ゴチャ	ごちゃ	副詞		W	1	1				
611	コチラ	コチラ	×此▽方 / こちら	名詞代名詞		W	9	7			2	
363	コツ	コツ	骨	名詞一般		K	44	31		1	12	
819	ゴツイ	ゴツイ	ごつい	形容詞		W	1	1				
1129	コツコツ	コツコツ	×砵×砵 / ×元×元	副詞		K	2			1		1
605	コッチ	コッチ	こっち	名詞代名詞		W	1	1				
1000	コッテリ	コッテリ	こっ तरी	副詞		W	1			1		
193	コト	コト	事 / こと	名詞一般		W	10	1	2	3		4
1001	コトコト	コトコト	ことごと	副詞		W	1	1				
256	コドモ	コドモ	子供 / こども	名詞一般		W	2		1	1		
1253	コノ	コノ	×此の / この	連体詞		W	1	1				
1214	コノヤロー	コノヤロー	この野郎 / やろう	感動詞		H	1	1				
414	ゴハン	ゴハン	御飯	名詞一般		K	1	1				
92	ゴブ	ゴブ	×瘤 / こぶ	名詞一般		W	2	2				
1002	ゴホ	ゴホ...	ごほ	副詞		W	1	1				
544	ゴボウ	ゴボウ	▽牛×蒟	名詞一般	動植物	K	1	1				
938	ゴホツ	ゴホツ	ごぼつ	副詞		W	2	2				
1003	ゴホン	ゴホン	ごほん	副詞		W	1		1			
118	コマ	ひとコマ	×駒 / こま	名詞一般		W	1			1		
598	コマ	コマ	×駒 / こま	名詞-接尾-助数詞		W	1					1
545	ゴマ	ゴマ	×胡麻	名詞一般	動植物	K	1				1	
173	ゴマアブラ	ゴマ油	×胡麻油	名詞一般		H	2	2				
785	コマル	コマル	困る / こまる	動詞		W	1			1		
53	ゴミ	ゴミ	×塵 / ×芥 / ごみ	名詞一般		W	51	20	2	2	25	2
707	ゴミゴミ	ゴミゴミ	×塵×塵 / ×芥×芥 / ごみごみ	名詞-サ変接続		W	1					1
93	ゴミバコ	ゴミ箱	×塵 / ×芥 / ごみ+箱	名詞一般		W	2	2				
1210	ゴメン	ゴメン	御免	感動詞		K	3	2				1
1211	ゴメンナサイ	ゴメンナサイ	御免 / ごめんない	感動詞		H	2	1				1
1154	コラー	コラー	こら	感動詞		W	2	2				
1177	コラコラ	コラコラ	こらこら	感動詞		W	1	1				
213	コリ	コリ	凝り / こり	名詞一般		W	5		5			
301	コリ	肩コリ	凝り / こり	名詞一般		W	1			1		
939	コリコリ	コリコリ	こりこり	副詞		W	2	2				
607	コレ	コレ	×此れ / △是 / ×之 / △是 / ×此	名詞代名詞		W	44	41	1	1		1
119	コロ	石コロ	石▽塊 / 石ころ	名詞一般		W	1			1		
475	ゴロ	ゴロ	ごろ / ゴロ?	名詞一般		WorG	3	3				
1245	ゴロ	ゴロ	ごろ / ゴロ(?) の省略形	名詞-略語		H	2	2				
1004	コロコロ	コロコロ	ころころ	副詞		W	1	1				
922	ゴロゴロ	ゴロゴロ	ごろごろ	副詞		W	3		1	2		
1005	ゴロツ	ゴロツ	ごろつ	副詞		W	1				1	
855	コワイ	コワイ	怖い / △恐い / こわい	形容詞		W	3			1		2
639	ゴワゴワ	ゴワゴワ	ごわごわ	名詞-形容動詞語幹		W	1			1		
697	ゴワゴワ	ゴワゴワ	ごわごわ	名詞-サ変接続		W	2				2	
29	ゴワツキ	ゴワつき	ごわつき	名詞一般		W	1				1	
732	ゴワツク	ゴワつかない	ごわつく	動詞		W	1				1	
1215	コンニチハ	コンニチハ	今日は / こんにちは	感動詞		H	1		1			
1343	サ	サ		その他	音を表す	W	14					14
1399	サ	サ		その他	五十音図の行・段を示す	W	1					1
1453	サ	サ		その他	語形を表す	W	1					1
683	サイコウ	サイコー	最高	名詞-形容動詞語幹		K	1		1			
719	サイコウ	サイコー	最高	名詞-サ変接続		K	1			1		
684	サイテイ	サイテー	最低	名詞-形容動詞語幹		K	1	1				
415	サイフ	サイフ	財布	名詞一般		K	1	1				
373	サギ	サギ	詐欺	名詞一般		K	4	4				
1006	サク	サク	さくさく	副詞		W	1		1			
883	サクサク	サクサク	さくさく	副詞		W	13	5	2	2	3	1
1007	サクシャキ	サクシャキ	さくしゃき	副詞		W	1				1	
896	サク	サク	さくつ	副詞		W	6	2		1	3	
564	サクラ	サクラ	桜 / さくら	名詞一般	動植物	W	3	2			1	
590	サクランボ	サクランボ	桜ん坊 / 桜=桃	名詞一般	動植物	H	1	1				
463	サケ	サケバット	酒 / さけ+バット	名詞一般		H	1		1			
30	ササニシキ	ササニシキ	ささにしき	名詞一般		W	1	1				
302	ササミ	ササミ	笹身 / ささみ	名詞一般		W	1					1
1132	サツ	サツと	×颯	副詞		H	9			2	7	
913	サククリ	サククリ	さくくり	副詞		W	4				4	
1008	サツサツ	サツサツ	さつさつ	副詞		W	1	1				
553	サトウキビ	サトウキビ	砂糖 × 黍 / きび	名詞一般	動植物	H	2	2				

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	学術	メール
483	サバ	サバ	×鯖/さば	名詞一般	動植物	W	6		6			
699	サバサバ	サバサバ	さばさば	名詞-サ変接続		W	1	1				
31	サビ	サビ	さび(楽曲の聞かせどころ)	名詞一般		W	1	1				
32	サビ	サビ	さび(山=蓼/わさび)	名詞一般		W	1	1				
68	サビ	サビ	×錆/×錆/さび	名詞一般		W	4	4				
1251	サマ	サマ	様/さま	名詞-接尾-人名		W	1					1
206	サムライ	サムライ	侍/▽士/さむらい	名詞一般		W	6	2	3		1	
523	サメ	サメ	×鮫/さめ	名詞一般	動植物	W	1		1			
1212	サヨナラ	サヨナラ	左様なら/さよなら	感動詞		H	1			1		
1240	サヨナラ	サヨナラHR	左様なら/さよなら+ホームラン	名詞	複合	H	1	1				
1241	サヨナラ	サヨナラ本塁打	左様なら/さよなら+本塁打	名詞	複合	H	1	1				
885	サラサラ	サラサラ	さらさら	副詞		W	11		1	5	5	
1009	ガラガラ	ガラガラ	ざらざら	副詞		W	1	1				
925	サラッ	サラッ	さらっ	副詞		W	3				3	
33	ガラツキ	ガラツキ	ざらつき	名詞一般		W	1				1	
940	ガラッサラ	ガラッサラ	さらっさら	副詞		W	2			2		
1010	カラツヤ	カラツヤ	さら(さらさらの省略形)	副詞		W	1		1			
1011	カラフワ	カラフワ	さら(さらさらの省略形)	副詞		W	1			1		
918	サラリ	サラリ	さらり	副詞		W	3	1			2	
572	サル	サル	猿/さる	名詞一般	動植物	W	1	1				
591	サル	“育ム”サル	育ム+猿/さる	名詞一般	動植物	H	1	1				
60	ザル	ザル	×灰/ざる	名詞一般		W	9				9	
505	サンマ	サンマ	秋=刀=魚/さんま	名詞一般	動植物	W	2		2			
1274	シ	シ		その他	引用時の符号	W	1					1
1344	シ	シ		その他	音を表す	W	21					21
1409	シ	シ		その他	仮名の音を表す	W	12					12
1345	ジ	ジ		その他	音を表す	W	2					2
1410	ジ	ジ		その他	仮名の音を表す	W	10					10
658	シアワセ	シアワセ	幸せ/しあわせ	名詞-形容動詞語幹		W	3			2		1
1012	シーン	シーン	しーん	副詞		W	1	1				
879	シカクイ	シカクイ	四角い	形容詞		H	1			1		
1419	シキキ	シキキ		その他	訓の表示	W	1					1
712	シゲキ	シゲキ	刺激/刺×戟	名詞-サ変接続		K	2	1			1	
1013	シヨシヨ	シヨシヨ	しこしこ	副詞		W	1				1	
209	シゴト	シゴト	仕事/▽為事/しごと	名詞一般		W	6			6		
166	シツノノロー	シツノノロー	歯槽×膿漏	名詞一般		K	1		1			
524	シダ	シダ	羊=歯/歯×架/しだ	名詞一般	動植物	W	1	1				
1126	シッカリ	シッカリ	▽確り/×駈り/しっかり	副詞		W	2					2
1302	シテ	シテ		その他	専門的な用語	W	5					5
1454	シテ	シテ		その他	語形を表す	W	8					8
416	ジテン	ジテン	事典	名詞一般		K	1	1				
120	シビレ	シビレ	×痺れ/しびれ	名詞一般		W	1	1				
417	ジブン	ジブン	自分	名詞一般		K	1			1		
194	シミ	シミ	染み/しみ	名詞一般		W	9		4	1	4	
303	シミ	汗シミ	染み/しみ	名詞一般		W	1			1		
304	シメ	シメ	締め/×メ/しめ	名詞一般		W	1	1				
1014	ジメジメ	ジメジメ	じめじめ	副詞		W	1				1	
1346	ジャ	ジャ		その他	音を表す	W	2					2
1347	ジャ	ジャ		その他	音を表す	W	2					2
1015	ジャカ	ジャカ	しゃか	副詞		W	1	1				
888	ジャキジャキ	ジャキジャキ	しゃきしゃき	副詞		W	9	7			2	
305	ジャリ	ジャリ	砂利/じやり	名詞一般		W	1	1				
700	ジャリジャリ	ジャリジャリ	しゃりしゃり	名詞-サ変接続		W	1				1	
1178	ジャン	ジャン	じゃん	感動詞		W	1			1		
1016	ジャンジャン	ジャンジャン	じゃんじゃん	副詞		W	1	1				
1348	ジュ	ジュ		その他	音を表す	W	2					2
1349	ジュ	ジュ		その他	音を表す	W	2					2
1017	ジュクジュク	ジュクジュク	じゅくじゅく	副詞		W	1				1	
1018	ジュツ	ジュツ	じゅつ	副詞		W	1	1				
1019	ジュワツ	ジュワツ	じゅわつ	副詞		W	1		1			
941	ジュワツ	ジュワツと	じゅわつ	副詞		W	2			1	1	
1350	ジョ	ジョ		その他	音を表す	W	2					2
1351	ジョ	ジョ		その他	音を表す	W	2					2
306	シラ	シラ	白/しら	名詞一般		W	1	1				
525	シロアリ	シロアリ	白×蟻/しろあり	名詞一般	動植物	W	1	1				
1020	シロジロ	シロジロ	じろじろ	副詞		W	1	1				
66	シワ	シワ	×皺/×皺/しわ	名詞一般		W	5	1		2	2	
78	シワ	小シワ	×皺/×皺/しわ	名詞一般		W	3		3			
1021	ジワリ	ジワリ	じわり	副詞		W	1	1				
1231	ス	ス【申し訳けないス】など	です	助動詞		W	4	3			1	
1275	ス	ス		その他	引用時の符号	W	1					1
1352	ズ	ズ		その他	音を表す	W	1					1
1455	ズ	ズ		その他	語形を表す	W	1					1
942	スイスイ	スイスイ	すいすい	副詞		W	2	1		1		
1353	スウ	スウ		その他	音を表す	W	1					1
920	スーッ	スーッ	すーっ	副詞		W	3		2		1	
733	スカス	スカして	すかさ	動詞		W	1	1				
634	スカスカ	スカスカ	すかさすか	名詞-形容動詞語幹		W	2		2			
943	スカッ	スカッ	すかつ	副詞		W	2			1	1	
216	スキ	スキ	好き/すき	名詞一般		W	5			4	1	
660	スキ	大スキ!	好き/すき	名詞-形容動詞語幹		W	1		1			
585	スキ	スキ花粉	杉/すぎ+花粉	名詞一般	動植物	H	2	2				
1022	ズキズキ	ズキズキ	ずきずき	副詞		W	1	1				
1023	スキッ	スキッと	すきつ	副詞		W	1			1		

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	学術	メール
307	スキマ	スキマ	透き間/▽空き間/×隙間/すきま	名詞一般		W	1			1		
308	スキマ	スキ間	透き間/▽空き間/×隙間/すきま	名詞一般		W	1				1	
1024	スキュー	スキュー	ずきゅう	副詞		W	1	1				
1121	スグ	スグ	▽直ぐ/すぐ	副詞		W	9	5		3	1	
786	スグレ	スグレ	優れる/すぐれる【ecoスグレ製品】	動詞		W	1				1	
833	スゴ	スゴ	▽凄い/すごい 省略形?	形容詞		W	3	2		1		
828	スゴイ	スゴイ	▽凄い/すごい	形容詞		W	30	27		3		
829	スゴイ	スゴい	▽凄い/すごい	形容詞		W	19	18		1		
836	スゴイ	ものスゴく	物▽凄い/ものすごい	形容詞		W	3	3				
838	スゴイ	スゲー	▽凄い/すごい	形容詞		W	2	2				
847	スゴイ	スゲー	▽凄い/すごい	形容詞		W	1	1				
848	スゴイ	スッゲー	▽凄い/すごい	形容詞		W	1	1				
849	スゴイ	スッごい	▽凄い/すごい	形容詞		W	1					1
850	スゴイ	スッゴク	▽凄い/すごい	形容詞		W	1					1
231	スジ	スジ	筋/すじ	名詞一般		W	3	2		1		
257	スズメ	スズメ	勸め/▽奨め/すすめ	名詞一般		W	2				2	
526	スズメ	スズメ	×雀/すすめ	名詞一般	動植物	W	1				1	
787	スズメル	スズめる	勧める/▽奨める/すすめる	動詞		W	1	1				
893	スツ	スツ	すつ	副詞		W	7	4	2		1	
1025	スツカリ	スツカリ	すつかり	副詞		W	1	1				
696	スツカリ	スツカリ	すつきり	名詞-サ変接続		W	2	1	1			
881	スツカリ	スツカリ	すつきり	副詞		W	36	3	6	19	8	
734	スツコケル	スツコケる	すつこける	動詞		W	1	1				
1026	スツシ	スツシ	すつし	副詞		W	1			1		
474	スツピン	スツピン	素っぴん/すつぴん	名詞一般		?	25	25				
1027	スツボリ	スツボリ	すつぼり	副詞		W	1				1	
688	ステキ	ステキ	素敵/素的	名詞-形容動詞語幹		H	17	12	3			2
79	スネ	スネ	×脛/×臍/すね	名詞一般		W	3	2				1
1028	スバツ	スバツ	すばつ	副詞		W	1	1				
904	ズバリ	ズバリ	ずばり	副詞		W	4	3		1		
258	スベ	スベ肌	滑滑/すべすべの省略形+肌	名詞一般		W	2			1	1	
661	スベ	つるスベ	つる+滑滑/すべすべの省略形?	名詞-形容動詞語幹		W	1			1		
662	スベスベ	スベスベ	滑滑/すべすべ	名詞-形容動詞語幹		W	1			1		
769	スベル	スベったら	滑る/×にる/すべる	動詞		W	7	5		2		
309	ズミ	ズミ	隅/▽角/すみ	名詞一般		W	1				1	
1204	ズミマセン	ズミマセン	済みません/すみません	感動詞		W	25					25
735	ズラ	ズラ	ずら	動詞		W	1	1				
310	ズリキズ	ズリ傷	擦(り)/すり	名詞一般		W	1				1	
736	ズル	ズル	ずる	動詞		W	1			1		
1456	ズル	ズル		その他	語形を表す	W	48					48
121	ズル	ズル	×狡/ずる	名詞一般		W	1	1				
1029	ズルズル	ズルズル	ずるずる	副詞		W	1			1		
1030	ズルズル	ズルズルズルズル	ずるずるずるずる	副詞		W	1	1				
857	ズルDOI	ズルDOI	鋭い/ずるどい	形容詞		W	2					2
2	ズレ	ズレ	ずれ	名詞一般		W	12	1			3	8
34	ズレオチ	ズレ落ち	ずれ落ち	名詞一般		W	1				1	
724	ズレル	ズレル	ずれる	動詞		W	7	4		1	1	1
1224	ゼ	ゼ【書けませ！】	ぜ	助詞-終助詞		W	1			1		
1225	ゼ	ゼ【小文字】【かもだぜ！】	ぜ【小文字】	助詞-終助詞		W	1		1			
1216	ゼイ	ゼイ	ぜい	感動詞		W?	4	4				
388	ゼカイ	ゼカイ	世界	名詞一般		K	2			1		1
1143	ゼツタイ	ゼツタイ	絶対	副詞		K	1			1		
94	ゼリフ	ゼリフ	台=詞/せりふ	名詞一般		W	2					2
367	ゼンイ	ゼンイ	繊維	名詞一般		K	7		1	1	5	
1144	ゼンゼン	ぜんぜん	全然	副詞		K	1	1				
372	ゼンバツ	ゼンバツ	選抜	名詞一般		K	4	4				
1276	ゾ	ゾ		その他	引用時の符号	W	1					1
1411	ゾ	ゾ		その他	仮名の音を表す	W	2					2
1412	ゾ	ゾ		その他	仮名の音を表す	W	1					1
1354	ゾウ	ゾウ		その他	音を表す	W	1					1
1355	ゾウ	ゾウ		その他	音を表す	W	1					1
616	ゾコ	ゾコ	×其△処/そこ	名詞-代名詞		W	2	2				
649	ゾロ	ゾロ	▽漫ろ/そぞろ	名詞-形容動詞語幹		W	1			1		
35	ゾツ	ゾツ	そつ	名詞一般		W	1					1
944	ゾツ	ゾツ	ぞつ	副詞		W	2	2				
640	ゾツクリ	ゾツクリ	そつくり	名詞-形容動詞語幹		W	1	1				
377	ゾツコウ	ゾツコウ	即効, 速効, 速効(い)ずれども考えられる	名詞一般		K	3		1	2		
606	ゾツチ	ゾツチ	そつち	名詞-代名詞		W	1	1				
95	ゾバカス	ゾバカス	蕎=麦×澤/蕎麦/そばかす	名詞一般		W	2		1		1	
311	ゾラ	ゾラ	空/そら	名詞一般		W	1			1		
122	ゾリ	ゾリ	×櫛/そり	名詞一般		W	1	1				
617	ゾレ	ゾレ	×其れ/それ	名詞-代名詞		W	2	2				
1277	タ	タ		その他	引用時の符号	W	1					1
1234	ダ	ダ【必要ダ】	だ	助動詞		W	1	1				
1155	ダーツ	ダーツ	だーつ	感動詞		W	2	2				
1235	タイ	タイ【切りタイ】	たい	助動詞		W	1			1		
685	ダイジョウブ	ダイジョーブ	大丈夫	名詞-形容動詞語幹		K	1					1
583	ダイズ	ダイズ	大豆	名詞一般	動植物	K	1			1		
1244	ダイズタンパク	加水分解ダイズタンパク	大豆×蛋白	名詞	天然成分, 化学物質など	H	1		1			
1140	タイヘン	タイヘン	大変	副詞		K	3					3
556	タカ	タカ派	×鷹派/たか派	名詞一般	動植物	H	1	1				
563	タカナ	タカナ	高菜/たかな	名詞一般	動植物	W	4	4				
123	タコツボガタ	タコツボ型	×蛸×蓋/たこつぼ +型	名詞一般		W	1					1
191	ダシ	ダシ	出し/出汁/だし	名詞一般		W	10	9			1	

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	学術	メール
57	タダ	タダ	▽徒／×只／ただ	名詞一般		W	11	8	2	1		
945	タツブリ	タツブリ	たつぶり	副詞		W	2					2
212	タテ	タテ	縦／×堅／たて	名詞一般		W	5	1		3	1	
485	ダニ	ダニ	壁＝蝨／だに	名詞一般	動植物	W	5	5				
312	タネ	タネ	種／たね	名詞一般		W	1	1				
1226	ダベ	ダベ【何日ダベ?】	だべ	助詞 終助詞		W	1					1
36	ダマ	ダマ	だま	名詞一般		W	1				1	
313	タマゴ	タマゴ	卵／玉子／たまご	名詞一般		W	1	1				
124	ダマシ	ダマシ	×騙し／だまし	名詞一般		W	1	1				
751	ダマシ	ダマシ	×騙す／だます	動詞		W	3	3				
494	タマネギ	タマネギ	玉×葱／たまねぎ	名詞一般	動植物	W	3	3				
527	タマネギ	玉ネギ	玉×葱／たまねぎ	名詞一般	動植物	W	1	1				
528	タマネギ	紫タマネギ	紫玉×葱／たまねぎ	名詞一般	動植物	W	1	1				
758	タマル	タマル	×溜まる／▽堪る／たまる	動詞		W	1			1		
125	ダミゴエ	ダミ声	×眺み声／▽濁声／だみ声／だみこえ	名詞一般		W	1					1
687	ダメ	ダメ	駄目	名詞 形容動詞語幹		H	63	49	1	3	1	9
692	ダメ	ダメ出し	駄目	名詞 形容動詞語幹		H	1			1		
693	ダメダメ	ダメダメ	駄目駄目	名詞 形容動詞語幹		H	1		1			
529	タラ	タラ	×鱈／大＝ロ＝魚／たら	名詞一般	動植物	W	1	1				
851	ダルイ	ダルい	▽怠い／×懈い／だるい	形容詞		W	1	1				
211	タレ	タレ	垂れ／たれ	名詞一般		W	5	3			2	
232	タレ	液ダレ	垂れ／たれ	名詞一般		W	3		1	1	1	
314	タレ	醤油ダレ	垂れ／たれ	名詞一般		W	1	1				
315	タレ	胡麻ダレ	垂れ／たれ	名詞一般		W	1	1				
316	タレ	塩ダレ	垂れ／たれ	名詞一般		W	1	1				
317	タレ	秘伝ダレ	垂れ／たれ	名詞一般		W	1	1				
318	タレ	味噌ダレ	垂れ／たれ	名詞一般		W	1	1				
319	タレ	みそダレ	垂れ／たれ	名詞一般		W	1				1	
625	ダレ	ダレ	誰／だれ	名詞 代名詞		W	2	2				
320	タレメ	タレ目	垂れ目／たれめ	名詞一般		W	1			1		
788	タレレ	タレにくい	垂れる／たれる	動詞		W	1		1			
418	タンキ	タンキ	短気	名詞一般		K	1			1		
464	ダントツ	ダントツ	断トツ	名詞一般		H	1	1				
370	ダンナ	ダンナ	×檀那／旦那	名詞一般		K	5	3				2
167	タンパクシツ	タンパク質	×蛋白質	名詞一般		K	1			1		
1278	チ	チ		その他	引用時の符号	W	1					1
175	チカラ	チカラ	力／ちから	名詞一般		W	56	5	19	22	10	
321	チカラ	肌チカラ	力／ちから	名詞一般		W	1			1		
419	チカン	チカン	痴漢	名詞一般		K	1			1		
1031	チクタク	チクタク	ちくちく	副詞		W	1	1				
1127	チト	チト	×些と／ちと	副詞		W	1					1
1356	チャ	チャ		その他	音を表す	W	2				2	
1257	チャイ	食ベチャイな	食べちゃいな	その他	活用語尾	W	1				1	
820	チャライ	チャライ	ちゃらい	形容詞		W	1	1				
1357	チュ	チュ		その他	音を表す	W	2				2	
37	チュー	チュー	ちゅう	名詞一般		W	1	1				
1248	チュー	チュー	中	名詞 接尾一般	その他	K	1			1		
451	チューハイ	チューハイ	酎＋ハイ	名詞一般		H	3		3			
1032	チュツチュチュツ	チュツチュチュツ	ちゅつちゅつちゅつちゅつ	副詞		W	1	1				
1358	チョ	チョ		その他	音を表す	W	2				2	
584	チョウジ	チョウジ	丁子／丁字	名詞一般	動植物	K	1		1			
1123	チョット	チョット	＝少／▽烏漢／ちよっと	副詞		W	4	2		1		1
1033	チョロチョロ	チョロチョロ	ちよろちよろ	副詞		W	1	1				
1303	チョンガレ	チョンガレ		その他	専門的な用語	W	1				1	
183	チラシ	チラシ	散らし／ちらし	名詞一般		W	20	9	8	2		1
1034	チラチラ	チラチラ	ちらちら	副詞		W	1	1				
96	チリ	チリ	×塵／ちり	名詞一般		W	2	1			1	
542	チンゲンサイ	チンゲン菜	▽青／梗菜	名詞一般	動植物	K	3				3	
1223	ツ	ツ【新!!つくろ!!【ほんでもない!!】	つ	助詞 終助詞		W	3	1	1	1		
600	ツ	ツ	つ	名詞 接尾 助数詞		W	1				1	
1279	ツ	ツ		その他	引用時の符号	W	1					1
1359	ツウ	ツウ		その他	音を表す	W	1				1	
465	ツエーマン	ツエーマン	ツエー万	名詞一般	隠語	H	1	1				
789	ツカエル	ツカエル	使える／つかえる	動詞		W	1			1		
1259	ツキ・ヒ・ホシ	ツキ・ヒ・ホシ、ホイホイホイ		その他	鳥の鳴き声	W	1				1	
126	ツキモノ	ツキモノ	×憑き物／つきもの	名詞一般		W	1					1
790	ツク	ツク	付く／▽附く／つく	動詞		W	1		1			
259	ツケ	ツケ	付け／▽附け／つけ	名詞一般		W	2	1			1	
791	ツッコム	ツッコむ	突っ込む／つっこむ	動詞		W	1	1				
792	ツッコム	ツッコんだ	突っ込む／つっこむ	動詞		W	1	1				
322	ツツパリ	ツツパリ	突っ張り／つっぱり	名詞一般		W	1				1	
506	ツバキ	ツバキ	×椿／つばき	名詞一般	動植物	W	2				2	
323	ツブ	ツブ	粒／つぶ	名詞一般		W	1			1		
58	ツボ	ツボ	×壺／つぼ	名詞一般		W	9	8	1			
127	ツボ	肩ツボ	×壺／つぼ	名詞一般		W	1		1			
128	ツボ	腰ツボ	×壺／つぼ	名詞一般		W	1		1			
1304	ツマ	ツマ		その他	専門的な用語	W	3					3
73	ツマミ	ツマミ	▽摘み／▽撮み／つまみ	名詞一般		W	4				4	
324	ツメ	ツメ	※爪／つめ	名詞一般		W	1				1	
190	ツヤ	ツヤ	※艶／つや	名詞一般		W	11		6		5	
793	ツヤメク	ツヤめく	艶めく／つやめく	動詞		W	1			1		
663	ツヤヤカ	ツヤヤカ	艶やか／つややか	名詞 形容動詞語幹		W	1				1	
38	ツラ	ツラ	づら	名詞一般		W	1	1				
835	ツライ	ツライ	▽辛い／つらい	形容詞		W	3		1	2		
852	ツライ	ツライ	▽辛い／つらい	形容詞		W	1			1		

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	学術	メール
129	ツル	ツル	×蔓/つる	名詞一般		W	1					1
1035	ツルッ	ツルっ	つるっ	副詞		W	1			1		
1036	ツルッ	ツルッ	つるっ	副詞		W	1				1	
926	ツルツル	ツルツル	つるつる	副詞		W	3				3	
946	ツルン	ツルン	つるん	副詞		W	2		1	1		
1305	ツレ	ツレ		その他	専門的な用語	W	1					1
130	ツワリ	ツワリ	悪阻/つわり	名詞一般		W	1	1				
1037	ツン	ツン	つん	副詞		W	1				1	
39	ツンデレ	ツンデレ	つんでれ	名詞一般		W	1	1				
1280	テ	テ		その他	引用時の符号	W	1					1
1457	テ	テ		その他	語形を表す	W	39					39
1230	デ	デ【ストロ・デ・フリマ】	で	助詞-格助詞		W	1			1		
1256	デアライ	手洗い	手洗い/てあらい	その他	活用語尾	W	2					2
821	デカイ	デカイ	でかい の省略形	形容詞		W	1			1		
822	デカイ	デカすぎ	でかい	形容詞		W	1			1		
823	デカイ	デカイ	でかい	形容詞		W	1					1
824	デカイ	デッカイ	でっかい	形容詞		W	1	1				
21	デカリ	デカリ	でかり	名詞一般		W	2			2		
737	テカル	テカリにくい	てかる	動詞		W	1		1			
674	テキトウ	テキトー	適当	名詞-形容動詞語幹		K	3	1	1			1
653	テキメン	テキメン	×観面	名詞-形容動詞語幹		K	1	1				
773	デキル	デキル	出来る/できる	動詞		W	3		1	2		
131	デコ	デコ	×櫃子/×櫃/てこ	名詞一般		W	1	1				
701	デコボコ	デコボコ	でこぼこ	名詞-サ変接続		W	1	1				
420	テッパン	テッパン	鉄板	名詞一般		K	1				1	
168	テッパン	テッパン	▽天辺	名詞一般		K	1		1			
641	デブ	デブ	でぶ	名詞-形容動詞語幹		W	1	1				
325	デリヤキ	デリヤキ	照り焼き/てりやき	名詞一般		W	1			1		
702	デレデレ	デレデレ	でれでれ	名詞-サ変接続		W	1	1				
720	デンサク	デンサク	添削	名詞-サ変接続		K	1		1			
466	デンスケトバク	デンスケ賭博	伝助賭博	名詞一般		H	1	1				
1237	ド	ド	弩/ど	接頭辞-名詞接続		W	5	4				1
1291	トウ	トウ		ルビ	【10ちゃん】の【10】に付されたルビ	W	1		1			
1360	トウ	トウ		その他	音を表す	W	1					1
1361	ドウ	ドウ		その他	音を表す	W	1					1
1220	トゥース	トゥース	とーす	感動詞		?	1	1				
1221	トゥットゥルー	トゥットゥルー	とぅつとぅるー	感動詞		?	1	1				
1038	ドオオオオン	ドオオオオン	どおおおん	副詞		W	1	1				
1306	トガキ	ト書き		その他	専門的な用語	W	1					1
1039	ドカン	ドカン	どかん(擬音・擬態)	副詞		W	1			1		
326	トキ	赤リトキ	時/とき	名詞一般		W	1			1		
947	ドキッ	ドキッ	どきっ	副詞		W	2	1		1		
900	ドキドキ	ドキドキ	どきどき	副詞		W	5	3	1			1
738	トキメク	トキめく	ときめく	動詞		W	1	1				
378	トク	トク	得	名詞一般		K	3			3		
421	トク	おトク	お得	名詞一般		K	1			1		
467	トク	エコ・トク	エコ+得	名詞一般		H	1		1			
671	トク	おトク	お得	名詞-形容動詞語幹		K	36		5	30	1	
708	トク	トク	得	名詞-サ変接続		K	6			5	1	
422	トクトク	トクトク	得々	名詞一般		K	1			1		
423	トクホ	トクホ	特保	名詞一般		K	1			1		
132	トゲ	トゲ	▽刺/×棘/とげ	名詞一般		W	1				1	
97	トロ	トロ	▽所/とこ	名詞一般		W	2			2		
1420	トロ	トロ		その他	訓の表示	W	1					1
1040	トロコ	トロコ	とことこ	副詞		W	1	1				
1041	トロトン	トロトン	とことん	副詞		W	1			1		
133	トサカ	トサカ	鶏=冠/とさか	名詞一般		W	1	1				
327	トシ	トシ	年/▽歳/とし	名詞一般		W	1					1
40	トス	トス	どす	名詞一般		W	1	1				
1042	ドッ	ドッ	どっ	副詞		W	1				1	
948	ドッキリ	ドッキリ	どっきり	副詞		W	2	1		1		
134	トドメ	トドメ	▽止め/とどめ	名詞一般		W	1	1				
794	トブ	トんで	飛ぶ/とぶ	動詞		W	1	1				
41	ドヤガオ	ドヤ顔	どや顔	名詞一般		W	1	1				
260	トリハダ	トリハダ	鳥肌/とりはだ	名詞一般		W	2	2				
42	トロ	トロ	とろ	名詞一般		W	1	1				
43	トロ	豚トロ	とろ	名詞一般		W	1	1				
328	ドロ	ドロ	泥/どろ	名詞一般		W	1	1				
825	トロイ	トロい	とろい	形容詞		W	1	1				
949	ドロドロ	ドロドロ	どろどろ	副詞		W	2	1			1	
1043	トロリ	トロリ	とろり	副詞		W	1	1				
1044	トロソ	トロソ	とろん	副詞		W	1			1		
1045	ドワウン	ドワウン	どわうん	副詞		W	1	1				
1046	ドン	ドン	どん	副詞		W	1			1		
44	トンカチ	トンカチ	とんかち	名詞一般		W	1	1				
1047	ドンドン	ドンドン	どんどん	副詞		W	1	1				
530	トンボ	トンボ	蜻=蛉/蜻=蜓/とんぼ	名詞一般	動植物	W	1				1	
1400	ナ	ナ		その他	五十音図の行・段を示す	W	3					3
864	ナイ	ナイ	無い/ない	形容詞		W	1					1
389	ナイショ	ナイショ	内緒	名詞一般		K	2			2		
1307	ナカノモノ	ナカノ物		その他	専門的な用語	W	1					1
1458	ナガラ	ナガラ		その他	語形を表す	W	1					1

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	学術	メール
1459	ナシ	ナシ		その他	語形を表す	W	1					1
1125	ナゼ	ナゼ	何=故/なぜ	副詞		W	3	2		1		
189	ナゾ	ナゾ	※謎/なぞ	名詞一般		W	13	13				
713	ナツク	ナツク	納得	名詞-サ変接続		K	2			1	1	
557	ナツミカン	ナツミカン	夏/なつ+▽蜜×柑	名詞一般	動植物	H	1				1	
587	ナツミカン	夏ミカン	夏/なつ+▽蜜×柑	名詞一般	動植物	H	2	2				
329	ナナメ	ナナメ	斜め/ななめ	名詞一般		W	1			1		
626	ナニ	ナニ	何/なに	名詞-代名詞		W	1			1		
330	ナマ	ナマ	生/なま	名詞一般		W	1			1		
486	ナマコ	ナマコ	海=鼠/なまこ	名詞一般	動植物	W	5	5				
759	ナメル	ナメル	×嘗める/×舐める/なめる	動詞		W	1			1		
1048	ナヨナヨ	ナヨナヨ	なよなよ	副詞		W	1	1				
1460	ナリ	ナリ		その他	語形を表す	W	1					1
1308	ナリチョウ	ナリ調		その他	専門的な用語	W	2					2
795	ナル	ナレ	成る/▽為る/なる	動詞		W	1			1		
1461	ナル	ナル		その他	語形を表す	W	19					19
135	ナルト	ナルト	鳴門/なると	名詞一般		W	1				1	
1208	ナント	ナント	何と/なんと	感動詞		W	1	1				
711	ナンバ	ナンバ	軟派	名詞-サ変接続		K	3	3				
1362	ニ	ニ		その他	音を表す	W	2					2
1413	ニ	ニ		その他	仮名の音を表す	W	3					3
174	ニオイ	ニオイ	※匂い/※臭い/におい	名詞一般		W	61		16	18	27	
1462	ニオイ	ニオイ		その他	語形を表す	W	1					1
444	ニオイキン	ニオイ菌	※匂い/※臭い/におい	名詞一般		H	5		2	3		
774	ニオウ	ニオわない	臭う/におう	動詞		W	2		1		1	
1463	ニオウ	ニオウ		その他	語形を表す	W	3					3
865	ニガイ	ニガイ	苦い/にがい	形容詞		W	1		1			
61	ニキビ	ニキビ	面=施/にきび	名詞一般		W	8	1	1	6		
866	ニクイ	ニクイ	憎い/にくい	形容詞		W	1			1		
1049	ニコッ	ニコッ	にっこ	副詞		W	1	1				
950	ニコニコ	ニコニコ	にこにこ	副詞		W	2	2				
1238	ニセ	ニセ	偽/×贋/にせ	接頭辞-名詞接続		W	1	1				
1050	ニッコリ	ニッコリ	にっこり	副詞		W	1	1				
1464	ニホヒ	ニホヒ		その他	語形を表す	W	15					15
1465	ニホフ	ニホフ		その他	語形を表す	W	62					62
1363	ニヤ	ニヤ		その他	音を表す	W	4					4
1179	ニヤ	ニヤ~~~~	にや~~~~	感動詞		W	1		1			
1364	ニユ	ニユ		その他	音を表す	W	4					4
1365	ニョ	ニョ		その他	音を表す	W	5					5
495	ニラ	ニラ	×韭/×韭/にら	名詞一般	動植物	W	3	1			2	
136	ニワカアメ	ニワカ雨	×俄雨/にはわか雨/にはわかめ	名詞一般		W	1			1		
573	ニワトリ	ニワトリ	鶏/にわとり	名詞一般	動植物	W	1	1				
577	ニンジン	ニンジン	人参	名詞一般	動植物	K	3		2		1	
592	ニンジン	金時ニンジン	金時人参	名詞一般	動植物	H	1	1				
540	ニンニク	ニンニク	大=蒜/×葫	名詞一般	動植物	K	5	1	3		1	
1051	ニンマリ	ニンマリ	にんまり	副詞		W	1	1				
1366	ヌウ	ヌウ		その他	音を表す	W	1					1
98	ヌカ	ヌカ	×糠/ぬか	名詞一般		W	2				2	
99	ヌカ	肌ヌカ	肌×糠/ぬか	名詞一般		W	2				2	
100	ヌメリ	ヌメリ	▽滑り/ぬめり	名詞一般		W	2	1			1	
233	ヌリ	ヌリ	塗り/ぬり	名詞一般		W	3			3		
1052	ヌルヌル	ヌルヌル	ぬるぬる	副詞		W	1	1				
1222	ネ	ネ【遊んでネ!】など		助詞-終助詞		W	9			5	3	1
331	ネガイ	ネガイ	願い/ねがい	名詞一般		W	1			1		
481	ネギ	ネギ	×葱/ねぎ	名詞一般	動植物	W	14	4			10	
531	ネギ	下仁田ネギ	下仁田+ ×葱/ねぎ	名詞一般	動植物	W	1	1				
532	ネギ	長ネギ	×葱/ねぎ	名詞一般	動植物	W	1				1	
507	ネズミ	ネズミ族	×鼠/ねずみ+族	名詞一般	動植物	W	2	2				
3	ネタ	ネタ	ねた	名詞一般		W	9	6		1		1
1053	ネチャネチャ	ネチャネチャ	ねちゃねちゃ	副詞		W	1	1				
951	ネツトリ	ネツトリ	ねつとり	副詞		W	2	1			1	
695	ネバネバ	ネバネバ	ねばねば	名詞-サ変接続		W	3	1	2			
424	ネンビ	低ネンビ	燃費	名詞一般		K	1		1			
1367	ノ	ノ		その他	音を表す	W	7					7
1368	ノウ	ノウ		その他	音を表す	W	1					1
425	ノウテンキ	ノ=天気	能天気	名詞一般		K	1					1
101	ノコ	ノコ	×鯉/のこ	名詞一般		W	2				2	
192	ノド	ノド	※喉/×咽/のど	名詞一般		W	10	3		2	5	
496	ノビル	ノビル	野×蒜/のびる	名詞一般	動植物	W	3	3				
1286	ノボル	ノボル		その他	住所	W	1					1
574	ノラネコ	ノラ猫	野良猫/のらねこ	名詞一般	動植物	W	1	1				
220	ノリ	ノリ	乗り/のり	名詞一般		W	4	4				
1283	ハ	ハ		その他	数え上げの記号 (1、2、3…と同じ)	W	1					2
1401	ハ	ハ		その他	五十音図の行・ 段を示す	W	25					25
1369	バ	バ		その他	音を表す	W	1					1
1414	バ	バ		その他	仮名の音を表す	W	13					13
1054	バァーッ	バァーッ	ばぁーっ	副詞		W	1	1				
1149	ハイ	ハイ	はい	感動詞		W	7	4	2			1
161	バイキン	バイ菌	×菌	名詞一般		K	2		2			
1258	ハイリナ	入りーナ	入りーな	その他	活用語尾	W	1			1		
533	ハエ	ハエ	×蠅/はえ	名詞一般	動植物	W	1					1

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	学術	メール
672	バカ	バカ	馬※鹿／×莫×迦	名詞-形容動詞語幹		K	13	11	1	1		
1203	バカ	バカ	馬※鹿／×莫×迦	感動詞		K	2	2				
261	ハガキ	ハガキ	葉書／はがき	名詞-一般		W	2	1				1
796	ハガス	ハガス	剃がす／はがす	動詞		W	1				1	
468	バカダレ	バカダレ	馬※鹿／×莫×迦／ばか+たれ	名詞-一般		H	1	1				
1209	バカヤロー	バカヤロー	馬※鹿／×莫×迦 野郎	感動詞		K	6	6				
880	バカラシイ	バカラしい	馬※鹿／×莫×迦らしい	形容詞		H	1	1				
1055	バキバキ	バキバキ	ばきばき	副詞		W	1	1				
172	ハク	アルミハク	×箔	名詞-一般		H	3				3	
45	バク	ロバク	ばく	名詞-一般		W	1	1				
46	バク	音バク	ばく	名詞-一般		W	1	1				
225	ハグキ	ハグキ	歯茎／はぐき	名詞-一般		W	4		3		1	
1056	バクツ	バクツ	ばくつ	副詞		W	1	1				
558	ハクトウシ	ハクトウシ	白頭×鶯／わし	名詞-一般	動植物	H	1	1				
721	バクハツ	バクハツ	爆発	名詞-サ変接続		K	1					1
169	ハクリ	ハクリ	×剥離	名詞-一般		K	1				1	
727	バクル	バクリ	ばくる	動詞		W	2	2				
137	ハゲ	ハゲ	×禿／はげ	名詞-一般		W	1	1				
332	バケモン	バケモン	化けもん／ばけもん	名詞-一般		W	1	1				
1309	ハコビ	ハコビ	その他	その他	専門的な用語	W	7					7
11	バサツキ	バサつき	ばさつき	名詞-一般		W	4		1		3	
739	バサツク	バサつく	ばさつく	動詞		W	1			1		
1057	バサバサ	バサバサ	ばさばさ	副詞		W	1			1		
55	ハサミ	ハサミ	×鉄／剪＝刀／はさみ	名詞-一般		W	17	3			14	
1466	バシ	(バ)シ	その他	その他	語形を表す	W	2					2
760	バジケル	バジケル	▽弾ける／はじける	動詞		W	1			1		
1058	バシッ	バシッ	ばしっ	副詞		W	1	1				
1059	バシバシ	バシバシ	ばしばし	副詞		W	1	1				
489	ハシブトガラス	ハシブトガラス	×嘴太×鶯／はしぶとがらす	名詞-一般	動植物	W	4	4				
497	ハシボソガラス	ハシボソガラス	×嘴細×鶯／はしぼそがらす	名詞-一般	動植物	W	3	3				
952	バシヤツ	バシヤツ	ばしやつ	副詞		W	2			2		
559	バシヨウカジキ	バシヨウカジキ	×芭×蕉×根木／×芭×蕉=魚	名詞-一般	動植物	H	1		1			
138	ハズ	ハズ	×筈／はず	名詞-一般		W	1	1				
826	ハズカシイ	はずかしい	恥ずかしい／はずかしい	形容詞		W	1	1				
867	ハズカシイ	ハズカシイ	恥ずかしい／はずかしい	形容詞		W	1			1		
333	ハズレ	ハズレ	外れ／はずれ	名詞-一般		W	1	1				
775	ハズレル	ハズレた	外れる／はずれる	動詞		W	2	2				
740	バタツク	バタつく	ばたつく	動詞		W	1					1
953	バタバタ	バタバタ	ばたばた	副詞		W	2					2
1060	バタバタツ	バタバタツ	ばたばたつ	副詞		W	1	1				
797	ハタラク	ハタラク	働く／はたらく	動詞		W	1			1		
1247	ハチ	ハチ	八	名詞-数	【一か八か】	K	1	1				
1061	バチツ	バチツ	ばちつ	副詞		W	1	1				
1062	バチバチ	バチバチ	ばちばち	副詞		W	1				1	
17	バチンコ	バチンコ	ばちんこ	名詞-一般		W	3	1	2			
1063	ハッ	ハッ	はっ	副詞		W	1					1
1156	ハッ	ハッ	はっ	感動詞		W	2	2				
1064	バッ	バッ	ばっ	副詞		W	1	1				
390	バツ	バツ	罰	名詞-一般		K	2	1				1
890	バツ	バツ	ばっ	副詞		W	9	4	2	1	2	
368	バツイチ	バツイチ	罰一	名詞-一般		K	6	6				
426	バツイチ	バツイチ	罰一	名詞-一般		K	1	1				
903	ハッキリ	ハッキリ	はっきり	副詞		W	4	4				
1065	バツクリ	バツクリ	ばつくり	副詞		W	1		1			
427	バツゲン	バツゲン	抜群	名詞-一般		K	1					1
889	バツチリ	バツチリ	ばつちり	副詞		W	9	7				2
379	バツテン	バツテン	罰点	名詞-一般		K	3	3				
428	バツニ	バツニ	罰二	名詞-一般		K	1	1				
1066	バツバツ	バツバツ	ばつばつ	副詞		W	1	1				
1130	ハツラツ	ハツラツ	×澆×刺／×澆×刺	副詞		K	1		1			
1067	バツン	バツン	ばつん	副詞		W	1	1				
22	バテ	夏バテ	ばて	名詞-一般		W	2			2		
1180	ハテナ	ハテナ	はてな	感動詞		W	1	1				
741	バテた	バテた	ばてた	動詞		W	1	1				
487	ハト	ハト	×鳩／×鴿／はと	名詞-一般	動植物	W	5	5				
227	ハナ	ハナ	鼻／はな	名詞-一般		W	4					4
218	ハネ	ハネ	跳ね／×撥ね／はね	名詞-一般		W	5					5
102	バナ	バナ	筈＝糸／撥＝糸／撥＝機／はね	名詞-一般		W	2				1	1
1181	ハハ	ハハ	はは	感動詞		W	1					1
69	ババア	ババア	▽婆／ばばあ	名詞-一般		W	4	4				
1182	ハハハハ	ハハハハ	はははは	感動詞		W	1	1				
749	ハマル	ハマる	×嵌まる／▽埋まる／はまる	動詞		W	8	3	2	3		
752	ハマル	ハマッテ	×嵌まる／▽埋まる／はまる	動詞		W	2	1		1		
234	ハミガキ	ハミガキ	歯みがき／はみがき	名詞-一般		W	3		1			2
334	ハミガキコ	ハミガキ粉	歯磨き／はみがき	名詞-一般		W	1		1			
761	ハメル	ハメル	×嵌める／▽埋める／はめる	動詞		W	1	1				
868	ハヤイ	ハヤイ	早い／速い／はやい	形容詞		W	1			1		
1467	ハヤイ	ハヤイ	その他	その他	語形を表す	W	2					2
335	ハラ	ハラ	腹／×肚／はら	名詞-一般		W	1			1		
139	バラ	バラ	×肋／ばら	名詞-一般		W	1	1				
508	バラ	バラ	薔＝薔／ばら	名詞-一般	動植物	W	2			2		
742	バラス	バラし	ばらす	動詞		W	1	1				
7	バラツキ	バラつき	ばらつき	名詞-一般		W	5				2	3
725	バラツク	バラつく	ばらつく	動詞		W	3	1				2
10	バラツメ	バラ詰	ばら(ばらばらの省略形)+詰	名詞-一般		W	4		4			

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	学術	メール	
894	バラバラ	バラバラ	ばらばら	副詞		W	7	2			1	3	1
954	バラバラ	バラバラ	ばらばら	副詞		W	2		1		1		1
103	バラマキ	バラマキ	▽散×蒔き/ばらまき	名詞一般		W	2	2					
235	ハラミ	ハラミ	腹身/はらみ	名詞一般		W	3	3					
182	ハリ	ハリ	張り/はり	名詞一般		W	21		7	3	11		
262	ハリ	ハリ肌	張り/はり	名詞一般		W	2		2				
336	ハリ	ハリつや	張り/はり	名詞一般		W	1		1				
337	ハリ	ハリツヤ	張り/はり+ 艶/つや	名詞一般		W	1		1				
338	ハリ	肌ハリ	張り/はり	名詞一般		W	1		1				
1068	バリ	バリ	ばり(ばりばりの省略形)	副詞		W	1		1				
1069	バリ	バリうま	ばり(ばりばりの省略形)	副詞		W	1				1		
23	バリカタ	バリ肩	ばり(ばりばりの省略形)+肩	名詞一般		W	2		1	1			
597	ハリザッコ	ハリザッコ	はりざっこ(漢字表記の有無不明)	名詞一般	動植物	W	1						
887	バリッ	バリッ	ばりっ	副詞		W	10	3			7		
902	バリバリ	バリバリ	ばりばり	副詞		W	5	2					3
899	バリバリ	バリバリ	ばりばり	副詞		W	5	3	2				
339	ハル	ハル	春/はる	名詞一般		W	1	1					
642	ハレハレ	ハレハレ	ばればれ	名詞-形容動詞語幹		W	1			1			
1070	ハレハレ	ハレハレ	ばればれ	副詞		W	1						1
723	ハレル	ハレル	ばれる	動詞		W	8	8					
429	バン	バン犬	番犬	名詞一般		K	1	1					
430	バン	ご意見バン!	御意見番	名詞一般		K	1	1					
431	バンガイヘン	バンガイヘン	番外編	名詞一般		K	1	1					
469	ハンコ	ハンコ	判子/はんこ	名詞一般		H	1	1					
470	ハンツケ	ハンづけ	番付(け)	名詞一般		H	1	1					
690	ハンパ	ハンパ	半端	名詞-形容動詞語幹		H	2	2					
1071	バンバン	バンバン	ばんばん	副詞		W	1	1					
907	バンバン	バンバン	ばんばん	副詞		W	4	3					1
1183	ヒーイ	ヒーイ	ひーい	感動詞		W	1	1					
1184	ヒーヒー	ヒーヒー	ひーひー	感動詞		W	1	1					
1072	ヒー	ヒー	ひーん	副詞		W	1		1				
664	ヒエヒエ	ヒエヒエ	冷え冷え/ひえひえ	名詞-形容動詞語幹		W	1			1			
1073	ヒカッ	ヒカッ	ひかっ	副詞		W	1			1			
901	ヒカヒカ	ヒカヒカ	ひかひか	副詞		W	5	3				2	
798	ヒク	ヒク	引く/ひく	動詞		W	1	1					
1074	ビクモ	ビクとも	びくとも	副詞		W	1						1
67	ヒゲ	ヒゲ	×髯/×鬚/×髯/ひげ	名詞一般		W	5			4			1
170	ヒケツ	ヒケツ	袂×袂	名詞一般		K	1	1					
432	ヒコウキ	ヒコウキ	飛行機	名詞一般		K	1			1			
208	ヒザ	ヒザ	膝/ひざ	名詞一般		W	6		1	5			
236	ヒジ	ヒジ	肘/×肱/×臂/ひじ	名詞一般		W	3			3			
1075	ビシバシ	ビシバシ	びしばし	副詞		W	1						1
1076	ビシャーッ	ビシャーッ	びしゃーっ	副詞		W	1	1					
340	ビシヨスレ	ビシヨ濡れ	びしよ+ 濡れ	名詞一般		W	1			1			
895	ビタッ	ビタッ	びたっ	副詞		W	6	2	1		3		
1077	ビッ	ビッ	びっ	副詞		W	1		1				
341	ヒッカケ	ヒッカケ	引っ掛け/引-懸け/ひっかけ	名詞一般		W	1	1					
694	ビククリ	ビククリ	びくくり	名詞-サ変接続		W	14	11	1	1			1
1078	ビッシュヨリ	ビッシュヨリ	びっしより	副詞		W	1	1					
632	ビツタリ	ビツタリ	びつたり	名詞-形容動詞語幹		W	2	2					
643	ビツタリ	ビツタリ	びつたり	名詞-形容動詞語幹		W	1	1					
882	ビツタリ	ビツタリ	びつたり	副詞		W	23	10	1	1	10		1
1185	ヒッピーイ	ヒッピーイ	ひっぴーい	感動詞		W	1	1					
195	ヒト	ヒト	人/ひと	名詞一般		W	9	1	2	1		3	2
562	ヒト	ヒト	人/ひと	名詞一般	動植物(種)	W	4						4
342	ヒトアジ	ヒト味	一味/ひとあじ	名詞一般		W	1		1				
839	ヒドイ	ヒドイ	▽醜い/非▽道い/ひどい	形容詞		W	2	2					
343	ヒトネタ	ヒトネタ	一ねた/ひとねた	名詞一般		W	1	1					
344	ヒトリジメ	ヒトリジメ	独り占め/ひとりじめ	名詞一般		W	1			1			
64	ヒナ	ヒナ	×雛/ひな	名詞一般		W	6	6					
433	ビハク	ビハク	美白	名詞一般		K	1		1				
62	ヒビ	ヒビ	×鱗/ひび	名詞一般		W	8		3	1	4		
955	ビビッ	ビビッ	びびっ	副詞		W	2		2				
728	ビビル	ビビル	びびる	動詞		W	2	2					
371	ヒフカ	ヒフ科	皮膚	名詞一般		K	5		3	1	1		
1260	ヒフノコト	ヒフノコト	皮膚の事/皮膚のこと	その他	複合	H	1				1		
263	ヒマ	ヒマ	暇/×隙/ひま	名詞一般		W	2	1					1
365	ヒミツ	ヒミツ	秘密	名詞一般		K	12	4		4	4		
71	ヒモ	ヒモ	×紐/ひも	名詞一般		W	4	2			2		
1370	ヒヤ	ヒヤ	その他	音を表す		W	1					1	
345	ヒヤ	ヒヤ	冷や/ひや	名詞一般		W	1				1		
1371	ヒヤ	ヒヤ	その他	音を表す		W	1					1	
1372	ヒュ	ヒュ	その他	音を表す		W	1					1	
1373	ビュ	ビュ	その他	音を表す		W	1					1	
1374	ヒョ	ヒョ	その他	音を表す		W	1					1	
1375	ビョ	ビョ	その他	音を表す		W	1					1	
534	ヒヨコ	ヒヨコ	×雛/ひよこ	名詞一般	動植物	W	1	1					
1250	ビョン	ビョン	びょん	名詞-接尾人名		W	1	1					
140	ビラ	ビラ	▽片/▽枚/びら	名詞一般		W	1	1					
1079	ビラビラ	ビラビラ	びらびら	副詞		W	1	1					
1310	ヒラメキン	ヒラメ筋	平目/比=目=魚/×鮪+筋	その他	専門的な用語	W	3						3
12	ビリカラ	ビリ辛	びり辛/びりから	名詞一般		W	4		1		3		
1080	ビリッ	ビリッ	びりっ	副詞		W	1				1		
1081	ビリビリ	ビリビリ	びりびり	副詞		W	1	1					
1082	ビリビリ	ビリビリ	びりびり	副詞		W	1				1		

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	学術	メール
956	ビリ	ビリ	びり	副詞		W	2				2	
380	ビン	ビン	瓶／×壇／×樽	名詞一般		K	3		1		2	
916	ピン	ピン	びん	副詞		W	3	2			1	
1083	ピンツ	ピンツ	びん	副詞		W	1			1		
1084	ピンヤリ	ピンヤリ	ひんやり	副詞		W	1	1				
1085	ブイ	ブイ	ぶい	副詞		W	1	1				
1376	フウ	フウ		その他	音を表す	W	2				2	
434	フータロウ	フータロウ	風太郎	名詞一般		K	1					1
346	フエ	フエ	笛／ふえ	名詞一般		W	1	1				
1217	フオー	フオー	ふおー	感動詞		W?	2	2				
162	フキン	フキン	布×巾	名詞一般		K	2		1		1	
509	フクロウ	フクロウ	×鼻／ふくろう	名詞一般	動植物	W	2	2				
70	フケ	フケ	糞=脂／頭=垢／ふけ	名詞一般		W	4	2	1		1	
678	フサイク	フサイク	不細工	名詞-形容動詞語幹		K	2	2				
477	フサメン	フサメン	ぶさ(不細工の省略形)+面/men	名詞一般		H	4	4				
541	フシユカン	フシユカン	▽仏手×柑	名詞一般	動植物	K	3	3				
476	フス	フス	ぶす	名詞一般		W?	2	1		1		
176	フタ	フタ	※蓋／ふた	名詞一般		W	52	10	2		40	
575	フタ	フタ	豚／ぶた	名詞一般	動植物	W	1	1				
196	フチ	フチ	縁／ふち	名詞一般		W	9				9	
1086	フチツ	フチツ	ぶちつ	副詞		W	1	1				
908	フチブチ	フチブチ	ぶちぶち	副詞		W	4	2		1	1	
381	フツウ	フツウ	普通	名詞一般		K	3		1			2
1145	フツウ	フツウ	普通	副詞		K	1	1				
1087	フツクリ	フツクリ	ぶつくり	副詞		W	1		1			
479	フツメン	フツメン	ぶつ(普通の省略形)+面/men	名詞一般		H	1	1				
892	フト	フト	ぶと	副詞		W	8					8
535	フナシメジ	フナシメジ	×榎樹地/×榎占地/ぶなしめじ	名詞一般	動植物	W	1		1			
1088	フニヤ	フニヤ	ぶにや	副詞		W	1	1				
1186	フハー	フハー	ぶはー	感動詞		W	1			1		
1157	フフフ	フフフ	ふふふ	感動詞		W	2	1				1
1187	フフフフ	フフフフ	ふふふふ	感動詞		W	1	1				
1089	フヨブヨ	フヨブヨ	ぶよぶよ	副詞		W	1	1				
799	フラレル	フラレル	振られる／ふられる	副詞		W	1	1				
237	フリ	フリ	振り／▽風／ふり	名詞一般		W	3	2		1		
264	フリ	腰フリ	振り／ふり	名詞一般		W	2	2				
265	フリ	ネタフリ	ねた+振り／ふり	名詞一般		W	2	2				
347	フリガナ	フリガナ	振り仮名／振りがな／ふりがな	名詞一般		W	1					1
1090	フリツ	フリツ	ぶりつ	副詞		W	1	1				
906	フリフリ	フリフリ	ぶりぶり	副詞		W	4	3			1	
1091	ブルツ	ブルツ	ぶるつ	副詞		W	1			1		
47	ブレ	ブレ	ぶれ	名詞一般		W	1	1				
743	ブレル	ブレなさ	ぶれる	動詞		W	1	1				
744	ブレル	ブレる	ぶれる	動詞		W	1				1	
1092	フワーツ	フワーツ	ふわーつ	副詞		W	1	1				
957	フワフワ	フワフワ	ふわふわ	副詞		W	2	2				
158	フン	フン	×糞	名詞一般	動植物	K	4	2		1	1	
578	フンタン	フンタン	文旦	名詞一般	動植物	K	2	2				
745	フンナグル	フン殴る	ぶん殴る／ぶんなぐる	動詞		W	1	1				
1093	フンブン	フンブン	ぶんぶん	副詞		W	1	1				
1094	ベコツ	ベコツ	べこつ	副詞		W	1		1			
141	ヘコミ	ヘコミ	▽凹み／へこみ	名詞一般		W	1	1				
1095	ベコリ	ベコリ	べこり	副詞		W	1					1
72	ヘタ	ヘタ	×帯／へた	名詞一般		W	4	2			2	
665	ヘタ	ヘタ	下-手／へた	名詞-形容動詞語幹		W	1	1				
24	ベタ	ベタ	べた	名詞一般		W	2	1				1
633	ベタ	ベタ	べた	名詞-形容動詞語幹		W	2	2				
648	ヘタクソ	ヘタクソ	下-手×糞／へたくそ	名詞-形容動詞語幹		W	2	2				
4	ベタツキ	ベタつき	べたつき	名詞一般		W	9		1	5	3	
726	ベタツク	ベタつく	べたつく	動詞		W	3			1	2	
923	ベタベタ	ベタベタ	べたべた	副詞		W	3			1	2	
1096	ベタベタ	ベタベタ	べたべた	副詞		W	1			1		
1097	ベチャッ	ベチャッ	べちゃっ	副詞		W	1	1				
48	ベチャバイ	ベチャバイ	べちゃばい	名詞一般		W	1	1				
746	ベトツク	ベトつく	べとつく	動詞		W	1				1	
104	ヘラ	ヘラ	×簞／へら	名詞一般		W	2				2	
1098	ヘラヘラ	ヘラヘラ	へらへら	副詞		W	1	1				
1099	ベラベラ	ベラベラ	べらべら	副詞		W	1					1
1100	ベラベラ	ベラベラ	べらべら	副詞		W	1	1				
1101	ヘロヘロ	ヘロヘロ	へろへろ	副詞		W	1					1
1102	ベロベロ	ベロベロ	べろべろ	副詞		W	1	1				
677	ヘン	ヘン	変	名詞-形容動詞語幹		K	2			1		1
435	ベンピ	ベンピ	便秘	名詞一般		K	1			1		
675	ベンリ	ベンリ	便利	名詞-形容動詞語幹		K	3			3		
1188	ホイ	ホイ	はい	感動詞		W	1	1				
5	ホイステ	ホイ捨て	はい捨て	名詞一般		W	8	3	3	1	1	
1377	ボウ	ボウ		その他	音を表す	W	1					1
1378	ボウ	ボウ		その他	音を表す	W	1					1
80	ボウキ	ボウキ	×箒／ほうき	名詞一般		W	3	3				
436	ボウズ	ボウズ	坊主	名詞一般		K	1	1				
1131	ボウゼン	ボウゼン	×呆然	副詞		K	1	1				
1249	ボウダイ	ボウダイ	放題	名詞-接尾一般	その他	K	5		2	3		
915	ボウツ	ボウツ	ぼうつ	副詞		W	3	3				
1103	ボーン	ボーン	ぼーん	副詞		W	1	1				
1104	ボキボキ	ボキボキ	ぼきぼき	副詞		W	1	1				

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	学術	メール
627	ボク	ボク	僕	名詞一代名詞		K	9	5		4		
628	ボクチン	ボクチン	僕ちん	名詞一代名詞		H	1	1				
105	ボケ	ボケ	×惚け/×呆け/ぼけ	名詞一般		W	2	2				
762	ボケル	ボケ出したら	×惚ける/×呆ける/ぼける	動詞		W	1	1				
763	ボケル	ボケだしたら	×惚ける/×呆ける/ぼける	動詞		W	1	1				
764	ボケル	ボケない	×惚ける/×呆ける/ぼける	動詞		W	1		1			
1105	ボコボコ	ボコボコ	ぼこぼこ	副詞		W	1				1	
1106	ボコボコ	ボコボコ	ぼこぼこ	副詞		W	1	1				
59	ボコリ	ボコリ	×埃/ほこり	名詞一般		W	9	3			6	
747	ボコル	ボコられた	ぼこる	動詞		W	1	1				
1107	ボサボサ	ボサボサ	ぼさぼさ	副詞		W	1	1				
566	ボタテ	ボタテ	帆立/ほたて	名詞一般	動植物	W	2	1			1	
560	ボタンエビ	ボタンエビ	×牡丹亀=老/×牡丹×蝦/スビ	名詞一般	動植物	H	1	1				
49	ボチブクロ	ボチ袋	ぼち袋	名詞一般		W	1	1				
1108	ボチボチ	ボチボチ	ぼちぼち	副詞		W	1	1				
917	ボツ	ボツ	ぼつ	副詞		W	3	1		2		
437	ボツ	ボツ	没	名詞一般		K	1	1				
593	ホッキョクグマ	ホッキョクグマ	北極熊/くま	名詞一般	動植物	H	1	1				
1109	ボテッ	ボテッ	ぼてっ	副詞		W	1	1				
1189	ホニヤフラ	ホニヤフラ	ほにやらら	感動詞?		W	1	1				
1190	ホホホ	ホホホ	ほほほ	感動詞		W	1					1
1191	ホホホホ	ホホホホ	ほほほほ	感動詞		W	1					1
348	ホメコトバ	ホメ言葉	褒め/▽誉め/ほめ+言葉	名詞一般		W	1		1			
800	ホメル	ホメとる	褒める/▽誉める/ほめる	動詞		W	1	1				
142	ボロ	ボロ	糞=糞/ぼろ	名詞一般		W	1	1				
958	ボロボロ	ボロボロ	ぼろぼろ	副詞		W	2	1	1			
1110	ボロボロ	ボロボロ	ぼろぼろ	副詞		W	1	1				
959	ボン	ボン	ぼん	副詞		W	2	2				
897	ボン	ボン	ぼん	副詞		W	5	4	1			
594	ボンカン	ボンカン	ボン柑	名詞一般	動植物	H	1	1				
171	ボント	ボント	本▽当	名詞一般		K	1	1				
651	ボント	ボント	本▽当	名詞-形容動詞語幹		K	8	1				7
1202	ボント	ボント	本▽当	感動詞		K	16	7	1	3		5
1128	ボントウ	ボントウ	本▽当	副詞		K	7	4				3
471	ボンマ	ボンマ	本真	名詞一般		H	1	1				
689	ボンマ	ボンマ	本真	名詞-形容動詞語幹		H	4	4				
446	ボンモノ	ボンモノ	本物/本もの/ほんもの	名詞一般		H	4	2	1	1		
703	ボンワカ	ボンワカ	ほんわか	名詞-サ変接続		W	1	1				
1402	マ	マ		その他	五十音図の行・段を示す	W	1					1
510	マイダケ	マイダケ	舞×茸/まいたけ	名詞一般	動植物	W	2		1		1	
1311	マクラ	マクラ		その他	専門的な用語	W	1					1
50	マグル	マグル	まぐれ	名詞一般		W	1	1				
498	マグロ	マグロ	×鮪/まぐろ	名詞一般	動植物	W	3	3				
630	マジ	マジ	まじ(「真面目」の省略形)	名詞-形容動詞語幹		W	13	13				
666	マジメ	マジメ	真・面・目/まじめ	名詞-形容動詞語幹		W	1	1				
266	マス	マス	×枺/舟/×枻/▽斗/ます	名詞一般		W	2		2			
1232	マス	マス【起りてマスか?】【映画にしマス】	ます	助動詞		W	2		1	1		
832	マズイ	マズイ	不=味い/まずい	形容詞		W	6	4		1		1
853	マズイ	マズい	不=味い/まずい	形容詞		W	1	1				
1111	マツタリ	マツタリ	まつたり	副詞		W	1	1				
511	マテガイ	マテガイ	馬=刀貝/馬=蛤貝/×蝶貝	名詞一般	動植物	W	2	2				
1312	マドコオフスマ	マドコオフスマ		その他	専門的な用語	W	61					61
1313	マナシカタマ	マナシカタマ		その他	専門的な用語	W	4					4
1314	マナシカタマ/マブネ	マナシカタマ(マブネ)		その他	専門的な用語	W	1					1
267	マスケ	マスケ	間抜け/まぬけ	名詞一般		W	2	1				1
706	マネ	マネ	真▽似/まね	名詞-サ変接続		W	3	3				
156	マヒ	マヒ	麻×痺	名詞一般		K	8	8				
1289	ママ	ママ		ルビ	「原文のまま」の意	W	1					1
1290	ママ	ママ		ルビ	「原文のまま」の意	W	1					5
349	マメ	血マメ	豆/まめ	名詞一般		W	1	1				
472	マモノ	マモノ	魔物	名詞一般		H	1					1
1236	マル	マル	丸/まる	接頭辞-数接続		W	1			1		
869	マルイ	マルく	丸く/円く/まるく	形容詞		W	1			1		
1137	マルゴト	マルごと	丸/まるごと	副詞		W	1	1				
374	マンガ	マンガ	漫画	名詞一般		K	4		1	1		1
686	マンマン	マンマン	満々	名詞-形容動詞語幹		K	1					1
801	ミガク	ミガク	歴く/▽研く/×琢く/みがく	動詞		W	1		1			
238	ミカタ	ミカタ	味方/身方/▽御方/みかた	名詞一般		W	3		2	1		
546	ミカン	ミカン	▽蜜×柑	名詞一般	動植物	K	1	1				
1315	ミゴホウ	ミゴホウ		その他	専門的な用語	W	2					2
1112	ミシミシ	ミシミシ	みしみし	副詞		W	1	1				
350	ミゾ	ミゾ	溝/みぞ	名詞一般		W	1				1	
1316	ミツジウタイ	ミツジウタイ		その他	専門的な用語	W	2					2
576	ミドリムシ	ミドリムシ	緑虫/みどりむし	名詞一般	動植物	W	1			1		
802	ミノル	ミノル	実る/みゐる	動詞		W	1			1		
239	ミミ	ミミ	耳/みみ	名詞一般		W	3	2			1	
1421	ミモトノカタハラ	ミモトノカタハラ		その他	訓の表示	W	1					1
1379	ミヤ	ミヤ		その他	音を表す	W	1					1
1380	ミュ	ミュ		その他	音を表す	W	1					1
1381	ミョ	ミョ		その他	音を表す	W	1					1
499	ミウガ	ミウガ	×茗荷/みょうが	名詞一般	動植物	W	3	3				

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	学術	メール	
438	ミヨク	ミヨク	魅力	名詞一般		K	1			1			
620	ミンナ	ミンナ	▽皆/みんな	名詞代名詞		W	1		1				
1382	ム	ム		その他	音を表す	W	12					12	
1383	ムウ	ムウ		その他	音を表す	W	1					1	
748	ムカツク	ムかつく	むかつく	動詞		W	1	1					
351	ムコ	おムコ	婿/×婿/×贅/むこ	名詞一般		W	1	1					
240	ムシバ	ムシ歯	虫歯/むしば	名詞一般		W	3		1			2	
1138	ムシムシ	ムシムシ	蒸し蒸し/むしむし	副詞		W	1		1				
1113	ムスツ	ムスつと	むすつ	副詞		W	1			1			
203	ムダ	ムダ	無駄/▽徒/むだ	名詞一般		W	7	1	1	4	1		
656	ムダ	ムダ	無駄/▽徒/むだ	名詞形容動詞語幹		W	4	3		1			
268	ムダツカイ	ムダ遣い	無駄/▽徒/むだ	名詞一般		W	2	2					
143	ムチ	ムチ	×糠/×筍/むち	名詞一般		W	1	1					
63	ムラ	ムラ	×斑/むら	名詞一般		W	7			1	6		
1317	ムラ	ムラ	その他	その他	専門的な用語	W	1					1	
1318	ムラクニ	ムラ・クニ	その他	その他	専門的な用語	W	3					3	
439	ムリ	ムリ	無理	名詞一般		K	1	1					
679	ムリ	ムリ	無理	名詞形容動詞語幹		K	2	1		1			
217	ムレ	ムレ	蒸れ/むれ	名詞一般		W	5			1	4		
803	ムレル	ムれない	蒸れる/むれる	動詞		W	1			1			
215	メガネ	メガネ	眼・鏡/めがね	名詞一般		W	5		2	2		1	
241	メシ	メシ	飯/めし	名詞一般		W	3	1				2	
1122	メチャ	メッチャ	▽滅茶(当て字)/めっちゃ	副詞		W	6	6					
650	メチャクチャ	メチャクチャ	▽滅茶苦茶/めちやくちや	名詞形容動詞語幹		W	1	1					
804	メデル	メデ	愛でる/めでの	動詞		W	1	1					
200	メド	メド	目途/目▽処/めど	名詞一般		W	8	8					
644	メロメロ	メロメロ	めろめろ	名詞形容動詞語幹		W	1	1					
1384	モ	モ		その他	音を表す	W	1					1	
1385	モウ	モウ		その他	音を表す	W	1					1	
1114	モグモグ	モグモグ	もぐもぐ	副詞		W	1			1			
1115	モコモコ	モコモコ	もこもこ	副詞		W	1			1			
1116	モジモジ	モジモジ	もじもじ	副詞		W	1	1					
898	モチモチ	モチモチ	もちもち	副詞		W	5	4			1		
269	モテ	モテ	持て/もて	名詞一般		W	2	1	1				
667	モテモテ	モテモテ	持て持て/もてもて	名詞形容動詞語幹		W	1	1					
768	モテル	モテたい	持てる/もてる	動詞		W	13	12	1				
1255	モトメル	求ム	求める/もとめる	その他	活用語尾	W	2			2			
178	モノ	モノ	物/もの	名詞一般		W	34	9	3	10		8	4
442	モノ	旬モノ	物/もの	名詞一般		H	8	8					
473	モノ	正直モノ	正直者/もの	名詞一般		H	1	1					
352	モノサシ	モノサシ	物差し/ものさし	名詞一般		W	1		1				
1319	モノザネ	モノザネ	その他	その他	専門的な用語	W	6					6	
81	モノマネ	モノマネ	物真▽似/ものまね	名詞一般		W	3	3					
911	モヤモヤ	モヤモヤ	もやもや	副詞		W	4			3		1	
144	モリ	モリ	×鋸/もり	名詞一般		W	1	1					
353	モレ	伝いモレ	濡れ/×洩れ/もれ	名詞一般		W	1		1				
354	モレ	モレ	濡れ/×洩れ/もれ	名詞一般		W	1					1	
51	モン	モン	もん (【どんなモンヤ】)	名詞一般		W	1	1					
1386	ヤ	ヤ		その他	音を表す	W	12					12	
1403	ヤ	ヤ		その他	五十音図の行・段を示す	W	4					4	
355	ヤキモチ	ヤキモチ	焼きもち/やきもち	名詞一般		W	1					1	
145	ヤケグイ	ヤケ食い	自=棄/やけ+食い	名詞一般		W	1	1					
74	ヤケド	ヤケド	火=傷/やけど	名詞一般		W	4					4	
547	ヤシ	ヤシ	×椰子	名詞一般	動植物	K	1	1					
561	ヤシ	ヤシ殻	×椰子+殻/がら	名詞一般	動植物	H	1	1					
356	ヤジ	ヤジ	野次/弥次/やじ	名詞一般		W	1	1					
870	ヤスイ	ヤスク	安い/やすい	形容詞		W	1		1				
645	ヤダ	ヤダ	やだ	名詞形容動詞語幹		W	1	1					
1158	ヤダ	ヤダ	やだ	感動詞		W	2	2					
1192	ヤダヤダ	ヤダヤダ	やだやだ	感動詞		W	1					1	
610	ヤツ	ヤツ	▽奴/やつ	名詞代名詞		W	12	6	2	3	1		
813	ヤバイ	ヤバイ	やばい	形容詞		W	11	8	1	2			
814	ヤバイ	ヤバイ	やばい	形容詞		W	8	5		1		2	
827	ヤバイ	ヤバえ	やべえ	形容詞		W	1	1					
1242	ヤマ	ヤマ	やま	名詞	「ヤマト」の一部	W	1	1					
357	ヤマト	ヤマト	大和/倭/やまと	名詞一般		W	1	1					
146	ヤマンバ	ヤマンバ	山×姥/やまんぼ	名詞一般		W	1	1					
147	ヤミ	ヤミ	×闇/やみ	名詞一般		W	1			1			
1292	ヤミー	ヤミー		ルビ	【jyA-Me】に付されたルビ)	?	1		1				
765	ヤメル	ヤメて	▽止める/×已める/やめる	動詞		W	1	1					
148	ヤリ	縦ヤリ	×槍/×鏢/やり	名詞一般		W	1	1					
149	ヤリ	横ヤリ	×槍/×鏢/やり	名詞一般		W	1	1					
150	ヤル	ヤル期	▽遣る/やる	名詞一般		W	1			1			
753	ヤル	ヤル	▽遣る/やる	動詞		W	2		1			1	
766	ヤル	ヤッてる	▽遣る/やる	動詞		W	1	1					
52	ヤンチャ	ヤンチャ	やんちゃ	名詞一般		W	1	1					
646	ヤンチャ	ヤンチャ	やんちゃ	名詞形容動詞語幹		W	1	1					
1387	ユ	ユ		その他	音を表す	W	1					1	
1388	ユウ	ユウ		その他	音を表す	W	3					3	
1422	ユカ	ユカ		その他	訓の表示	W	1					1	
668	ユタカ	ユタカ	豊か/ゆたか	名詞形容動詞語幹		W	1			1			
871	ユルイ	ユルい	緩い/ゆるい	形容詞		W	1					1	

	見出し形	出現形	漢字・ひらがな表記	品詞	備考	語種	用例数	TV	CM	交通	学術	メール
1227	ヨ	ヨ【つころう!】	よ	助詞-終助詞		W	1			1		
1415	ヨ	ヨ		その他	仮名の音を表す	W	1					1
872	ヨイ	ヨカッタ	よい/よい/よい/よい/よい/よい	形容詞		W	1					1
1193	ヨイショ	ヨイショ	よいしょ	感動詞		W	1	1				
1389	ヨウ	ヨウ		その他	音を表す	W	1					1
1194	ヨーロー	ヨへロヨへロヨへロヒへ	よーろよーろよーろひー	感動詞		W	1	1				
358	ヨコ	ヨコ	横/よこ	名詞-一般		W	1			1		
214	ヨゴレ	ヨゴレ	汚れ/よごれ	名詞-一般		W	5		3	1	1	
106	ヨダレ	ヨダレ	×涎/よだれ	名詞-一般		W	2	2				
1195	ヨッシャ	ヨッシャ	よっしゃ	感動詞		W	1	1				
1196	ヨッシャー	ヨッシャー	よっしゃー	感動詞		W	1	1				
536	ヨモギ	ヨモギ	×艾/×蓬/よもぎ	名詞-一般	動植物	W	1	1				
82	ヨレ	ヨレ	×繕れ/×擦れ/よれ	名詞-一般		W	3					3
1197	ヨレヒ	ヨレヒ	よれひ	感動詞		W	1	1				
767	ヨレレ	ヨレレ	×繕れる/×擦れる/よれる	動詞		W	1				1	
270	ヨロコビ	ヨロコビ	喜び/よろこび	名詞-一般		W	2		2			
359	ヨロコビ	ヨロコビ	喜び/よろこび	名詞-一般		W	1		1			
1124	ヨロシク	ヨロシク	▽宜しく/よろしく	副詞		W	4	1		1	1	1
673	ラク	ラク	楽	名詞-形容動詞語幹		K	9		3	2	3	1
714	ラク	ラク	楽	名詞-サ変接続		K	2			2		
691	ラクチン	ラクチン	楽ちん	名詞-形容動詞語幹		H	2		2			
1139	ラクラク	ラクラク	楽々(らくらく)	副詞		K	10		3	5	2	
1146	ラクラク	ラクラク	楽々(らくらく)	副詞		K	1				1	
548	ラバ	ラバ	×驢馬	名詞-一般	動植物	K	1					1
805	リキム	リキまない	力む/りきむ	動詞		W	1			1		
1390	リヤ	リヤ		その他	音を表す	W	1					1
1391	リュ	リュ		その他	音を表す	W	1					1
1392	リョ	リョ		その他	音を表す	W	1					1
549	リンゴ	リンゴ	林×檜	名詞-一般	動植物	K	1				1	
1416	ル	ル		その他	仮名の音を表す	W	1					1
1393	ルウ	ルウ		その他	音を表す	W	1					1
1198	ルルル	ルルル	るるる	感動詞		W	1	1				
647	ルンルン	ルンルン	るんるん	名詞-形容動詞語幹		W	1			1		
1284	ロ	ロ		その他	数え上げの記号(1, 2, 3...と同じ)	W	1					3
1261	ロ(ロの字型)	ロ(ロの字型)		その他	形を表す記号として	W	1					1
1394	ロウ	ロウ		その他	音を表す	W	2					2
163	ロウソク	ロウソク	×蠟×燭	名詞-一般		K	2	2				
242	ワ	ワ	輪/わ	名詞-一般		W	3	3				
1228	ワ	ワ【思わせられますワ...】	わ	助詞-終助詞		W	1					1
1404	ワ	ワ		その他	五十音図の行・段を示す	W	7					7
1117	ワーツ	ワーツ	わーつ	副詞		W	1	1				
1118	ワイワイ	ワイワイ	わいわい	副詞		W	1					1
629	ワガハイ	ワガハイ	我家/我が輩/わが輩/×吾が輩	名詞-代名詞		H	1		1			
151	ワガママ	ワガママ	我が×儘(限)/わがまま	名詞-一般		W	1	1				
201	ワキ	ワキ	※脇/×腋/わき	名詞-一般		W	8			8		
1320	ワキ	ワキ		その他	専門的な用語	W	1					1
360	ワキゲ	ワキ毛	※脇/×腋/わき+毛	名詞-一般		W	1	1				
884	ワクワク	ワクワク	わくわく	副詞		W	12	3	2	5	1	1
184	ワケ	ワケ	訳/わけ	名詞-一般		W	19	19				
361	ワケアリ	ワケアリ	訳/わけ+有り/あり	名詞-一般		W	1	1				
180	ワザ	ワザ	業/技/わざ	名詞-一般		W	22	17	1	2	1	1
537	ワサビ	ワサビ	山=蓼/わさび	名詞-一般	動植物	W	1	1				
614	ワシ	ワシ	▽私/×僕/わし	名詞-代名詞		W	3	3				
623	ワタシ	ワタシ	※私/わたし	名詞-代名詞		W	9	2		5		2
490	ワタリガニ	ワタリガニ	渡×蟹/わたりがに	名詞-一般	動植物	W	4	4				
1119	ワッ	ワッ	わっ	副詞		W	1	1				
1199	ワッショーイ	ワッショーイ	わっしょーい	感動詞		W	1	1				
1423	ワニ	ワニ		その他	訓の表示	W	5					5
1321	ワレ	ワレ		その他	専門的な用語	W	39					39
1468	ワレカラ	ワレカラ		その他	語形を表す	W	1					1
362	ワレモノ	ワレモノ	割れ物/割れもの/われもの	名詞-一般		W	1				1	
806	ワレル	ワレル	割れる/われる	動詞		W	1				1	
1200	ワンワン	ワンワン	わんわん	感動詞		W	1		1			
1201	ワンワンワン	ワンワンワン	わんわんわん	感動詞		W	1	1				
1417	エ	エ		その他	仮名の音を表す	W	1					1
1418	ヲ	ヲ		その他	仮名の音を表す	W	1					1
1322	ヲトデン	ヲト点		その他	専門的な用語	W	3					3